

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア経済論 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鹿毛 理恵	3年	授業後に受け付けます	

学びの準備	ねらい 世界人口の5割を占めつつも世界陸地面積のわずか16%の地域に居住するアジア特有の経済社会について理解する。	メッセージ 具体的な事例を取り上げながら、近づきやすく親しみやすいアジアを伝えます。経済学の分析視角や理論を用いて、アジア経済への理解を深めます。わかりやすい言葉で説明します。
	到達目標 アジアの経済社会の現状と課題について理解する。沖縄、日本とアジアの経済社会関係について経済学的な観点から論理的に考える力を身につける。沖縄、日本、アジアの経済社会発展に必要とされる人材になる。	

学びの準備	到達目標 アジアの経済社会の現状と課題について理解する。沖縄、日本とアジアの経済社会関係について経済学的な観点から論理的に考える力を身につける。沖縄、日本、アジアの経済社会発展に必要とされる人材になる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	(特)アジアとは何か
	2	(特)アジア諸国の経済社会：人々はどうのような生活をしているのか
	3	(特)アジア諸国の多様な構造と共通する特徴
	4	(特)アジアの人口増加と人口転換
	5	(特)マルサスモデルと家計モデル
	6	(特)人口増加の結果と議論および政策
	7	(特)過去の経済成長と今日の開発：先進国との共通点と相違点
	8	(特)経済開発の主導理論① 線形段階理論、構造変換モデル
	9	(特)経済開発の主導理論② 国際従属学派、新古典派/市場友好型アプローチ
	10	(特)新成長理論① 調整の失敗、複数均衡、経済発展のはじまり/ビッグプッシュ
	11	(特)新成長理論② 複数均衡の問題点、0-リング理論
	12	(特)アジア諸国の工業化政策：輸入代替工業化政策
	13	(特)アジア諸国の工業化政策：輸出指向型工業化政策と海外直接投資
	14	(特)工業化政策の過程と実績（アジアNIEs, ASEAN, SAARC）
	15	(特)工業化と都市化、環境問題
16	(特)期末課題レポート	
		時間外学習の内容
		シラバスを読む
		配布資料・文献を読む
		参考文献①
		参考文献①、②
		参考文献①、②
		参考文献①
		参考文献①
		参考文献①
		参考文献①
		参考文献①、②、③、④
		参考文献①、②、③、④
		配布資料・文献を読む
		参考文献①、②、③、④
		テスト範囲の復習

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：適宜、資料を配布する 参考文献：①トダロMP・スミスSC『開発経済学』国際協力出版会（Todaro, MP; Smith, SC (2015) Economic Development, Pearson）②渡辺利夫『開発経済学入門（第4版）』東洋経済新報社 ③遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太『現代アジア経済論』有斐閣ブックス④坂田幹男・内山怜和『アジア経済の変貌とグローバル化』晃洋書房 資料：ADB開発銀行、国連、JETROアジア経済研究所などの統計データ
-------	---

学びの実践	学びの手立て 予習と復習を心がけてください。
-------	---------------------------

学びの実践	評価 平常点20%、中間テスト/課題(3つ)80%
-------	------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 アジア経済論Ⅱ、国際経済論、日本経済論、欧州経済論
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア経済論Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鹿毛 理恵	3年	授業後に受け付けます	

学びの準備	ねらい 世界人口の5割を占めつつも世界陸地面積のわずか16%の地域に居住するアジア特有の経済社会について理解する。アジア諸国の経済発展の変遷とともに、地域統合についても理解する。	メッセージ 具体的な事例や課題を明示しながら、アジア経済社会に関する様々な議論について、わかりやすく授業を展開していきたいと思っております。
	到達目標 アジアの経済社会の現状と課題について理解する。沖縄、日本、アジアの経済社会関係について経済学的な観点から論理的に考察する力を身につける。沖縄、日本、アジアの経済社会発展に必要とされる人材になる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	日本とアジアの経済関係	
	2	アジアの制度的統合	
		時間外学習の内容	
	3	地域貿易自由化の進展と域内貿易の拡大	シラバスを読む
	4	静態的効果：貿易創出効果と貿易転換効果	配布資料・文献を読む
	5	動態的効果	配布資料・文献を読む
	6	アジアの通貨・金融統合	配布資料・文献を読む
	7	アジアの国際的な労働移動	配布資料・文献を読む
	8	アジアNIEsの経済発展：韓国とシンガポールの経験	配布資料・文献を読む
	9	中国の経済発展のプロセスと展望	配布資料・文献を読む
	10	ASEANの経済発展：タイとベトナムの経験	配布資料・文献を読む
	11	ASEANの経済発展：マレーシアとインドネシアの経験	配布資料・文献を読む
	12	ASEANと大メコン圏開発	配布資料・文献を読む
	13	インドの経済発展の経験、現状と課題	配布資料・文献を読む
	14	スリランカの経済発展の経験、現状と課題	配布資料・文献を読む
	15	ディスカッション：日本・沖縄とアジアの経済発展の課題	配布資料・文献を読む
	16	期末テスト	テスト範囲の復習
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：適宜、資料を配布する 参考文献：①黒岩郁雄（編著）『東アジア統合の経済学』日本評論社、②坂田幹男・内山怜和『アジア経済の変貌とグローバル化』晃洋書房③トダロMP・スミスSC『開発経済学』国際協力出版会（Todaro, MP; Smith, SC (2015) Economic Development, Pearson）④渡辺利夫『開発経済学入門（第4版）』東洋経済新報社、⑤遠藤環・伊藤聖・大泉啓一郎・後藤健太『現代アジア経済論』有斐閣ブックス 資料：ADB開発銀行、国連、JETROアジア経済研究所などの統計データなど		
	学びの手立て 予習と復習を心がけてください。		
	評価 平常点15%、中間テスト/課題15%、期末テスト70%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 国際経済論、日本経済論
-------	----------------------------

※ポリシーとの関連性 経済学科のカリキュラムポリシーの2である、「経済学の専門科目を学ぶ上で必要となる科目である」

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	インターネットと経済学	前期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	2年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、論文・レポートの作成に必要な経済統計の情報が、どのようなところにあり、どのように活用できるのかを学ぶことを目的とする。具体的には、重要となる経済統計の情報を各省庁・研究機関のWebサイトを通じて一通り確認し、その情報の経済学的な意味の解釈を中心に講義を行う。	2年次以降からは専門的な知識が増えていく上で、インターネットを利用したデータ収集や分析などが必要となる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. インターネットを利用して経済分析に必要なデータを収集することが出来る。 2. インターネットを利用して経済統計に必要なデータを分析することが出来る。 3. インターネットを利用して企業分析や経済学に必要な専門用語について説明することが出来る。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（登録と講義計画）	科目の内容を理解としておく。
	2	経済分析に用いる統計情報	分析の手法を調べる。
	3	情報検索の使い方	情報収集や出所を確認する。
	4	白書・レポート（政府系機関）	統計に必要な項目を調べる。
	5	人口（人口構成・平均余命・将来推計）	統計に必要な項目を調べる。
	6	労働（都道府県別失業および就業状態・労働需要）	統計に必要な項目を調べる。
	7	企業（都道府県別設備投資・企業収益）	統計に必要な項目を調べる。
8	物価・景気（物価指数・景気動向）	物価指数、景気動向を調べる。	
9	家計（家計収支・世代間および世代内格差・消費（貯蓄）動向）	物価指数、景気動向を事前に調べる	
10	政府（国家予算・都道府県の財政）	本土と沖縄の経済状況を調べる。	
11	金融（金利・通貨供給・為替）	沖縄の投資について調べる。	
12	企業分析1	人気企業の分析を事前に調べる。	
13	企業分析2	人気企業の分析を事前に調べる。	
14	企業分析3	人気企業の分析を事前に調べる。	
15	分析への応用	分析結果の発表の準備をする。	
16	期末考査（レポート含む）	分析結果の発表の準備をする。	
テキスト・参考文献・資料など	<p>詳細は第一回目の講義の際に指示する。 福田慎一・照山博司，2011，マクロ経済学・入門 第4版（有斐閣アルマ） 鈴木正俊，2006，経済データの読み方（岩波新書）</p>		
学びの手立て	インターネットを利用して、経済学の学びに必要な様々なデータや分析・統計などを日頃から収集しておく。		
評価	授業の振り返りレポート50%、最終課題レポート50%で評価する。特に最終課題レポートにおいては授業で習得した全ての項目に沿って考察しているかを評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	3年次や4年次から専門演習に入るため、インターネットの利用は不可欠である。この授業で習得した知識や技術は卒論などで活かすことが出来る。

※ポリシーとの関連性 社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を習得する

[/]

科目基本情報	科目名 インターンシップ I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 LC 教員 1	その他	その他	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。	メッセージ 事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える経験にしませんか。
	到達目標 ①社会人としてのマナーを修得する。 ②職業観を養い、自らの適性を見定める。 ③組織の構造と機能を理解する。 ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。 ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	ガイダンスの振り返り
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 社会人に求められるスキル	実習先業界の情報収集（新聞）
	8	事前ガイダンス5 インターンシップ体験談発表	ガイダンスの振り返り
	9	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	10	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振返り
	11	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での座学（業種、業界研究）
	12	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での業務体験（接客、事務）
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習録日報まとめ（実習振り返り）
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
	15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など
 実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。
 また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て
【応募資格】 ①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること）
 ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的に行える者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者
【注意事項】 ①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータルの「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価
【出席について】 出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への出欠を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。**【評価方法・割合】** ①実習先による学生評価調査 20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認） 60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等について） 20%

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。
 また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

※ポリシーとの関連性 社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を習得する

[/]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	インターンシップⅡ	その他	その他	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	LC 教員1	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。</p>	<p>事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える経験にしませんか。</p>
到達目標	<p>①社会人としてのマナーを修得する。 ②職業観を養い、自らの適性を見定める。 ③組織の構造と機能を理解する。 ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。 ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	ガイダンスの振り返り
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 社会人に求められるスキル	実習先業界の情報収集（新聞）
	8	事前ガイダンス5 インターンシップ体験談発表	ガイダンスの振り返り
	9	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	10	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振返り
	11	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での座学（業種、業界研究）
	12	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での業務体験（接客、事務）
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習録日報まとめ（実習振り返り）
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備	
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など
 実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。
 また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て
【応募資格】 ①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること）
 ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的に行える者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者
【注意事項】 ①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータルの「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価
【出席について】 出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への出欠を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。**【評価方法・割合】** ①実習先による学生評価調査 20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認） 60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等） 20%

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。
 また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	欧米経済論Ⅰ	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	3年	研究室 (5629)、またはmurakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、主として歴史を軸にアメリカの経済構造や政治構造を学んでいくことを目的とする。とりわけアメリカ合衆国に焦点を絞って、内政・外交・経済などについて知識を広げていく。また必要に応じて、企業の勃興や生産システムの構築などにもふれ、アメリカの経済について考えていきたい。	メッセージ 1) ポータルで事前にpdfファイルを配布します。授業ではMicrosoft Teamsを使用しますので、あらかじめwifi環境のある場所で聴講して下さい。小テストは、google formを使用します。 2) 原則として、欧米経済論Ⅱを履修する前提で欧米経済論Ⅰを履修すること。 3) 軍事基地にも関連させてアメリカ経済を学んでいく。
	到達目標 1) アメリカと沖縄の関係性が理解できる。 2) 基地問題を理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の紹介と評価の方法	講義ノートの点検
	2	独立戦争	配布資料の精読、講義ノートの点検
	3	産業革命	配布資料の精読、講義ノートの点検
	4	南北戦争	配布資料の精読、講義ノートの点検
	5	自動車産業の勃興	配布資料の精読、講義ノートの点検
	6	第一次世界大戦	配布資料の精読、講義ノートの点検
	7	大恐慌	配布資料の精読、講義ノートの点検
	8	中間試験	自己採点および配付資料の読み返し
9	ニューディール	配布資料の精読、講義ノートの点検	
10	第二次世界大戦	配布資料の精読、講義ノートの点検	
11	冷戦時代	配布資料の精読、講義ノートの点検	
12	ベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争にみる経済活動	配布資料の精読、講義ノートの点検	
13	サブプライム・ローンやリーマン・ショック (The Financial Crisis) が物語るアメリカ経済	配布資料の精読、講義ノートの点検	
14	現代アメリカ経済を考える	配布資料の精読、講義ノートの点検	
15	欧米経済論Ⅰの質疑応答	配布資料の精読、講義ノートの点検	
16	期末試験	自己採点および配付資料の読み返し	
	テキスト・参考文献・資料など 萩原・中本編『現代アメリカ経済』日本評論社、2005年。 ロバート・B・ライシュ『暴走する資本主義』（雨宮・今井訳）、東洋経済新報社、2008年。 各回の講義で適宜紹介する		
	学びの手立て 新聞の経済面と国際面を通読することを推奨する。		
	評価 平常点(50%) + 試験(中間25% + 期末25%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 欧米経済論Ⅱ、アジア経済論Ⅰ、アジア経済論Ⅱ、日本経済論Ⅰ、日本経済論Ⅱ、経済史入門、社会思想史、西洋経済史Ⅰ、西洋経済史Ⅱ、日本経済史Ⅰ、日本経済史Ⅱ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	欧米経済論Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	3年	研究室 (5629)、またはmurakamiあつとoki@ac.jp	

学びの準備	ねらい 欧米経済論Ⅰを受けて本講義では、EUを対象とした経済分析を進め、ヨーロッパの政治・経済統合に伴う各国の動きを歴史的に解明していくことを目的としている。また身近に存在する企業との関連性もふまえて講義する。	メッセージ 1) 沖縄とヨーロッパを結びつけながら様々な課題とその対策を考えていきます。 2) 欧米経済論Ⅱからの受講でも問題ありません。
	到達目標 1) ヨーロッパと沖縄の社会・経済の諸課題への対策が比較できる。 2) ヨーロッパと沖縄とのつながりが幾多もあることに気づくことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の紹介と評価の方法	資料精読+Google Formsの記入, 提出
	2	EUの概要(制度、歴史)	資料精読+Google Formsの記入, 提出
	3	英国①	資料精読+Google Formsの記入, 提出
	4	英国②	資料精読+Google Formsの記入, 提出
	5	英国③	資料精読+Google Formsの記入, 提出
	6	フランス①	資料精読+Google Formsの記入, 提出
	7	フランス②	資料精読+Google Formsの記入, 提出
	8	中間試験	自己採点および配付資料の読み返し
	9	ドイツ①	資料精読+Google Formsの記入, 提出
	10	ドイツ②	資料精読+Google Formsの記入, 提出
	11	EUの拡大と統合①	資料精読+Google Formsの記入, 提出
	12	EUの拡大と統合②	資料精読+Google Formsの記入, 提出
	13	共通通貨ユーロの意義①	資料精読+Google Formsの記入, 提出
	14	共通通貨ユーロの意義②	資料精読+Google Formsの記入, 提出
	15	共同体とその意味	資料精読+Google Formsの記入, 提出
	16	期末試験	自己採点および配付資料の読み返し
	テキスト・参考文献・資料など	田中他『現代ヨーロッパ経済』有斐閣アルマ、2001年。 羽場『拡大ヨーロッパの挑戦』中公新書、2004年。 若森『新自由主義・国家・フレキシビリティの最前線』昂洋書房、2013年。	
	学びの手立て	①講義は、授業開始前からポータル共有フォルダにレジユメを配置します。ポータルの授業連絡でMicrosoft Teamsのコードを送信しますので、授業開始前までにログインして下さい。チャットの時間を設けます。 ②平常点を評価するための小テストを毎回Google Formsで実施します。アドレスは、毎回異なりますので留意して下さい。	
	評価	平常点(50%) + 試験(中間25% + 期末25%)で評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 欧米経済論Ⅰ、アジア経済論Ⅰ、アジア経済論Ⅱ、日本経済論Ⅰ、日本経済論Ⅱ、経済史入門、社会思想史、西洋経済史Ⅰ、西洋経済史Ⅱ、日本経済史Ⅰ、日本経済史Ⅱ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用マクロ経済学	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	高 哲央	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>マクロ経済学A・Bで学んだように、マクロ経済政策は、民間経済主体に任せられた場合の経済活動の達成水準が望ましくない場合にそれを補完するために政府が実施するものです。大規模な公共支出政策、減税政策、金融政策などはこの一環として実施されてきています。本講義では、こうした経済政策を取り上げながら、日本のマクロ経済の諸問題について考察することを狙いとします。</p>	<p>本講義では、これまでに日本で実施されてきたマクロ経済政策について取り扱います。マクロ経済の応用理論も取り扱うため、講義の理解を深めるためにも、マクロ経済学のみならずミクロ経済学についてもしっかりと復習して受講して下さい。</p>
到達目標	<p>1. 様々な経済指標から日本経済の実情を読み取ることができる。 2. マクロ経済政策の背景にある理論を理解することができる。 3. 日本経済の実情を踏まえ、マクロ経済政策の有効性を考察することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント																																			
	授業計画	時間外学習の内容																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>(対) オリエンテーション (講義概要、講義の進め方、評価方法等)</td></tr> <tr><td>2</td><td>(対) 日本経済概観</td></tr> <tr><td>3</td><td>(対) 市場メカニズムと政府の役割</td></tr> <tr><td>4</td><td>(対) 政府支出と租税政策</td></tr> <tr><td>5</td><td>(対) 公共投資の効果と弊害</td></tr> <tr><td>6</td><td>(対) 金融政策の効果と弊害</td></tr> <tr><td>7</td><td>(対) 経済成長と成長戦略</td></tr> <tr><td>8</td><td>(対) 経済発展と産業集積</td></tr> <tr><td>9</td><td>(対) 産業連関分析</td></tr> <tr><td>10</td><td>(対) 地域間格差発生メカニズム</td></tr> <tr><td>11</td><td>(対) 日本の地域政策と沖縄県</td></tr> <tr><td>12</td><td>(対) 内閣府沖縄担当部局予算</td></tr> <tr><td>13</td><td>(対) 経済活動のグローバル化と経済政策</td></tr> <tr><td>14</td><td>(対) 公共投資の政策効果の計測</td></tr> <tr><td>15</td><td>(対) 全体のまとめ</td></tr> <tr><td>16</td><td>(対) 定期試験</td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	1	(対) オリエンテーション (講義概要、講義の進め方、評価方法等)	2	(対) 日本経済概観	3	(対) 市場メカニズムと政府の役割	4	(対) 政府支出と租税政策	5	(対) 公共投資の効果と弊害	6	(対) 金融政策の効果と弊害	7	(対) 経済成長と成長戦略	8	(対) 経済発展と産業集積	9	(対) 産業連関分析	10	(対) 地域間格差発生メカニズム	11	(対) 日本の地域政策と沖縄県	12	(対) 内閣府沖縄担当部局予算	13	(対) 経済活動のグローバル化と経済政策	14	(対) 公共投資の政策効果の計測	15	(対) 全体のまとめ	16	(対) 定期試験	<p>シラバスをよく読む</p> <p>資料の復習、参考文献での自主学習</p> <p>資料の復習、参考文献での自主学習</p> <p>資料の復習、参考文献での自主学習</p> <p>資料の復習、参考文献での自主学習</p> <p>資料の復習、参考文献での自主学習</p> <p>資料の復習、参考文献での自主学習</p> <p>資料の復習、参考文献での自主学習</p> <p>資料の復習、参考文献での自主学習</p> <p>資料の復習、参考文献での自主学習</p> <p>資料の復習、参考文献での自主学習</p> <p>資料の復習、参考文献での自主学習</p> <p>資料の復習、参考文献での自主学習</p> <p>資料の復習、参考文献での自主学習</p>
	回	テーマ																																		
1	(対) オリエンテーション (講義概要、講義の進め方、評価方法等)																																			
2	(対) 日本経済概観																																			
3	(対) 市場メカニズムと政府の役割																																			
4	(対) 政府支出と租税政策																																			
5	(対) 公共投資の効果と弊害																																			
6	(対) 金融政策の効果と弊害																																			
7	(対) 経済成長と成長戦略																																			
8	(対) 経済発展と産業集積																																			
9	(対) 産業連関分析																																			
10	(対) 地域間格差発生メカニズム																																			
11	(対) 日本の地域政策と沖縄県																																			
12	(対) 内閣府沖縄担当部局予算																																			
13	(対) 経済活動のグローバル化と経済政策																																			
14	(対) 公共投資の政策効果の計測																																			
15	(対) 全体のまとめ																																			
16	(対) 定期試験																																			
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：毎回、資料を配布します。 参考文献：適宜、紹介します。</p>																																			
学びの手立て	<p>講義資料の復習のみならず、参考文献を用いた自主学習をおすすめします。日本の経済に対する理解を深めるため、日常的に『日本経済新聞』などの経済紙(誌)を読むことをおすすめします。</p> <p>過去の経済紙(誌)を読み、これまでの日本の経済政策の取り組みについて触れておくことをおすすめします。講義中は、私語を慎むこと、スマホ及び携帯電話はマナーモードにしておくこと、教室をむやみに出入りしないことなどを順守して下さい。</p>																																			
評価	<p>平常点(30%)、期末試験(70%)の合計によって評価します。 ※ 課題の提出が3分の2に満たない受講生には単位を認定しません。</p>																																			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>マクロ経済学A・B、公共経済学、経済政策総論</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄経済入門	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉、村上、浦本、名嘉座、平敷、宮城、崎浜、生垣、安藤、小濱、鹿毛、大城	1年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄経済について入門的な内容を講義する。沖縄経済の過去、現状、将来の課題等についてを経済学各分野からの視点を通じて直感的に理解できるようになることが本講義のねらいである。	メッセージ 講義で学んだ知識・視点は、経済学科の各専門科目で役立ちます。
	到達目標 沖縄経済の現状と課題を把握する。 沖縄経済の改善策について、自分の意見をもつ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス（講義計画、成績評価方法について）（比嘉）（対）
	2	沖縄経済の実情－産業構造、県民所得、財政構造（比嘉）（対）
	3	沖縄の「復興」と「高度成長」（小濱）（対）
	4	沖縄経済の軌跡（宮城）（対）
	5	沖縄の振興開発（平敷）（対）
	6	沖縄振興予算の他府県比較（比嘉）（対）
	7	沖縄経済のグローバル化（名嘉座）（対）
	8	米軍基地問題の経済学（宮城）（対）
学びの実践	9	沖縄経済と観光（鹿毛）（対）
	10	沖縄コロナバージョンの形成と課題（崎浜）（対）
	11	宮古島市・石垣市を中心とした「先島バブル」が地元住民にもたらす光と影（浦本）（対）
	12	沖縄県における消費者行政（生垣）（対）
	13	ソーシャルビジネスとしての沖縄・奄美の共同売店（村上）（対）
	14	沖縄の金融投資（安藤）（対）
	15	データでみる沖縄経済（大城）（対）
	16	本講義の総括：（比嘉）（対）
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 沖縄国際大学経済学科編「沖縄経済入門 第2版」東洋企画	時間外学習の内容 シラバスの確認 復習。経済学的に観察する。 復習。経済学的に観察する。 復習。経済学的に観察する。 復習。経済学的に観察する。 復習。経済学的に観察する。 復習。経済学的に観察する。 復習。経済学的に観察する。 復習。経済学的に観察する。 復習。経済学的に観察する。 復習。経済学的に観察する。 復習。経済学的に観察する。 講義全体の復習
学びの手立て	沖縄の最新状況を知るために、新聞を読むことをお勧めします。	
評価	提出物（課題等）100%	

学びの継続	次のステージ・関連科目 マクロ経済学A、マクロ経済学B、ミクロ経済学A、ミクロ経済学B、経済学科の各専門科目
-------	---

※ポリシーとの関連性

本講義では、①経済学の基礎的・専門的知識を学びつつ、②経済社会問題を考察し、③課題解決の視点を得ることを目的とします。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄経済論	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	2年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>統計資料等を活用しながら、沖縄経済の現状を確認し、抱えている課題を読み解く力を得ることを主な目的とします。講義では時々のトピックテーマを取り上げ、実際の沖縄を取り巻く政治経済の状況と政策を追いながら沖縄経済についての理解を深めていきます。</p> <p>到達目標</p> <p>①地域経済の基本的な見方から沖縄経済の現状を体系的に捉えることができる。 ②戦後の沖縄経済の成り立ちを学び、今日の沖縄経済の課題を捉えることができる。 ③沖縄経済が抱える諸課題を認識し、課題解決の方策を検討・提案する力を得る。</p>	<p>【実務経験】コンサルタント調査研究員の経験を活かし、県内における地域づくりの事例等を講義内で紹介します。沖縄経済を知るには、沖縄内外の政治経済状況の変化が県内経済の動向にどう影響を与えているのかという俯瞰的・複眼的な視点が不可欠です。沖縄の内外の動きとの関連で沖縄経済について詳しく学びたい人に履修をお勧めします。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス、授業評価方法等について	シラバスを参照
	2	(特) 沖縄経済を見る視点—県経済のトピックと地域経済の見方	沖縄経済時事、参考文献①参照
	3	(特) 沖縄経済の姿—統計データから見る沖縄経済の概要	参考文献①、②参照
	4	(特) 沖縄経済の姿—産業構造と雇用の現状	参考文献①、②参照
	5	(特) 沖縄経済の成り立ち—復帰前の沖縄、復興から基地建設まで	参考文献③参照
	6	(特) 沖縄経済の成り立ち—復帰後の沖縄振興開発計画と沖縄振興計画（2002年-）	参考文献③参照
	7	(特) 沖縄経済の成り立ち—沖縄振興政策と基地問題（1995年-）	参考文献④、⑤参照
	8	(特) 沖縄における産業政策の展開（2002年-）	参考文献④、⑤参照
	9	(特) 沖縄における産業政策の展開（講義前半のまとめ）—小テスト	講義前半の振り返り
	10	(特) 沖縄の産業—情報通信産業特別地区の成果と展望	情報関連産業の現状を調べる
	11	(特) 沖縄の産業—観光産業の現状と課題	観光産業の現状を調べる
	12	(特) 沖縄の産業—国際物流拠点関連産業の動向	物流産業の現状を調べる
	13	(特) 沖縄の産業—農業・アグリビジネスと健康食品産業	農業・6次産業化の動向を調べる
	14	(特) 沖縄経済の自律的・持続可能な発展に向けて—地域活性化の取組	県内の地域活性化事例を調べる
15	(特) 沖縄経済の展望—講義全体のまとめ	講義後半の振り返り	
16	(特) 期末課題	講義のまとめ	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定せず、プリント・資料配布により講義を行います。事前・事後学習の助けとして以下の参考文献等を活用してください。他、必要に応じ講義中適宜提示します。</p> <p>【参考文献・資料】①沖縄振興開発金融公庫（2019）『沖縄経済ハンドブック 2019年度版』、②沖縄県『県民経済計算』（※最新版）、③松島泰勝（2002）『沖縄島嶼経済史—12世紀から現在まで』藤原書店、④宮本憲一・川瀬光義（2010）『沖縄論—平和・環境・自治の島へ』岩波書店、⑤百瀬恵夫・前泊博盛（2002）『検証「沖縄問題」—復帰後30年経済の現状と展望』東洋経済新報社</p>
----	--

学びの手立て	<p>○履修の心構え</p> <p>講義資料をポータルで提供し、資料に基づきMicrosoft teamsを活用して遠隔講義を実施します。「授業連絡」を確実に確認し、通信環境等を整えておくことを推奨します。毎回、出欠を確認するため課題（Googleフォーム等）を課します。課題では講義に関する質問や意見を求めることがあるため、講義内容に関連する時事に関心を払っておくことを求めます。</p> <p>○学びを深めるために</p> <p>沖縄経済の動向を理解するためには、県内の経済動向のみではなく、世界、日本全体の経済の動きにも注視しておく必要があります。</p>
--------	---

評価	<p>○「課題」評価：45% 「課題」提出（平常点）：15% 期末テスト（または期末テスト代替課題）：40%</p> <p>※課題提出によって出席とみなすため、原則、課題提出が3分の2に満たない場合は期末を受験する資格を失います。</p> <p>○「課題」評価により到達目標の②を評価し、期末の課題により到達目標の①と③を評価する。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>沖縄経済についてより深く学ぶため、下記の講義も併せて履修することを勧めます。</p> <p>【関連科目と次のステージ】</p> <p>マクロ経済学Ⅰ、Ⅱ、沖縄経済入門、地域経済論、産業政策論</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖繩の経済事情 I	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	_沖繩の経済事情 I 教	1 年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖繩県内の金融業界に関する業界研究・業界分析。	メッセージ 金融業界に興味がある学生・就職希望の学生にお勧めします。履修登録の対象は、「全学部1～3年生」。ただし定員超過の場合は経済学部3年生・2年生を優先する。 【実務経験】金融系企業十数社の社員が、勤務経験に基づき自社の特徴・具体的業務内容・業界事情・自身の職歴等について解説する
	到達目標 金融業界における業務の多様性を理解する。金融系企業の特徴を理解した上で、多数の企業に積極的に就職活動を行う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・銀行業務の基礎知識	基礎知識を理解する
	2	銀行 1	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	3	金融業界の基礎知識	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	4	損害保険会社 1	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	5	銀行 2	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	6	日本銀行	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	7	銀行系研究所	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	8	銀行 3	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	9	証券会社・中間レポート提出	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	10	保証会社	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	11	損害保険会社 2	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	12	リース会社	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	13	銀行 4	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	14	損害保険会社 3	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	15	銀行系カード会社	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	16	期末レポート提出	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	テキスト・参考文献・資料など 毎回資料を配布する。テキストなし。		
	学びの手立て 社会人講師による貴重な講義であることを理解し、真剣に取り組む、記録すること。 資料や記録は大切に保存し、就職活動時に役立ててほしい。 毎回、小レポートを記述し提出すること。		
	評価 平常点 20%、提出物(小レポート、中間レポート、期末レポート) 80%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「金融論 I・II」「金融投資 I・II」「沖繩の経済事情 II」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	貨幣経済論Ⅰ	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	3年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済主体と貨幣との関わりについて学ぶとともに、一国全体の貨幣需要と貨幣供給が経済に及ぼす影響について、マクロ経済学等の理論を用いながら検討する。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます
	到達目標 ①経済活動における貨幣の役割を理解する ②経済政策の意義・役割を理解する	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義の進め方、日常生活と貨幣、講義アンケート -	シラバスの確認
	2	市場と貨幣① - 市場メカニズム：需要と供給、市場と貨幣 -	ミクロ経済学の復習
	3	市場と貨幣② - 国民所得の諸概念 -	マクロ経済学の復習
	4	市場と貨幣③ - 国民所得の決定 -	マクロ経済学の復習
	5	貨幣の本質と貨幣経済① - 貨幣の概念、貨幣の諸機能 -	貨幣経済論に関する文献の精読
	6	貨幣の本質と貨幣経済② - 貨幣の歴史、貨幣経済の特徴 -	貨幣経済論に関する文献の精読
	7	家計の行動 - 家計の行動と資産選択 -	マクロ経済学に関する文献の精読
	8	貨幣の供給① - 貨幣の種類とマネーストック -	マクロ経済学に関する文献の精読
9	貨幣の供給② - 貨幣供給と金融政策 -	マクロ経済学に関する文献の精読	
10	貨幣の需要① - 貨幣数量説 -	マクロ経済学に関する文献の精読	
11	貨幣の需要② - 債券価格と利子率、貨幣市場の均衡 -	マクロ経済学に関する文献の精読	
12	貨幣経済再考 - 資本主義と貨幣、貨幣経済の行方 -	講義資料の復習（第2講～11講）	
13	国際経済と貨幣	国際経済論に関する文献の精読	
14	地域経済と貨幣	地域経済関連文献の精読	
15	本講義のまとめ、課題レポートの説明	講義時配布資料の確認	
16	課題レポート		
	テキスト・参考文献・資料など 適宜レジュメ（パワーポイント資料）を配布する。		
	学びの手立て 経済学の基礎理論（特にマクロ経済学）を復習しておくこと。		
	評価 課題レポート（50%）、小テスト・各講義の課題（50%）で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 貨幣経済論Ⅱ
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	貨幣経済論Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	3年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 貨幣経済論Ⅰで学んだ基礎理論を踏まえながら、金融政策や財政政策等の経済政策が国内外の経済（物価、為替等）に与える影響を検討する。	メッセージ 経済学的思考は、社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 ①経済活動における貨幣の役割を理解する。 ②経済政策の意義を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義の進め方、本講義と貨幣経済論Ⅰとの関係、講義アンケート - (特)	シラバスの確認
	2	市場経済における貨幣の役割 - 貨幣の役割再考(概論) - (特)	貨幣経済論Ⅰの復習
	3	貨幣経済と物価① - 物価指数、インフレ過程とデフレ過程 - (特)	マクロ経済学・経済政策論の予習
	4	貨幣経済と物価② - インフレと貨幣供給量 - (特)	マクロ経済学・経済政策論の予習
	5	貨幣経済の安定性① - ハイパーインフレと中央銀行、デフレーション - (特)	マクロ経済学・経済政策論の予習
	6	貨幣経済の安定性② - 貨幣経済と労働市場 - (特)	マクロ経済学・経済政策論の予習
	7	貨幣経済における経済政策① - 金融政策 - (特)	経済政策論関連文献の精読
	8	貨幣経済における経済政策② - 所得政策 - (特)	経済政策論関連文献の精読
	9	貨幣経済における経済政策③ - 財政政策① - (特)	経済政策論関連文献の精読
	10	貨幣経済における経済政策④ - 財政政策② - (特)	経済政策論関連文献の精読
	11	国際経済と貨幣① - 複数通貨と資産市場 - (特)	国際経済論関連文献の精読
	12	国際経済と貨幣② - 貿易と経済成長、通貨政策 - (特)	国際経済論関連文献の精読
	13	国際経済と貨幣③ - 世界経済の安定と貨幣経済 - (特)	国際経済論関連文献の精読
	14	本講義のまとめ① - 貨幣経済論Ⅰを踏まえて内容を整理 - (特)	講義時配布資料の確認
15	本講義のまとめ② - 貨幣経済論Ⅱの要点整理、期末テストの説明 - (特)	講義時配布資料の確認	
16	期末テスト(対)		
	テキスト・参考文献・資料など 適宜レジュメ(パワーポイント資料)を配布する。		
	学びの手立て microsoft teamsによるオンライン講義を行う。マクロ経済学を復習しておくこと。		
	評価 期末テスト(50%)、各講義の課題等(50%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 貨幣経済論Ⅰ
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業と産業の経済学Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	3年	kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> 企業行動と産業構造の関係を考察できるようになる。 企業の競争戦略をゲーム理論を使って考察できるようになる。 県内企業の様々な戦略を考える機会を提供する。 	<p>就職活動をする上で、企業行動と産業の関係の理解は不可欠です。将来、どのような企業に就職したらいいのかを考える機会を提供できればと思います。</p>
	到達目標	
	<ul style="list-style-type: none"> ①ゲーム理論の基礎的な考え方を習得している。 ②業界によって異なる企業の行動・戦略を理解できるようになる。 ③沖縄の企業と産業についての基礎知識を習得し、就活に役立てることができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（講義内容、評価方法、注意事項の説明）	シラバスの確認
	2	市場構造とSCPパラダイム	講義中に紹介する参考文献・資料等
	3	SCPパラダイムと5フォース	同上
	4	ゲーム理論とは何か？	同上
	5	ゲーム理論の基礎	同上
	6	実験ナッシュ均衡	同上
	7	ゲーム理論を使った企業・産業分析①	同上
8	ゲーム理論を使った企業・産業分析②	同上	
9	ゲーム理論を使った企業・産業分析③	同上	
10	小売業界の分析（サンエーの経済学）	同上	
11	コンビニ業界の立地戦略①	同上	
12	コンビニ業界の立地戦略②	同上	
13	参入阻止ゲーム①	同上	
14	参入阻止ゲーム②	同上	
15	総括	同上	
16	試験またはレポート	同上	
	テキスト・参考文献・資料など		
	<ul style="list-style-type: none"> テキスト：特に使用しません。説明資料を配布します。 参考文献：講義中に適宜、参考文献を紹介します。 		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> 講義の理解を促進するため、企業関係者を適宜招聘し意見交換会を行います。 講義内容は皆さんの理解度、関心に合わせて一部変更する場合があります。 理解を深めるため、毎日新聞を読んで知見を広げ、考える習慣を身につけてください。 		
	評価		
	<ul style="list-style-type: none"> 評価はレポート課題の提出および内容で評価します。 		

学びの継続	次のステージ・関連科目 企業と産業の経済学Ⅱ
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業と産業の経済学Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	3年	kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> 企業行動と産業構造の関係を考察できるようになる。 企業の競争戦略を理論的に考察できるようになる。 県内企業の様々な戦略を考える機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職活動をする上で、企業行動と産業の理解は不可欠です。将来、どのような企業に就職したらいいのかを考える機会を提供できればと思います この授業はミクロ経済学の基礎知識がなくても理解できるよう解説します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①企業と産業の経済学の基礎を習得している。 ②業界によって異なる企業の行動・戦略を理解できるようになる。 ③沖縄の企業と産業についての基礎知識を習得し、就活に役立てることができる 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス (講義内容、評価方法、注意事項の説明)	シラバスの確認
	2	(特) 完全競争市場における企業行動	講義中に紹介する参考文献・資料等
	3	(特) 独占市場における企業行動	同上
	4	(特) 独占的競争市場における企業行動	同上
	5	(特) カルテルと談合	同上
	6	(特) トリガー戦略としっぺ返し戦略	同上
	7	(特) プライスリーダーシップ・モデル①	同上
8	(特) プライスリーダーシップ・モデル②	同上	
9	(特) コンテストブル市場理論と参入阻止価格①	同上	
10	(特) コンテストブル市場理論と参入阻止価格②	同上	
11	(特) ベルトラン競争における企業行動①	同上	
12	(特) ベルトラン競争における企業行動②	同上	
13	(特) クールノー競争における企業行動①	同上	
14	(特) クールノー競争における企業行動②	同上	
15	(特) 総括	同上	
16	試験またはレポート	同上	
実践	テキスト・参考文献・資料など <ul style="list-style-type: none"> テキスト：特に使用しません。説明資料を配布します。 参考文献：講義中に適宜、参考文献を紹介します。 		
	学びの手立て <ul style="list-style-type: none"> 講義の理解を促進するため、可能であれば企業関係者を適宜招聘し意見交換会を行います。 講義内容は皆さんの理解度、関心に合わせて一部変更する場合があります。 理解を深めるため、毎日新聞を読んで知見を広げ、考える習慣を身につけてください。 		
	評価 ・評価は平常点 (30%)、授業内での課題提出 (30%)、試験またはレポート (40%) とします。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 中小企業論ⅠⅡ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業分析	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	2年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 優良な企業とそうでない企業を見分けるためには、どうすればよいでしょうか？人気ランキング、本社ビルの豪華さ、CMのイメージは役に立ちません。企業分析を学べば、優良な企業を選べるようになります。	メッセージ <登録の条件>「簿記」「簿記原理」「財務会計」などの科目を履修登録中であること。または単位済みであること。条件の理由は、後半の財務分析では簿記・会計学の知識が前提となるためです。 就職活動の対象としてふさわしい企業を、自分で企業分析して選びましょう。
	到達目標 財務分析の知識とマーケティング分析の知識を融合させた「企業分析」を自分で行う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 講義の概要	シラバスを読む
	2	(対) マーケティング分析 (1)	復習。用語・概念の確認。
	3	(対) マーケティング分析 (2)	復習。用語・概念の確認。
	4	(対) マーケティング分析 (3)	復習。用語・概念の確認。
	5	(対) マーケティング分析 (4)	復習。用語・概念の確認。
	6	(対) マーケティング分析 (5)	復習。用語・概念の確認。
	7	(対) マーケティング分析 (6)	復習。用語・概念の確認。
	8	(対) 中間テスト	テスト範囲の復習。
	9	(対) 財務分析 (1)	復習。用語・公式の確認。
	10	(対) 財務分析 (2)	復習。用語・公式の確認。
	11	(対) 財務分析 (3)	復習。用語・公式の確認。
	12	(対) 財務分析 (4)	復習。用語・公式の確認。
	13	(対) 財務分析 (5)	復習。用語・公式の確認。
	14	(対) 融資の基礎知識 (1)	復習。判断基準の確認。
15	(対) 融資の基礎知識 (2)	復習。判断基準の確認。	
16	(対) 期末テスト	テスト範囲の復習。	
	テキスト・参考文献・資料など 中島久「財務分析と定性分析による入門企業分析の手法と考え方」経済法令研究会、2009年		
	学びの手立て 小レポート・小テストで知識を確認します。 普段から企業・ビジネスに関心を持ち、自分なりに評価したり、改善点を探してみましよう。		
	評価 小レポート・小テスト20%、中間テスト40%、期末テスト40%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 会計関係の科目、キャリア系の科目
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鹿毛 理恵	1年	授業の前後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい この演習では、大学生としての基本的知識および基本的スキル（読む、書く、発表するなど）を身につけることを目標とする。	メッセージ 大学に入学したからといって「大学生」として必要な知識やスキルや振る舞いがすぐに身につくわけではないと思います。大学生として何をどう学ぶべきなのか考えながら、仲間と共にスキルを修得していきましょう。
	到達目標 大学生としてのスキルを身につけ、以後の学生生活の基盤をつくる事が出来る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特)オリエンテーション：大学は何を学ぶところか？/ゼミの仲間を知ろう	事前にシラバスを読む
	2	(特)講義) 学問の世界へようこそ (第1章)	1章を読む
	3	(特)フレッシュマンテスト	テスト内容を振り返る
	4	(特)講義) 論理的な考え方を学ぶ1 (第2章)	2章を読む
	5	(特)ワーク) 論理的な考え方を学ぶ2 (KJ法)	KJ法の復習
	6	(特)講義) 情報を収集する1：図書館の活用法 (図書館オリエンテーション)	図書館に足を運ぶ
	7	(対)講義) レポートの書き方の基本を学ぶ1 (第3章)	3章を読む
	8	(対)ワーク) レポートの書き方の基本を学ぶ2	ワーク内容を振り返る
	9	(対)講義) 学びをプランニングする1 (第4章)	4章を読む
	10	(対)ワーク) 学びをプランニングする2 (エッセイを書く)	ワーク内容を振り返る
	11	(対)講義) キャリアをデザインする1 (第5章)	5章を読む
	12	(対)講義) キャリアをデザインする2 (キャリア支援課)	講義内容を振り返る
	13	(対)講義) グローバルな視点を身につけよう (グローバル教育支援センター出張ガイダンス)	講義内容を振り返る
	14	(特)ワーク) キャリアをデザインする3	ワークを振り返る
15	(対)ワーク) 大学で学ぶことの意味を考える (モチベーションを保つには?)	ワークを振り返る	
16	(特)総括	全体を振り返る	
	テキスト・参考文献・資料など 教科書(必携!)：井下千以子著『思考を鍛える大学の学び入門第2版 論理的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』慶應義塾大学出版会、2020年。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為(私語・遅刻等)は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
	評価 参加態度50%, グループワーク・ディスカッション等の取り組み方50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習 II に続く
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名 基礎演習 I	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	月 4	2
	担当者 村上 了太	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	研究室(5-629)、murakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この演習では、大学生としての基本的知識および基本的スキル（読む、書く、発表するなど）を身につけることを目標とする。	メッセージ 大学に入学したからといって「大学生」として必要な知識やスキルや振る舞いがすぐに身につくわけではないと思います。大学生として何をどう学ぶべきなのか考えながら、仲間と共にスキルを修得していきましょう。
	到達目標 大学生としてのスキルを身につけ、以後の学生生活の基盤をつくる事が出来る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：大学は何を学ぶところか？/ゼミの仲間を知ろう	事前にシラバスを読む
	2	講義) 学問の世界へようこそ (第1章)	1章を読む
	3	フレッシュマンテスト	テスト内容を振り返る
	4	講義) 論理的な考え方を学ぶ1 (第2章)	2章を読む
	5	ワーク) 論理的な考え方を学ぶ (KJ法)	KJ法の復習
	6	講義) 情報を収集する1：図書館の活用法 (図書館オリエンテーション)	図書館に足を運ぶ
	7	講義) レポートの書き方の基本を学ぶ1 (第3章)	3 章を読む
	8	ワーク) レポートの書き方の基本を学ぶ2	ワーク内容を振り返る
	9	講義) 学びをプランニングする1 (第4章)	4章を読む
	10	ワーク) 学びをプランニングする2 (エッセイを書く)	ワーク内容を振り返る
	11	講義) キャリアをデザインする1 (第5章)	5章を読む
	12	講義) キャリアをデザインする2 (キャリア支援課)	講義内容を振り返る
	13	講義) グローバルな視点を身につけよう (グローバル教育支援センター出張ガイダンス)	講義内容を振り返る
	14	ワーク) キャリアをデザインする3	ワークを振り返る
15	ワーク) 大学で学ぶことの意味を考える (モチベーションを保つには?)	ワークを振り返る	
16	総括	全体を振り返る	
	テキスト・参考文献・資料など 教科書(必携!)：井下千以子著『思考を鍛える大学の学び入門第2版 論理的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』j慶應義塾大学出版会、2020年。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為(私語・遅刻等)は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
	評価 演習への参加態度50%、グループワーク・ディスカッション等の取り組み方50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習IIに続く
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名 基礎演習 I	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	月 4	2
	担当者 崎浜 靖	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	sakiham@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この演習では、大学生としての基本的知識および基本的スキル（読む、書く、発表するなど）を身につけることを目標とする。	メッセージ 大学に入学したからといって「大学生」として必要な知識やスキルや振る舞いがすぐに身につくわけではないと思います。大学生として何をどう学ぶべきなのか考えながら、仲間と共にスキルを修得していきましょう。
	到達目標 大学生としてのスキルを身につけ、以後の学生生活の基盤をつくる事が出来る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	事前にシラバスを読む
	2	テキストの読み方①－大学で読む文章－	事前に配ったプリントを読むこと
	3	テキストの読み方②－学術的な文章を読む－	同上
	4	資料の探し方①－資料とは？－	同上
	5	資料の探し方②－大学図書館の利用方法－	同上
	6	レポートの書き方①－レポートって何だろう－	同上
	7	レポートの書き方②－レポート作成の基本－	同上
	8	レポートの書き方③－レポート作成の方法－	同上
	9	論理的な考え方を学ぶ①－論理的に考えるとは－	テキスト（第2章）
	10	論理的な考え方を学ぶ②－現実を観察して、問いを立てる－	同上
	11	論理的な考え方を学ぶ③－情報を集める－	同上
	12	論理的な考え方を学ぶ④－文章化する－	同上
	13	論理的な考え方を学ぶ⑤－新聞資料の分析－	同上
	14	論理的な考え方を学ぶ⑥－新聞資料の要約と批評－	同上
15	後期に向けての課題の検討	同上	
16	総括	全体を振り返る	
	テキスト・参考文献・資料など 参考書（必携！）：井下千以子著『思考を鍛える大学の学び入門 第2版 論理的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』慶応義塾大学出版会，2020年。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
	評価 参加態度30%、グループワーク・ディスカッション等の取り組み方30%、レポート40%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅱに続く
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	1年	授業の前後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい この演習では、大学生としての基本的知識および基本的スキル（読む、書く、発表するなど）を身につけることを目標とする。	メッセージ 大学に入学したからといって「大学生」として必要な知識やスキルや振る舞いがすぐに身につくわけではないと思います。大学生として何をどう学ぶべきなのか考えながら、仲間と共にスキルを修得していきましょう。
	到達目標 大学生としてのスキルを身につけ、以後の学生生活の基盤をつくる事が出来る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：大学は何を学ぶところか？/ゼミの仲間を知ろう	事前にシラバスを読む
	2	講義) 学問の世界へようこそ (第1章)	1章を読む
	3	フレッシュマンテスト	テスト内容を振り返る
	4	講義) 論理的な考え方を学ぶ1 (第2章)	2章を読む
	5	ワーク) 論理的な考え方を学ぶ2 (KJ法)	KJ法の復習
	6	講義) 情報を収集する1: 図書館の活用法 (図書館オリエンテーション)	図書館に足を運ぶ
	7	講義) レポートの書き方の基本を学ぶ1 (第3章)	3章を読む
	8	ワーク) レポートの書き方の基本を学ぶ2	ワーク内容を振り返る
9	講義) 学びをプランニングする1 (第4章)	4章を読む	
10	ワーク) 学びをプランニングする2 (エッセイを書く)	ワーク内容を振り返る	
11	講義) キャリアをデザインする1 (第5章)	5章を読む	
12	講義) キャリアをデザインする2 (キャリア支援課)	講義内容を振り返る	
13	講義) グローバルな視点を身につけよう (グローバル教育支援センター出張ガイダンス)	講義内容を振り返る	
14	ワーク) キャリアをデザインする3	ワークを振り返る	
15	ワーク) 大学で学ぶことの意味を考える (モチベーションを保つには?)	ワークを振り返る	
16	総括	全体を振り返る	
	テキスト・参考文献・資料など 教科書(必携!): 井下千以子著『思考を鍛える大学の学び入門第2版 論理的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』慶應義塾大学出版会, 2020年。		
	学びの手立て 毎日新聞を読むこと。		
	評価 レポート課題の提出および内容50%、対面授業での発表20%、オンライン授業での発表30%で総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習 II に続く
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名 基礎演習 I	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	月 4	2
	担当者 浦本 寛史	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい この演習では、大学生としての基本的知識および基本的スキル（読む、書く、発表するなど）を身につけることを目標とする。	メッセージ 大学に入学したからといって「大学生」として必要な知識やスキルや振る舞いがすぐに身につくわけではないと思います。大学生として何をどう学ぶべきなのか考えながら、仲間と共にスキルを修得していきましょう。
	到達目標 大学生としてのスキルを身につけ、以後の学生生活の基盤をつくる事が出来る。	

学 び の 準 備	到達目標 大学生としてのスキルを身につけ、以後の学生生活の基盤をつくる事が出来る。
-----------------------	--

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：大学は何を学ぶところか？／ゼミの仲間を知る	事前にシラバスを読む
	2	講義) 学問の世界へようこそ (第1章)	1章を読む
	3	フレッシュマンテスト	テスト内容を振り返る
	4	講義) 論理的な考え方を学ぶ1 (第2章)	2章を読む
	5	ワーク) 論理的な考え方を学ぶ2 (KJ法)	KJ法の復習
	6	講義) 情報を収集する1：図書館の活用法 (図書館オリエンテーション)	図書館に足を運ぶ
	7	講義) レポートの書き方の基本を学ぶ1 (第3章)	3章を読む
	8	ワーク) レポートの書き方の基本を学ぶ2	ワーク内容を振り返る
	9	講義) 学びをプランニングする1 (第4章)	4章を読む
	10	ワーク) 学びをプランニングする2 (エッセイを書く)	ワーク内容を振り返る
	11	講義) キャリアをデザインする1 (第5章)	第5章
	12	講義) キャリアをデザインする2 (キャリア支援課)	講義内容を振り返る
	13	講義) グローバルな視点を身につけよう (グローバル教育支援センター出張ガイダンス)	講義内容を振り返る
	14	ワーク) キャリアをデザインする3	ワークを振り返る
	15	ワーク) 大学で学ぶことの意味を考える (モチベーションを保つには?)	ワークを振り返る
16	総括	全体を振り返る	

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 教科書 (必携!) : 井下千以子著『思考を鍛える大学の学び入門第2版 論理的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』慶應義塾大学出版会, 2020年.
-----------------------	---

学 び の 実 践	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為 (私語・遅刻等) は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。
-----------------------	--

学 び の 実 践	評価 参加態度50%, グループワーク・ディスカッション等の取り組み方50%
-----------------------	---

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 基礎演習 II に続く
-----------------------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	1年	授業の前後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい この演習では、大学生としての基本的知識および基本的スキル（読む、書く、発表するなど）を身につけることを目標とする。	メッセージ 大学に入学したからといって「大学生」として必要な知識やスキルや振る舞いがすぐに身につくわけではないと思います。大学生として何をどう学ぶべきなのか考えながら、仲間と共にスキルを修得していきましょう。
	到達目標 大学生としてのスキルを身につけ、以後の学生生活の基盤をつくる事が出来る。	

学びの準備	到達目標 大学生としてのスキルを身につけ、以後の学生生活の基盤をつくる事が出来る。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション：大学は何を学ぶところか？／ゼミの仲間を知ろう	事前にシラバスを読む
	2	(特) 学問の世界へようこそ (第1章)	1章を読む
	3	(特) 論理的な考え方を学ぶ1 (第2章)	2章を読む
	4	(特) 論理的な考え方を学ぶ2 (第2章)	2章を読む
	5	(特) 情報を収集する1：図書館の活用法	図書館資料説明
	6	(特) レポートの書き方の基本を学ぶ1	3章を読む
	7	(特) レポートの書き方の基本を学ぶ2	課題に取り組む
	8	(対) 学びをプランニングする1 (第4章)	4章を読む
	9	(対) 学びをプランニングする2	4章を読む
	10	(対) キャリアをデザインする1 (第5章)	5章を読む
	11	(対) キャリアをデザインする2 (第5章)	5章を読む
	12	(対) グループワークの基本1	資料を確認する
	13	(対) グループワークの基本2	資料を確認する
	14	(対) プレゼンテーションの資料作成に向けて1	資料を確認する
	15	(対) プレゼンテーションの資料作成に向けて2	ワークを振り返る
16	※ (特) はteamsによる遠隔講義を行います。		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書 (必携!) : 井下千以子著『思考を鍛える大学の学び入門第2版 論理的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』慶應義塾大学出版会, 2020年.
-------	---

学びの実践	学びの手立て 特例講義では「授業連絡」、Microsoft teamsで、課題提供、遠隔演習を行います。 「授業連絡」を確認し、遠隔演習が行える通信環境を整えて演習にのぞむようにしてください。 意見を求められた際には、積極的に発言することで「参加態度」の評価につながります。 対面演習では、積極的に演習に参加し、課題やワークに取り組んでください。
-------	---

学びの実践	評価 参加態度50%, グループワーク・ディスカッション等の取り組み方50%
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 【関連科目・次のステージ】 基礎演習 II
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	1年	メール、LINE等で受け付けます	

学びの準備	ねらい この演習では、大学生としての基本的知識および基本的スキル（読む、書く、発表するなど）を身につけることを目標とする。	メッセージ 大学に入学したからといって「大学生」として必要な知識やスキルや振る舞いがすぐに身につくわけではないと思います。大学生として何をどう学ぶべきなのか考えながら、仲間と共にスキルを修得していきましょう。
	到達目標 大学生としてのスキルを身につけ、以後の学生生活の基盤をつくる事が出来る。	

学びの準備	到達目標 大学生としてのスキルを身につけ、以後の学生生活の基盤をつくる事が出来る。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：大学は何を学ぶところか？	事前にシラバスを読む
	2	高校までの「政治・経済」科目の振り返り	課題に取り組む
	3	読んで書く力を試す	課題に取り組む
	4	経済社会の問題を考える～消費者問題	課題に取り組む
	5	ゼミの仲間を知ろう1	事後課題に取り組む
	6	経済社会の問題を考える～少子高齢化と社会保障	課題に取り組む
	7	ゼミの仲間を知ろう2	事後課題に取り組む
	8	講義) 学問の世界へようこそ (第1章)	1章を読む
	9	講義) 論理的な考え方を学ぶ (第2章)	2章を読む
	10	講義) レポートの書き方の基本を学ぶ1 (第3章)	3章を読む
	11	ワーク) 論理的な考え方を学ぶ2 (KJ法)	KJ法の復習
	12	講義) レポートの書き方の基本を学ぶ2 (第3章)	3章を読む
	13	講義) コピペはなぜダメ？	資料を振り返る
	14	大学で学ぶことの意味を考える？	講義内容を振り返る
	15	前期の振り返り	全体を振り返る
16	予備		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携！）：井下千以子著『思考を鍛える大学の学び入門第2版 論理的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』慶應義塾大学出版会，2020年。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。
-------	---

学びの実践	評価 参加態度50%，課題50%
-------	---------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅱに続く
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名 基礎演習 I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 小濱 武	前期	月 4	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	研究室5-531またはt.kohama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この演習では、大学生としての基本的知識および基本的スキル（読む、書く、発表するなど）を身につけることを目標とする。	メッセージ 大学に入学したからといって「大学生」として必要な知識やスキル、振る舞いがすぐに身につくわけではないと思います。大学生として、何をどう学ぶべきなのか考えながら、仲間と共にスキルを修得していきましょう。
	到達目標 大学生としてのスキルを身につけ、以後の学生生活の基盤をつくる事が出来る。	

学びの準備	到達目標 大学生としてのスキルを身につけ、以後の学生生活の基盤をつくる事が出来る。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション:大学は何を学ぶところか? /ゼミの仲間を知ろう	事前にシラバスを読む
	2	講義) 学問の世界へようこそ(第1章)	1章を読む
	3	フレッシュマンテスト	テスト内容を振り返る
	4	講義) 論理的な考え方を学ぶ1(第2章)	2章を読む
	5	ワーク) 論理的な考え方を学ぶ(KJ法)	KJ法の復習
	6	講義) 情報を収集する1:図書館の活用法(図書館オリエンテーション)	図書館に足を運ぶ
	7	講義) レポートの書き方の基本を学ぶ1(第3章)	3章を読む
	8	ワーク) レポートの書き方の基本を学ぶ2	ワーク内容を振り返る
	9	講義) 学びをプランニングする1(第4章)	4章を読む
	10	ワーク) 学びをプランニングする2(エッセイを書く)	ワーク内容を振り返る
	11	講義) キャリアをデザインする1(第5章)	5章を読む
	12	講義) キャリアをデザインする2(キャリア支援課)	講義内容を振り返る
	13	講義) グローバルな視点を身につけよう(グローバル教育支援センター出張ガイダンス)	講義内容を振り返る
	14	ワーク) キャリアをデザインする3	ワークを振り返る
15	ワーク) 大学で学ぶことの意味を考える(モチベーションを保つには?)	ワークを振り返る	
16	総括	全体を振り返る	
実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書(必携):井出千以子『思考を鍛える大学の学び入門第2版 論理的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』慶應義塾出版会、2020年。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為(私語・遅刻等)は厳禁。 場合によっては退室を求めます。		
	評価 講義への参加態度50%、グループワーク・ディスカッション等の取り組み方50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習 II に続く
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鹿毛 理恵	1年	授業時間の前後に受け付けます	

学びの準備	ねらい 大学で学ぶために必要な基本的スキル（読む、書く、表現する）を身につけることを目標とする。	メッセージ 大学では多くのレポート・論文が課されます。レポート・論文を書くことは講義を聞くだけでは足りない知識を補う作業とそれらを吟味し論理的に構成する力も必要です。この演習では、経済学に関連するテーマを用いながら、段階的に書くスキルを高めるトレーニングを積み重ねていきますので、一緒に頑張りましょう。
	到達目標 レポート・論文の書き方のルールを修得する。考える力を発展させる。構成力を身につける。発表する力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対)オリエンテーション	シラバスを読む
	2	(対)シラバスを読む 文章作成方法	テキスト
	3	(対)レポート・論文を書くための基本② 文章例から学ぼう	テキスト
	4	(対)発想力	テキスト
	5	(対)読解力 要約力 文章作成	テキスト
	6	(対)批判的思考力 文章作成	テキスト
	7	(対)表現力 文章作成	テキスト
	8	(対)課題発見力 情報探索力 情報整理力	テキスト
9	(対)課題考察力 文章作成	テキスト	
10	(対)論文構成力 文章構成力 文章作成	テキスト	
11	(対)よりよいレポート・論文を書くために必要なこと	テキスト	
12	(対)プレゼンテーションの手法	テキスト	
13	(対)プレゼンテーションの手法 パワーポイント資料の作成	テキスト	
14	(対)発表の仕方 発表会 質疑応答	テキスト	
15	(対)発表会 質疑応答	テキスト	
16	(対)まとめ	復習	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング（改訂版）』実教出版 その他、講義中に資料を配布する。		
	学びの手立て レポート・論文作成の手法は、大学での学修だけでなく、社会に出てからも必要です。この演習では毎回、読む、考える、書く、話し合う、調べるなど様々な作業があります。ですので講義には積極的に参加するように心がけてください。		
	評価 講義姿勢50%、提出物50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅲ
-------	----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	1年	murakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習Ⅰで修得した大学生としてのスキルを生かして、プレゼンテーション大会に向けたグループワークを実践する。	前期から引き続きゼミの仲間と積極的に関わりながら、プレゼンテーション大会で優勝できるように、お互い協力しましょう。

到達目標	グループワークによって、他の学生と協力しながら、1つのテーマについて調べ、発表することが出来る。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：演習の進め方、評価方法等について	事前にシラバスを読む
	2	グループワークの基本～前期を振り返る	グループワークの振り返り
	3	プレゼンテーションのテーマ設定1	テーマについて考え、調べる
	4	プレゼンテーションのテーマ設定2	テーマについて考え、調べる
	5	テーマに関する情報収集1	資料収集・インタビューなど
	6	テーマに関する情報収集2	資料収集・インタビューなど
	7	中間発表	報告準備
	8	プレゼンテーション資料作成1	補足資料の収集など
	9	プレゼンテーション資料作成2	補足資料の収集など
	10	プレゼンテーション資料作成3	補足資料の収集など
	11	プレゼンテーション資料作成4	補足資料の収集など
	12	プレゼンテーションの実践1（原稿作成1）	パワーポイント資料の加除修正など
	13	プレゼンテーションの実践1（原稿作成2）	パワーポイント資料の加除修正など
	14	プレゼンテーションの実践1（リハーサル1）	パワーポイント資料の加除修正など
15	プレゼンテーションの実践1（リハーサル2）	パワーポイント資料の加除修正など	
16	まとめと相互評価	peer reviewの実施と振り返り	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書(必携!)：井下千以子著『思考を鍛える大学の学び入門第2版 論理的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』j慶應義塾大学出版会、2020年。
-------	--

学びの手立て	①Microsoft Teamsを用いた授業とします。wifi環境のある場所で受講して下さい。 ②他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。
--------	--

評価	プレゼンテーション大会への取り組み方（事前準備・当日含む）80%、学生の相互評価(peer review)20%
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅲ
-------	----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1年	sakahama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基礎演習Ⅱは、学生間及び教員とのコミュニケーションの場を深める場であり、読解力・情報収集・情報分析力などを高める場でもある。この授業では、上述した大学生としての基本的な「学び」のスキルを身につけて、プレゼンテーション力を高めることを目標とする。	メッセージ 学生生活における「学び」の基盤をつくる事が出来る。
	到達目標 大学生としての基本的なプレゼンテーション能力を醸成する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 後期ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	(対) レジュメの作成方法	事前に配ったプリントを読むこと
	3	(対) 発表テーマの検討	同上
	4	(対) 発表テーマの調整	同上
	5	(対) 発表テーマの決定	同上
	6	(対) プレゼンテーションの技法	同上
	7	(対) プレゼンテーションの方法と実際	同上
	8	(対) スライドの作り方 (基礎編)	同上
	9	(対) スライドの作り方 (応用編)	同上
	10	(対) プレゼンの方法①-発表内容の検討-	同上
	11	(対) プレゼンの方法②-スライドの検討-	同上
	12	(対) プレゼンの方法③-発表時間の調整-	同上
	13	(対) プレゼン演習①	同上
	14	(対) プレゼン演習②	同上
15	(対) プレゼン演習③	同上	
16	(対) まとめ		
テキスト・参考文献・資料など テキスト・参考文献 ・井出千以子著『思考を鍛える大学の学び入門 第2版 論理的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』慶応義塾大学出版会, 2020年。			
学びの手立て 日頃から世界や日本全体の社会・経済に関心を払い、講義中の諸課題に対応できるようにする。			
評価 ・参加態度30%, グループディスカッション等の取り組み30%, レポート40%.			

学びの継続	次のステージ・関連科目 次年度に履修する基礎演習Ⅲ・Ⅳの「学び」に繋げるようにする。
-------	---

※ポリシーとの関連性 プレゼンの準備を通じて経済学の基礎知識を学び、社会への関心を高め、情報収集・論理的考察・議論を行う能力を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	1年	E-mail: kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 社会の諸課題を発見し、情報収集、分析・考察・議論を通じて自分なりの答えを導き出せるようになることをねらいとする。	メッセージ 様々なメディアからの不確定情報に惑わされることなく自分なりの考えを身につけることが重要です。
	到達目標 情報収集能力、分析力、考察力、議論する力、プレゼン能力を身につけている。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) オリエンテーション	シラバス確認
	2	(対) グループワーク①役割分担の設定	役割分担の確認
	3	(対) グループワーク②資料収集と課題発見	資料収集・考察
	4	(対) グループワーク③資料収集と課題発見	資料収集・考察
	5	(対) グループワーク④資料収集と課題発見	資料収集・考察
	6	(対) 報告会	報告の資料作成
	7	(対) グループワーク⑤資料収集とテーマ設定	資料収集・テーマ設定準備
	8	(対) グループワーク⑥資料収集とテーマ設定	資料収集・テーマ設定準備
	9	(対) 報告会	報告の資料作成
	10	(対) グループワーク⑦発表・論理構成を考える	資料収集・考察
	11	(対) グループワーク⑧発表・論理構成を考える	資料収集・考察
	12	(対) グループワーク⑨発表・論理構成を考える	資料収集・考察
	13	(対) 各グループの模擬発表会・講評	プレゼンの準備
	14	(対) プレゼン内容の修正・再構成	資料収集・考察
15	(対) 各グループの模擬発表会・講評	プレゼンの準備	
16	(対) 総括	全体をふり返る	
	テキスト・参考文献・資料など 資料・参考文献は適宜紹介する。		
	学びの手立て 日頃から積極的に情報収集するだけでなく、情報そのものを吟味する習慣を身につけてください。		
	評価 レポート課題30%、対面授業あるいはオンライン授業での発表70%で総合的に評価。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅲ・Ⅳ
-------	------------------------

※ポリシーとの関連性

基礎演習Iと同様に経済学の知識を修得し、それらをもとに情報収集・分析・表現力の基本を学ぶ。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	1年	研究室(5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習Iで学んだ、基礎知識を基に、グループに分かれて設定したテーマに基づき、データや文献収集、分析などを行い、互いに議論を深めテーマを掘り下げる。自分の意見をグループの中で議論をし、最終的にグループとして発表することができる。	コロナ禍であるが、引き続き共通の教科書に沿って授業を遠隔で実施します。従ってTeamsかZoomの環境整備を各自で行って下さい。コードなどはポータルでお知らせします。演習内容は人間力に必要なコミュニケーションの能力、プレゼンテーション能力、評価能力を身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 自分の意見を論理立てて伝えることができる。 相手の意見を聞き、理解しながらアサーションすることができる。 グループやクラスの中で議論、発表されたテーマや手法に対して、評価することができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（授業内容説明）自己紹介	シラバス確認（授業内容の確認）
	2	前期から継続している新聞の切り抜きスクラップノートの発表	社会問題の考察（メディア・会話）
	3	前期から継続している新聞の切り抜きスクラップノートの発表	社会問題の考察（メディア・会話）
	4	グループワークにて社会問題を収集・分析・議論	グループにて社会問題を議論
	5	グループワークにて社会問題を収集・分析・議論	グループにて社会問題を議論
	6	グループワークにて社会問題を収集・分析・議論・発表（パワーポイント）	グループにて社会問題の発表の準備
	7	グループワークにて社会問題を収集・分析・議論・発表（パワーポイント）	グループにて社会問題の発表
	8	ゼミ対抗プレゼンテーションに向けたテーマ設定（グループワーク）	テーマをグループごとに設定
	9	ゼミ対抗プレゼンテーションに向けたテーマ調査（グループワーク）	テーマについて調査・研究
	10	ゼミ対抗プレゼンテーションに向けたテーマ分析（グループワーク）	分析スキルを取得
	11	ゼミ対抗プレゼンテーションに向けたテーマの解決法（グループワーク）	分析手法を用いて解決策を考察
	12	ゼミ対抗プレゼンテーションに向けたテーマの解決法（グループワーク）	分析手法を用いて解決策を考察
	13	ゼミ対抗プレゼンテーションに向けたテーマの発表準備（グループワーク）	プレゼンテーション台本作成
14	ゼミ対抗プレゼンテーションに向けたテーマの発表準備（グループワーク）	プレゼンテーションメディア作成	
15	ゼミ対抗プレゼンテーションに向けたテーマの発表（クラス内発表）	プレゼンテーションメディア発表	
16	ゼミ対抗プレゼンテーション発表（全体発表）	プレゼンテーションメディア発表	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	「知のツールボックス＝新入生援助集＝」専修大学出版局 「PCMによる問題解決手法」浦本寛史 東洋企画発行 講義・ディスカッションの際に適宜支持する。		
	学びの手立て		
	SNSやオンラインツールを使い、グループワークなども通して、対人関係力、コミュニケーション能力、論理的思考能力を身につけ、発言することに慣れることを期待する。		
	評価		
	課題への取り組み（レポート）30%、平常点としてグループワークへの取り組み50%、スクラップノート（ポートフォリオ）への取り組み20%を評価基準とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	プレゼンテーションに関する知識・技術は、全ての科目や課外活動において求められるスキルである。

※ポリシーとの関連性

演習では、経済学の基本的な考え方を学び、経済社会問題への関心を高め、自らの考えを論理的に表現し、議論する力を養います。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	1年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基礎演習Ⅱでは、学生同士、教員とのコミュニケーションの場を深めていきます。基礎演習Ⅰに引き続き、読解力、情報収集・情報分析力、プレゼンテーション力などの基礎的なスキルを高めていきます。	メッセージ 演習は「主体性」が求められます。積極的に課題に取り組む姿勢と意欲が求められ、更に、自ら課題を設定し、考えていくことができるようになることが目標となります。基本となる文章読解、表現能力、コミュニケーション能力を本演習で共に学びましょう。
	到達目標 ①大学で学ぶための基本的な考え方、姿勢を身につける（積極性・自主性） ②経済学を学ぶための文献読解、情報収集、分析手法の基礎を学ぶ。 ③論理的な思考、ディスカッション・プレゼン能力を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス-前期を振り返って、後期の演習の進め方	シラバスを読む
	2	(対) グループワーク① ーグループ内での役割分担	グループでの役割の確認
	3	(対) グループワーク② ーテーマ設定と資料収集	テーマ設定と情報収集を行う
	4	(対) グループワーク③ ープレゼン準備	グループ内の役割に応じた準備
	5	(対) グループワーク④ ー報告会①	分担に基づく資料作成の作業
	6	(対) グループワーク⑤ ー報告会②、グループワークを通じての振り返り	報告の振り返り・感想をまとめる
	7	(対) プレゼンテーションの基礎と応用	プレゼンとは何かについて調べる
	8	(対) プレゼンテーション入門①	プレゼンの方法を調べる
	9	(対) プレゼンテーション入門②	課題の深堀と構成を考える
	10	(対) プレゼンテーション入門③	効果的な伝え方について考える
	11	(対) プレゼンテーション実習① ーグループワーク（グループ分け、テーマ設定）	グループ内で準備をする
	12	(対) プレゼンテーション実習② ー資料収集とディスカッション	分担に応じた資料収集
	13	(対) プレゼンテーション実習③ ープレゼン準備	資料作成の分担作業
	14	(対) プレゼンテーション実習④ ー報告会	報告の振り返りと自己評価
	15	(対) 演習を振り返って	演習で学んだことを振り返る
16	※講義後半はプレゼン報告会を企画します。		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しませんが、下記の文献等を参考にしてください。 中野美香 (2012) 『大学生からのプレゼンテーション入門』ナカニシヤ出版 他、適宜指示します。
-------	--

学びの実践	学びの手立て ○基本は対面演習ですが、状況により特例講義を行い、Microsoft teams等でグループワークを行います。 ・特例講義では「授業連絡」、Microsoft teamsで、課題提供、遠隔演習を行います。 「授業連絡」を確認し、遠隔演習が行える通信環境を整えて演習にのぞむようにしてください。 意見を求められた際には、積極的に発言することで「参加態度」の評価につながります。 ・対面演習では、積極的に演習に参加し、課題やワークに取り組んでください。
-------	--

学びの実践	評価 演習内での課題提出 (20%)、発表 (60%)、演習での発言 (20%) により総合的に評価します。 主体性を求めるため、演習での発言や意見、議論への積極的な参加が評価基準となります。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 【関連科目・次のステージ】 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	1年	メールまたはslack経由で受け付けます	

学びの準備	ねらい 基礎演習Ⅰで習得した大学生としてのスキルを生かしつつ、よりアカデミックスキルを磨くことを目的とする。	メッセージ ・前期から引き続きゼミの仲間と積極的に関わりを持つことを望みます。 ・基本的にはオンラインで講義やワークを行います。必要に応じて対面になることもあります。連絡を確認してスケジュール管理を徹底すること。
	到達目標 他の学生とコミュニケーションをとりつつ個々のアカデミックスキルを磨くことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について	事前にシラバスを読む
	2	(特) (ワーク) ショートプレゼンテーション1	ショートプレゼンテーションの準備
	3	(特) (講義) 学びをプランニングする1 (第4章)	第4章を読む
	4	(特) (ワーク) 学びをプランニングする2	ワークを振り返る
	5	(特) (講義) 学びをプランニングする3 (第4章)	第4章を読む
	6	(特) (ワーク) 学びをプランニングする4	ワークを振り返る
	7	(特) (講義) キャリアをデザインする1 (第5章)	第5章を読む
	8	(特) (講義) キャリアをデザインする2 (キャリア支援課)	講義を振り返る
	9	(特) (講義) キャリアをデザインする3 (働くルールとマナー)	講義を振り返る
	10	(特) (講義) キャリアをデザインする4 (生活と労働)	講義を振り返る
	11	(特) (ワーク) キャリアをデザインする5	ワークを振り返る
	12	(特) (ワーク) ショートプレゼンテーション2	ショートプレゼンテーションの準備
	13	(特) (講義) グローバルな視点を身につけよう (グローバル教育支援センター)	講義を振り返る
	14	(特) (講義) 大学で学ぶことの意味を考える1	講義を振り返る
15	(特) (ワーク) 大学で学ぶことの意味を考える2	ワークを振り返る	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書(必携!)：井下千以子著『思考を鍛える大学の学び入門第2版 論理的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』慶應義塾大学出版会、2020年。 参考書：後藤芳文、伊藤史織、登本洋子 著『学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』玉川大学出版部、2014年。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為(私語・遅刻等)は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
	評価 受講態度30%、ワーク・ショートプレゼンテーションの取り組み70%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅲ・Ⅳ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小濱 武	1年	研究室5-531またはt.kohama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基礎演習Ⅰで習得した大学生としてのスキルを生かし、プレゼンテーション大会に向けたグループ・ワークを実践する。	メッセージ 前期から引き続きゼミの仲間と積極的に関わりながらプレゼンテーション大会に備えましょう。
	到達目標 グループ・ワークによって、他の学生と協力しながら、一つのテーマについて調べ、発表することができる。	

学びの準備	到達目標 グループ・ワークによって、他の学生と協力しながら、一つのテーマについて調べ、発表することができる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) オリエンテーション：講義の進み方、評価方法等について	事前にシラバスを読む
	2	(対) グループ・ワークの基本～前期を振り返る	グループ・ワークの振り返り
	3	(対) プレゼンテーションのテーマ設定1	テーマについて考え、調べる
	4	(対) プレゼンテーションのテーマ設定2	テーマについて考え、調べる
	5	(対) テーマに関する情報収集1	資料収集・インタビューなど
	6	(対) テーマに関する情報収集2	資料収集・インタビューなど
	7	(対) 中間発表(進捗報告)	報告準備
	8	(対) プレゼンテーション資料作成1	補足資料の収集など
	9	(対) プレゼンテーション資料作成2	補足資料の収集など
	10	(対) プレゼンテーション資料作成3	補足資料の収集など
	11	(対) プレゼンテーション資料作成4	補足資料の収集など
	12	(対) プレゼンテーションの実践1(原稿作成1)	PPT資料の改訂・補足
	13	(対) プレゼンテーションの実践2(原稿作成2)	PPT資料の改訂・補足
	14	(対) プレゼンテーションの実践3(リハーサル1)	PPT資料の改訂・補足
	15	(対) プレゼンテーションの実践4(リハーサル2)	PPT資料の改訂・補足
16	(対) まとめ&相互評価	peer review課題	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書(必携)：井出千以子『思考を鍛える大学の学び入門第2版 論理的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』慶應義塾出版会、2020年。 参考書：後藤芳文、伊藤史織、登本洋子『学びの技 14歳からの探求・論文・プレゼンテーション』玉川大学出版部、2014年。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為(私語・遅刻等)は厳禁。 場合によっては退室を求めます。
-------	---

学びの実践	評価 プレゼン大会への取り組み方(事前準備・当日含む)80%、学生の相互評価(peer review)20%
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅲ・Ⅳ
-------	------------------------

※ポリシーとの関連性 「主体的に調査・研究」しつつ、「知識」、「考察力」、「表現力」を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	2年	研究室 (5629) 、またはmurakamiあつとoki@ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り寄せを図ることにある。経営学を基礎とする演習であるが、とりわけ営利企業や非営利企業などを横断的に学べる機会を提供する。また、企業や事業所の訪問調査とその結果のプレゼンテーションを実施しながら、生きた経営を学んでいく。</p>	<p>【実務経験】実務経験者を招聘して講義を行うか、実務経験者にインタビューする機会を設けます。 1) 失敗を恐れずプレゼンテーションを実施してほしい。 2) 積極的な質疑応答を期待する。</p>
到達目標	<p>1) ビジネスマナーを身につける。 2) 受講前より、主体性、傾聴力、発信力、協調性などが身につく。 3) 就職活動や進学など自らの進路を考えることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション (自己紹介ほか)	ビジネスマナーに関する書籍の精読
	2	ビジネスマナー、プレゼンテーション、質疑応答のデモンストレーション、調査テーマ設定	プレゼンテーションと質問力の鍛錬
	3	プレゼンテーションと質疑応答①	プレゼンテーションと質問力の鍛錬
	4	プレゼンテーションと質疑応答②	プレゼンテーションと質問力の鍛錬
	5	プレゼンテーションと質疑応答③	プレゼンテーションと質問力の鍛錬
	6	プレゼンテーションと質疑応答④	プレゼンテーションと質問力の鍛錬
	7	プレゼンテーションと質疑応答⑤	プレゼンテーションと質問力の鍛錬
8	社会人特別講師、OB/OGの講話もしくは課外学習 (日程は前後する可能性がある)	質問力の育成	
9	プレゼンテーションと質疑応答⑥	プレゼンテーションと質問力の鍛錬	
10	プレゼンテーションと質疑応答⑦	プレゼンテーションと質問力の鍛錬	
11	プレゼンテーションと質疑応答⑧	プレゼンテーションと質問力の鍛錬	
12	プレゼンテーションと質疑応答⑨	プレゼンテーションと質問力の鍛錬	
13	プレゼンテーションと質疑応答⑩	プレゼンテーションと質問力の鍛錬	
14	プレゼンテーションと質疑応答⑪	プレゼンテーションと質問力の鍛錬	
15	まとめ	基礎演習Ⅲの配布資料の読み返し	
16			
テキスト・参考文献・資料など	必要に応じて適宜紹介する。		
学びの手立て	<p>①履修の心構え 単に出席しているだけでは単位の修得にはつながらない。積極的にプレゼンを実施するとともに、プレゼンを受ける場合は積極的な質問を心がける。 ②学びを深めるために 働く意味を考える。正課内外のキャリアについて意味づけをしてもらいたい。</p>		
評価	平常点 (30%) 、レジュメやパワーポイントによるプレゼンテーション (40%) 、課外学習における貢献度 (30%) を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅳ、ジョブインタビュー入門 (共通) 、文章表現入門 (共通)
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	2年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。	ゼミ生同士の親睦を深めながら、切磋琢磨してほしい。そのため、スポーツ大会などのレクリエーションも取り入れていきたい。この年次では大学生活を有意義に過ごすための動機付けも重要だと考えています。
到達目標	レポートなど文書を作成することができる。 論理的に発言することができる。 課題解決のための適切な情報を収集することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 ガイダンス	2年次の目標を作成する
	2	第2週～5週 考え方、問題意識の設定	社会・経済問題のテーマを見つける
	3	第6週～14週 レポート・論文の書き方(その1)	課題についてレポート作成
	4	第10週～12週 CIS行動学による実践的講義Ⅰ(ゼミ合同による)	テーマを見つけ、実際に行動する
	5	第13週～15週 レポート・論文の書き方(その2)	課題についてレポート作成
	6	第16週 講義振り返りと夏休みの課題など	夏休みの課題としてレポート作成
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

実践	テキスト・参考文献・資料など 『知のツールボックスー新入生援助集ー』 専修大学出版局 『レポート・論文の書き方入門』 慶應義塾大学出版 『考える技術・書く技術』 ダイヤモンド社
----	---

学びの手立て	毎回の出席が重要になる。 ただ出席するだけでなく、積極的に発言したり他人の意見を聞くようにする。 ゼミ生同士で親睦を深めるための自主企画も歓迎する。 ゼミでは、自ら考え行動することができることを目指すものである。 企業の方を迎え、複数のゼミの合同での講義も企画する。
--------	---

評価	出席状況とレポート、講義での積極性、発表により総合的に評価する。 平常点(10点) 受講態度(50点) 提出物(40点)
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 自ら考え、意見を発表できる基礎力が形成されたことを踏まえ、専門演習でさらにその力を向上させる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	2年	kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「フェイク・ニュース」という言葉が注目を集めています。何が真実で何がそうでないのか。時代の変化、社会経済の変化等から生まれる様々な課題を正しく理解し、その理解に基づき問題・課題を自らの頭で考え、問題・課題に対する自分なりの答えを導き出すことが今日大変重要になってきています。そのため基礎演習Ⅲでは、自ら考え、考察し、表現する能力を養うことを「ねらい」とします。</p>	<p>基礎演習を通じて、知識・理解・判断・論理等の認知スキルだけでなく、忍耐力・協調性・やり抜く力・自制心・リーダーシップ等の非認知スキルを向上させることにより、自らの「ケイパビリティ（潜在能力）」を高め将来の選択肢・自由度を増やせるようにしましょう。そのため、基礎演習での座学の勉強だけでなく合宿等の課外活動にも積極的に参加してください。</p>
到達目標	<p>・社会や経済に存在する様々な問題・課題を発見し分析・考察することができる（情報収集・分析・考察能力）。</p> <p>・問題・課題の本質を論理的に理解し、説明できる（論理力・説明能力）。</p> <p>・その論理が正しいかどうかを統計等を用いて検証したり、議論の中で確認し、正しければそれにもとづいて問題を解決する方法を見つけることができる（解決能力・リーダーシップ）。間違っていることが分かった場合、更なる情報収集・分析・考察を通じて再考することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1週 オリエンテーション 自己紹介、ゼミのねらい（講義の概要・目的・到達目標）と進め方の説明 時間外学習の内容：事前にシラバスを読んでおくこと</p> <p>第2週 メディア・リテラシーについて SNSと新聞その他の情報の違いについて皆で考える 時間外学習の内容：各メディアの違いについて考えておくこと</p> <p>第3週 メディア・リテラシーと行動経済学 人間の認知能力の問題、思い込みと勘違いのメカニズムを皆で考える 時間外学習の内容：「メディア・リテラシー」について調べておくこと</p> <p>第4～7週 新聞を読み関心のあるテーマの内容について報告。自らの意見を述べた後に全員でディスカッションする。 時間外学習の内容：毎日新聞を読み、新聞の関心のあるテーマについて情報を収集し考察しておくこと</p> <p>第8～14週 複数のテーマを決めてグループワークを行う。グループ内で役割分担を決め情報収集、分析・考察を行いゼミでプレゼン後、全員でディスカッションする。 時間外学習の内容：様々なメディアからの情報収集を行うこと</p> <p>第15週 前期の総括 ゼミのねらいが達成できたかについて総括を行い、後期に向けての課題と目標を明らかにする。 時間外学習の内容：前期の課題について考えておくこと (なお、前期間中にゼミ合宿を行い、授業2回分あるいは3回分程度を割り当てる予定です)</p>
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて適宜紹介する
	<p>学びの手立て</p> <p>基礎演習では知識等の認知スキルだけでなく、それ以外のやり抜く力、忍耐力、協調性、リーダーシップ、人の話を聞く等の非認知スキルの獲得も重要です。日頃より地域社会に対する当事者意識をもち、地域の課題・問題に関する情報収集・考察を行う習慣をつけること、グループワーク等ではチームをまとめるために積極的に行動することや協調性等が求められます。</p>
評価	<p>評価は、レポート課題の提出および内容50%、対面授業での発表20%、オンライン授業での発表30%で総合的に評価する。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅳ
-------	----------------------

※ポリシーとの関連性

- ①コミュニケーション力、②社会全般に関する知見を広げる力
③現状を分析する力を高める。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	2年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、自分の考えを整理して人に伝える能力、および論理的に発言する能力の養成を目的とする。	メッセージ 自分の考えを整理して人に伝えることは、簡単に見えて非常に難しい。大学生の時期に意識して身につけましょう。「自分はできている」と言ってしまうと、数年後に明確な差がつかめます。
	到達目標 自分の考えを整理して人に伝えることができる。 論理的に発言することができる。	

学びの準備	到達目標 自分の考えを整理して人に伝えることができる。 論理的に発言することができる。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス	シラバスの確認
	2	(対) ディスカッション	復習。積極的参加のため対策。
	3	(対) ディスカッション	復習。積極的参加のため対策。
	4	(対) ディスカッション	復習。積極的参加のため対策。
	5	(対) 論理的な説明	復習課題を解く。予習次回用意。
	6	(対) 論理的な説明	復習課題を解く。予習次回用意。
	7	(対) 論理的な説明	復習課題を解く。予習次回用意。
	8	(対) 文献講読 (報告・議論)	予習次回用意。
	9	(対) 文献講読 (報告・議論)	予習次回用意。
	10	(対) 実践的講義 (ゼミ合同)	予習次回用意。
	11	(対) 実践的講義 (ゼミ合同)	予習次回用意。
	12	(対) 実践的講義 (ゼミ合同)	予習次回用意。
	13	(対) 文献講読 (報告・議論)	予習次回用意。
	14	(対) 文献講読 (報告・議論)	予習次回用意。
	15	(対) 文献講読 (報告・議論)	復習。
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは必要ない。適宜配布する。 奨励本『レポート・論文の書き方入門』 慶應義塾大学出版 奨励本『考える技術・書く技術』 ダイヤモンド社
-------	---

学びの実践	学びの手立て 毎回の出席が重要になる。 ただ出席するだけでなく、積極的に発言したり他人の意見を聞くようにする。 実践的講義 (ゼミ合同) は外部からの講師を迎え、複数ゼミによる合同での講義となる。
-------	---

学びの実践	評価 平常点20%、提出物80%。
-------	----------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅳ、専門演習ⅠAB、専門演習ⅡAB
-------	--------------------------------------

※ポリシーとの関連性

本演習では、経済学に必要な専門知識を学び、ディプロマ・ポリシーに沿った、知識、考察力、表現力の能力を身に付ける。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	2年	huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済に関する文献や新聞記事、社会問題などを「経済的な観点」から調査・分析ができる人材を育てる。さらに、分析結果を論理的にまとめ、発表することができる人材を育てる。	メッセージ 物事を論理的に思考し、経済学的に考えることは社会に出て必ず役に立つ。
	到達目標 演習科目終了後： 1. 自らの課題を見つけ、情報収集、分析、発表することが出来る。 2. 問題解決に向けた思考を習得することが出来る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1. 授業内容説明 自己紹介	自己分析に関する書物を読む
	2	2. セリフマッピング	自己分析に関する書物を読む
	3	3. 経済学的視点とは	ミクロ・マクロ経済について学ぶ
	4	4. グループディスカッション 経済に関連するトピック	対人関係構築と諸問題を調べる
	5	5. Chapter1：論題（テーマについて情報収集）	対人関係構築と諸問題を調べる
	6	6. Chapter1：論題（テーマについて情報整理）	対人関係構築と諸問題を調べる
	7	7. Chapter1：論題（テーマについてまとめ）	対人関係構築と諸問題を調べる
	8	8. Chapter1：論題（テーマについて発表）	プレゼンテーション技法を学ぶ
9	9. 論理的思考とは（講義）	因果関係について学ぶ	
10	10. PCM手法による問題解決手法①（ファシリテーション技法）	様々な問題解決手法を調べる	
11	11. PCM手法による問題解決手法②	問題解決手法PCMをより深く調べる	
12	12. PCM手法による問題解決手法③	問題解決手法PCMをより深く調べる	
13	13. PCM手法による問題解決手法（自分の問題・課題の取り組む）	自己問題の解決策を体系化する	
14	14. PCM手法による問題解決手法（自分の問題・課題の取り組む）	自己問題の解決策を体系化する	
15	15. PCM手法による問題解決手法（自分の問題・課題の取り組む）	自己問題の解決策を体系化する	
16	16. PCM手法による問題解決手法発表	発表のリハーサル	
実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜資料を配付する。 参考図書：「学力」の経済学 中室牧子 GRITやり抜く力 アンジェラ・ダックスワース PCM手法 国際協力機構 ファシリテーション スキル 堀公俊		
	学びの手立て 新聞を継続して読むこと。		
	評価 課題レポート50%、平常点50%で評価する。特に平常点にはおいては新聞の切り抜きポートフォリオを作成し、発表できるかを評価基準とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅳ
-------	----------------------

※ポリシーとの関連性

本演習では、経済学の専門的知識を学び、その視座から経済社会を読み解く力を身につけ、他者と議論する力を養います。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	2年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方などを学びます。グループワークと報告とともに、個人での課題設定と情報収集、整理、分析していく力を養います。	基礎演習Ⅲから専門性と密度を持った議論を求めます。グループ学習における自らの役割を自覚し、より積極的に演習に参加する必要があります。個々人の能力を高めるため、それぞれがテーマ設定、情報収集、分析、資料作成、報告といった一連の作業が出来るよう相応の準備が必要です。課外活動等も積極的に提案、参加することを求めます。
到達目標	①自ら課題を設定し、情報収集と分析を通じて知見を深めていくことが出来る。 ②体系的な理解に努め、課題解決に向けた思考方法を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンスー基礎演習Ⅰ・Ⅱを振り返って、演習の計画について	シラバスを読む
	2	(対) 演習での報告について一情報の収集、整理、レジユメの作成、報告の仕方	情報検索、図書館利用の確認
	3	(対) 資料の収集と整理ー記事報告①	文献リスト作成の課題
	4	(対) 論文・文献の読み方ー記事報告②	要旨作成の課題
	5	(対) 論文・文献の読み方ー記事報告③	先行研究整理の課題
	6	(対) テーマ探しと課題設定ー記事報告④	自らの関心に沿ったテーマの探索
	7	(対) テーマ探しと課題設定ー記事報告⑤	テーマに関する情報収集を行う。
	8	(対) レポート作成方法ー記事報告⑥	レポートの作成準備
	9	(対) レポート作成の実践ー記事報告⑦	レポート課題の提出準備
	10	(対) 報告とディスカッション①	個人報告準備をする(手順確認)
	11	(対) 報告とディスカッション②	同上(資料作成)
	12	(対) 報告とディスカッション③	同上(報告準備)
	13	(対) 報告とディスカッション④	グループ報告の準備(役割分担)
	14	(対) 報告とディスカッション⑤	グループ報告の準備(テーマ)
15	(対) 報告とディスカッション⑥	グループ報告の準備(報告)	
16	(対) 予備回		

テキスト・参考文献・資料など
 テキストは特に使用しませんが、グループ、個人報告に関する文献、資料等については適宜紹介します。

学びの手立て
 ○基本は対面演習ですが、状況により特例講義を行い、Microsoft teams等でグループワークを行います。
 ・特例講義では「授業連絡」、Microsoft teamsで、課題提供、遠隔演習を行います。
 「授業連絡」を確認し、遠隔演習が行える通信環境を整えて演習にのぞむようにしてください。
 意見を求められた際には、積極的に発言することで「参加態度」の評価につながります。
 ・対面演習では、積極的に演習に参加し、課題やワークに取り組んでください。

評価
 演習内での課題提出(20%)、発表(50%)、演習での発言(15%)、その他(課外活動参加)等(15%)により総合的に評価します。
 ※欠席が3分の1を超える場合は「不可」

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 【関連科目・次のステージ】
 専門演習ⅠA, ⅠB

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	2年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済に関する文献、新聞記事、雑誌等を講読することで「経済をみる眼」を養う。また、グループ調査等を通じてプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の向上を図る。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 経済社会の動きを論理的に説明できる力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義説明、基礎演習Ⅲの目標設定、アンケート等 -	シラバスの確認
	2	経済学科で学ぶ意義について①	大学生活の自己評価
	3	経済学科で学ぶ意義について②	大学生活の自己評価
	4	文献購読① - 文献の選定、担当箇所の割り当て等 -	文献の収集
	5	文献購読② - 報告、議論、解説 -	指定文献の精読
	6	文献購読③ - 報告、議論、解説 -	指定文献の精読
	7	文献購読④ - 報告、議論、解説 -	指定文献の精読
	8	文献購読⑤ - 報告、議論、解説 -	指定文献の精読
	9	文献購読⑥ - 報告、議論、解説 -	指定文献の精読
	10	文献購読⑦ - 報告、議論、解説 -	指定文献の精読
	11	グループ調査① - テーマの選定、グループ分け等 -	グループワーク
	12	グループ調査② - 資料収集、調査、分析 -	グループワーク
	13	グループ調査③ - 資料収集、調査、分析 -	グループワーク
	14	グループ調査④ - 報告、質疑応答 -	グループワーク、資料作成
15	グループ調査⑤ - 報告、質疑応答 -	グループワーク、資料作成	
16	前期のまとめ	大学生活の自己評価	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、資料を配布する。		
	学びの手立て 読書を継続して行うこと。		
	評価 受講態度 (50%)、提出物 (50%) で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅳ
-------	----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鹿毛 理恵	2年	授業時間の前後に受け付けます	

学びの準備	ねらい 基礎演習Ⅰと基礎演習Ⅱで修得したスキルを応用する。沖縄とアジアとの関係性について調査するフィールドワークの実施とアジア経済に関連する文献等の購読を通して、アジアの経済社会の発展過程と現状に対する分析視覚を学び、考え、議論しながら、自説を構築し、それを論理的に発表する能力の向上を図る。	メッセージ これまでみなさんが大学などで身につけた能力を活用して、多様なアジア、沖縄との関係性などについて一緒に学びましょう。
	到達目標 基礎学力を発展させる。アジアの多様性を理解する。日本とアジア、沖縄とアジアとの関係性を理解する。経済社会の課題を発見する。アジアを経済学的に理解することができる。アジアの諸現象について経済学的に説明することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特)オリエンテーション 講義説明、文献とグループの決定、購読割り当て	興味・関心について事前にまとめる
	2	(特)興味・関心について事前にまとめる	図書館で事前に調べる
	3	(特)パワーポイントプレゼンテーションの使い方、発表の仕方	図書館で事前に調べる
	4	(特)グループディスカッションの進め方、発表に対する質疑応答の仕方	図書館で事前に調べる
	5	(特)文献講読① 報告 質疑応答 ディスカッション	発表と質問内容の準備
	6	(特)文献講読② 報告 質疑応答 ディスカッション	発表と質問内容の準備
	7	(対)文献講読③ 報告 質疑応答 ディスカッション	発表と質問内容の準備
	8	(対)文献講読④ 報告 質疑応答 ディスカッション	発表と質問内容の準備
	9	(対)文献講読⑤ 報告 質疑応答 ディスカッション	発表と質問内容の準備
	10	(対)文献講読⑥ 報告 質疑応答 ディスカッション	発表と質問内容の準備
	11	(対)文章作成法	テーマで考える
	12	(対)文章作成法	テーマを考える
	13	(対)キャリア教育—職業観と人生観について	質問内容を考える
	14	(特)文章作成	文章作成
15	(対)文章作成法	文章作成	
16	(特)総括	これまでのふりかえり	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、資料を配布する		
	学びの手立て 毎回の自発的で積極的な態度・姿勢を期待しています。		
	評価 受講態度50%、提出物・報告内容50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅳ
-------	----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鹿毛 理恵	2年	授業時間の前後に受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄とアジアとの関係性について調査するフィールドワークの実施とアジア経済に関連する文献等の講読を通して、アジアの経済社会の発展過程と現状に対する分析視覚を学び、考え、議論する。そのうえで、学びをまとめ、自説を展開できるスキルとして、文章作成方法について学び、その力を応用する。さらに、プレゼンや議論を通して、論理的に発表する能力の向上をめざす。</p>	<p>これまでみなさんが大学などで身につけた能力を活用して、多様なアジア、沖縄との関係性などについて一緒に学びましょう。</p>
到達目標	基礎学力を発展させる。アジアの多様性を理解する。日本とアジア、沖縄とアジアとの関係性を理解する。経済社会の課題を発見する。アジアを経済学的に理解することができる。アジアの諸現象について経済学的に説明することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対)オリエンテーション	興味・関心について事前にまとめる
	2	(対)文章作成方法について	図書館で事前に調べる
	3	(対)パワーポイントプレゼンテーションの使い方、発表の仕方	図書館で事前に調べる
	4	(対)グループディスカッションの進め方、発表に対する質疑応答の仕方	図書館で事前に調べる
	5	(対)文献講読① 報告 質疑応答 ディスカッション 文章作成	発表と質問内容の準備
	6	(対)文献講読② 報告 質疑応答 ディスカッション 文章作成	発表と質問内容の準備
	7	(対)文献講読③ 報告 質疑応答 ディスカッション 文章作成	発表と質問内容の準備
	8	(対)文献講読④ 報告 質疑応答 ディスカッション 文章作成	発表と質問内容の準備
	9	(対)文献講読⑤ 報告 質疑応答 ディスカッション 文章作成	発表と質問内容の準備
	10	(対)文献講読⑥ 報告 質疑応答 ディスカッション 文章作成	発表と質問内容の準備
	11	(対)フィールドワークの手法	図書館で事前に調べる
	12	(対)グループ調査の実施に向けた話し合いとテーマ決定	事前に調査テーマを考える
	13	(対)各グループの調査の途中経過報告 質疑応答 ディスカッション	事前に調査を実施する
14	(対)各グループの調査結果のまとめ・プレゼンテーションの準備	事前に調査を実施する	
15	(対)グループ調査の報告会	調査結果のまとめ	
16	(対)グループ調査の報告会	調査結果のまとめ	
実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜、資料を配布する。		
学びの手立て	毎回の自発的で積極的な態度・姿勢を期待しています。		
評価	受講態度 50%、提出物・報告内容 50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習ⅠA
-------	-----------------------

※ポリシーとの関連性 「主体的に調査・研究」しつつ、「知識」、「考察力」、「表現力」を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	2年	研究室 (5629)、またはmurakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り寄せを図ることにある。経営学を基礎とする演習であるが、とりわけ営利企業や非営利企業などを横断的に学べる機会を提供する。また、企業や事業所の訪問調査とその結果のプレゼンテーションを実施しながら、生きた経営を学んでいく。</p> <p>到達目標</p> <p>1) ビジネスマナーを身につける。 2) 受講前より、主体性、傾聴力、発信力、協調性などが身につく。 3) 就職活動や進学など自らの進路を考えることができる。</p>	<p>【実務経験】実務経験者を招聘して講義を行うか、実務経験者にインタビューする機会を設けます。</p> <p>1) 失敗を恐れずプレゼンテーションを実施してほしい。 2) 積極的な質疑応答を期待する。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーションおよび基礎演習Ⅲの振り返り	基礎演習Ⅲの配付資料の読み返し
	2	プレゼンテーションと質疑応答①	プレゼンの準備と質問力の鍛錬
	3	プレゼンテーションと質疑応答②	プレゼンの準備と質問力の鍛錬
	4	プレゼンテーションと質疑応答③	プレゼンの準備と質問力の鍛錬
	5	プレゼンテーションと質疑応答④	プレゼンの準備と質問力の鍛錬
	6	プレゼンテーションと質疑応答⑤	プレゼンの準備と質問力の鍛錬
	7	プレゼンテーションと質疑応答⑥	プレゼンの準備と質問力の鍛錬
	8	社会人特別講師もしくはOB/OGによる講義もしくは課外活動（日程は前後する可能性がある）	ビジネスマナー関連の書籍精読
	9	プレゼンテーションと質疑応答⑦	プレゼンの準備と質問力の鍛錬
	10	プレゼンテーションと質疑応答⑧	プレゼンの準備と質問力の鍛錬
	11	プレゼンテーションと質疑応答⑨	プレゼンの準備と質問力の鍛錬
	12	プレゼンテーションと質疑応答⑩	プレゼンの準備と質問力の鍛錬
	13	プレゼンテーションと質疑応答⑪	プレゼンの準備と質問力の鍛錬
14	プレゼンテーションと質疑応答⑫	プレゼンの準備と質問力の鍛錬	
15	まとめと振り返り	配付資料の読み返し	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて適宜紹介する。		
	学びの手立て		
	<p>①Microsoft Teamsを利用した授業とします。wifi環境が利用できる場所で利用して下さい。</p> <p>②履修の心構え：単に出席しているだけでは単位の修得にはつながらない。積極的にプレゼンを実施するとともに、プレゼンを受ける場合は積極的な質問を心がける。</p> <p>③学びを深めるために：働く意味を考える。正課内外のキャリアについて意味づけをしてもらいたい。</p>		
	評価		
	平常点 (30%)、レジュメやパワーポイントによるプレゼンテーション (40%)、課外学習における貢献度 (30%) を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習ⅠA、ジョブインタビュー入門（共通）、文章表現入門（共通）
-------	--

※ポリシーとの関連性 論理的思考により自ら課題を発見する力、言語運用能力を鍛える。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	2年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。	ゼミ生同士で親睦を深めるための自主企画も歓迎します。この年次では大学生活を有意義に過ごすための動機付けも重要だと考えています

到達目標
レポートなど文書を作成することができる。
論理的に発言することができる。
課題解決のための適切な情報を収集することができる。
自ら考え、行動することができる

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 ガイダンス	後期の目標を作成する
	2	第2週ー第3週 論理的思考力を鍛える	テーマに対し考え発表の準備をする
	3	第3週ー第15週 レポートの発表、テーマ別グループ発表、グループ間ディベートなど	グループによる資料収集など
	4	第16週 後期ゼミの振り返り	3年次の目標を立てる
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

テキスト・参考文献・資料など
『知のツールボックスー新入生援助集ー』 専修大学出版局
『レポート・論文の書き方入門』 慶應義塾大学出版
『考える技術・書く技術』 ダイヤモンド社

学びの手立て
毎回の出席が重要になる。
ただ出席するだけでなく、積極的に発言したり他人の意見を聞くようにする。
このゼミでは自ら考え行動することができることを目指すものである。
企業の方を迎え、複数のゼミの合同での講義も企画する。

評価
出席状況と受講態度、及びレポート、発表内容により総合的に評価する。
平常点 (10点) 受講態度 (50点) 提出物 (40点)

学びの継続
次のステージ・関連科目
自ら考え、意見を発表できる基礎力が形成されたことを踏まえ、専門演習でさらにその力を向上させる。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	2年	kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「フェイク・ニュース」という言葉が注目を集めています。何が真実で何がそうでないのか。時代の変化、社会経済の変化等から生まれる様々な課題を正しく理解し、その理解に基づき問題・課題を自らの頭で考え、問題・課題に対する自分なりの答えを導き出すことが今日大変重要になってきています。そのため基礎演習Ⅳでは自ら考え、考察し、表現する能力を養うことを「ねらい」とします。</p>	<p>基礎演習を通じて、知識・理解・判断・論理等の認知スキルだけでなく、忍耐力・協調性・やり抜く力・自制心・リーダーシップ等の非認知スキルを獲得することにより、「ケイパビリティ（潜在能力）」を高めて将来の選択肢を増やせるようにしましょう。そのため、ゼミでの勉強だけでなく合宿等の課外活動にも積極的に参加してください。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的・経済的に存在する様々な問題・課題を発見し分析・考察することができる（情報収集・分析・考察能力）。 ・問題・課題の本質を論理的に説明できる（論理力・説明能力）。 ・その論理が正しいかどうかを統計等を用いて検証したり、議論の中で確認し、正しければそれにもとづいて問題を解決する方法を見つけることができる（解決能力・リーダーシップ）。間違っていることが分かった場合、更なる情報収集・分析・考察を通じて考えることができる。 	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>（対）第1週 オリエンテーション 前期の課題とゼミの到達目標の再確認、後期ゼミの進め方について時間外学習の内容：事前にシラバスを読んでおくこと</p> <p>（対）第2～7週 新聞を読み関心のあるテーマの内容について報告。自らの意見を述べた後に全員でディスカッションする。時間外学習として毎日新聞を読むだけでなく、新聞の関心のあるテーマについて情報を収集し考察しておくこと。時間外学習の内容：毎日新聞を読むこと</p> <p>（対）第8～14週 複数のテーマを決めてグループワークを行う。グループ内で役割分担を決め情報収集、分析・考察を行いゼミでプレゼン後、全員でディスカッションする。時間外学習の内容：ディスカッションのための準備（情報収集・分析・考察）を行うこと</p> <p>（対）第15週 後期の総括 ゼミのねらいが達成できたかについて総括を行い、各自の今後の課題を確認する。</p> <p>時間外学習の内容：後期の課題について考えておくこと</p>
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて適宜紹介する
	<p>学びの手立て</p> <p>基礎演習では知識等の認知スキルだけでなく、それ以外のやり抜く力、忍耐力、協調性、リーダーシップ、人の話を聞く等の非認知スキルの獲得も重要です。日頃より地域社会に対する当事者意識をもち、地域の課題・問題に関する情報収集・考察を行う習慣をつけること、グループワーク等ではチームをまとめるために積極的に行動することや協調性等が求められます。</p>
評価	<p>評価は、レポート課題30%、対面授業あるいはオンライン授業における発表・ディスカッションにおける積極的な参加度・リーダー・シップや協調性等60%、授業全般の平常点10%により総合的に評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門演習ⅠA、産業組織論、中小企業論</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

- ①コミュニケーション力、②社会全般に関する知見を広げる力
③現状を分析する力を高める。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	2年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基礎演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを踏まえ、レポート作成能力、およびを説得力あるプレゼン能力の養成を目的とする。	メッセージ 評価されるレポートを書く能力と説得力のあるプレゼン能力を、大学生の時期に意識して身につけましょう。「自分ではできている」と言いつつ手を抜くと、数年後に明確な差がつきます。
	到達目標 評価されるレポートを書くことができる。 説得力のあるプレゼンをすることができる。	

学びの準備	到達目標 評価されるレポートを書くことができる。 説得力のあるプレゼンをすることができる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス	シラバスの確認
	2	(対) 文献講読 (報告・議論)	予習次回用意。
	3	(対) 文献講読 (報告・議論)	予習次回用意。
	4	(対) レポート作成	予習次回用意。
	5	(対) レポート作成	予習次回用意。
	6	(対) レポート作成	予習次回用意。
	7	(対) レポート作成	予習次回用意。
	8	(対) レポート報告	予習次回用意。
	9	(対) 「大学に対する要望」をポスターとして作成・掲示する	予習次回用意。
	10	(対) 「大学に対する要望」をポスターとして作成・掲示する	予習次回用意。
	11	(対) 「大学に対する要望」をポスターとして作成・掲示する	予習次回用意。
	12	(対) 「大学に対する要望」をポスターとして作成・掲示する	予習次回用意。
	13	(対) 「大学に対する要望」のアンケートを集計し結果をまとめる	予習次回用意。
	14	(対) 大学幹部に対するプレゼン用意	予習次回用意。
15	(対) 大学幹部に対してプレゼンする	復習。	
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは必要ない。適宜配布する。 奨励本『レポート・論文の書き方入門』 慶應義塾大学出版 奨励本『考える技術・書く技術』 ダイヤモンド社
-------	---

学びの実践	学びの手立て 講義中は積極的に意見交換をしましょう。 自分の意見・考えを他人が理解しやすいように工夫して伝える。
-------	--

学びの実践	評価 平常点20%、提出物80%。
-------	----------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習ⅠAB、専門演習ⅡAB
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習IV	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	2年	huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基礎演習IIIを踏まえ、グループワークと個人で設定した課題もしくはテーマについて情報収集から分析、発表までを行う。テーマに関してより一層の高い専門知識を求めます。	メッセージ コロナ禍ではあるが、引き続きテーマに沿ってグループ（SNS使用）もしくは個人でも適正な情報収集と分析、さらに発表を行う事で、3年次で行うゼミ論や論述手法を習得することができる。また、学外課題なども積極的に提案して下さい。
	到達目標 演習終了後： 1. 自ら課題を設定し、グループ作業の中で対人関係の構築や学びの喜びを習得することが出来る。 2. 体系的な解決手法を踏まえ、課題解決に向けた思考を身につけることが出来る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業のガイダンス（説明、前期の振り返り等々）	シラバス確認（授業内容の確認）
	2	テーマ、課題をグループでディスカッション①	各自で関心事項を選択
	3	テーマ、課題をグループでディスカッション②	グループで関心事項を選択・決定
	4	テーマに沿ったグループでディスカッション	グループでディスカッション
	5	テーマに沿ったグループで情報収集	グループでディスカッション
	6	テーマに沿ったグループで分析	グループでディスカッション
	7	テーマに沿ったグループで論点の整理①	グループでディスカッション
	8	テーマに沿ったグループで論点の整理②	グループでディスカッション
	9	テーマについての報告・発表①	テーマの報告・発表
	10	テーマについての報告・発表②	テーマの報告・発表
	11	テーマについての課題解決に向けてのディスカッション①	問題解決手法を習得
	12	テーマについての課題解決に向けてのディスカッション②	問題解決手法を習得
	13	テーマについての課題解決に向けてのアクションプラン作成①	アクションプラン作成
	14	テーマについての課題解決に向けてのアクションプラン作成②	アクションプラン作成
15	テーマについての課題解決に向けてのアクションプラン報告・発表①	アクションプラン発表	
16	テーマについての課題解決に向けてのアクションプラン報告・発表②	アクションプラン発表	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜配布します。 参考資料：問題解決ファシリテーター 堀公俊 やる気の構造 クレイア・コンサルティング 自己評価メソッド クリスト・アンドレ		
	学びの手立て 毎日身の回りで起きている諸問題に関心をもつこと。 その関心から自分の意見を持ち、他者の意見に耳を傾け、議論できることを心がけて下さい。		
	評価 課題レポート50%、平常点50%で評価する。特に平常点においては新聞の切り抜きポートフォリオを作成し、発表できるかを評価基準とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門科目 専門演習IA 専門演習IB
-------	---

※ポリシーとの関連性

本演習では、経済学の専門的知識を学び、その視座から経済社会を読み解く力を身につけ、他者と議論する力を養います。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	2年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習Ⅲを踏まえ、グループワークと個人報告を中心に、文献読解と情報分析、プレゼンテーション能力の涵養をはかっていきます。テーマに関してはより専門性の高い内容を求めています。	基礎演習Ⅲから専門性と密度を持った議論を求めます。グループ学習における自らの役割を自覚し、より積極的に演習に参加する必要があります。個々人の能力を高めるため、それぞれがテーマ設定、情報収集、分析、資料作成、報告といった一連の作業が出来るよう相応の準備が必要です。課外活動等も積極的に提案、参加してください。
到達目標	①自ら課題を設定し、情報収集と分析を通じて知見を深めていくことが出来る。 ②体系的な理解に努め、課題解決に向けた思考方法を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンスー前期、夏休みを振り返って、演習の進め方について	シラバスを読む
	2	(対) 報告とディスカッション①	夏季課題の確認①
	3	(対) 報告とディスカッション②	夏季課題の確認②
	4	(対) グループ報告の準備ーグループ分け、テーマ設定	各自関心のあるテーマを探す
	5	(対) グループ報告とディスカッション①	ブレインストーミング
	6	(対) グループ報告とディスカッション②	ディスカッションと質問
	7	(対) グループ報告とディスカッション③	グループ報告の準備
	8	(対) 個人報告の準備ーテーマ探しと資料収集	個人テーマ探索
	9	(対) 個人報告の準備ー文献整理と先行研究整理の方法	資料収集と整理
	10	(対) 個人テーマの発表①ー文献紹介と論点整理	文献リストの作成と報告準備
	11	(対) 個人テーマの発表②ー文献紹介と論点整理	文献リストの作成と報告準備
	12	(対) 個人テーマの発表③ー文献紹介と論点整理	文献リストの作成と報告準備
	13	(対) 個人テーマの発表④ー文献紹介と論点整理	文献リストの作成と報告準備
14	(対) 個人テーマの発表⑤ー文献紹介と論点整理	文献リストの作成と報告準備	
15	(対) 基礎演習の振り返りと専門演習に向けて	抗議の振り返り	
16	※予備日		
テキスト・参考文献・資料など	テキストは特に使用しませんが、グループ、個人報告に関する文献、資料等については適宜紹介します。		
学びの手立て	○基本は対面演習ですが、状況により特例講義を行い、Microsoft teams等でグループワークを行います。 ・特例講義では「授業連絡」、Microsoft teamsで、課題提供、遠隔演習を行います。 「授業連絡」を確認し、遠隔演習が行える通信環境を整えて演習にのぞむようにしてください。 意見を求められた際には、積極的に発言することで「参加態度」の評価につながります。 ・対面演習では、積極的に演習に参加し、課題やワークに取り組んでください。		
評価	演習内での課題提出 (20%)、発表 (50%)、演習での発言 (15%)、その他 (課外活動参加) 等 (15%) により総合的に評価します。 ※欠席が3分の1を超える場合は「不可」		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習ⅠA, 専門演習ⅠB
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	2年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済に関する文献等の講読を通じて経済現象を科学的に分析する能力を養う。また、グループ調査・ディベート等を行うことでプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の向上を図る。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 経済社会の動きを論理的に説明できる力を養う。	

学びの準備	到達目標 経済社会の動きを論理的に説明できる力を養う。
-------	--------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション - 講義説明、基礎演習Ⅳの目標設定、アンケート等 - (対)
	2	大学生活に関する自己評価① - 修学の状況、研究テーマ、将来設計等 - (対)
	3	大学生活に関する自己評価② - 修学の状況、研究テーマ、将来設計等 - (対)
	4	大学生活に関する自己評価③ - 修学の状況、研究テーマ、将来設計等 - (対)
	5	沖縄経済に関するグループ調査① - テーマ選定、グループ分け、構成案等の検討 - (対)
	6	沖縄経済に関するグループ調査② - データ収集、調査等 - (対)
	7	沖縄経済に関するグループ調査③ - データ収集、調査等 - (対)
	8	グループ調査中間報告 - 目次、構成案、問題意識、予想される結論等 - (対)
	9	沖縄経済に関するグループ調査④ - パワーポイント資料作成等 - (対)
	10	沖縄経済に関するグループ調査⑤ - パワーポイント資料作成等 - (対)
	11	グループ調査報告① - パワーポイントを用いた報告 - (対)
	12	グループ調査報告② - パワーポイントを用いた報告 - (対)
	13	レポートの書き方① - グループ調査、個人報告等を踏まえて、今後の課題を抽出 - (対)
	14	レポートの書き方② - グループ調査、個人報告等を踏まえて、今後の課題を抽出 - (対)
15	講義のまとめ① (対)	
16	講義のまとめ② (対)	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、資料を配布する。	時間外学習の内容
	学びの手立て 沖縄県経済に関する文献・レポートに目を通しておくこと。	
	評価 受講態度 (50%)、提出物 (50%) で評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習ⅠA
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	キャリアデザイン論	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	2年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	企業から与えられたミッション（課題）に対して、グループに分かれて作業を分担し、主に学生同士の質疑応答で授業は進行する。したがって、プレゼン力、コミュニケーション力が養われ、本格的な就職活動に向けて、自分に相応しい職業や進路を見出すきっかけとなることができる。社会人基礎力を最初の講義、中間、最後の3回測るので、自分の成長が目に見えて分かり、自信につながる。	この講義は PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）形式の講義である。PBLとは、「課題解決型授業」のことで、通常の座学中心の講義とは一線を画するものである。時間外に会社訪問や打ち合わせ等あり、大変ではあるが、企業の方も学生への課題解決のため協力してくれる。講義を通して社会人との交流が深まる。もっと積極的になり、大学生生活を充実させ、就活にも活かしたい人向
到達目標	自ら課題を見つけ、解決するための行動を起こすことができる。 仲間と一緒に考えたり、自分の意見を言うなどのコミュニケーション力がつく。 自らの言葉で発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	社会人に求められる力を考える
	2	チームづくりと1シート企画	企画提案のしかたを調べる
	3	企業からのミッション	ミッションに対する解決法を考える
	4	チームワークとコミュニケーション	チームメンバーをよく知る
	5	課題解決（1）～企業ミッションと課題を探る～	ミッションに対する解決法の検討
	6	課題解決（2）～課題解決のアプローチ方法～	企業訪問・インタビューなど、打ち合わせや情報収集を行う
	7	課題解決（3）～ユニーク発想法～	同上
8	課題解決（4）～提案の事業プランの作り方～	同上	
9	中間プレゼンテーション	同上	
10	プレゼンテーション技術基礎～プレゼン本番に向けた企画書のブラッシュアップ～	チームで企画書を作成する	
11	課題解決（5）	同上	
12	課題解決（6）	同上	
13	プレゼン本番前リハーサル	発表の事前練習を行う	
14	プレゼン本番	本番に向けた準備と練習を行う	
15	各チーム企画提案書の振り返り	提案に対する事後評価を行う	
16	自身の学びの振り返り	自身の行動指針を立てる	
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストは特にない 講義時にプリント等を配る。	
学びの手立て	出席を重視する。 講義のねらいをしっかりとし、積極的に発言、チーム活動に参加すること。 チームとしての活動が中心になるので、チームリーダー及びメンバーの役割分担が重要になる。 社会人との交流もあるので、社会人としてのマナーを守ることを心がけること。 企業の人も課題を出し、最終プレゼンで評価するだけでなく、講義の間もアドバイス等を行う。		
評価	出席、グループワークの進め方、プレゼンの結果を総合的に勘案して評価する。 出席と毎回提出するリアクションペーパー（80点） プレゼン結果（20点）		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	自らの行動力や課題解決力が高まっているので、目的を持って専門科目等をとることができる。また、学外活動も積極的に行う。 就職活動に対しても積極的に取り組むことができる。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	金融投資 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	3年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	株式に投資した場合の評価方法を学びます。株値は刻々と変化し上がったり下がったりします。この株価変動は儲けをもたらす反面、損失がいくらになるかわからない不安も与えます。金融投資では投資のリターン・リスクを理解し、数値計算します。投資信託やポートフォリオの概念、分散投資の意味を理解しましょう。	将来銀行員を目指している人にぜひ勉強してほしい科目です。FPの勉強で「金融資産運用」に興味をもった人にもおすすめです。前期科目「金融投資 I」の単位を取得していることが、後期科目「金融投資 II」を登録する上での条件です。授業に毎回電卓を持参すること。【実務経験】銀行の窓口業務の経験を活かし、資産運用について解説する。
到達目標	金融投資・資産運用の知識を習得する。 データを用いて金融投資・資産運用の判断を行うことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の概要・計画	概要・計画を理解する。
2	投資（1）将来価値・現在価値	復習。用語・数式を理解する。	
3	投資（2）年金の価値	復習。用語・数式を理解する。	
4	投資（3）NPV、投資判断	復習。用語・数式を理解する。	
5	証券投資（1）株式のリスク・リターン	復習。用語・数式を理解する。	
6	証券投資（2）標準偏差	復習。用語・数式を理解する。	
7	証券投資（3）相関係数	復習。用語・数式を理解する。	
8	証券投資（4）分散投資	復習。用語・数式を理解する。	
9	証券投資（5）分散投資	復習。用語・数式を理解する。	
10	証券投資（6）分散投資	復習。用語・数式を理解する。	
11	証券投資（7）分散投資	復習。用語・数式を理解する。	
12	資本市場（1）債券のリスク・リターン	復習。用語・数式を理解する。	
13	資本市場（2）債券の特徴	復習。用語・数式を理解する。	
14	デリバティブ（1）デリバティブの種類	復習。用語・数式を理解する。	
15	デリバティブ（2）オプション	復習。用語・数式を理解する。	
16	期末テスト	復習。用語・数式を理解する。	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社 2005年 【参考文献】富島佑允『投資と金融がわかりたい人のためのファイナンス理論入門』CCCメディアハウス 2018年		
学びの手立て	授業で学んだ内容を課題レポートで確認します。		
評価	課題レポート30%、期末テスト70%に基づき評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 金融投資 II（金融投資 I の単位取得者のみ登録可能）、金融論 I、金融論 II 沖縄の経済事情 I、沖縄の経済事情 II 証券外務員、証券アナリスト資格
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	金融投資Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	3年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	株式に投資した場合の評価方法を学びます。株価は刻々と変化し上がったり下がったりします。この株価変動は儲けをもたらす反面、損失がいくらになるかわからない不安も与えます。金融投資では投資のリターン・リスクを理解し、数値計算します。投資信託やポートフォリオの概念、分散投資の意味を理解しましょう。	<登録条件>金融投資Ⅰ（または証券市場論Ⅰ）の単位取得者。（特殊な場合は相談する）授業はPC教室。前半の講義では、投資に関する法令・投資信託等を学び、証券外務員二種の試験対策を行う。後半の講義では、PCを使用して金融投資Ⅰの知識をEXCELで検証したり、実際の株価分析を行う。【実務経験】銀行の窓口業務の経験を活かし、資産運用について解説する。
到達目標	証券外務員二種の試験範囲について、知識・理解力を身につける。証券外務員二種の資格は、銀行に対する就職活動で武器となる。PC上でファイナンス理論を確認し、理解を深める。EXCELで行う詳細なリターン・リスク計算に基づき、金融投資の判断を行うことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 講義の概要・計画	概要・計画を理解する。
	2	(対) 証券外務員（法令1）	復習。精読後問題を解く。
	3	(対) 証券外務員（法令2）	復習。精読後問題を解く。
	4	(対) 証券外務員（株式）	復習。精読後問題を解く。
	5	(対) 証券外務員（債券）	復習。精読後問題を解く。
	6	(対) 証券外務員（投資信託）	復習。精読後問題を解く。
	7	(対) 証券外務員（証券税制）	復習。精読後問題を解く。
8	(対) 中間テスト	復習。精読後問題を解く。	
9	(対) PC演習・データ収集	復習。自分で処理可能にする。	
10	(対) PC演習・理論検証Excel（1）	復習。自分で処理可能にする。	
11	(対) PC演習・理論検証Excel（2）	復習。自分で処理可能にする。	
12	(対) PC演習・株価分析Excel（1）	復習。自分で処理可能にする。	
13	(対) PC演習・株価分析Excel（2）	復習。自分で処理可能にする。	
14	(対) PC演習・株価分析Excel（3）	復習。自分で処理可能にする。	
15	(対) PC演習・株価分析Excel（4）	復習。自分で処理可能にする。	
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社 2005年 証券外務員のテキストは講義内で指示します。</p> <p>【参考文献】富島佑允『投資と金融がわかりたい人のためのファイナンス理論入門』CCCメディアハウス 2018年</p>		
学びの手立て	PC演習では演習課題を授業時間内に提出すること。		
評価	中間テスト60%、PC演習課題状況40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 金融論Ⅰ、金融論Ⅱ 沖縄の経済事情Ⅰ、沖縄の経済事情Ⅱ 証券外務員、証券アナリスト資格
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学Ⅰ	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	2年	研究室 (5629)、またはmurakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、特定業界を事例に取り上げながら、企業とは何か、経営とは何かなどを考えることが目的である。また、大企業や中小企業、経営組織や経営戦略、経営の歴史や現状など幅広く経営学の入門科目として講義する。	メッセージ 【実務経験】中小企業従業員の経験から、1)給与をもらう立場と支払う立場、2)学歴による給与体系、3)就職と就社の意味合い、などを学んでいきます。経営学とキャリア教育の両方の理解をめざします。
	到達目標 1)企業の有する社会性と経済性について理解できる。 2)情報の非対称性の意味が理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義の説明と評価の方法について）	講義ノートの点検
	2	経営学とは何か？	配布資料の精読、講義ノートの点検
	3	規制緩和と企業経営	配布資料の精読、講義ノートの点検
	4	食品企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検
	5	タバコ企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検
	6	通信企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検
	7	道路関係企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検
	8	中間試験	自己採点および関連書籍の講読
	9	戦争ビジネス① - 軍産複合体を考える -	配布資料の精読、講義ノートの点検
	10	戦争ビジネス② - 戦争の民営化を考える -	配布資料の精読、講義ノートの点検
	11	電力企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検
	12	醸造企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検
	13	企業経営の理解	配布資料の精読、講義ノートの点検
	14	企業の社会的責任	配布資料の精読、講義ノートの点検
	15	経営学Ⅰのまとめと質疑応答	配布資料の精読、講義ノートの点検
	16	期末試験	自己採点および関連書籍の講読
	テキスト・参考文献・資料など 日本比較経営学会編『会社と社会』文理閣、2006年 学習に必要な文献は、適宜講義中に指示する。		
	学びの手立て ①履修の心構え 出席するだけでは単位の修得にはつながらない。講義ファイルの予習・復習に取り組むこと。 ②講義レジュメ 講義レジュメは各自で指定サイトからダウンロードすること（講義開始時に指示する）。 ③学びを深めるために 私たちの生活に企業の存在は欠かせない。アルバイトや日頃の生活から企業の存在を理解してほしい。		
	評価 平常点(50%)＋試験(中間25%＋期末25%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 自己表現入門、ジョブインタビュー入門ならびにキャリア・デザイン（いずれも共通科目）、経営学Ⅱ、理論と実証双方から企業を対象とする学問全般。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	2年	研究室 (5629)、またはmurakamiあつとokiura.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、「経営学Ⅰ」の応用科目と位置づける。大企業や中小企業の経営を基礎に、昨今、一部の企業で取り組まれている社会的企業、ソーシャルビジネス、さらには貧困ビジネスやブラック企業などについて触れ、企業の形態や社会貢献の相違などを比較しながら、企業とは何か、経営とは何かという課題に理解を深めていく。</p>	<p>【実務経験】中小企業従業員の経験から、1)給与をもらう立場と支払う立場、2)学歴による給与体系、3)就職と就社の意味合い、などを学びます。経営学とキャリア教育の両方の理解をめざします。</p>
到達目標	<p>1)継続事業体としての企業が理解できる。 2)ソーシャルビジネスの意味が理解できる。 3)各地に存在する企業の取り組みが理解できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義の説明と評価の方法について）+SDGsとはなにか？	Google Formsへの記録・提出
2	企業の目的、組織、形態	資料精読+Google Formsの記入,提出	
3	ビジネスを理解するための用語解説	資料精読+Google Formsの記入,提出	
4	社会貢献ビジネス	資料精読+Google Formsの記入,提出	
5	社会的企業と公益事業	資料精読+Google Formsの記入,提出	
6	データ比較による企業分析	資料精読+Google Formsの記入,提出	
7	労働と企業	資料精読+Google Formsの記入,提出	
8	中間試験	自己採点ほか関連書籍の講読	
9	企業の変遷	資料精読+Google Formsの記入,提出	
10	ベンチャービジネスとは何か？	資料精読+Google Formsの記入,提出	
11	社会的排除と経営学の役割	資料精読+Google Formsの記入,提出	
12	貧困ビジネス、ブラック企業（ブラックバイト）の現状と課題そして対策	資料精読+Google Formsの記入,提出	
13	企業の本質	資料精読+Google Formsの記入,提出	
14	社会的企業とNPO	資料精読+Google Formsの記入,提出	
15	経営学Ⅱのまとめと質疑応答	資料精読+Google Formsの記入,提出	
16	期末試験	自己採点ほか関連書籍の講読	
テキスト・参考文献・資料など	<p>日本比較経営学会編『会社と社会』文理閣、2006年 学習に必要な文献は、適宜講義中に指示する。</p>		
学びの手立て	<p>①講義は、授業開始前からポータル共有フォルダにレジメを配置します。ポータルの授業連絡でMicrosoft Teamsのコードを送信しますので、授業開始前までにログインして下さい。チャットの時間を設けます。 ②平常点を評価するための小テストを毎回Google Formsで実施します。アドレスは、毎回異なりますので留意して下さい。</p>		
評価	<p>平常点(50%)＋試験(中間25%＋期末25%)で評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 自己表現入門、ジョブインタビュー入門およびキャリア・デザイン（いずれも共通科目）、理論と実証双方から企業を対象とする学問全般。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

経済学の「知識」の修得および、その知識をもとにして経済社会の問題を論理的に「考察」し「表現」することを養うことに関わる

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学史 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	2年	メールで受け付けます	

学びの準備	ねらい 経済学がどのように成立したかを知ることは、経済学を理解するために役立つ。さらに、その理論がうみだされた歴史的背景を知ることによって、経済学が社会の問題と関わって発展してきたことを理解してほしい。	メッセージ 知識の定着だけでなく、考える力を身につけるための授業をテーマ毎にグループ・ワークなどを取り入れながら行う予定です。初回の授業は必ず出席をしてください。
	到達目標 経済学の理論の背景にある考え方、さらに、その理論が生まれた時代や社会の状況を理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について	事前にシラバスを読む
	2	イントロダクション：経済学史概要	復習：事後課題
	3	経済学史を学ぶ意味とは？	復習：事後課題
	4	前史：世界史の知識の確認	復習：事後課題
	5	経済学成立の背景1：資本主義と産業革命	予習：資料を読む 復習：事後課題
	6	経済学成立の背景2：ジョン・ロック	予習：1章を読む
	7	経済学の産声1：アダム・スミスと道徳哲学	予習：2章を読む 復習：事後課題
	8	経済学の産声2：市場社会の基礎理論	予習：予習課題 復習：事後課題
	9	古典派の経済学者たち1：リカード	予習：3章を読む 復習：事後課題
	10	古典派の経済学者たち2：マルサス	予習：予習課題 復習：事後課題
	11	カール・マルクスの思想	予習：4章を読む 復習：事後課題
	12	カール・マルクスの経済学	予習：予習課題 復習：事後課題
	13	限界革命：新古典派経済学への道	予習：5章を読む 復習：事後課題
	14	限界革命トリオの経済学	予習：予習課題 復習：事後課題
15	総括	全講義の復習	
16	予備日	予備日	
	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携）：江頭進『はじめての人のための経済学史』（経済学叢書Introductory）新世社，2015年。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
	評価 予習課題：30%，事後課題：40%，受講態度：30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済学史IIでは、この時代以降を扱う。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学史Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	2年	メールで受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	経済学史Ⅰに引き続き、経済学がどのように成立したかを学ぶ。さらに、その理論がうみだされた歴史的背景を知ること、経済学が社会の問題と関わって発展してきたことを理解してほしい。なお、本講義は経済学史Ⅰを受講済みであることを前提として進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・前期開講の経済学史Ⅰを受講した上での履修を強く勧めます。 ・オンライン（またはオンデマンド）での講義と知識の定着のための予習・事後課題を組み合わせた授業形式です。 ・初回のオリエンテーションには必ず出席すること。
到達目標	経済学の理論の背景にある考え方、さらに、その理論が生まれた時代や社会の状況を理解できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特)オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について	事前にシラバスを読む
	2	(特)イントロダクション～経済学史Ⅰの復習	事後課題に取り組む
	3	(特)アルフレッド・マーシャル：経済成長重視の姿勢と経済生物学	予習：6章を読む 復習：事後課題
	4	(特)ソーステイン・ヴェブレン1：進化論と経済学・もの作り本能と競争心	予習：7章を読む 復習：事後課題
	5	(特)ソーステイン・ヴェブレン2：顕示的消費	予習：予習課題 復習：事後課題
	6	(特)ジョン・メイナード・ケインズ1：ケインズ経済学とは	予習：8章を読む 復習：事後課題
	7	(特)ジョン・メイナード・ケインズ2：経済政策～国家と国民	予習：予習課題 復習：事後課題
	8	(特)フリードリッヒ・ハイエク1：経済理論	予習：9章を読む 復習：事後課題
	9	(特)フリードリッヒ・ハイエク2：社会観・人間観	予習：予習課題 復習：事後課題
	10	(特)グループディスカッション（テーマ：ケインズ 対 ハイエク）	予習：予習課題 復習：事後課題
	11	(特)ミルトン・フリードマン1：実証主義へのこだわり	予習：10章を読む 復習：事後課題
	12	(特)ミルトン・フリードマン2：自由論	予習：予習課題 復習：事後課題
	13	(特)グループディスカッション（テーマ：自由主義）	予習：予習課題 復習：事後課題
14	(特)ゲーム理論と経済学	予習：11章を読む 復習：事後課題	
15	(特)総括	期末課題に取り組む	
16	予備日	予備日	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト（必携）：江頭進『はじめての人のための経済学史』（経済学叢書Introductory)新世社，2015年。		
	学びの手立て		
	他の受講生の妨げになるような行為（遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
	評価		
	期末課題：35%，予習課題・事後課題：50%，受講態度：15%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済学史Ⅰ，社会思想史
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学特別講義Ⅰ（経済理論及び政策）	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-佐藤 茂幸	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	わが国では人口減少や少子化に伴う地域経済の衰退が深刻化している。この地域衰退に歯止めをかけるために期待されているのが、農業や観光等の地域資源を活用した新事業の創出であり、その担い手は地域中小企業のみならず、コミュニティ・ビジネスや産学官連携組織、ベンチャー等多様である。本講義では地域経済の現状を整理しつつ、地域ビジネスの将来的な方向性を探っていく。	ICTの進展によって、地方にも多様なビジネスモデルが萌芽している。こうしたことを背景に、本授業は、地方の価値創造を実現する地域ビジネスの在り方を、経営学のアプローチから実践的に学ぶ科目である。また、将来、学生自身がビジネスを企画するための基本的思考方法を習得するのも本授業の特徴である。
到達目標	① 地域ビジネスの動向と課題を理解し、地域の価値創造の本質をレポート等の文書にまとめることができる。 ② 地域政策の最新トレンドを理解し、地域ビジネスの成功モデルを第三者に説明できるようになる。 ③ 地域課題の解決手法を実践的に学ぶため、地域ビジネスの簡易な企画書を完成させている。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	はじめに（講義体系、企画書作成の方法）	地域経済の諸問題について情報収集	
	2	地域ビジネスの概観（地方の産業構造、中小企業の経営環境）	地域経済に関する文献の精読	
	3	地域イノベーションの必要性（地方創生、働き方改革、Society5.0）	地域経済に関する文献の精読	
	4	観光ビジネス①（関係人口、インバウンド、着地型観光）	地域経済に関する文献の精読	
	5	観光ビジネス②（地域ブランド、観光地経営、DMO/DMC）	地域経済に関する文献の精読	
	6	農業ビジネス（6次産業化、アグリビジネス、農業IoT）	地域経済に関する文献の精読	
	7	地域商社（地域金融、地域マーケティング）	地域経済に関する文献の精読	
	8	地域発コンテンツビジネス（アート、音楽、フード等）	地域経済に関する文献の精読	
	9	コミュニティ・ビジネス論（小さな拠点、ソーシャル・ビジネス）	地域経済に関する文献の精読	
	10	SDGsと産学官連携（地域の持続可能性、CSR）	地域経済に関する文献の精読	
	11	企画作成ワークショップ①（地域課題の設定、事例の研究）	地域経済に関する文献の精読	
	12	企画作成ワークショップ②（マーケティング企画）	企画書の作成	
	13	企画作成ワークショップ③（組織づくり）	企画書の作成	
	14	企画作成ワークショップ④（収益計画、ビジネスモデル構築）	企画書の作成	
15	企画作成ワークショップ⑤（企画プランの発表）、小テスト	企画書の作成		
16	講義の総括、レポート等の提出			
実践	テキスト・参考文献・資料など	教科書の指定はとくになし。参考文献を指定する。 『ソーシャル・ビジネス・ケース』（谷本寛治編著、中央経済社）2015年7月 『アートゾーンデザイナー-地域価値創造戦略-』（佐藤茂幸他著、同有館）2016年7月 『持続可能な地域の作り方』（寛裕介著、栄治出版）2019年5月		
学びの手立て	①履修の心構え： 地域活性化に興味のある学生を対象に講義を進める。したがって、学生自身が抱く地域に関わる具体的問題意識を保有していることが履修の条件となる。そして、この問題を深い次元で掘り下げる論理的思考を求めることになる。 ②学びを深めるために： 学んだ地域ビジネスに関わる理論を、企画書（レポート）作成に応用することが学習を深めるコツとなる。ゆるやかなグループワーク、発表、質疑応答会、事例研究なども授業中に取り入れ、アクティブラーニングの色彩を高める。			
評価	①専門用語の理解度テスト（50%） ②企画レポート（40%） ③コメントペーパーの内容や質疑応答に関わる授業貢献度（10%）			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	地域経済論、産業政策論

※ポリシーとの関連性 「経済・社会の問題を論理的に考察する力」を要請する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 経済学特別講義Ⅲ（日本経済事情）	期別 集中	曜日・時限 集中	単位 2
	担当者 -櫻澤 誠	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ	
			各回の授業終了後（休憩時間）に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄現代史（特に経済構想、観光政策）について検討していく。授業は講義およびそれをふまえた受講生による作業回・発表回で構成している。	メッセージ 本講義を通して、実社会でのさまざまな判断を行う際にも重要なスキルとなる、現代史についての客観的な理解ができるようになることを受講生には期待したい。
	到達目標 ・沖縄現代史（特に経済構想、観光政策）に関する文献・史資料の内容や意図を正確に読み取り、客観的に検討することができる。 ・具体的事例を取り上げ、図書館等で調査を行い、集めた情報を用いて、自らの議論を組み立てることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業の概要と導入	参考文献を事前に読む
	2	沖縄現代史 講義1	参考文献を事前に読む
	3	沖縄現代史 講義2	参考文献を事前に読む
	4	沖縄現代史 講義3	参考文献を事前に読む
	5	沖縄現代史 講義4	参考文献を事前に読む
	6	戦後沖縄経済構想史 講義1	参考文献を事前に読む
	7	戦後沖縄経済構想史 講義2	参考文献を事前に読む
	8	戦後沖縄経済構想史 講義3	参考文献を事前に読む
	9	戦後沖縄経済構想史 作業回	参考文献を事前に読む
	10	戦後沖縄経済構想史 発表回	参考文献を事前に読む
	11	戦後沖縄観光政策史 講義1	参考文献を事前に読む
	12	戦後沖縄観光政策史 講義2	参考文献を事前に読む
	13	戦後沖縄観光政策史 講義3	参考文献を事前に読む
	14	戦後沖縄観光政策史 作業回	参考文献を事前に読む
	15	戦後沖縄観光政策史 発表回、授業全体のまとめ	参考文献を事前に読む
	16		
	テキスト・参考文献・資料など (参考文献) 櫻澤誠『沖縄現代史』中公新書、2015年		
	学びの手立て 集中講義を受講する前に、参考文献（『沖縄現代史』）を必ず読んでおくこと。また、集中講義の終了直後に短時間で最終レポートをまとめることが必要となる。		
	評価 授業への取り組み〔作業・発表、ディスカッションへの参加など〕（50%） 最終レポート（50%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 「日本経済史Ⅰ」「日本経済史Ⅱ」「日本経済論Ⅰ」「日本経済論Ⅱ」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学入門	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉、村上、浦本、名嘉座、平敷、宮城、崎浜、生垣、安藤、小濱、鹿毛、大城	1年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済学の入門的な内容について学習する。経済学科の専門科目担当者がそれぞれの分野について入門的内容をかみ砕いて講義する。この講義をとおして、経済学とはどのような学問なのかを直感的に理解してもらいたい。多くの学生が経済学に関心を持てるようになることが本講義の目的である。	メッセージ マクロ経済学A・B・ミクロ経済学A・B等の科目において、本講義で得た知識は役に立ちます。
	到達目標 経済学とはどのような学問なのかを理解する。 経済学に対する興味・関心の向上。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	ガイダンス（講義計画、成績評価方法について）（比嘉）	
	2	入門・ミクロ・マクロ経済学（名嘉座）	
		時間外学習の内容	
	3	入門・労働経済学（名嘉座）	シラバスの確認
	4	入門・経済地理（崎浜）	復習。経済学的に観察する。
	5	入門・創造産業と経済学（浦本）	復習。経済学的に観察する。
	6	入門・企業と産業の経済学（宮城）	復習。経済学的に観察する。
	7	入門・地域経済（平敷）	復習。経済学的に観察する。
	8	入門・経営学（村上）	復習。経済学的に観察する。
	9	入門・農業経済学（小濱）	復習。経済学的に観察する。
	10	入門・企業分析（安藤）	復習。経済学的に観察する。
	11	入門・日本経済論（小濱）	復習。経済学的に観察する。
	12	入門・公共経済学（比嘉）	復習。経済学的に観察する。
	13	入門・経済統計学（大城）	復習。経済学的に観察する。
	14	入門・国際経済（鹿毛）	復習。経済学的に観察する。
	15	入門・経済学史・経済史（生垣）	復習。経済学的に観察する。
	16	総括・レポート（比嘉）	講義全体の復習
	テキスト・参考文献・資料など テキストなし。 講義時に必要な資料を配付します。		
	学びの手立て 本講義で経済学の大枠を把握し、その後各専門科目へと繋げていく。		
	評価 提出物（レポート、課題）100%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 マクロ経済学A、マクロ経済学B、ミクロ経済学A、ミクロ経済学B、経済学科の各専門科目
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済史入門	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	1年	メールで受け付けます	

学びの準備	ねらい 経済という切り口で世界や日本の歴史を学ぶことで、経済学そのものの理解を促すことをねらいとする。	メッセージ 知識の定着だけでなく、考える力を身につけるために個人ワークやグループ・ワークなどを取り入れながら行う予定です。
	到達目標 砂糖を軸とした世界の歴史をひもときながら、経済学の基本となる歴史的知識を修得できる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について	シラバスを読んでおく
	2	イントロダクション：歴史知識の確認	世界史の学習
	3	プロローグ：砂糖の不思議	事前：プロローグを読む
	4	ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか1（第1章）	事前：pp. 12-31を読む、事後課題
	5	カリブ海と砂糖1（第2章）	事前：pp. 34-43を読む
	6	カリブ海と砂糖2（第2章）	事前：pp. 44-59を読む、事後課題
	7	砂糖と茶の遭遇（第3章）	事前：pp. 62-76を読む
	8	砂糖と茶の遭遇（第3章）	事前：pp. 76-90を読む、事後課題
9	コーヒーハウスが育んだ近代文化（第4章）	事前：4章を読む、事後課題	
10	茶・コーヒー・チョコレート（第5章）	事前：5章を読む、事後課題	
11	「砂糖のあるところに、奴隷あり」（第6章）	事前：6章を読む、事後課題	
12	イギリス風の朝食とアフタヌーンティー（第7章）	事前：7章を読む、事後課題	
13	奴隷と砂糖をめぐる戦争（第8章）	事前：8章を読む、事後課題	
14	砂糖きびの旅の終わり（第9章）	事前：9章を読む、事後課題	
15	エピローグ：モノをつうじてみる世界史	講義全体の復習	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携！）：川北稔『砂糖の世界史』（岩波ジュニア新書276）岩波書店、1996年。 その他の参考文献を講義の中で紹介する		
	学びの手立て ・単位取得には、事後課題の提出が必須です。課題はオンラインで提供します。詳細は初回の授業で説明するので必ず出席すること。 ・他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁。場合によっては、退室を求めます。		
	評価 毎回の事後課題60%、最終課題10%、講義の参加状況30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済学史Ⅰ、経済学史Ⅱ、西洋経済史Ⅰ、西洋経済史Ⅱ、日本経済史Ⅰ、日本経済史Ⅱ
-------	--

※ポリシーとの関連性

本講義では、①経済学の基礎的・専門的知識を学びつつ、②経済社会問題を考察し、③課題解決の視点を得ることを目的とします。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 経済社会学	期別 後期	曜日・時限 木3	単位 2
	担当者 平敷 卓	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ t.heshiki@okiu.ac.kp	

学びの準備	ねらい 現代の社会問題を経済学的視点から考察し、どのような解を提示できるのか考える機会を提供します。講義前半では、資本主義の発展過程との中で生じてきた経済社会問題、それに対応する国家の姿を捉えます。講義後半では具体事例（貧困問題等）を取り上げながら、それらを解決するための経済学的な考え方とアプローチを学びます。	メッセージ 【実務経験】コンサルタント調査・研究員としての経験を活かし、県内の行政やNPO活動等の事例を講義で紹介いたします。貧困や格差といった現代の経済社会問題に興味や関心、問題意識を持っている人に履修をお勧めします。具体事例を交えながら現代の福祉や社会保障のあり方、今後の展望について考えていきます。
	到達目標 ①現代資本主義国家の成り立ちについて学び、第二次大戦後の福祉国家の形成と変遷について理解する。 ②経済政策としての社会保障制度や福祉政策が果たしてきた役割や意義を理解する。 ③少子高齢化、貧困、労働問題といった現在日本が抱える問題に対し、課題設定し、解決方策について自らの考えを持つ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	(特) ガイダンス、授業評価方法等について
	2	(特) 人間と社会と自然—経済と社会の関係
	3	(特) ポリティカル・エコノミーとは？
	4	(特) 資本主義の生成と発展
	5	(特) 資本主義と現代の国家①
	6	(特) 資本主義と現代の国家②
	7	(特) 福祉国家とその変容①
	8	(特) 福祉国家とその変容②
	9	(特) 講義前半のまとめ-資本主義の発展と福祉国家の登場
	10	(特) 日本型福祉国家とその特徴 (※小テスト)
	11	(特) 福祉国家の転換と展望-労働政策と社会保障制度
	12	(特) 資本主義国家と労働政策の展開
	13	(特) 日本の労働問題—派遣・非正規労働
	14	(特) 日本の社会保障政策-雇用保険、生活保護制度
	15	(特) 講義後半のまとめ
16	(特) 期末課題	
	時間外学習の内容	
	シラバスを読む	
	参考文献①、②を読む	
	参考文献①、②を読む	
	参考文献③を読む	
	参考文献③を読む	
	参考文献③、④、⑤を読む	
	参考文献④、⑤を読む	
	参考文献④、⑤を読む	
	講義前半の振り返り	
	参考文献④を読む	
	参考文献④を読む	
	参考文献①、②を読む	
	参考文献④を読む	
	貧困・格差問題を調べる	
	講義後半の振り返り	
	講義のまとめ	

テキスト・参考文献・資料など
 テキストは特に指定せず、プリント・資料配布により講義を行います。事前・事後学習の助けとして以下の参考文献等を活用して下さい。他、必要に応じ講義中適宜提示します。
 【参考文献・資料】①宇仁宏幸他「入門社会経済学【第2版】」ナカニシヤ出版、②若森章孝他著（2007）『入門・政治経済学』ミネルヴァ書房、③田代洋一他（2011）『現代の経済政策【第4版】』有斐閣ブックス、④林建久他（2004）『グローバル化と福祉国家財政の再編』東京大学出版会、⑤G. エスピン-アンデルセン（2001）『福祉資本主義の三つの世界-比較福祉国家の理論と動態』ミネルヴァ書房

学びの手立て
 ○履修の心構え
 講義資料をポータルで提供し、資料に基づきMicrosoft teamsを活用して遠隔講義を実施します。「授業連絡」を確実に確認し、通信環境等を整えておくことを推奨します。毎回、出欠を確認するため課題（Googleフォーム等）を課します。課題では講義に関する質問や意見を求めることがあるため、講義内容に関連する時事に関心を払っておくことを求めます。
 ○学びを深めるために
 現代国家が抱える課題に関し、経済政策の理念と政策手段の変化を追っていきます。福祉国家論、社会保障に関する講義をあわせて履修することを勧めます。

評価
 ○「課題」評価：45% 「課題」提出（平常点）：15% 期末テスト（または期末テスト代替課題）：40%
 ※毎講義毎に提示する「課題」提出によって出席とみなす。
 提出が3分の2に満たない場合は期末課題を受験する資格を失う可能性がある。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 【重要】現「経済と社会」の旧科目名です。2018年度以降入学生は「経済と社会」を履修してください（対象学年は3年次となっていますが、4年次（2017年度以前）のみ履修可）。
 本講義では、次の関連科目を履修し、理解を深めることを勧めます。
 【関連科目と次のステージ】 公共経済学、労働経済学Ⅰ・Ⅱ、財政学Ⅰ・Ⅱ、福祉国家論、社会保障論

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済情報処理 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大城 絢子	3年	a. ohshiro@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ExcelやR言語を用いた演習・考察も含めたトレーニングを行います。論文抄読を取り入れ近年のデータ分析の傾向にも触れます。主に経済・ビジネスデータを扱います。	主に経済・ビジネスデータにおけるデータを用いることで各自が手を動かすことで基礎的な統計知識を使った簡単な解析スキルを習得します。

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・ビジネス分野における情報処理・統計手法を理解し、何らかのプログラム言語を用いて実践的な処理ができるようになる。 ・多くの文献に触れ、論理的思考力を身につける。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	導入：経済情報処理とは・Excelの復習(様々な関数)	講義での指定箇所の課題を提出
	2	Excel：経済データの分析と可視化	講義での指定箇所の課題を提出
	3	Rの基本操作I(数値計算)	講義での指定箇所の課題を提出
	4	Rの基本操作II(基本統計量の算出・変数の型の定義・文字列操作)	講義での指定箇所の課題を提出
	5	Rの基本操作II(基本統計量の算出・文字列操作)	講義での指定箇所の課題を提出
	6	データの読み込みと可視化・文字列操作・ベクトル計算	講義での指定箇所の課題を提出
	7	データの読み込みと可視化(グラフ作成)	講義での指定箇所の課題を提出
	8	論文調査1	講義での指定箇所の課題を提出
	9	分布と検定	講義での指定箇所の課題を提出
	10	分散分析・単回帰分析・重回帰分析	講義での指定箇所の課題を提出
	11	論文調査2	講義での指定箇所の課題を提出
	12	重回帰分析による変数選択・データ可視化の応用	講義での指定箇所の課題を提出
	13	最終レポートの中間報告と文献調査	講義での指定箇所の課題を提出
14	前回レポート解説・最終レポートに用いるデータの収集	発表資料・解析データの作成	
15	全レポートの解説	発表資料の作成	
16	前回レポート解説と補足・総括	振り返り・グループ内相互評価	
	テキスト・参考文献・資料など		
	参考文献 ・舟尾 暢男/The R Tips 第3版：データ解析環境Rの基本技・グラフィックス活用集/オーム社；第3版 ・P検準2級テキスト (P検合格シリーズ)/P検事務局		
	資料 ・テキストは特に指定せず、その都度資料を配布します。 ・ポータルに講義資料を掲載します。		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> ・実践演習で扱うプログラミングは自身の手で動かし様々なエラーを経験し修正していくことで上達します。ある程度のオブジェクト指向を身につけることで多くの言語が扱えるようになるので、根気強く取り組んでください。 ・プログラミングを正しく実行できることも重要ですが、その出力結果を自分なりに解釈することを心がけてください。 ・提出されたレポート内容をもとに、よくあるエラーやその対処法を解説します。 		
	評価		
	平常点・毎回の課題(80%)+最終レポート(20%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 情報リテラシー演習・統計学I・II：ここでの知識をもとにデータ解析を学びます。あらかじめ履修しておくことで理解と定着がスムーズですが、そうでない場合もカバーできる内容になっています。 経済情報処理II・卒業論文・自然環境課題研究：本科目で修得した論文解釈力・解析力・考察力・表現力をさらに応用させ、各自の研究成果を残してください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済情報処理Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大城 絢子	3年	a. ohshiro@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	R言語を用いた演習・考察も含めたトレーニングを行います。論文抄読を取り入れ近年のデータ分析の傾向にも触れます。主に経済・ビジネスデータを扱います。	(※履修登録における注意)各自がプログラミングをおこない課題を提出する形態になるため、PCでの受講を前提とします。 主に経済・ビジネスデータにおけるデータを用いることで各自が手を動かすことで統計知識・簡単な解析スキルを習得します。

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・ビジネス分野における情報処理・統計手法を理解し、何らかのプログラム言語を用いて実践的な処理ができるようになる。 ・多くの文献に触れ、論理的思考力を身につける。 ・簡単なオブジェクト指向を身につける。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 基本統計量・ヒストグラム・相関係数の算出とRの導入	基本統計に関する課題
	2	(特) 回帰分析(回帰モデルの考え方)	回帰分析の復習
	3	(特) 回帰分析(単回帰モデルと重回帰モデルの構築と推計)	回帰分析の課題
	4	(特) 分散分析I(分散分析の考え方)	分散分析Iの課題
	5	(特) 分散分析II(1要因による分散分析と2要因による分散分析)	分散分析IIの課題
	6	(特) 因子分析によるデータ解析(因子分析の考え方)	因子分析の復習
	7	(特) 因子分析によるデータ解析(データを用いた推計)	因子分析の実行
	8	(特) Rによる時系列データの扱い	時系列データの理解
	9	(特) 時系列データを用いた回帰分析(考え方と推計)	時系列データの回帰の課題
	10	(特) 定常時系列分析(時系列モデルの考え方と自己相関)	時系列モデルを実行
	11	(特) 定常時系列分析(ARモデル・MAモデル・ARIMAモデル)	時系列モデルの課題
	12	(特) 非定常時系列分析(ARCHモデルとGARCHモデル)	非定常時系列の課題
	13	(特) 多変量時系列分析(VARモデル)	多変量時系列の課題
	14	(特) 共和分分析(単位根と共和分)	共和分の課題
15	(特) まとめとレポートの解説	全体の復習を行いレポートを作成	
16	(特) 総括	全体の復習	

テキスト・参考文献・資料など	<p>資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは特に使用せず、その都度資料を配布します。 ・ポータルに講義資料を掲載します。
----------------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実践演習で扱うプログラミングは自身の手で動かし様々なエラーを経験し修正していくことで上達します。ある程度のオブジェクト指向を身につけることで多くの言語が扱えるようになるので、根気強く取り組んでください。 ・プログラミングを正しく実行できることも重要ですが、その出力結果を自分なりに解釈することを心がけてください。 ・提出されたレポート内容をもとに、よくあるエラーやその対処法を解説します。
--------	---

評価	平常点・毎回の課題(80%)+最終レポート(20%)
----	----------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>統計学Ⅰ・Ⅱ・経済情報処理Ⅰ：ここでの知識をもとにデータ解析を学びます。あらかじめ履修しておくことで理解と定着がスムーズですが、そうでない場合もカバーできる内容になっています。 卒業論文：本科目で修得した論文解釈力・解析力・考察力・表現力をさらに応用させ、各自の研究成果を残してください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済数学	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大城 絢子	1年	a.ohshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学数学のうち経済数学に必要な範囲を取り扱います。(ノートを持参してください) 毎講義において説明→練習問題→解説の流れを繰り返し、学習定着率を高めます。	メッセージ 主に経済学分野の数学を扱います。数学を全般的に学びたい方は数学I・IIの履修を推奨します。
	到達目標 ・高校数学-大学数学にかけて経済数学における微分積分を網羅的に理解する	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	導入	指定箇所の問題を解く
	2	線形代数	指定箇所の問題を解く
	3	確率・漸化式	指定箇所の問題を解く
	4	関数の復習	指定箇所の問題を解く
	5	微分・積分の復習	指定箇所の問題を解く
	6	多変数関数-偏微分-	指定箇所の問題を解く
	7	多変数関数-重積分-	指定箇所の問題を解く
	8	中間試験	前半の講義内容の振り返り
	9	基本的な微分方程式	指定箇所の問題を解く
	10	線形方程式	指定箇所の問題を解く
	11	行列	指定箇所の問題を解く
	12	行列方程式	指定箇所の問題を解く
	13	固有値	指定箇所の問題を解く
	14	線形変換	指定箇所の問題を解く
	15	線型空間	指定箇所の問題を解く
	16	期末試験	全体の内容の振り返り
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献 ・経済学で出る数学/尾山大輔・安田洋祐/日本評論社 資料 ・板書したノートはテキスト代わりになります。テキストは特に指定せず必要に応じて講義時に資料を配布します。 ・ポータルに講義資料を掲載します。		
	学びの手立て ・板書を自分なりに解釈しノートにまとめることを心がけてください。 ・練習問題を解く→解説を繰り返すことで理解を深めます。		
	評価 平常点・毎回のレポート(70%)+中間レポート(15%)+期末レポート(15%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 数学II：本科目の到達目標の理解が前提となります。 統計学I・II・経済統計学：継続もしくは同時受講により、さらに専門的な統計知識を習得し、本講もあわせて総括することで理解がより深まります。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済政策総論Ⅱ	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	3年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、「成長」、「安定」、「分配」をキーワードに、政府が実施する経済政策の理論的根拠を学びつつ、実際の経済政策の効果を検証する。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 現実の経済社会の動きを経済学の理論を使って説明できる能力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション - 講義の進め方、本講義のキーワード、講義アンケート - (特)
	2	日本経済概観 - データでみる日本経済、地域経済 - (特)
	3	幸福と経済 - GDPと幸福度、経済力と人間開発指数、国民総幸福量のはなし - (特)
	4	経済政策の目標 - 経済政策を動かす主役、経済政策の3つの柱 - (特)
	5	成長政策① - 成長政策の基本的な考え方：資本、労働、技術 - (特)
	6	成長政策② - 市場の機能、競争政策、市場の失敗への対応 - (特)
	7	安定化政策① - 安定化政策の基本的な考え方：財政政策と金融政策 - (特)
	8	安定化政策② - 財政政策：有効需要の原理、財政再建と経済成長 - (特)
9	安定化政策③ - 金融政策：中央銀行の役割 - (特)	
10	再分配政策① - 再分配政策の基本的な考え方 - (特)	
11	再分配政策② - セーフティネットとしての再分配政策、わが国の社会保障制度の課題 - (特)	
12	再分配政策③ - わが国の再分配政策：諸外国との比較（所得格差、社会保障負担等） - (特)	
13	地域経済と政策① - 地域政策の目的、国と地方の財政関係、公共投資と地域経済 - (特)	
14	地域経済と政策② - 沖縄の振興開発と中央政府の地域政策 - (特)	
15	本講義のまとめ、期末テスト説明 (特)	
16	期末テスト (対)	
	時間外学習の内容	
	シラバスの確認	
	経済統計に関する予習	
	経済統計に関する予習	
	経済理論の復習	
	参考文献の精読	
	参考文献の精読	
	参考文献の精読	
	参考文献の精読	
	参考文献の精読	
	参考文献の精読	
	参考文献の精読	
	地域経済に関する文献の精読	
	沖縄経済に関する文献の精読	
	講義時配布資料の確認	
	テキスト・参考文献・資料など	
	適宜レジュメ（パワーポイント資料）を配布する。 井堀利宏（2003）『経済政策』新世社 飯田泰之（2010）『ゼロから学ぶ経済政策』角川書店	
	学びの手立て	
	microsoft teamsによるオンライン講義を行う。日頃から経済新聞等に目を通しておくこと。	
	評価	
	期末テスト（50%）、各講義の課題等（50%）で評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済政策総論Ⅰ、公共経済学、財政学
-------	----------------------------------

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	経済地理 I	前期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1 年	sakihma@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい 経済地理学は、人文地理学の一部門であり、経済現象の地理的配置を説明し、経済地域的な成立・構造・機能を究明することを目的としている。経済地理 I では、古典的な経済立地に関する諸理論の概要を通して、経済地理学の研究方法与視角、さらに諸産業（農業・工業）などの立地特性について検討する。	メッセージ ・経済地理学の理論と実際について、わかりやすく講義します。
	到達目標 ・経済立地論の基本的概念を理解する。 ・世界・日本における経済立地の特性を理解する。	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	地図の利用方法	事前に配ったプリントを読むこと
	3	統計地図の事例	同上
	4	統計地図の作成	同上
	5	農業立地の理論と課題	同上
	6	農業立地論①－チューネンの農業立地論	同上
	7	農業立地論②－チューネンモデルの事例	同上
	8	現代日本の農業立地①－東日本を中心に	同上
9	現代日本の農業立地②－西日本を中心に	同上	
10	現代日本の農業立地の課題	同上	
11	工業立地論①－ウェーバーの工業立地論	同上	
12	工業立地論②－ウェーバー理論の実際	同上	
13	工業立地論③－ウェーバー以後の工業立地論	同上	
14	日本における工業地域の形成	同上	
15	日本における工業立地の特性－東京大都市地域を事例として－	同上	
16	まとめ（レポート提出）		
	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 ・特に指定はない。適宜レジュメを配布する。 【参考文献】 ・富田和暁（1996）『地域と産業－経済地理学の基礎－』大明堂。 ・ディビット・グリッグ（山本正三ほか訳）：『農業地理学入門』原書房。		
	学びの手立て ・日頃から世界や日本全体の社会・経済の動きに関心を払い、講義中の諸課題に対応できるようにする。		
	評価 ・統計地図、農業立地論、工業立地論などの課題（レポート）による評価		

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 経済地理学の基本的概念を理解して、応用的科目の経済地理 II へ繋げる。
-----------------------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済地理Ⅱ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1年	sakahama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済地理学は、人文地理学の一部門であり、経済現象の地理的配置を説明し、経済地域的な成立・構造・機能を究明することは目的としている。経済地理Ⅱでは、中心地理論とオフィスの立地を中心とする都市・商業空間の編成過程を検討する。さらに、近年の観光地形成に関わる問題点を比較考察し、沖縄の観光地の特性を検討したい。	メッセージ 経済地理学の理論と実際について、現代的な課題を挙げながら講義します。
	到達目標 ・都市・商業を中心とする経済立地論の特性を理解する。 ・世界・日本における経済立地の諸問題を理解し、自分の言葉で説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 人文地理学・経済地理学の概要	シラバスをよく読むこと
	2	(特) 中心地の立地理論①－クリスタラーの中心地研究	事前に配ったプリントを読むこと
	3	(特) 中心地の立地理論②－中心地理論に関する実証的研究	同上
	4	(特) 中心地の立地理論③－商業・サービス業の立地と中心地理論	同上
	5	(特) 中心地の立地理論④－オフィス立地の理論と実際	同上
	6	(特) 企業の立地戦略①－立地選択	同上
	7	(特) 企業の立地戦略②－立地適応	同上
	8	(特) 企業の立地戦略③－立地創造	同上
9	(特) 企業の立地戦略④－産業集積	同上	
10	(特) 企業の立地戦略⑤－地理的不平等発展の諸矛盾	同上	
11	(特) 観光産業と地域①－世界の観光地域	同上	
12	(特) 観光産業と地域②－ヨーロッパの観光地域	同上	
13	(特) 観光産業と地域③－日本の観光地域	同上	
14	(特) 観光産業と地域④－沖縄県の観光	同上	
15	(特) 観光産業と地域⑤－沖縄県島嶼部の観光	同上	
16	(特) まとめ		
	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 ・特に指定はない。適宜レジュメを配布する。 【参考文献】 ・富田和暁 (1996) 『地域と産業－経済地理学の基礎－』大明堂。 ・川端基夫 (2008) 『立地ウォーズ 企業・地域の成長戦略と「場所のチカラ」』新評論。		
	学びの手立て ・講義中に課題を出すことも多くあるので、日頃から世界や日本全体の社会・経済に関心を払っておくこと。		
	評価 ・講義で提示した課題（レポート）の提出		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・経済学と地理学における立地分析の方法を身につける。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済データ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	1年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、調査・研究のための経済データの見方、扱い方について学ぶことを目的とする。調査研究は、知りたい事柄を明らかにするために調べることであり、そのために必要となる情報を収集し、体系的に整理することである。したがって、経済データを分析するためには、調査の目的を明確にし、必要に応じたデータを集め、データの背後にある要因について考察することが大切である。	統計に関する知識は必要としないが、経済・社会の問題に対し、常に関心を持ち、客観的なデータで実証する姿勢を習得して欲しい。 【実務経験】民間研究所の経験を活かし、様々な統計データや統計の見方について講義する。
到達目標	経済分析のためのデータ収集及びその解釈が体系的にできるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	どのようなデータがあるか調べる
	2	経済分析の目的	どのような経済分析があるのか
	3	経済分析における問題意識、問題形成	経済分析とは何か考える
	4	様々な経済データ	様々な経済データを拾う
	5	データ処理Ⅰ（平均、最大、最小、分散について）	講義で示された課題を解く
	6	データ処理Ⅱ（年平均伸び率、構成比の計算など）	同上
	7	経済財政白書など白書を用いたデータ分析	同上
8	マクロ経済データ分析Ⅰ（GNPなど）	同上	
9	マクロ経済データ分析Ⅱ（各国比較、貧しい国と豊かな国）	同上	
10	県民所得のデータ分析（都道府県比較、沖縄は貧しい県か？）	同上	
11	所得格差関連のデータ（学力格差と所得格差の関係 沖縄の学力が低いのはなぜ？）	同上	
12	簡単な相関分析Ⅰ（相関関係とは）	同上	
13	簡単な相関分析Ⅱ（アイスクリームの売り上げと気温は関係あるか）	同上	
14	市町村の社会経済データⅠ（人口、市町村民所得、産業構造）	同上	
15	市町村の社会経済データⅡ（社会指標など）	同上	
16	テーマ分析とレポート提出要領	レポートの作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。 特になし。その都度演習用の素材は提供する。		
学びの手立て	毎回、出席をとるので、やむを得ず欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。 基本的にエクセルを使って講義を進めるので、基礎的な操作ができることが前提である。		
評価	出席状況と毎回の課題提出、レポートを総合的に評価する。 出席及び課題提出・・・10% レポート・・・90% 全体の3分の1を欠席すると不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門科目においてデータ収集が必要な場合、仮説を設定し、体系的に分析することができる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済統計学	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大城 絢子	2年	a. ohshiro@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい 経済学の分野において多用される統計解析手法とその考え方について学びます。	メッセージ 経済学で多用される統計学の講義を進めていきます。(ノートを持参してください) 毎講義において説明→練習問題→解説の流れを繰り返し、定着率を高めます。
	到達目標 ・ビジネスデータを統計的に解釈できる ・解釈した結果を他者へ説明し議論できる ・統計学を幅広い分野で活用できる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 導入-経済統計学の概要-	指定箇所の課題を復習
	2	(特) 変数・尺度	指定箇所の課題を復習
	3	(特) データの可視化/表・グラフの作成	指定箇所の課題を復習
	4	(特) 1変量データの扱い	指定箇所の課題を復習
	5	(特) 2変量データの扱い	指定箇所の課題を復習
	6	(特) 2変量データの扱い	指定箇所の課題を復習
	7	(特) 事象・場合の数・確率と期待値	指定箇所の課題を復習
	8	(特) 中間レポート	前半の振り返り
	9	(特) 確率変数・確率分布	指定箇所の課題を復習
	10	(特) 条件付き確率とベイズの定理	指定箇所の課題を復習
	11	(特) 単回帰分析・重回帰分析	指定箇所の課題を復習
	12	(特) ローレンツ曲線・ジニ係数	指定箇所の課題を復習
	13	(特) 検定I	指定箇所の課題を復習
	14	(特) 検定II	指定箇所の課題を復習
	15	(特) 経済統計知識を用いた論文解釈	指定箇所の課題を復習
	16	(特) 期末レポート	全体の振り返り・総括
	テキスト・参考文献・資料など 資料 ・板書したノートはテキスト代わりになります。テキストは特に指定せず必要に応じて講義時に資料を配布します。 ・ポータルに講義資料を掲載します。		
	学びの手立て ・板書を自分なりに解釈しノートにまとめることを心がけてください。 ・練習問題を解く→解説を繰り返すことで理解を深めます。 ・経済学の分野において統計学が用いられている論文や記事を紹介し解釈の仕方を学びます。		
	評価 平常点・毎回の課題(70%)+中間レポート(15%)+最終レポート(15%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済情報処理I・II：本講で学んだ知識を用いて、実際にデータを扱った演習を行います。 統計学I・II：同時受講により、さらに専門的な統計知識を習得し、本講もあわせて総括することで理解がより深まります。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本講義では、①経済学の基礎的・専門的知識を学びつつ、②経済社会問題を考察し、③課題解決の視点を得ることを目的とします。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 経済と社会	期別 後期	曜日・時限 木3	単位 2
	担当者 平敷 卓	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ t.heshiki@okiu.ac.kp	

学びの準備	ねらい 現代の社会問題を経済学的視点から考察し、どのような解を提示できるのか考える機会を提供します。講義前半では、資本主義の発展過程との中で生じてきた経済社会問題、それに対応する国家の姿を捉えます。講義後半では具体事例（貧困問題等）を取り上げながら、それらを解決するための経済学的な考え方とアプローチを学びます。	メッセージ 【実務経験】コンサルタント調査・研究員としての経験を活かし、県内の行政やNPO活動等の事例を講義で紹介いたします。貧困や格差といった現代の経済社会問題に興味や関心、問題意識を持っている人に履修をお勧めします。具体事例を交えながら現代の福祉や社会保障のあり方、今後の展望について考えていきます。
	到達目標 ①現代資本主義国家の成り立ちについて学び、第二次大戦後の福祉国家の形成と変遷について理解する。 ②経済政策としての社会保障制度や福祉政策が果たしてきた役割や意義を理解する。 ③少子高齢化、貧困、労働問題といった現在日本が抱える問題に対し、課題設定し、解決方策について自らの考えを持つ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス、授業評価方法等について	シラバスを読む
	2	(特) 人間と社会と自然—経済と社会の関係	参考文献①、②を読む
	3	(特) ポリティカル・エコノミーとは？	参考文献①、②を読む
	4	(特) 資本主義の生成と発展	参考文献③を読む
	5	(特) 資本主義と現代の国家①	参考文献③を読む
	6	(特) 資本主義と現代の国家②	参考文献③、④、⑤を読む
	7	(特) 福祉国家とその変容①	参考文献④、⑤を読む
	8	(特) 福祉国家とその変容②	参考文献④、⑤を読む
	9	(特) 講義前半のまとめ-資本主義の発展と福祉国家の登場	講義前半の振り返り
	10	(特) 日本型福祉国家とその特徴 (※小テスト)	参考文献④を読む
	11	(特) 福祉国家の転換と展望-労働政策と社会保障制度	参考文献④を読む
	12	(特) 資本主義国家と労働政策の展開	参考文献①、②を読む
	13	(特) 日本の労働問題—派遣・非正規労働	参考文献④を読む
	14	(特) 日本の社会保障政策-雇用保険、生活保護制度	貧困・格差問題を調べる
	15	(特) 講義後半のまとめ	講義後半の振り返り
16	(特) 期末課題	講義のまとめ	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定せず、プリント・資料配布により講義を行います。事前・事後学習の助けとして以下の参考文献等を活用して下さい。他、必要に応じ講義中適宜提示します。 【参考文献・資料】①宇仁宏幸他「入門社会経済学【第2版】」ナカニシヤ出版、②若森章孝他著（2007）『入門・政治経済学』ミネルヴァ書房、③田代洋一他（2011）『現代の経済政策【第4版】』有斐閣ブックス、④林建久他（2004）『グローバル化と福祉国家財政の再編』東京大学出版会、⑤G. エスピン-アンデルセン（2001）『福祉資本主義の三つの世界-比較福祉国家の理論と動態』ミネルヴァ書房
----	--

学びの手立て	○履修の心構え 講義資料をポータルで提供し、資料に基づきMicrosoft teamsを活用して遠隔講義を実施します。「授業連絡」を確実に確認し、通信環境等を整えておくことを推奨します。毎回、出欠を確認するため課題（Googleフォーム等）を課します。課題では講義に関する質問や意見を求めることがあるため、講義内容に関連する時事に関心を払っておくことを求めます。 ○学びを深めるために 現代国家が抱える課題に関し、経済政策の理念と政策手段の変化を追っていきます。福祉国家論、社会保障に関する講義をあわせて履修することを勧めます。
--------	---

評価	○「課題」評価：45% 「課題」提出（平常点）：15% 期末テスト（または期末テスト代替課題）：40% ※毎講義毎に提示する「課題」提出によって出席とみなす。 提出が3分の2に満たない場合は期末課題を受験する資格を失う可能性がある
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義では、現代の労働問題と労働政策、福祉国家と財政、社会保障制度に関する問題を扱います。次の関連科目を履修し、理解を深めることを勧めます。 【関連科目と次のステージ】 経済政策総論Ⅰ、公共経済学、労働経済学Ⅰ・Ⅱ、財政学Ⅰ・Ⅱ、福祉国家論、社会保障論
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	公共経済学	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	3年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 市場の失敗を是正するための政府の役割について学ぶ。政府の経済活動を分析する学問として、他に財政学や経済政策論があるが、本講義は「政治の経済分析」や「政府による規制」等のトピックを扱うという点で、両科目とは講義内容が異なる。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 市場における政府の役割を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義の進め方、日常生活と公共部門、講義アンケート -	シラバスの確認
	2	公共経済学とは何か - 市場と政府 (概論) -	ミクロ経済学の復習
	3	市場メカニズムのはなし① - 需要と供給、市場経済の効率性 -	ミクロ経済学の復習
	4	市場メカニズムのはなし② - 市場の失敗と政府の失敗 -	ミクロ経済学・マクロ経済学の復習
	5	公共財① - 公共財の概念、「ただ乗り」の問題、「ただ乗り」問題の対策 -	参考文献の精読
	6	公共財② - 公共財の最適供給、地方公共財 -	参考文献の精読
	7	選挙と投票行動① - 中位投票者定理、投票のパラドックス -	参考文献の精読
	8	選挙と投票行動② - 有権者の政治行動 -	参考文献の精読
	9	政党と政策・官僚行動 - 政党の政権獲得行動、官僚の予算獲得最大化行動 -	参考文献の精読
	10	政府による規制 - 参入規制とレント、価格規制がもたらす弊害 -	参考文献の精読
	11	外部性 - 外部性とは何か、外部経済と外部不経済、コースの定理 -	参考文献の精読
	12	公共政策の評価 - 政策評価の必要性、政策評価手法の紹介 -	自治体のホームページの閲覧
	13	わが国における公共部門の諸課題① - 課税、年金、財政赤字等 -	日本経済に関する文献の精読
	14	わが国における公共部門の諸課題② - 地方公共団体の課題～沖縄県のケース～	沖縄経済に関する文献の精読
15	本講義の総括、課題レポート説明	講義時配布資料の確認	
16	課題レポート		
テキスト・参考文献・資料など 適宜レジュメ (パワーポイント資料) を配布する。 井堀利宏 (2000) 『基礎コース公共経済学』新世社 上村敏之 (2011) 『公共経済学入門』新世社			
学びの手立て 公共経済学・財政学・経済政策に関する文献に目を通しておくこと。			
評価 課題レポート (50%)、小テスト・各回の課題 (50%) で評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 財政学、地方財政論
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済論Ⅰ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鹿毛 理恵	3年	授業後に受け付けます	

学びの準備	ねらい 国際貿易に関する理論と政策を中心に学ぶ。国際貿易の発生要因とメカニズム、貿易の効果、関税などの貿易政策が国内外の経済にもたらす影響について分析できる力を身につける。	メッセージ ポイントをおさえながら、わかりやすい授業を心がけます。
	到達目標 国際貿易の理論と政策について理解する。国際的な商品・サービスの流れ、労働移動について国際経済の現象を理解し、論理的に考察する力を獲得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンスと世界貿易の概観	シラバスを読む
	2	(特) 需要と供給の貿易理論	Chapter 2の復習
	3	(特) なぜ貿易を行うのか：比較優位説	Chapter 3の復習
	4	(特) 貿易：要素の利用可能性と要素比率	Chapter 4の復習
	5	(特) 貿易の便益と損失	Chapter 5の復習
	6	(特) 規模の経済と不完全競争の貿易	Chapter 6の復習
	7	(特) 成長と貿易	Chapter 7の復習
	8	(特) 関税	Chapter 8の復習
	9	(特) 非関税障壁と輸入	Chapter 9の復習
	10	(特) 保護政策に対する賛否の議論	Chapter 10の復習
	11	(特) 輸出促進策：ダンピングと補助金	Chapter 11の復習
	12	(特) 貿易ブロックと貿易同盟	Chapter 12の復習
	13	(特) 貿易と環境	Chapter 13の復習
	14	(特) 発展途上国と移行経済圏の貿易政策	Chapter 14の復習
15	(特) 多国籍企業と労働移動：国際的な要素移動	Chapter 15の復習	
16	(特) 期末課題	テスト範囲の復習	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：適宜、資料を配布する（授業の流れと内容は参考文献①にそって進める） 参考文献：①Pugel, T.A. (2018) International Economics, 17th edition, McGraw Hill ②石川城太・棕寛・菊池徹『国際経済学をつかむ（第2版）』有斐閣 ③大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』新生社 ④大川良文『入門国際経済学』中央経済社 ⑤クルーグマンPRほか『国際経済学 理論と政策（上・下）』丸善出版		
	学びの手立て 予習と復習をしてください。		
	評価 平常点20%、中間テスト/課題50%、期末テスト30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 国際経済論Ⅱ、アジア経済論Ⅰ・Ⅱ
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済論Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鹿毛 理恵	3年	授業後に受け付けます	

学びの準備	ねらい 国際金融の理論的枠組みと政策について学ぶ。国際収支、為替相場、資本取引、経済危機の背景などを理論的に理解できる力を養成する。国際経済が直面する課題について理解を深める。	メッセージ わかりやすい授業を心がけます。一緒に国際経済について学びましょう。
	到達目標 国際金融に関する基本的・専門的知識を身につける。政策的背景について理解する。国際的な資本取引、経済危機の背景、開放経済下の金融政策や財政政策について理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス	シラバスを読む
	2	(特) 国家間の取引：国際収支	Chapter 16の復習
	3	(特) 外国為替市場	Chapter 17の復習
	4	(特) 先物為替と国際金融投資	Chapter 18の復習
	5	(特) 外国為替レートの決定要因	Chapter 19の復習
	6	(特) 外国為替市場介入① 政策の特徴	Chapter 20の復習
	7	(特) 外国為替市場介入② 政策の変遷	Chapter 20の復習
	8	(特) 国際金融と通貨危機の変遷	Chapter 21の復習
	9	(特) 国際金融と通貨危機の課題	Chapter 21の復習
	10	(特) 開放下のマクロ経済分析	Chapter 22の復習
	11	(特) 固定相場制：国内均衡と対外均衡① 金融政策と財政政策	Chapter 23の復習
	12	(特) 固定相場制：国内均衡と対外均衡② 経済への影響と対策	Chapter 23の復習
	13	(特) 変動相場制と国内均衡	Chapter 24の復習
	14	(特) 変動相場制とその代替策の選択の課題と事例① 影響と対策	Chapter 25の復習
15	(特) 変動相場制とその代替策の選択の課題と事例② ディスカッション	Chapter 25の復習	
16	期末テストまたは期末課題	テスト範囲の復習	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：適宜、資料を配布する（授業の流れと内容は参考文献①にそって進める） 参考文献：①Pugel, T.A. (2018) International Economics, 17th edition, McGraw Hill ②石川城太・棕寛・菊池徹『国際経済学をつかむ（第2版）』有斐閣 ③大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』新生社 ④大川良文『入門国際経済学』中央経済社 ⑤クルーグマンPRほか『国際経済学 理論と政策（上・下）』丸善出版		
	学びの手立て 予習と復習を心がけてください。		
	評価 平常点20%、中間テスト/課題40%、期末テスト/課題40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業組織論 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	3年	kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> 企業行動と産業構造の関係を考察できるようになる。 企業の競争戦略をゲーム理論を使って考察できるようになる。 県内企業の様々な戦略を考える機会を提供する。 	<p>就職活動をする上で、企業行動と産業の関係の理解は不可欠です。将来、どのような企業に就職したらいいのかを考える機会を提供できればと思います。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①ゲーム理論の基礎的な考え方を習得している。 ②業界によって異なる企業の行動・戦略を理解できるようになる。 ③沖縄の企業と産業についての基礎知識を習得し、就活に役立てることができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（講義内容、評価方法、注意事項の説明）	シラバスの確認
	2	市場構造とSCPパラダイム	講義中に紹介する参考文献・資料等
	3	SCPパラダイムと5フォース	同上
	4	ゲーム理論とは何か？	同上
	5	ゲーム理論の基礎	同上
	6	実験ナッシュ均衡	同上
	7	ゲーム理論を使った企業・産業分析①	同上
8	ゲーム理論を使った企業・産業分析②	同上	
9	ゲーム理論を使った企業・産業分析③	同上	
10	小売業界の分析（サンエーの経済学）	同上	
11	コンビニ業界の立地戦略①	同上	
12	コンビニ業界の立地戦略②	同上	
13	参入阻止ゲーム①	同上	
14	参入阻止ゲーム②	同上	
15	総括	同上	
16	試験またはレポート	同上	
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> テキスト：特に使用しません。説明資料を配布します。 参考文献：講義中に適宜、参考文献を紹介します。 		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 講義の理解を促進するため、企業関係者を適宜招聘し意見交換会を行います。 講義内容は皆さんの理解度、関心に合わせて一部変更する場合があります。 理解を深めるため、毎日新聞を読んで知見を広げ、考える習慣を身につけてください。 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> 評価はレポート課題の提出および内容で評価する。 		

学びの継続	次のステージ・関連科目 企業と産業の経済学 II
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業組織論Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	3年	kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> 企業行動と産業構造の関係を考察できるようになる。 企業の競争戦略を理論的に考察できるようになる。 県内企業の様々な戦略を考える機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職活動をする上で、企業行動と産業の理解は不可欠です。将来、どのような企業に就職したらいいのかを考える機会を提供できればと思います この授業はミクロ経済学の基礎知識がなくても理解できるよう解説します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①企業と産業の経済学の基礎を習得している。 ②業界によって異なる企業の行動・戦略を理解できるようになる。 ③沖縄の企業と産業についての基礎知識を習得し、就活に役立てることができる 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス (講義内容、評価方法、注意事項の説明)	シラバスの確認
	2	(特) 完全競争市場における企業行動	講義中に紹介する参考文献・資料等
	3	(特) 独占市場における企業行動	同上
	4	(特) 独占的競争市場における企業行動	同上
	5	(特) カルテルと談合	同上
	6	(特) トリガー戦略とシブベ返し戦略	同上
	7	(特) プライスリーダーシップ・モデル①	同上
8	(特) プライスリーダーシップ・モデル②	同上	
9	(特) コンテストブル市場理論と参入阻止価格①	同上	
10	(特) コンテストブル市場理論と参入阻止価格②	同上	
11	(特) ベルトラン競争における企業行動①	同上	
12	(特) ベルトラン競争における企業行動②	同上	
13	(特) クールノー競争における企業行動①	同上	
14	(特) クールノー競争における企業行動②	同上	
15	(特) 総括	同上	
16	試験またはレポート	同上	
実践	テキスト・参考文献・資料など <ul style="list-style-type: none"> テキスト：特に使用しません。説明資料を配布します。 参考文献：講義中に適宜、参考文献を紹介します。 		
	学びの手立て <ul style="list-style-type: none"> 講義の理解を促進するため、可能であれば企業関係者を適宜招聘し意見交換会を行います。 講義内容は皆さんの理解度、関心に合わせて一部変更する場合があります。 理解を深めるため、毎日新聞を読んで知見を広げ、考える習慣を身につけてください。 		
	評価 <ul style="list-style-type: none"> 評価は平常点 (30%)、授業内での課題提出 (30%)、試験またはレポート (40%) とします。 		

学びの継続	次のステージ・関連科目 中小企業論ⅠⅡ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	財政学 I	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	高 哲央	3 年	Email : a.koh@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>人口減少、少子高齢化、グローバル化、公債残高の累増などといった日本の経済社会を取り巻く環境の変化に対応するために、財政制度の抜本的な改革が喫緊の課題となっています。本講義では、受講者が日本の経済社会、財政の置かれた状況を踏まえ、日本の財政制度のあるべき姿を判断する力を身につけることをねらいとしています。</p>	<p>財政学の基礎理論は、日本の財政問題発生メカニズムと解決の糸口を見出すためにも不可欠なものです。財政理論をスムーズに理解するためにも、マクロ経済学とミクロ経済学の基礎理論を復習しておくことをおすすめします。</p>
到達目標	<p>1. 財政に関する理論・制度・実情の基礎知識を修得すること。 2. 日本の財政に諸問題の背後にあるメカニズムを理解し、どこに問題があるのかについて把握できるようになること。 3. 日本の財政制度のあるべき姿について論じることができるようになること。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション (講義概要、講義の進め方、評価方法等)	シラバスをよく読む
	2	(特) 国民経済の循環と市場の失敗	テキストの目次を読む
	3	(特) 財政の機能	テキスト1～12ページを読む
	4	(特) 予算の機能と予算原則	テキスト37～45ページを読む
	5	(特) 日本の予算制度	テキスト46～52ページを読む
	6	(特) 国家財政の実情	テキスト53～66ページを読む
	7	(特) 財政赤字と財政再建	テキスト67～72ページを読む
8	(特) 租税の機能と租税原則	テキスト73～77ページを読む	
9	(特) 課税の公平性	テキスト77～81ページを読む	
10	(特) 課税の経済効率	テキスト82～89ページを読む	
11	(特) 日本の租税構造	テキスト62～65ページを読む	
12	(特) 個人所得税の仕組み (1) 課税の種類と税率	テキスト91～98ページを読む	
13	(特) 個人所得税の仕組み (2) 所得控除と税額控除	テキスト99～101ページを読む	
14	(特) 個人所得税に関わる議論	テキスト102～104頁を読む	
15	(特) 全体のまとめ	第1～5章までの章末問題を解く	
16	(特) 期末試験	これまでの復習をする	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：池宮城秀正編『財政学』ミネルヴァ書房、2019年。 参考文献：小宮敦史編『図説日本の財政 (令和元年度版)』財経詳報社、2020年。 植松利夫編『図説日本の税制 (令和元年度版)』財経詳報社、2020年。</p>		
学びの手立て	<p>テキストに沿って講義を進めていくため事前に購入して下さい。 今日的なトピックも取り扱うため日常的に新聞やニュースなどに触れて下さい。 「良い社会とは何か」ということを常に問い続けて下さい。</p>		
評価	<p>毎回の課題 (30%)、期末レポート (70%) の合計によって評価します。 ※ 課題の提出が3分の2に満たない受講生には単位を認定しません。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 財政学Ⅱ、地方財政論、公共経済学、経済政策総論、社会保障論</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	財政学Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	高 哲央	3年	Email : a.koh@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人口減少、少子高齢化、グローバル化、公債残高の累増などといった日本の経済社会を取り巻く環境の変化に対応するために、財政制度の抜本的な改革が喫緊の課題となっています。本講義では、受講者が日本の経済社会、財政の置かれた状況を踏まえ、日本の財政制度のあるべき姿を判断する力を身につけることをねらいとしています。	財政学の基礎理論は、日本の財政問題発生メカニズムと解決の糸口を見出すためにも不可欠なものです。財政理論をスムーズに理解するためにも、マクロ経済学とミクロ経済学の基礎理論を復習しておくことをおすすめします。
到達目標	1. 財政に関する理論・制度・実情の基礎知識を修得すること。 2. 日本の財政に諸問題の背後にあるメカニズムを理解し、どこに問題があるのかについて把握できるようになること。 3. 日本の財政制度のあるべき姿について論じることができるようになること。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション (講義概要、講義の進め方、評価方法等)	シラバスをよく読む
	2	(特) 法人所得税の仕組み	テキスト104～111頁を読む
	3	(特) 法人所得税に関わる議論	テキスト112～118頁を読む
	4	(特) 消費税の仕組み	テキスト121～129頁を読む
	5	(特) 消費税に関わる議論	テキスト130～141頁を読む
	6	(特) 公債の仕組み	テキスト143～146頁を読む
	7	(特) 公債残高の累増に関わる議論	テキスト147～155頁を読む
8	(特) 超高齢社会と社会保障	テキスト157～164頁を読む	
9	(特) 公的年金制度	テキスト165～168頁を読む	
10	(特) 医療保険制度	テキスト169～173頁を読む	
11	(特) 景気変動と財政政策	テキスト175～187頁を読む	
12	(特) 財政政策の有効性に関する議論	テキスト187～195頁を読む	
13	(特) 国と地方の財政関係	テキスト213～219頁を読む	
14	(特) 内閣府沖縄担当部局予算	内閣府沖縄担当部局予算を調べる	
15	(特) 全体のまとめ	第6～12章の章末問題を解く	
16	(特) 定期試験	これまでの復習をする	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：池宮城秀正編『財政学』ミネルヴァ書房、2019年。 参考文献：小宮敦史編『図説日本の財政（令和元年度版）』財経詳報社、2020年。 植松利夫編『図説日本の税制（令和元年度版）』財経詳報社、2020年。		
学びの手立て	テキストに沿って講義を進めていくため事前に購入して下さい。 今日のトピックも取り扱うため日常的に新聞やニュースなどに触れて下さい。 「良い社会とは何か」ということを常に問い続けて下さい。		
評価	毎回の課題（30%）、期末レポート（70%）の合計によって評価します。 ※ 課題の提出が3分の2に満たない受講生には単位を認定しません。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 財政学Ⅰ、地方財政論、公共経済学、経済政策総論、社会保障論
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会思想史	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	1年	メールで受け付けます	

学びの準備	ねらい 社会を見る目を養うための知識として時代ごとの西洋の思想を理解することをねらいとする。	メッセージ ・オンライン（またはオンデマンド）での講義と知識の定着のための予習・事後課題を組み合わせた授業形式です。 ・基本的にオンライン講義への参加を必須とします。 ・初回のオリエンテーションには必ず出席すること。
	到達目標 西洋の思想について、時代を区切りそこで展開した思想の内容と意味・意義を理解することで、社会や人間の思考やそれに基づく活動について理解し、考察できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特)オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について	事前にシラバスを読むこと
	2	(特)イントロダクション1：西洋の歴史を振り返る	予習：予習課題 復習：事後課題
	3	(特)イントロダクション2：西洋社会の思想史概略	予習：予習課題：事後課題
	4	(特)近代と現代の意味	予習：1章を読む 復習：事後課題
	5	(特)中世の思想	予習：2章を読む 復習：事後課題
	6	(特)マキアヴェリの思想	予習：3章を読む 復習：事後課題
	7	(特)近代の亀裂1～スピノザ	予習：4章を読む 復習：事後課題
	8	(特)近代の亀裂2～デカルト	予習：予習課題 復習：事後課題
9	(特)民主政治の罨1～モンテスキューとルソー	予習：5章を読む 復習：事後課題	
10	(特)民主政治の罨2～アダム・スミス	予習：予習課題 復習：事後課題	
11	(特)19世紀の思想1～マルクス	予習：6章を読む 復習：事後課題	
12	(特)19世紀の思想2～ニーチェ	予習：予習課題 復習：事後課題	
13	(特)ヴェーバーと近代への憂慮	予習：予習課題 復習：事後課題	
14	(特)現代思想の諸問題～近代の危機から新しい潮流へ	予習：7章を読む 復習：事後課題	
15	総括（形式未定）	全講義の復習	
16	予備日	予備日	
実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携）：的場昭弘『近代と反近代との相克—社会思想史入門』お茶の水書房，2006年。		
	学びの手立て ・初回のオリエンテーションでは重要な情報提供を多数行うため、必ず出席すること。 ・予習課題および事後課題はgoogleフォームを使ったオンライン形式で行う。 ・他の受講生の妨げになるような行為は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
	評価 期末試験（またはレポート）：40%，予習課題：30%，事後課題：30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済学史ⅠおよびⅡ，西洋経済史ⅠおよびⅡ
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会保障論	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	高 哲央	2年	Email : a.koh@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 近年、人口減少、少子高齢化、グローバル化、公債残高の累増などといった日本の経済社会を取り巻く環境の変化に対応するために、社会保障制度の改革が頻繁に行われています。本講義では、こうした社会保障制度のあるべき姿を、受講者一人一人が考察できる力を養うことを狙いとしています。	メッセージ 社会保障は我々の日常生活にとってとても大切なものです。制度設計の背景にある考え方や、具体的な仕組みのみならず、国の経済や財政、社会全体との関わりや影響についても取り扱いますので、日常的に新聞などを通じて社会問題に関心を払って下さい。
	到達目標 1. 社会保障の概念や役割について理解することができる。 2. 日本の社会保障制度の仕組みについて理解することができる。 3. 日本社会が直面している課題とその解決に向けての道筋を考察することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション (講義概要、講義の進め方、評価方法等)	シラバスをよく読む
	2	(特) 社会保障の変遷	資料の復習、参考文献での自主学習
	3	(特) 社会保障の機能	資料の復習、参考文献での自主学習
	4	(特) 日本の公的年金の仕組み	資料の復習、参考文献での自主学習
	5	(特) 日本の公的年金制度の課題	資料の復習、参考文献での自主学習
	6	(特) 日本の公的医療保険の仕組み	資料の復習、参考文献での自主学習
	7	(特) 日本の公的医療保険制度の課題	資料の復習、参考文献での自主学習
	8	(特) 日本の公的介護保険の仕組み	資料の復習、参考文献での自主学習
	9	(特) 日本の公的介護保険制度の課題	資料の復習、参考文献での自主学習
	10	(特) 日本の生活保護の仕組みと課題	資料の復習、参考文献での自主学習
	11	(特) 日本の子育て支援の仕組みと課題	資料の復習、参考文献での自主学習
	12	(特) 日本の社会福祉サービスの仕組みと課題	資料の復習、参考文献での自主学習
	13	(特) 日本の教育問題と社会保障	資料の復習、参考文献での自主学習
	14	(特) 日本の住宅問題と社会保障	資料の復習、参考文献での自主学習
	15	(特) 全体のまとめ	資料の復習、参考文献での自主学習
	16	(特) 定期試験	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：毎回、資料を配布します。 参考文献：香取照幸『教養としての社会保障』東洋経済新報社、2017年。 小塩隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論社、2013年。 小塩隆士『18歳からの社会保障読本：不安のなかの幸せをさがして』ミネルヴァ書房、2015年。		
	学びの手立て 今日的なトピックも取り扱うため日常的に新聞やニュースなどに触れて下さい。 「良い社会とは何か」ということを常に問い続けて下さい。		
	評価 毎回の課題（30%）、期末レポート（70%）の合計によって評価します。 ※ 課題の提出が3分の2に満たない受講生には単位を認定しません。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 財政学Ⅰ・Ⅱ、地方財政論、公共経済学、経済政策総論
-------	--

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	集落地理論 I	前期	木 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	2 年	sakahama@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい 集落地理論 I では、集落の中でも「村落」の歴史地理に関する講義を行う予定である。とくに絵図資料や地図資料の読解方法、空中写真を用いた景観分析の方法、さらにフィールドワークの方法に重点を置く。また、映像資料、民俗学・地域史などの研究成果を盛り込みながら、沖縄村落の社会構造についてもふれる予定である。	メッセージ 本講義では、主に沖縄の集落について検討するため、沖縄関連の文献を渉猟していることが望ましい。
	到達目標 ・村落の立地・景観と社会構造の特性を関連づける。 ・沖縄村落の地理的・歴史的特性を説明できる。	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	村落地理学の研究史	事前に配ったプリントを読むこと
	3	歴史地理学の方法を用いた村落研究	同上
	4	村落と地図①－地形図の基礎－	同上
	5	村落と地図②－地形図の利用方法－	同上
	6	村落と地図③－空中写真の判読方法－	同上
	7	村落と地図④－空中写真活用の事例－	同上
	8	村落と地図⑤－宜野湾市の村落景観（動画）－	同上
	9	村落の景観①－景観概念－	同上
	10	村落の景観②－沖縄の村落－	同上
	11	村落の景観③－景観研究の事例－	同上
	12	村落の景観④－景観調査の方法－	同上
	13	村落の景観⑤－景観調査の実際－渡名喜島の村落景観（動画）－	同上
	14	村落の社会構造①－沖縄村落の歴史地理	同上
	15	村落の社会構造②－村落空間と祭祀構造	同上
	16	まとめ	
	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 ・特に指定はない。毎回、プリントを配布する。 【参考文献】 ・仲松弥秀著『神と村』 梟社 ・田里友哲著『論集 沖縄の集落研究』 離宇宙社		
	学びの手立て ・講義中に提示された課題を整理し、レポートをまとめること。		
	評価 ・講義で提示された課題（レポート）により評価する。		

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 ・「村落」と「都市」との関係性について理解を深め、後期に開設される集落地理論 II に繋げる。 ・現代社会の中で、どのような地域政策が必要かを考える契機になります。
-----------------------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	集落地理論Ⅱ	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-濱里 正史	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>今後の地域と地域住民には自らの力で地域づくりをしていく力を養うことが求められる。そのための基礎は地域を知ることである。本講義では、集落地理のみならず人文・社会科学全般において重要な研究対象の1つである都市について、地理学的視点を重視しつつ身近な地域である「沖縄の集落と都市」を事例に学ぶことで、「地域づくりの力」の涵養に資することを目的とする。</p>	<p>地域づくりの力は、皆さんが社会に出て後、1市民としてあるいは職業人として必ず求められる力です。この力をどれだけ多くの人が習得できるかに、今後の沖縄社会、ひいては日本社会の行く末がかかっているといっても過言ではありません。こうした分野に興味を持ち積極的に参加したいという学生は、学年、学科を問わず、広く受け入れますので、ともに学びましょう。</p>
到達目標	<p>地域づくりの力の基礎は、①その地域が形成された過程とそのことに起因する現在の問題・課題を理解する、②それだけでなく、日々変化する地域の問題・課題についてアンテナを張り情報収集する習慣を身に付ける、の2点が重要である。本講義では、我々にとって最も身近な地域である沖縄本島中南部地域を事例に、その歴史と形成過程、その延長としての現在の問題・課題を学ぶだけでなく、新聞情報を活用して、現在進行形の問題・課題やその解決に向けたまちづくり・地域の取り組みを紹介する。そのことを通して、地域を見る目を養い、問題・課題を発見し、論理的に考え、解決策を立案する能力、いわゆる「地域づくりの力」の習得を目指す。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス及び集落地理・都市地理とは？	シラバスを読む
	2	戦前における沖縄の集落と都市1（自然条件から見た沖縄の集落と都市）	第2～10週：下記の通り
	3	戦前における沖縄の集落と都市2（自然条件から見た沖縄の集落と都市）	予習：配布資料を事前に読み込む
	4	沖縄本島中南部地域における戦後の都市形成1（基地と都市）	復習：紹介図書群を用いた発展学習
	5	沖縄本島中南部地域における戦後の都市形成2（沖縄コナベーション）	予習：配布資料を事前に読み込む
	6	戦後の都市形成過程から生じる沖縄本島中南部地域の問題・課題の整理	復習：紹介図書群を用いた発展学習
	7	戦後那覇市の都市形成と構造1（問題と課題）	予習：配布資料を事前に読み込む
	8	戦後那覇市の都市形成と構造2（問題・課題の解決に向けて）	復習：紹介図書群を用いた発展学習
	9	北谷町のまちづくり	予習：配布資料を事前に読み込む
	10	読谷村のむらづくり	復習：紹介図書群を用いた発展学習
	11	まちづくりと地域振興の先進事例1（県内外）	第11～13週：下記の通り
	12	まちづくりと地域振興の先進事例2（県内外）	最新情報を用いるため復習中心
	13	沖縄におけるまちづくりと地域振興の展望	復習：自ら新聞等で先進事例を探す
14	都市国家・国際都市・海洋都市（シンガポール・香港・韓国済州島）	予習：配布資料を事前に読み込む	
15	国際都市としての沖縄の未来	復習：紹介図書群を用いた発展学習	
16			

テキスト・参考文献・資料など
 授業は配布資料を基に行う。

学びの手立て
 <履修の心構え等>：前期、「集落地理論Ⅰ」を履修していることが望ましい。私語や携帯電話・スマホなど他人の迷惑、授業の妨害になるような行為は禁止（場合によっては退室、受講停止を命じる）。
 <学びを深めるために>
 「地域づくりの力」は短期間で涵養できるものではない。①本講義で紹介する発展学習のための参考図書での学習、②新聞やインターネットなどによる最新情報キャッチの日常習慣化、③実際の地域観察、④様々な人に地域の話聞き・意見交換する習慣の獲得などについて、本講義をキッカケに、講義期間中から可能な範囲で実践・継続することが学びを深める。

評価
 <評価方法・割合>：平常点30点満点（2点×15回）及びレポート70点満点。
 <評価基準>：平常点は、単純に出席したか否かではなく、授業内容のまとめやコメント・感想・意見・質問を書く形式。内容によって評価する（0～2点）。名前・学籍番号のみで授業内容のまとめやコメント・感想・意見・質問がないものは0点とするので注意すること。レポートは、①情報収集、②情報の整理、③収集した情報に基づく分析、④自分なりの意見・見解の有無、⑤プレゼン資料としての説得力などの点について評価する。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 <次のステージ>「地域づくりの力」には広範な知識、現場に関する見聞・経験が求められる。したがって、①本講義で紹介する発展学習のための参考図書での学習、②新聞やインターネットなどによる最新情報キャッチの日常習慣化、③関連する科目の受講、④実際の地域観察、⑤様々な人に地域の話聞き・意見交換する習慣の獲得などについて、可能な範囲で実践・継続することを望む。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	証券市場論 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	3年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	株式に投資した場合の評価方法を学びます。株値は刻々と変化し上がったり下がったりします。この株値変動は儲けをもたらす反面、損失がいくらになるかわからない不安も与えます。金融投資では投資のリターン・リスクを理解し、数値計算します。投資信託やポートフォリオの概念、分散投資の意味を理解しましょう。	将来銀行員を目指している人にぜひ勉強してほしい科目です。FPの勉強で「金融資産運用」に興味をもった人にもおすすめです。前期科目「金融投資Ⅰ」の単位を取得していることが、後期科目「金融投資Ⅱ」を登録する上での条件です。授業に毎回電卓を持参すること。【実務経験】銀行の窓口業務の経験を活かし、資産運用について解説する。
到達目標	金融投資・資産運用の知識を習得する。 データを用いて金融投資・資産運用の判断を行うことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の概要・計画	概要・計画を理解する。
2	投資（1）将来価値・現在価値	復習。用語・数式を理解する。	
3	投資（2）年金の価値	復習。用語・数式を理解する。	
4	投資（3）NPV、投資判断	復習。用語・数式を理解する。	
5	証券投資（1）株式のリスク・リターン	復習。用語・数式を理解する。	
6	証券投資（2）標準偏差	復習。用語・数式を理解する。	
7	証券投資（3）相関係数	復習。用語・数式を理解する。	
8	証券投資（4）分散投資	復習。用語・数式を理解する。	
9	証券投資（5）分散投資	復習。用語・数式を理解する。	
10	証券投資（6）分散投資	復習。用語・数式を理解する。	
11	証券投資（7）分散投資	復習。用語・数式を理解する。	
12	資本市場（1）債券のリスク・リターン	復習。用語・数式を理解する。	
13	資本市場（2）債券の特徴	復習。用語・数式を理解する。	
14	デリバティブ（1）デリバティブの種類	復習。用語・数式を理解する。	
15	デリバティブ（2）オプション	復習。用語・数式を理解する。	
16	期末テスト	復習。用語・数式を理解する。	
	テキスト・参考文献・資料など	【テキスト】石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社 2005年 【参考文献】富島佑允『投資と金融がわかりたい人のためのファイナンス理論入門』CCCメディアハウス 2018年	
	学びの手立て	授業で学んだ内容を課題レポートで確認します。	
	評価	課題レポート30%、期末テスト70%に基づき評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 金融投資Ⅱ（金融投資Ⅰの単位取得者のみ登録可能）、金融論Ⅰ、金融論Ⅱ 沖縄の経済事情Ⅰ、沖縄の経済事情Ⅱ 証券外務員、証券アナリスト資格
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	証券市場論Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	3年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	株式に投資した場合の評価方法を学びます。株価は刻々と変化し上がったり下がったりします。この株価変動は儲けをもたらす反面、損失がいくらになるかわからない不安も与えます。金融投資では投資のリターン・リスクを理解し、数値計算します。投資信託やポートフォリオの概念、分散投資の意味を理解しましょう。	<登録条件>金融投資Ⅰ（または証券市場論Ⅰ）の単位取得者。（特殊な場合は相談する）授業はPC教室。前半の講義では、投資に関する法令・投資信託等を学び、証券外務員二種の試験対策を行う。後半の講義では、PCを使用して金融投資Ⅰの知識をEXCELで検証したり、実際の株価分析を行う。【実務経験】銀行の窓口業務の経験を活かし、資産運用について解説する。
到達目標	証券外務員二種の試験範囲について、知識・理解力を身につける。証券外務員二種の資格は、銀行に対する就職活動で武器となる。PC上でファイナンス理論を確認し、理解を深める。EXCELで行う詳細なリターン・リスク計算に基づき、金融投資の判断を行うことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 講義の概要・計画	概要・計画を理解する。
	2	(対) 証券外務員（法令1）	復習。精読後問題を解く。
	3	(対) 証券外務員（法令2）	復習。精読後問題を解く。
	4	(対) 証券外務員（株式）	復習。精読後問題を解く。
	5	(対) 証券外務員（債券）	復習。精読後問題を解く。
	6	(対) 証券外務員（投資信託）	復習。精読後問題を解く。
	7	(対) 証券外務員（証券税制）	復習。精読後問題を解く。
8	(対) 中間テスト	復習。精読後問題を解く。	
9	(対) PC演習・データ収集	復習。自分で処理可能にする。	
10	(対) PC演習・理論検証Excel（1）	復習。自分で処理可能にする。	
11	(対) PC演習・理論検証Excel（2）	復習。自分で処理可能にする。	
12	(対) PC演習・株価分析Excel（1）	復習。自分で処理可能にする。	
13	(対) PC演習・株価分析Excel（2）	復習。自分で処理可能にする。	
14	(対) PC演習・株価分析Excel（3）	復習。自分で処理可能にする。	
15	(対) PC演習・株価分析Excel（4）	復習。自分で処理可能にする。	
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社 2005年 証券外務員のテキストは講義内で指示します。</p> <p>【参考文献】富島佑允『投資と金融がわかりたい人のためのファイナンス理論入門』CCCメディアハウス 2018年</p>		
学びの手立て	PC演習では演習課題を授業時間内に提出すること。		
評価	中間テスト60%、PC演習課題状況40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 金融論Ⅰ、金融論Ⅱ 沖縄の経済事情Ⅰ、沖縄の経済事情Ⅱ 証券外務員、証券アナリスト資格
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報システム I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-真栄田 好史	2年	ptt027@okiu.ac.jpまでメールを送って下さい。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	システムには、人手で行う作業（以下アナログ）と、コンピュータを駆使した作業（以下デジタル）がありますが、要は速度と性能の違いだけ。アナログ作業を上手くデジタル化したら、労力を減らすことが出来ます。デジタル化に失敗したら、余計に人手がかかることがあります。また、システム化を考える場合は、必ず基本方針：コンセプトを決めて下さい。	情報システムという名称ですか、特定のコンピュータ言語は使いません。何か自分で作成したいシステムを決め、企画書や計画書の作成を行って貰います（この時、基本方針：コンセプトも決めてもらいます）。
到達目標	レポートやゼミ、卒論などの計画書の作成（+コンセプト決め）、または社会人になった場合の企画書の作成（+コンセプト）が、きちんと作成出来るようになって欲しい。計画表や企画書（基本方針：コンセプトは忘れないように）なしに、次のステップには、進めない。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特)ガイダンス	シラバスを読む
	2	(特)情報とシステム	復習
	3	(特)情報とは：情報の分類	復習
	4	(特)システムへの応用：システムの範囲	復習
	5	(特)システムへの応用：目標と目的	復習
	6	(特)システムへの応用：業務分析とシステム分析	復習
	7	(特)システムへの応用：企画の立案、目標の設定と問題点の分析	復習
	8	(特)システムへの応用：復習	復習
	9	(特)練習問題	復習
	10	(特)システム設計：自分で作成したいモノを決める	タイトルを決める
	11	(特)システム設計：調査・分析	コンセプトを考える
	12	(特)システム設計：調査・分析	コンセプトを考える
	13	(特)システム設計：コンセプト決め	コンセプトを考える
14	(特)システム設計：計画書または企画書のまとめ	計画書または企画書の見直し	
15	(特)システム設計：計画書または企画書のまとめ	計画書または企画書の見直し	
16	(特)期末テスト	復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：毎回自作プリントを配布します。 紙は使用しません。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・受講時間になったら、速やかに、ログインして。名前と、学籍番号を入力して下さい（授業開始15分後まで）。 ・出席入力後、30分以上席を離れた場合、欠席扱いする。 ・授業後半に質問の時間を用意するので、可能な限り、質問して下さい。 ・授業中に、動画の閲覧やゲームを行って居る場合は、減点する。 ・Excel、Word、E-mailは、使用できるようにしておくこと。 ・課題またはレポートの提出はE-mailの添付ファイルで送付して貰う。 		
評価	成績評価の方法は、 <ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート（40%） ・テストまたは最終課題（60%） なお、再試験、追試験は行わない。 レポート類は、減点法で評価を行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・経済情報処理 I、経済情報処理 II 等
-------	--------------------------------------

※ポリシーとの関連性 流れ図を作成することで、全体の流れが、分かり易くなる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報システムⅡ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-真栄田 好史	2年	ptt027@okiu.ac.jpまでメールを送って下さい。	

学びの準備	ねらい プログラム言語に関係なく、処理の方法を書き出し、「開始」～「終了」までの一連の流れを、机上または頭の中で論理的に考えられるようになる。アナログ処理も同じです。論理設計を身につける事で、システム全体が見渡せるようになる。	メッセージ 特別にプログラミング言語を知らなくても、一連の処理を書くことが出来る。 フローチャートで表すことが出来れば、開発言語に関係なく、プログラムなどを書いてもらえる。 作業の分類が、上手になる。 問題は、めんどくさい。
	到達目標 いろいろな処理を、流れ図で表すことで、処理の状態が分かり易くなり論理設計（頭の中で処理を考える）を行うので、物事を深く考え事前ミスが減らすことが出来る。実際のプログラミング言語は知らなくても、全体の流れが分かるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特)ガイダンス	シラバスを読む
	2	(特)コンピュータの歴史：復習	復習
	3	(特)プログラミングの初歩的な概念	復習
	4	(特)アルゴリズムの基礎	復習
	5	(特)流れ図の作成1：フローチャートの前	復習
	6	(特)流れ図の作成2	復習
	7	(特)練習問題	復習
	8	(特)アルゴリズムについて：基本形	復習
9	(特)アルゴリズムについて：基本形2	復習	
10	(特)アルゴリズムについて：分岐	復習	
11	(特)アルゴリズムについて：繰り返し	復習	
12	(特)アナログとデジタルの違い	論理設計の復習	
13	(特)アナログで書かれたプログラム1	論理設計の復習	
14	(特)アナログで書かれたプログラム1	論理設計の復習	
15	(特)アナログで書かれたプログラム1	論理設計の復習	
16	(特)期末テスト	復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：毎回自作プリントを配布します。 紙は使用しません。		
	学びの手立て ・受講時間になったら、速やかに、ログインして。名前と、学籍番号を入力して下さい（授業開始15分後まで）。 ・出席入力後、30分以上席を離れた場合、欠席扱いする。 ・授業後半に質問の時間を用意するので、可能な限り、質問して下さい。 ・授業中に、動画の閲覧やゲームを行って居る場合は、減点する。 ・Excel、E-mailは、使用できるようにしておくこと。 ・課題またはレポートの提出はE-mailの添付ファイルで送付して貰う。		
	評価 成績評価の方法は、出席状況および試験（若しくは提出されたレポート）によっての内容を総合して判断する。 ・課題レポート（40%） ・テストまたは最終課題（60%） なお、再試験、追試験は行わない。 レポート類は、減点法で評価を行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・経済情報処理Ⅰ、経済情報処理Ⅱ等
-------	----------------------------------

※ポリシーとの関連性

自らが情報化社会をより深く理解し、主体性と協調性をもって課題を発見し、広い専門的知識を備える。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報処理概論	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大城 絢子	1年	a.ohshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 情報化社会にて必要とされる高い情報リテラシー力を身につけるためにITパスポート試験の内容を中心に学び、情報処理技術の基礎知識の習得を狙いとします。	メッセージ 板書・ITパスポート試験の過去問題を中心に学びます。
	到達目標 情報処理技術の基礎・プログラミング概念の習得	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 導入：情報とは・コンピュータの歴史	課題の作成
	2	(特) ハードウェア	課題の作成
	3	(特) ハードウェア	課題の作成
	4	(特) ハードウェア	課題の作成
	5	(特) ソフトウェアとマルチメディア	課題の作成
	6	(特) ソフトウェアとマルチメディア	課題の作成
	7	(特) ソフトウェアとマルチメディア	課題の作成
	8	(特) 第1回-第7回のふりかえり	課題の作成
	9	(特) ネットワーク	課題の作成
	10	(特) ネットワーク	課題の作成
	11	(特) セキュリティ	課題の作成
	12	(特) データベース	課題の作成
	13	(特) データベース	課題の作成
	14	(特) アルゴリズムとデータ構造	課題の作成
15	(特) アルゴリズムとデータ構造	課題の作成	
16	(特) 総括・期末レポートの説明	課題の作成	
テキスト・参考文献・資料など 参考文献 ・ 栢木厚 「栢木先生のITパスポート教室」 技術評論社 資料 ・ 板書したノートはテキスト代わりになります。テキストは特に指定せず必要に応じて講義時に資料を配布します。			
学びの手立て 板書を自分なりに解釈しノートにまとめることで理解を深めます。各分野毎にITパスポート試験の過去問題を解説します			
評価 毎回の課題提出(64%)+最終レポート(36%)			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目: 情報リテラシー演習・情報科学・情報と社会・コンピュータ概論
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報と社会	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	2年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人間は情報に対してどのように関わり、歩んできたのだろうか。現代社会の中で、情報の役割と情報技術がもたらす影響、インパクト、それに伴う人間社会の変容、さらに光と影を多面的に検討することをねらいとする。	情報化時代にどのような取り組みやどのような経済効果が期待されているかなどを体系的に学びます。
到達目標	1. ICTが及ぼす消費生活、経済、産業、政治、文化、教育などへの影響について説明することができる。 2. 今後ますます進歩し続ける情報技術とその社会に対して自分の意見を述べる事が出来る。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（授業内容確認）事前テスト（確認試験）	シラバスの確認
	2	情報に関し、収集、分析、判断、評価の定義	社会と情報との関わりを事前学習
	3	情報とメディアリテラシーの関係を見出す	社会と情報との関わりを事前学習
	4	人・社会・技術（人間と情報とのかかわりを探り、ICT社会の未来を見つめる）	社会と情報との関わりを事前学習
	5	ユビキタス情報社会（身のまわりにある情報化（IT化）を認識）	ユビキタスに関する事前学習
	6	情報化と消費者心理（行動心理学的な観点から情報化社会が生み出した行動変容を探る）	行動変容に関する事前学習
	7	情報経済の構造（ICTの社会的影響と情報経済を変化とその問題点を理解する）	情報と経済に関する事前学習
	8	情報経済の構造（ICTの社会的影響と情報経済を変化とその問題点を理解する）	情報と経済に関する事前学習
	9	情報の保管・運営（日本における、コンテンツの利用法とアーカイブの役割を理解する）	データベースとアーカイブ事前学習
	10	情報の保管・運営（日本における、コンテンツの利用法とアーカイブの役割を理解する）	データベースとアーカイブ事前学習
	11	情報化社会における創造性（学校教育の役割と人材育成について理解を深める）	学校における情報化社会を事前学習
	12	情報化社会における創造性（学校教育の役割と人材育成について理解を深める）	学校における情報化社会を事前学習
	13	情報化社会における創造性（学校教育の役割と人材育成について理解を深める）	通信と放送の融合について事前学習
14	通信と放送の融合（コンテンツ作成技法と放送との融合メリットを探る）	情報社会の未来について事前学習	
15	情報社会の未来（理想的なICT利用と新しいコミュニケーションの形を考える）	最終試験に向けて振り返り	
16	最終試験	習得した知識を生活で活かす	
テキスト・参考文献・資料など	特にテキストの指定はしない、適宜レジュメを配布する。 インストラクショナルデザインの原理（鈴木克明監訳：北大路書房）、情報技術と社会（大岩元、辰巳文雄：放送大学教育振興会）、各種統計（総務省Webサイト参照）		
学びの手立て	情報化時代において様々なメリットやデメリットが生じていて、その光と影が我々の生活や経済の中で影響を与えているかをテレビや新聞などのメディアに関心をもつこと。		
評価	中間テスト50%、課題を評価する。 事前テストは評価の含まない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	沖縄においても日本においても、世界においても情報化の波は衰えることはなく、その情報化がどう経済に影響を与えているか、専門科目の基礎知識となる。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報文化論 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	1年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	近年、情報文化という言葉が頻りに耳にするが、この言葉によって何を意図しようとするのかは、明確ではない。これは情報文化という概念がまだ定着しておらず、いろいろな意味合いで使用されているからである。そこで本授業では、情報文化の歴史を通して使用例、定義例を紹介し、それらと現在の情報環境を学で自分自身の定義を組み立てることをねらいとする。	メディアの歴史をとおして、どのように生まれ、どのように影響を与え、変遷してきたかを学ぶ科目である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報文化に関し自分の言葉で定義することができる 2. 情報リテラシー能力 (収集、分析、発信、著作など) を身につけることができる 3. 社会において情報文化がもたらす光と影を説明することができる 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業内容の確認と事前テスト (情報、メディアに関するテスト)	シラバス確認 (授業内容の確認)
	2	情報文化に関する世界各国の定義	世界の常識と日本の常識事前学習
	3	情報とメディアリテラシー	メディアリテラシーについて事前学習
	4	情報を運ぶ媒体の歴史	メディアの歴史について事前学習
	5	カルチャラル・スタディーズ	メディアの歴史について事前学習
	6	情報伝達の基本的理論と概念	メディアの歴史について事前学習
	7	メディアの時代 (新聞・印刷技術の発展)	前半の授業の振り返り
8	中間試験 (習得度確認)	プロパガンダについて事前学習	
9	メディアの知 (プロパガンダ)	電話・電信の歴史について事前学習	
10	電話・電信の歴史と利用法	マス・メディアについて事前学習	
11	マス・メディアとしてのラジオ	テレビの波及効果・経済効果	
12	テレビの変遷 (テレビの波及効果)	メディアがもたらす家族の変容	
13	情報メディアがもたらす家族の変化	特別講師について事前学習	
14	特別講義 (メディア企業関連)	授業後半の振り返り	
15	授業振り返り	授業後半の振り返り	
16	最終試験	習得した知識を生活で活かす	
実践	テキスト・参考文献・資料など レジメや資料を配布する 1. 総務省白書、2. 情報文化関連参考文献、3. 情報検定		
	学びの手立て メディアの誕生と発展・発達に関心を持ち、メディアの重要性を理解する。		
	評価 提出課題を評価する。 事前テストは評価の含まない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 情報文化論Iでは、メディアの歴史と変遷を学ぶと同時に、我々の生活の中での諸問題とどう向き合っているか問う情報文化論IIへ繋げていく。
-------	---

科目基本情報	科目名 情報文化論Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 木4	単位 2
	担当者 浦本 寛史	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 情報文化論IIでは、コロナ感染拡大のためメディアの歴史を学ぶことが出来ず、課題中心の授業となった。そこで情報文化論Iで習得しなければならない歴史、変遷などをリモートで講義する。そのため各自でリモートツールであるTeamsかZoomの環境を整えて下さい。コードなどはポータルでお知らせします。	メッセージ 情報に関わる方々にも講義を行ってもらい、情報が我々の生活の中でどのように文化として定着していくかなどを学ぶ。
-------	--	---

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報文化に関し自分の言葉で定義することができる 2. 情報リテラシー能力 (収集、分析、発信、著作など) を身につけることができる 3. 社会において情報文化がもたらす光と影を説明することができる
------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	遠隔事業の確認やシラバスの確認
	2	情報文化に関する世界各国の定義
	3	情報とメディアリテラシー
	4	情報を運ぶ媒体の歴史
	5	カルチャラル・スタディーズ
	6	情報伝達の基本的理論と概念
	7	メディアの時代(新聞・印刷技術の発展)
	8	中間試験 (習得度確認)
	9	メディアの知 (プロパガンダ)
	10	電話・電信の歴史と利用法
	11	マス・メディアとしてのラジオ
	12	テレビの変遷 (テレビの波及効果)
	13	情報メディアがもたらす家族の変化
	14	特別講義 (メディア企業関連)
	15	授業振り返り
16	最終試験	
		時間外学習の内容
		シラバスの確認
		世界の常識と日本の常識事前学習
		メディアリテラシーについて事前学習
		メディアの歴史について事前学習
		メディアの歴史について事前学習
		メディアの歴史について事前学習
		前半の授業の振り返り
		プロパガンダについて事前学習
		電話・電信の歴史について事前学習
		マス・メディアについて事前学習
		テレビの波及効果・経済効果
		ディアがもたらす家族の変容
		特別講師について事前学習
		沖縄の諸問題から課題を選択する
		授業後半の振り返り
		習得した知識を生活で活かす

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など レジメや資料を配布する。 1. 総務省白書、2. 情報文化関連参考文献、3. 情報検定、4. DVD、ビデオ教材
-------	---

学びの手立て	情報に関わる方を招いて、情報に関する事を多角的な視点から考えることができる。
--------	--

評価	到達目標は、中間テストと期末テスト理解度と文章表現力で評価することができる (80%)。平常点にて授業への参加、積極性を質疑応答などで評価することができる (20%)。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目をとおして、情報化時代の新たな可能性を探り、経済と結びつけ、情報化時代の巨大市場を専門的な角度から取り組み、専門演習などに繋げる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲本 功	1年	oei-1@okinawa-bank.co.jp 講義後教室でも適宜受付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	今後の大学生活や社会生活において必要とされる、情報機器の基礎的な操作技能の修得を目指します。具体的には、基礎的なコンピュータの操作方法やインターネット・メールの使い方等をはじめ、ワードやエクセル、パワーポイントの基本的な操作方法について説明します。	基礎的なパソコン操作を学びます。操作スキルに個人差があると思いますが、予習、復習を大事に、教え合ってください。分からないことがあった場合は適宜質問してください。
到達目標	①パソコンの基本的な操作方法を習得する。 ②Word、Excel、PowerPointの基本的な操作方法を身につける。 ③各機能を用いて、文書作成、表計算、プレゼンテーション等ができる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスの確認
	2	基本的な操作方法と日本語入力の練習	パソコン操作に慣れる
	3	インターネットの活用方法と電子メールの利用方法	メール作成例の予習、復習
	4	ワードの操作方法（1）	基本的な文書作成の予習、復習
	5	ワードの操作方法（2）	基本的な文書作成の予習、復習
	6	ワードの操作方法（3）	各機能の予習、復習
	7	ワードの操作方法（4）	各機能の予習、復習
	8	エクセルの操作方法（1）	基本的な表計算の予習、復習
9	エクセルの操作方法（2）	基本的な図表作成の予習、復習	
10	エクセルの操作方法（3）	基本的な図表作成の予習、復習	
11	エクセルの操作方法（4）	各機能の予習、復習	
12	エクセルの操作方法（5）	各機能の予習、復習	
13	パワーポイントの操作方法（1）	活用例の予習、復習	
14	パワーポイントの操作方法（2）	プレゼンテーションの準備	
15	パワーポイントの操作方法（3）	プレゼンテーションの準備	
16	最終課題（プレゼンテーションを予定）	プレゼンテーションの準備	
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストなし。毎回資料を配付します。	
学びの手立て	毎回、出欠確認を行います。 自主的にパソコン等で情報収集し、実際のビジネスメールや論文、統計データ、白書、プレゼン資料などに触れる機会を持ちましょう。		
評価	平常点・講義態度：30%、課題提出・内容：70% ※3分の1以上の欠席は不可となります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	今後の大学生活や社会生活において広く必要とされる技能です。 受講終了後も自主学習し、スキルアップを目指しましょう。 関連科目：経済情報処理Ⅰ、Ⅱ等

※ポリシーとの関連性 経済学の基礎的・専門的知識を修得する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	1年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 今後の大学生活や社会生活において必要とされる、情報機器の基礎的な操作技能の修得を目指します。具体的には、基礎的なコンピュータの操作方法やインターネット・メールの使い方等をはじめ、ワードやエクセル、パワーポイントの基本的な操作方法について説明します。	メッセージ 1年次必須科目です。クラス分けにしたがって登録してください。すでにPC操作に慣れている人もいます。全員が一定レベルの操作ができるように、助け合ってください。毎回出席し、課題を時間内に提出してください。
	到達目標 大学ポータルサイトの活用、学内メールの使い方をマスターする。ワード、エクセル、パワーポイントの基本的な操作方法を身につける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスの確認
	2	基本的な操作方法と日本語入力の練習	パソコン操作に慣れる
	3	インターネットの活用方法と電子メールの利用方法	復習。メールの送り方。
	4	ワードの操作方法（1）	復習。ワードの操作。
	5	ワードの操作方法（2）	復習。ワードの操作。
	6	ワードの操作方法（3）	復習。ワードの操作。
	7	ワードの操作方法（4）	復習。ワードの操作。
	8	エクセルの操作方法（1）	復習。エクセルの操作。
	9	エクセルの操作方法（2）	復習。エクセルの操作。
	10	エクセルの操作方法（3）	復習。エクセルの操作。
	11	エクセルの操作方法（4）	復習。エクセルの操作。
	12	エクセルの操作方法（5）	復習。エクセルの操作。
	13	パワーポイントの操作方法（1）	復習。パワーポイントの操作。
14	パワーポイントの操作方法（2）	復習。パワーポイントの操作。	
15	パワーポイントの操作方法（3）	復習。パワーポイントの操作。	
16			
テキスト・参考文献・資料など テキストは開講時に指示します。			
学びの手立て 中間テスト・期末テストは行いません。 毎回の出席と課題提出が重要です。 課題を授業中に指示します。授業時間内に提出すること。			
評価 課題（提出状況・内容）85%、平常点 15%。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済情報処理Ⅰ、経済情報処理Ⅱ等
-------	---------------------------------

※ポリシーとの関連性 自らが情報化社会をより深く理解するために、多様な観点と専門的知識を備える。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大城 絢子	1年	a. ohshiro@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい 情報化社会にて必要とされる「情報リテラシー」力習得のため、コンピュータを用いたメール・Word・Excel・Powerpointを用いた演習を中心に講義を進める。	メッセージ コンピュータを用いた実習を中心に学びます。
	到達目標 P検3級合格レベルの知識及びコンピュータスキル+Powerpointの基本操作習得	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・電子メールの使い方	次週までに課題をメール提出
	2	情報モラルと情報セキュリティ	次週までに課題をメール提出
	3	ポータルの使い方・Microsoft Officeのインストール	次週までに課題を提出
	4	コンピュータ知識	次週までに課題を提出
	5	ソフトウェア・ネットワーク(インターネット)	次週までに課題を提出
	6	コンピュータ知識(IT用語・単位など)	次週までに課題を提出
	7	Webを用いた情報収集	次週までに課題をポータル提出
	8	Wordによる資料作成②	次週までに課題をポータル提出
9	Excelによる表計算②	次週までに課題をポータル提出	
10	Wordによる資料作成③	次週までに課題をポータル提出	
11	Excelによる表計算・グラフ作成	次週までに課題をポータル提出	
12	Wordによる資料作成③	次週までに課題をポータル提出	
13	Excelによるデータベース	次週までに課題をポータル提出	
14	Excelによる表計算・グラフ作成	次週までに課題をポータル提出	
15	Powerpointを用いたプレゼンテーション資料作成	課題をポータル提出	
16	最終レポートの概説	課題をポータル提出	
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献 P検合格シリーズ P検3級テキスト/P検事務局 資料 テキストは特に指定せず必要に応じて講義時に資料を配布します。		
	学びの手立て 講義では演習や実習を中心とし、毎週課題を出します。次回の講義日までに、メールや指定のシステムへ課題を提出してもらいます。		
	評価 平常点+毎週の課題(80%)+最終レポート(プレゼン資料)(20%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 情報処理概論・情報文化論・情報システム・情報と社会・経済情報処理
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	西洋経済史 I	前期	火 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	2年	メールで受け付けます	

学びの準備	ねらい 経済の歴史、とりわけ、西洋社会の経済の歴史を学ぶことで、経済学をはじめとした社会科学の理解を促すことをねらいとする。西洋経済史Iでは、古代から産業革命までを扱う。	メッセージ 知識の定着だけでなく、考える力を身につけるための授業をテーマ毎にグループ・ワークなどを取り入れながら行う予定です。
	到達目標 西洋社会の発展を経済的な側面から理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について	事前にシラバスを読む
	2	イントロダクション1：世界史を振り返る	事後：配布資料を復習
	3	イントロダクション2：経済史とは	事後：配布資料を復習
	4	古代から中世へ：ヨーロッパにおける市場社会の形成	事前：序章を読む
	5	近世（1）ヨーロッパの成長と拡大	事前：第1章を読む
	6	近世（2）経済危機と国家の形成～イギリスを中心に	事前：第2章を読む
	7	近世（3）なぜ最初にヨーロッパが工業化したのか1	事前：第3章-1を読む
	8	近世（4）なぜ最初にヨーロッパが工業化したのか2	事前：第3章-1を読む
	9	近世（5）産業革命をめぐる議論～経済史学説史1	事前：第3章-2を読む
	10	近世（6）産業革命をめぐる議論～経済史学説史2	事前：第3章-2を読む
	11	近世（7）産業革命をめぐる議論～経済史学説史3	事前：第3章-2を読む
	12	近代（1）イギリス産業革命の諸相	事前：第4章-1を読む
	13	近代（2）産業革命の社会的帰結～生活水準論争	事前：第4章-2を読む
	14	近代（3）19世紀末の「第二次産業革命」～社会政策の始まり	事前：第6章を読む
15	総括	事前：講義全体を振り返る	
16	予備日	予備日	
	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携）：奥西孝至ほか『西洋経済史（有斐閣アルマ）』有斐閣、2010年。 参考書：秋田茂『イギリス帝国の歴史—アジアから考える』（中公新書2167）中央公論新社、2012年。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
	評価 事後課題60%、最終課題10%、受講態度30%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 西洋経済史IIの受講を勧めます。経済史と関連した経済学の歴史学ぶには経済学史 I および II を勧めます。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	西洋経済史Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	2年	メールで受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	経済の歴史、とりわけ、西洋社会の経済の歴史を学ぶことで、経済学をはじめとした社会科学の理解を促すことをねらいとする。西洋経済史Ⅱでは、先進資本主義国であったイギリスの発展を世界経済との関連に触れながら振り返り、現代のグローバルな経済の理解へとつなげる。なお、本講義は西洋経済史Ⅰを受講していることを前提として進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン（またはオンデマンド）での講義と知識の定着のための事後課題を組み合わせた授業形式です。 ・基本的にZoomによるオンライン講義への参加を必須とします。 ・初回のオリエンテーションには必ず出席すること。
到達目標	西洋社会の発展を経済的な側面から理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特)オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について	事前にシラバスを読むこと
	2	(特)イントロダクション～西洋経済史Ⅰを振り返る	事後：課題
	3	(特)現代アジアの経済的再興とイギリス帝国	事前：序章を読む、事後課題
	4	(特)環太平洋世界と東インド(1)イギリス帝国の起源と商業革命	事前：1章-1と2を読む、事後課題
	5	(特)環太平洋世界と東インド(2)イギリス北米植民地とアジア貿易	事前：1章-3と4を読む、事後課題
	6	(特)環太平洋世界と東インド(3)イギリス産業革命はあったのか？	事前：1章-5を読む、事後課題
	7	(特)自由貿易帝国とパクス・ブリタニカ(1)自由貿易帝国主義	事前：2章-1と2を読む、事後課題
	8	(特)自由貿易帝国とパクス・ブリタニカ(2)ジェントルマン資本主義	事前：2章-3を読む、事後課題
	9	(特)自由貿易帝国とパクス・ブリタニカ(3)ヘゲモニー国家イギリスと近代日本	事前：2章-4と5を読む、事後課題
	10	(特)脱植民地化とコモンウェルス(1)帝国からコモンウェルスへ	事前：3章-1と2を読む、事後課題
	11	(特)脱植民地化とコモンウェルス(2)脱植民地化の進展	事前：3章-3を読む、事後課題
	12	(特)脱植民地化とコモンウェルス(3)パクス・アメリカーナへ	事前：3章-4を読む、事後課題
	13	(特)グローバルヒストリーとイギリス帝国	事前：終章を読む、事後課題
14	(形式未定) 期末試験	全講義の復習	
15	(特)期末試験総括	期末試験および全講義の復習	
16	予備日	予備日	
実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書(必携)：秋田茂『イギリス帝国の歴史—アジアから考える』(中公新書2167)中央公論新社、2012年。 参考書：奥西 孝至ほか『西洋経済史(有斐閣アルマ)』有斐閣、2010年。		
学びの手立て	他の受講生の妨げになるような行為は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
評価	期末試験(またはレポート)：40%、事後課題：40%、受講態度：20%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 西洋経済史Ⅰ。また経済史と関連した経済学の歴史を学ぶには経済学史ⅠおよびⅡを勧めます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小濱 武	3年	研究室5-531またはt.kohama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習の狙いは、各自が主体的に調査・研究する能力を養成することである。さまざまな研究視角を学びながら、各自のテーマに沿った研究報告を行うことで、経済学的な分析スキルと研究のモチベーションを高めていく。	メッセージ 社会に対して関心を持つということを重要視します。そのために、いろいろな視角からの「社会の切り取り方」を学んでいきます。
	到達目標 1) 経済社会の問題に対して興味や関心を持ち、主体的に調べ、他者に説明することができる。 2) 大学での学びをもとに、自身のキャリア形成について考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを事前に読む・次回準備
	2	論理的思考のトレーニング 1	演習内容の復習・次回準備
	3	論理的思考のトレーニング 2	演習内容の復習・次回準備
	4	文献輪読	演習内容の復習・次回準備
	5	文献輪読	演習内容の復習・次回準備
	6	文献輪読	演習内容の復習・次回準備
	7	文献輪読	演習内容の復習・次回準備
	8	文献輪読	演習内容の復習・次回準備
9	課題設定	演習内容の復習・次回準備	
10	調査研究	演習内容の復習・次回準備	
11	調査研究	演習内容の復習・次回準備	
12	中間発表	演習内容の復習・次回準備	
13	調査研究	演習内容の復習・次回準備	
14	調査研究	演習内容の復習・次回準備	
15	最終発表	演習内容の復習・次回準備	
16	総括（レポート提出）		
	テキスト・参考文献・資料など 各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。		
	学びの手立て 1. 自分の頭で考えること。 2. 他の方の関心や思考を尊重すること。		
	評価 ゼミへの参加態度70%、提出物30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 I B
-------	-------------------------

※ポリシーとの関連性 「主体的に調査・研究」しつつ、「知識」、「考察力」、「表現力」を養う。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	3年	研究室 (5629)、またはmurakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り寄せを図ることにある。経営学を基礎とする演習であるが、とりわけ営利企業や非営利企業などを横断的に学べる機会を提供する。また、企業や事業所の訪問調査とその結果のプレゼンテーションを実施しながら、生きた経営を学んでいく。</p> <p>到達目標</p> <p>1) ビジネスマナーを身につける。 2) 受講前より、主体性、傾聴力、発信力、協調性などが身につく。 3) 就職活動や進学など自らの進路を考えることができる。</p>	<p>【実務経験】 学内外にて実務経験者との意見交換を行う。</p>

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション (自己紹介等)</td><td>カリキュラムポリシーの確認</td></tr> <tr><td>2</td><td>報告レジュメ作成、ディスカッションの仕方、報告割当</td><td>ビジネスマナーを身につける</td></tr> <tr><td>3</td><td>報告・ディスカッション (1)</td><td>プレゼンとQ&A技法の構築</td></tr> <tr><td>4</td><td>報告・ディスカッション (2)</td><td>プレゼンとQ&A技法の構築</td></tr> <tr><td>5</td><td>報告・ディスカッション (3)</td><td>プレゼンとQ&A技法の構築</td></tr> <tr><td>6</td><td>報告・ディスカッション (4)</td><td>プレゼンとQ&A技法の構築</td></tr> <tr><td>7</td><td>報告・ディスカッション (5)</td><td>プレゼンとQ&A技法の構築</td></tr> <tr><td>8</td><td>工場見学または課外授業</td><td>ビジネスマナーとQ&A技法の構築</td></tr> <tr><td>9</td><td>報告・ディスカッション (6)</td><td>プレゼンとQ&A技法の構築</td></tr> <tr><td>10</td><td>報告・ディスカッション (7)</td><td>プレゼンとQ&A技法の構築</td></tr> <tr><td>11</td><td>報告・ディスカッション (8)</td><td>プレゼンとQ&A技法の構築</td></tr> <tr><td>12</td><td>報告・ディスカッション (9)</td><td>プレゼンとQ&A技法の構築</td></tr> <tr><td>13</td><td>報告・ディスカッション (10)</td><td>プレゼンとQ&A技法の構築</td></tr> <tr><td>14</td><td>経営学関係のビデオ/DVD学習</td><td>Q&A技法の構築</td></tr> <tr><td>15</td><td>専門演習 I Aの反省会・総括</td><td>カリキュラムポリシーの再確認</td></tr> <tr><td>16</td><td>予備日</td><td>配付資料の確認</td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション (自己紹介等)	カリキュラムポリシーの確認	2	報告レジュメ作成、ディスカッションの仕方、報告割当	ビジネスマナーを身につける	3	報告・ディスカッション (1)	プレゼンとQ&A技法の構築	4	報告・ディスカッション (2)	プレゼンとQ&A技法の構築	5	報告・ディスカッション (3)	プレゼンとQ&A技法の構築	6	報告・ディスカッション (4)	プレゼンとQ&A技法の構築	7	報告・ディスカッション (5)	プレゼンとQ&A技法の構築	8	工場見学または課外授業	ビジネスマナーとQ&A技法の構築	9	報告・ディスカッション (6)	プレゼンとQ&A技法の構築	10	報告・ディスカッション (7)	プレゼンとQ&A技法の構築	11	報告・ディスカッション (8)	プレゼンとQ&A技法の構築	12	報告・ディスカッション (9)	プレゼンとQ&A技法の構築	13	報告・ディスカッション (10)	プレゼンとQ&A技法の構築	14	経営学関係のビデオ/DVD学習	Q&A技法の構築	15	専門演習 I Aの反省会・総括	カリキュラムポリシーの再確認	16	予備日	配付資料の確認	
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	オリエンテーション (自己紹介等)	カリキュラムポリシーの確認																																																			
2	報告レジュメ作成、ディスカッションの仕方、報告割当	ビジネスマナーを身につける																																																			
3	報告・ディスカッション (1)	プレゼンとQ&A技法の構築																																																			
4	報告・ディスカッション (2)	プレゼンとQ&A技法の構築																																																			
5	報告・ディスカッション (3)	プレゼンとQ&A技法の構築																																																			
6	報告・ディスカッション (4)	プレゼンとQ&A技法の構築																																																			
7	報告・ディスカッション (5)	プレゼンとQ&A技法の構築																																																			
8	工場見学または課外授業	ビジネスマナーとQ&A技法の構築																																																			
9	報告・ディスカッション (6)	プレゼンとQ&A技法の構築																																																			
10	報告・ディスカッション (7)	プレゼンとQ&A技法の構築																																																			
11	報告・ディスカッション (8)	プレゼンとQ&A技法の構築																																																			
12	報告・ディスカッション (9)	プレゼンとQ&A技法の構築																																																			
13	報告・ディスカッション (10)	プレゼンとQ&A技法の構築																																																			
14	経営学関係のビデオ/DVD学習	Q&A技法の構築																																																			
15	専門演習 I Aの反省会・総括	カリキュラムポリシーの再確認																																																			
16	予備日	配付資料の確認																																																			
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考になる文献は適宜紹介する。</p>																																																				
	<p>学びの手立て</p> <p>①履修の心構え 単に出席しているだけでは単位の修得にはつながらない。積極的にプレゼンを実施するとともに、プレゼンを受ける場合は積極的な質問を心がける。 ②学びを深めるために 働く意味を考える。正課内外のキャリアについて意味づけをしてもらいたい。</p>																																																				
	<p>評価</p> <p>平常点 (30%)、レジュメやパワーポイントによるプレゼンテーション (40%)、課外学習における諸活動 (30%) を総合的に評価する。</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門演習 I B、キャリア・デザイン (共通)</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 「知識」「考察力」「表現力」の向上を目指す。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	3年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 文献を講読し議論することを通して、論理的思考を身につける。	メッセージ ある議題について、賛成か反対かを聞かれることがあります。きちんとした理由をつけて自分の立場を説明することは、かなり難しいことです。ですがこの論理的能力を身につけておかないと、会社・社会人から大人扱いされません。トレーニングを通して論理的能力を高めていきましょう。
	到達目標 文献の内容を理解し、要約する。 文献内容に対する自分の意見を論理的に述べるができる。	

学びの準備	到達目標 文献の内容を理解し、要約する。 文献内容に対する自分の意見を論理的に述べるができる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスの確認
	2	論理的思考の基本	復習。理解を深める
	3	論理的思考のトレーニング	復習。理解を深める
	4	論理的思考のトレーニング	復習。理解を深める
	5	論理的思考のトレーニング	復習。理解を深める
	6	文献講読 (要約)	予習次回用意
	7	文献講読 (要約)	予習次回用意
	8	文献講読 (要約)	予習次回用意
	9	文献講読 (要約)	予習次回用意
	10	文献講読 (報告・議論)	予習次回用意
	11	文献講読 (報告・議論)	予習次回用意
	12	文献講読 (報告・議論)	予習次回用意
	13	文献講読 (報告・議論)	予習次回用意
	14	文献講読 (報告・議論)	予習次回用意
	15	文献講読 (報告・議論)	予習次回用意
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。適宜配布する。
-------	--------------------------------------

学びの実践	学びの手立て 講義中は積極的に意見交換をしましょう。 自分の意見・考えを他人が理解しやすいように工夫して伝える。
-------	--

学びの実践	評価 平常点 20%、発表・提出物 80%。
-------	---------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 I B・専門演習 II AB
-------	------------------------------------

※ポリシーとの関連性

経済・社会の問題を論理的に考え、意見を述べ、問題解決の方法を提案する力を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	3年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>演習Ⅱにおける卒業論文作成に向けた経済学の専門知識を深めていくことと、雇用失業や財政、産業など沖縄県及び全国の社会経済への認識を、論文や専門書の輪読等によって深めていく。日本や沖縄の社会・経済の現状を冷静に分析し、どうすれば地域が発展し、住民が幸福になるのか、グループ討議も含め議論を重ねながら、一緒に考えていく。</p>	<p>論理的に考察する力と企画提案力、日常のことを経済学的に考えることができるようになってほしい。また、後期のグループワークに備え、ゼミ生同士の親睦を深めるため、スポーツ大会やレクリエーションなども自主的に企画してほしい。 【実務経験】民間研究所の経験を活かし企画提案の仕方、プレゼン方法について教える。</p>
到達目標	<p>経済・社会の問題を論理的に考えることができる。 学生同士協力しながら、問題解決の方法を提案することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義予定など）	3年の目標を立てる
	2	論理的な考え方（図解思考法、マインドマップなど）Ⅰ	新聞の記事を図解する
	3	論理的な考え方（図解思考法、マインドマップなど）Ⅱ	同上
	4	論理的な考え方（図解思考法、マインドマップなど）Ⅲ	同上
	5	経済問題に対するディスカッション（日常のテーマを経済学的に考える）Ⅰ	テーマについて考える
	6	経済問題に対するディスカッション（日常のテーマを経済学的に考える）Ⅱ	同上
	7	専門書、論文等の輪読Ⅰ テキスト：「経済学で現代経済を読む」	テキストを事前に読み図解化する
	8	専門書、論文等の輪読Ⅱ	テキストを事前に読み図解化する
	9	専門書、論文等の輪読Ⅲ	テキストを事前に読み図解化する
	10	専門書、論文等の輪読Ⅳ	テキストを事前に読み図解化する
	11	調査手法を学ぶ（課外授業、外部講師による講義など）Ⅰ	配布資料の予習・復習
	12	調査手法を学ぶ（課外授業、外部講師による講義など）Ⅱ	同上
	13	調査手法を学ぶ（課外授業、外部講師による講義など）Ⅲ	同上
14	調査手法をによる、グループワーク	グループによる議論など	
15	グループ同士による議論	同上	
16	前期総括及び夏休みの課題テーマの発表など	夏休み計画作成	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など 特にないが、そのつど紹介する 「問題解決力」稲崎宏治 ダイアモンド社、「寓話で学ぶ経済学」ラッセル・ロバーツ 日本経済新聞社、 「経済学で現代経済を読む」ダグラス・ノース他 日本経済新聞社 など</p>		
	<p>学びの手立て 講義は毎回出席できること。また、遅刻は減点とするので時間はしっかり守ること。 毎回のゼミにおいては、目的意識を持って臨むようにする。</p>		
	<p>評価 発表への積極性、討議内容、出席及びレポートを総合的に評価する。 講義は毎回出席できること。また、遅刻は減点とするので時間はしっかり守ること。 受講態度（40点）プレゼン（50点）、提出物（10点）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 4年次における、卒論、就活の取り組みが明確な目標のもとできる。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	3年	kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地域の社会経済における諸課題を発見し、それに対して自分なりの見解をもてるようになることを目指す。そのためには、日頃から情報収集を行い、考察する習慣をもつこと、諸課題を自分の頭で考え、分析し、論理的に説明できる必要がある。本演習では、少なくとも沖縄が現在、抱えている課題等については、それぞれが自分なりの見解をもてるようになることを目指す。	専門ゼミを通じて、経済に関する知識・理解・判断・論理等の認知スキルだけでなく、社会生活や工作上必要な忍耐力・協調性・やり抜く力・自制心・リーダーシップ等の非認知スキルを獲得することにより、「ケイパビリティ（潜在能力）」を高めて将来の選択肢、自由度を増やせるようにしましょう。そのため、教室内の勉強だけでなく合宿等のゼミ活動にも積極的に参加してください。

学びの準備	到達目標
	1. 社会的・経済的な問題・課題を発見、情報を収集・分析・考察することができる（情報収集・分析・考察能力）。 2. 問題・課題の本質を論理的に説明できる（論理力・説明能力）。 3. その論理が正しいかどうかを統計的検証や議論等の中で確認し、自分なりの問題解決方法（案）を見つけることができる（解決能力・リーダーシップ）。また間違っていることがわかれば、更なる情報収集・分析・考察を通じて再考することができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（自己紹介、専門演習 I Aの概要・目的・到達目標、進め方等）	シラバスを事前に確認
	2	①メディア・リテラシーについて（SNSと新聞その他の情報の違いについて考える）	SNSと新聞の特徴について考える
	3	②メディア・リテラシーについて（行動経済学から人間の認知バイアスについて考える）	「システム1と2」の事前学習
	4	①新聞を読み地域の諸課題について報告後、ディスカッションを行う	毎日新聞を読み、地域課題を探す
	5	②新聞を読み地域の諸課題について報告後、ディスカッションを行う	毎日新聞を読み、地域課題を探す
	6	③新聞を読み地域の諸課題について報告後、ディスカッションを行う	毎日新聞を読み、地域課題を探す
	7	④新聞を読み地域の諸課題について報告後、ディスカッションを行う	毎日新聞を読み、地域課題を探す
	8	①グループワーク（課題設定、情報収集・分析・考察・プレゼン・ディスカッション）	課題設定を検討する
	9	②グループワーク（課題設定、情報収集・分析・考察・プレゼン・ディスカッション）	情報収集・分析・考察を行う
	10	③グループワーク（課題設定、情報収集・分析・考察・プレゼン・ディスカッション）	情報収集・分析・考察を行う
	11	④グループワーク（課題設定、情報収集・分析・考察・プレゼン・ディスカッション）	情報収集・分析・考察を行う
	12	⑤グループワーク（課題設定、情報収集・分析・考察・プレゼン・ディスカッション）	情報収集・分析・考察を行う
	13	予備日（企業訪問等）	訪問予定企業の事前リサーチ
	14	予備日（企業訪問等）	訪問予定企業の事前リサーチ
15	前期の総括（目標到達度等）と後期に向けての課題を確認	前期の成果と課題を考える	
16	※15回のいずれかにゼミ合宿や企業訪問等を予定してますので参加すること		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて適宜紹介する。
	学びの手立て 社会・経済問題に関心を持つために日頃から新聞を読むようにしてください。また読書も心がけてください。

学びの実践	評価 評価は、レポート課題の提出40%、対面授業での発表20%、オンライン授業での発表40%で総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 I B

※ポリシーとの関連性

カリキュラム・ポリシーである、主体的に調査・研究し、報告・議論する能力を付けることを目的とする。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	3年	huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 2年次までに修得した知識や経験を活かし、経済学における調査・研究を行い、報告・議論を重ね、地域経済、沖縄経済、世界経済の動向や課題を解決法を授業の中で学ぶねらいがある。	メッセージ 遠隔授業を中心に実施する。論理的に考察するために、システム化された解決手法を修得し、与えられた課題に取り組んで欲しい。
	到達目標 経済・社会の問題を論理的考え、説明することができる。 調査・研究を学生どうしで協力し、問題解決することができる。 与えられた課題の発表し、企画を提案することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの確認・自己紹介・オリエンテーションなど	シラバスの確認
	2	論理的思考とは（講義）	専門レベルで論理的思考を事前学習
	3	論理的思考とは（テーマを設定）	専門レベルで論理的思考を事前学習
	4	論理的思考とは（テーマを分析）	専門レベルで解決手法を事前学習
	5	解決方法を発表	専門レベルで解決手法を事前学習
	6	解決方法を発表	専門レベルで解決手法を事前学習
	7	解決方法を発表	専門レベルで図解思考法を事前学習
	8	図解思考法とは（講義）	専門レベルで図解思考法を事前学習
	9	図解思考法（テーマを設定）	専門レベルで図解思考法を事前学習
	10	図解思考法（テーマを分析）	専門レベルで図解思考法を事前学習
	11	図解思考法（テーマを発表）	経済的視点から課題を事前学習
	12	ゼミ論に向けて課題設定	経済的視点から課題を事前学習
	13	ゼミ論に向けて課題設定	経済的視点から課題調査
	14	ゼミ論に向けて課題設定	経済的視点から課題調査
	15	ゼミ論に向けて課題発表	経済的視点から課題発表
	16	ゼミ論に向けて課題発表	経済的視点から課題発表
	テキスト・参考文献・資料など 参考資料・文献として以下のような書籍を紹介する 1. 「実践行動経済学」リチャード・セイラー 2. 「プロジェクトなぜ失敗するのか」伊藤健太郎 3. 「問題解決手法」堀公俊 4. 「インストラクショナル・デザイン」島宗 理		
	学びの手立て 1. ゼミ形式の授業では1日休むとついて行けないことから、遅刻や欠席は避けること。 2. 目的意識をもって授業に臨むこと。積極的に調査・研究・発表をすること。		
	評価 期末ではゼミ論を作成するので、それに向けての各段階での作業を行っておくかは重要な評価対象である。 作成管理能力（時間配分）20%、ゼミ論の内容（本文）50%、発表能力30%で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 期末に行う「ゼミ論」や4年次行う「卒論」に向けての取組を明確にすること。
-------	---

※ポリシーとの関連性

本演習では、経済学の専門的知識を学び、その視座から経済社会を読み解く力を身につけ、他者と議論する力を養います。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	3年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習で学んできたことをベースに、各自でテーマを持ち、問題関心を深め、情報を分析し、プレゼン、ディスカッション能力の向上を図っていきます。沖縄経済や県内の地域づくりの事例などを学び、社会との関わり方を学んでいくため、課外活動等を積極的に取り入れます。4年次の卒業論文作成に向けた準備を行います。	専門演習では、個人の関心をベースにしたテーマ設定を行い、そのテーマに基づき、課題深めていきます。3年次から4年次の卒業論文作成に向けた準備をすることで、大学での学びを一つの成果にまとめていくことを意識します。より現実的な問題意識を持たせるため、実践的な活動（課外）を盛り込んでいきます。
到達目標	①自ら課題を設定し、情報収集と分析を通じて知見を深めていくことができる。 ②体系的な理解に努め、課題解決に向けた思考方法を身につけることができる。 ③他者の示したテーマに関して積極的に意見交換し、問題意識の共有と理解を図り、社会問題全般に関心を払うことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンスー専門演習の進め方について	シラバスを読む
	2	(対) グループ報告、個人報告の準備ー報告の割り当て	基礎演習時の課題提出
	3	(対) グループ別のテーマ設定について	グループワークについて学ぶ
	4	(対) 研究テーマの設定と資料収集	研究テーマについての資料収集
	5	(対) 研究報告における資料の整理と報告資料づくり	資料の整理と報告資料準備
	6	(対) グループワーク、個別報告とディスカッション1回目	グループワークのための資料収集
	7	(対) グループワーク、個別報告とディスカッション2回目	グループワークのための資料作成
	8	(対) グループ報告とディスカッション1回目	資料確認と原稿作成
	9	(対) グループ報告とディスカッション2回目	資料確認と原稿作成
	10	(対) グループ報告の振り返り	グループ報告を振り返っての改善点
	11	(対) 個別報告、ディスカッション1回目	テーマに関する資料作成
	12	(対) 個別報告、ディスカッション2回目	テーマに関する資料作成
	13	(対) 個別報告、ディスカッション3回目	テーマに関する資料作成
	14	(対) 個別報告、ディスカッション4回目	テーマに関する資料作成
15	(対) 前期演習を振り返ってーテーマの深堀りとステップアップ	今後の研究テーマの深堀	
16	※上記、演習計画とは別に社会人講師による遠隔講義も実施予定です。		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	※テキストは特に指定しませんが、各自関心のあるテーマに関する文献・論文を紹介してもらい、それらを演習の際活用することがあります。

学びの手立て	<p>○基本は対面演習ですが、状況により特例講義を行い、Microsoft teams等でグループワークを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特例講義では「授業連絡」、Microsoft teamsで、課題提供、遠隔演習を行います。「授業連絡」を確認し、遠隔演習が行える通信環境を整えて演習にのぞむようにしてください。意見を求められた際には、積極的に発言することで「参加態度」の評価につながります。 ・対面演習では、積極的に演習に参加し、課題やワークに取り組んでください。
--------	--

評価	<p>演習内での課題提出 (20%)、発表 (50%)、演習での発言 (30%)、 ※欠席が3分の1を超える場合は「不可」。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>4年次の専門演習 II A、II Bにおいて、卒業論文作成にあたる</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 経済現象を科学的に分析し、社会の動きを論理的に読み取る能力を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	3年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済に関する文献の講読を通じて、経済現象を科学的に分析する能力を養う。また、経済分析の手法を学ぶことでレポート作成技術の向上を図る。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 経済社会の諸課題について分析し、課題解決のための政策提言ができる力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義説明、専門演習 I A の目標設定、アンケート等 -	シラバスの確認
	2	大学生活に関する自己評価① - 修学の状況、研究テーマ、将来設計等 -	大学生活の中間評価
	3	大学生活に関する自己評価② - 修学の状況、研究テーマ、将来設計等 -	大学生活の中間評価
	4	経済文献の輪読① - 公共経済学、経済政策関連文献の選定 -	文献の選定
	5	経済文献の輪読② - レジューメ作成・報告、ディスカッション -	指定文献の精読
	6	経済文献の輪読③ - レジューメ作成・報告、ディスカッション -	指定文献の精読
	7	経済文献の輪読④ - レジューメ作成・報告、ディスカッション -	指定文献の精読
	8	経済文献の輪読⑤ - レジューメ作成・報告、ディスカッション -	指定文献の精読
	9	経済文献の輪読⑥ - レジューメ作成・報告、ディスカッション -	指定文献の精読
	10	経済分析の手法 - 経済データの見方、経済分析の手法紹介 -	経済統計・計量経済学の予習
	11	グループ調査① - テーマ選定、構成案等の検討 -	グループワーク
	12	グループ調査② - データ収集、調査等 -	グループワーク
	13	グループ調査③ - データ収集、調査等 -	グループワーク
	14	グループ調査報告① - パワーポイントによる報告 -	グループワーク
15	グループ調査報告② - パワーポイントによる報告 -	グループワーク	
16	講義のまとめ	大学生活の中間評価	
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に指定する。		
	学びの手立て 卒業論文の作成を視野に入れつつ、ゼミ（講義）に参加すること。		
	評価 受講態度（50%）、提出物（50%）で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 I B
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	3年	メールまたはLINEで受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	1,2年次の基礎演習をもとに、論文・レポートの書き方や文献・資料の調べ方、プレゼンテーションの仕方などについて、より深く学ぶ。経済学や社会学など関連する学術書の輪読を基礎とし、文章を読むことや書くことを習慣化するとともに、ゼミ生同士のディスカッションを通じて、他者の意見から学びつつ、自身の考える力を養うことを目標とする。	多彩なメンバーと交流しながら、個々が楽しんで学べる空間をともに作りましょう。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学術書の内容を理解し、適切に要約することができる 2. 他者とコミュニケーションを取りながら、文章の理解をすすめることができる 3. 他者の異なる考え方を理解し、論理的に批判することができる 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：演習の進め方・評価方法などについて／課題図書についての説明	シラバスを読む
	2	輪読のための準備：レジュメ作りの基礎	配布資料で復習
	3	輪読1：教科書のレジュメ作成（1章）	1章を読む、レジュメ作成
	4	輪読2：教科書のレジュメ作成（2章）	2章を読む、レジュメ作成
	5	輪読3：教科書のレジュメ作成（4章）	4章を読む、レジュメ作成
	6	輪読4：教科書のレジュメ作成（6章）	6章を読む、レジュメ作成
	7	輪読5：教科書のレジュメ作成（7章）	7章を読む、レジュメ作成
	8	輪読6：教科書のレジュメ作成（9章）	9章を読む、レジュメ作成
	9	輪読7：ディスカッション（1章）	ディスカッションを振り返る
	10	輪読7：ディスカッション（2章）	ディスカッションを振り返る
	11	輪読7：ディスカッション（4章）	ディスカッションを振り返る
	12	輪読7：ディスカッション（6章）	ディスカッションを振り返る
	13	輪読7：ディスカッション（7章）	ディスカッションを振り返る
14	輪読7：ディスカッション（9章）	ディスカッションを振り返る	
15	まとめ（12章）	事後：レジュメをもとに復習	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など	<p>教科書（必携！）：井出英策・宇野重規・坂井豊貴・松沢裕作『大人のための社会科 未来を語るために』有斐閣、2017年。</p> <p>参考書：①松元茂、河野哲也『大学生のための読む、書く、プレゼン、ディベートの方法（改訂第二版）』玉川大学出版部、2015年。 / ②橋本努『学問の技法』筑摩書房、2013年。</p> <p>※その他、2冊の課題図書（必携）をゼミで相談し決めます。</p>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。 ・欠席の場合、ゼミ開始前に連絡をすること。 ・無断欠席が続く場合、以後の受講を認めない場合がある。 		
評価	参加態度（ディスカッション含む）40%、複数回のレジュメ作成 60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 I Bに続く
-------	----------------------------

※ポリシーとの関連性

カリキュラム・ポリシーである、主体的に調査・研究し、報告・議論する能力を付けることを目的とする。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	3年	huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習IAでの学習を踏まえ、IBではグループワークを強化し作、学外での活動を視野に入れる。	メッセージ 遠隔授業になるが、SNSやリモートツールを利用し、ゼミ論に関する情報共有と各自のテーマに向けて積極的に取り組み・発表を行って欲しい。
	到達目標 前期と同じ： 経済・社会の問題を論理的考え、説明することができる。 調査・研究を学生どうして協力し、問題解決することができる。 与えられた課題の発表し、企画を提案することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション（授業内容説明）自己行動紹介（夏休みの過ごし方）
	2	前期に設定した課題の見直し
	3	前期に設定した課題の見直し
	4	前期に設定した課題の見出し設定
	5	論文の書き方（講義）
	6	論文の書き方（講義）
	7	ゼミ論に向けて論文構成
	8	ゼミ論に向けて論文構成
9	ゼミ論に向けて論文構築	
10	ゼミ論に向けて論文執筆	
11	ゼミ論に向けて論文執筆	
12	ゼミ論に向けて論文翻訳	
13	ゼミ論に向けて論文翻訳	
14	ゼミ論発表（英語）	
15	ゼミ論発表（英語）	
16	ゼミ論発表・提出（日本語）	
	時間外学習の内容	
		シラバスの確認（ゼミ内容確認）
		前期で設定した課題を再検討
		論文を想定して課題に取り組む
		論文を想定して課題に取り組む
		論文を想定して課題に取り組む
		論文の書き方を事前学習
		論文の書き方を事前学習
		論文に関する調査研究
		論文に関する調査研究
		論文（日本語）に関する内容確認
		論文（日本語）に関する内容確認
		論文に関する翻訳開始
		論文に関する翻訳開始
		論文に関する翻訳開始
		論文に関する翻訳開始
		論文発表を通して英語力を付ける
	テキスト・参考文献・資料など	
	参考資料・文献として以下のような書籍を紹介する	
	1. 「実践行動経済学」リチャード・セイラー	
	2. 「プロジェクトなぜ失敗するのか」伊藤健太郎	
	3. 「問題解決手法」堀公俊	
	4. 「インストラクショナル・デザイン」島宗 理	
	学びの手立て	
	1. ゼミ形式の授業では1日休むとついて行けないことから、遅刻や欠席は避けること。	
	2. 目的意識をもって授業に臨むこと。積極的に調査・研究・発表をすること。	
	評価	
	期末ではゼミ論を完成させるので、それに向けての各段階での作業を行っているかは重要な評価対象である。 作成管理能力（時間配分）20%、ゼミ論の内容（本文）50%、発表能力30%で評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年次行う「卒論」に向けての取組を明確にすること
-------	---

※ポリシーとの関連性

本演習では、経済学の専門的知識を学び、その視座から経済社会を読み解く力を身につけ、他者と議論する力を養います。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	3年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習で学んできたことをベースに、各自でテーマを持ち、問題関心を深め、情報を分析し、プレゼン、ディスカッション能力の向上を図っていきます。沖縄経済や県内の地域づくりの事例などを学び、社会との関わり方を学んでいくため、課外活動等を積極的に取り入れます。4年次の卒業論文作成に向けた準備を行います。	専門演習では、個人の関心をベースにしたテーマ設定を行い、そのテーマに基づき、課題深めていきます。3年次から4年次の卒業論文作成に向けた準備をすることで、大学での学びを一つの成果にまとめていくことを意識します。より現実的な問題意識を持たせるため、実践的な活動（課外）を盛り込んでいきます。
到達目標	①自ら課題を設定し、情報収集と分析を通じて知見を深めていくことができる。 ②体系的な理解に努め、課題解決に向けた思考方法を身につけることができる。 ③他者の示したテーマに関して積極的に意見交換し、問題意識の共有と理解を図り、社会問題全般に関心を払うことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンスー前期演習を振り返って	シラバスを読む
	2	(対) 個別テーマの設定ーマインドマップ作成と課題設定	経済時事関係の情報収集
	3	(対) 個別テーマの設定ー構想・計画づくり	テーマ設定と調査方法の検討
	4	(対) 研究テーマの報告 1回目	テーマに関する資料収集と論点整理
	5	(対) 研究テーマの報告 2回目	テーマに関する資料収集と論点整理
	6	(対) 研究テーマの報告 3回目	テーマに関する資料収集と論点整理
	7	(対) 研究テーマの報告 4回目	テーマに関する資料収集と論点整理
	8	(対) 研究テーマの報告 5回目	テーマに関する資料収集と論点整理
	9	(対) 研究テーマに関する文献紹介とディスカッション 1回目	先行研究と関連資料の整理
	10	(対) 研究テーマに関する文献紹介とディスカッション 2回目	先行研究と関連資料の整理
	11	(対) 研究テーマに関する文献紹介とディスカッション 3回目	先行研究と関連資料の整理
	12	(対) 研究テーマに関する文献紹介とディスカッション 4回目	先行研究と関連資料の整理
	13	(対) 研究テーマに関する文献紹介とディスカッション 5回目	先行研究と関連資料の整理
	14	(対) 研究テーマに関する文献紹介とディスカッション 6回目	先行研究と関連資料の整理
15	(対) 後期演習の振り返りと次年度に向けて	卒論テーマについて考える	
16	※上記演習計画とは別に学外者との協働プロジェクトによる課外活動も行います。		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	※テキストは特に指定しませんが、各自関心のあるテーマに関する文献・論文を紹介してもらい、それらを演習の際活用することがあります。

学びの手立て	<p>○基本は対面演習ですが、状況により特例講義を行い、Microsoft teams等でグループワークを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特例講義では「授業連絡」、Microsoft teamsで、課題提供、遠隔演習を行います。「授業連絡」を確認し、遠隔演習が行える通信環境を整えて演習にのぞむようにしてください。意見を求められた際には、積極的に発言することで「参加態度」の評価につながります。 ・対面演習では、積極的に演習に参加し、課題やワークに取り組んでください。
--------	--

評価	<p>演習内での課題提出 (20%)、発表 (50%)、演習での発言 (30%)、 ※欠席が3分の1を超える場合は「不可」</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>4年次の専門演習 II A、II Bにおいて、卒業論文作成にあたる</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	3年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済分析の手法の習得ならびにグループ調査等を通じて、経済現象を科学的に分析する能力を養う。また、4年次の卒業論文の作成にむけて、各学生が個別にテーマ選定や先行研究の調査等の作業を行う。	メッセージ 本講義は、卒業論文作成のための「予備調査期間」という位置付けです。
	到達目標 経済社会の諸課題について分析し、課題解決のための政策提言ができる力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義説明、専門演習 I Bの目標設定、アンケート等 - (対)	シラバスの確認
	2	大学生活に関する自己評価 - 修学の状況、研究テーマ、将来設計等 - (対)	大学生活の評価
	3	経済分析の手法① - 地域分析の方法、経済データの読み方 - (対)	地域経済関連文献の精読
	4	経済分析の手法② - 回帰分析、重回帰分析 - (対)	計量経済学の予習
	5	経済分析の手法③ - 回帰分析、重回帰分析 - (対)	計量経済学の予習
	6	経済分析の手法④ - 決定係数、仮説検定 - (対)	計量経済学の予習
	7	経済分析の手法⑤ - 産業連関分析 - (対)	産業連関論の予習
	8	経済分析の手法⑥ - 産業連関分析 - (対)	産業連関論の予習
	9	経済分析の手法⑦ - 産業連関分析 - (対)	産業連関論の予習
	10	論文の書き方① - 論文作成の流れ - (対)	指定文献の精読
	11	論文の書き方② - 先行研究の調査、論文作成に関わる注意事項 - (対)	指定文献の精読
	12	卒業論文テーマ報告会① (対)	資料作成
	13	卒業論文テーマ報告会② (対)	資料作成
	14	卒業論文テーマ報告会③ (対)	資料作成
15	講義のまとめ① (対)	大学生活の評価	
16	講義のまとめ② (対)	大学生活の評価	
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に指定する。		
	学びの手立て 本講義期間中に卒業論文のテーマを決定することが望ましい。		
	評価 受講態度 (50%)、提出物 (50%) で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II A
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	3年	授業の前後の時間に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 専門演習 I Aに引き続き、経済学や社会学など関連する学術書の輪読を基礎とし、文章を読むことや書くことを習慣化するとともに、ゼミ生同士のディスカッションを通じて、他者の意見から学びつつ、自身の考える力を養うことを目標とする。	メッセージ 前期に引き続き、楽しく学べる空間をみんなで作り上げましょう。
	到達目標 1. 学術書の内容を理解し、適切に要約し、理解することができる 2. 他者の異なる考え方を理解し、論理的に批判することができる 3. 自分の関心に沿ったテーマを設定し、個人研究をすすめることができる 4. 個人研究の成果をわかりやすく他者に説明することができる	

学びの準備	到達目標 1. 学術書の内容を理解し、適切に要約し、理解することができる 2. 他者の異なる考え方を理解し、論理的に批判することができる 3. 自分の関心に沿ったテーマを設定し、個人研究をすすめることができる 4. 個人研究の成果をわかりやすく他者に説明することができる
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション：演習の進め方・評価方法などについて	シラバスを読む
	2	(特) 輪読のためのオリエンテーション	課題図書を準備し、目を通す
	3	(特) 個人研究のためのオリエンテーション：テーマと構成を考える	研究テーマを検討
	4	(特) 輪読1-1：課題図書1のレジюме作成と議論	課題図書を読む、個人研究
	5	(特) 輪読1-2：課題図書1のレジюме作成と議論	課題図書を読む、個人研究
	6	(特) 輪読1-3：課題図書1のレジюме作成と議論	課題図書を読む、個人研究
	7	(特) 輪読1-4：課題図書1のレジюме作成と議論	課題図書を読む、個人研究
	8	(特) 個人研究：中間発表1	事前：中間発表の準備
	9	(特) 個人研究：中間発表2	課題図書を読む、個人研究
	10	(特) 輪読2-1：課題図書のレジюме作成と議論	課題図書を読む、個人研究
	11	(特) 輪読2-2：課題図書のレジюме作成と議論	課題図書を読む、個人研究
	12	(特) 輪読2-3：課題図書のレジюме作成と議論	課題図書を読む、個人研究
	13	(特) 輪読2-4：課題図書のレジюме作成と議論	課題図書を読む、個人研究
	14	(特) 個人研究発表1	個人研究発表準備
	15	(特) 個人研究発表2	個人研究発表準備
16	(特) 総括	事後：個人研究をまとめる	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書： ・課題図書1：別途指示します（必ず入手！） ・課題図書2は、後日決定します。 参考書：①松元茂、河野哲也『大学生のための読む、書く、プレゼン、ディベートの方法（改訂第二版）』玉川大学出版部、2015年。 / ②橋本努『学問の技法』筑摩書房、2013年。
-------	--

学びの実践	学びの手立て ・他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁。場合によっては、退室を求める。 ・欠席の場合、ゼミ開始前に連絡をすること。 ・無断欠席が続く場合、以後の受講を認めない場合がある。
-------	--

学びの実践	評価 受講態度（ゼミ中の発言など）30%、複数回のレジюме作成 40%、個人研究の取り組み状況 30%
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II Aに続く
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小濱 武	3年	研究室5-531またはt.kohama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習の狙いは、各自が主体的に調査・研究する能力を養成することである。さまざまな研究視角を学びながら、各自のテーマに沿った研究報告を行うことで、経済学的な分析スキルと研究のモチベーションを高めていく。	社会に対して関心を持つということを重要視します。そのためにいろいろな視角からの「社会の切り取り方」を学んでいきます。

到達目標
1) 経済社会の問題に対して興味や関心を持ち、主体的に調べ、他者に説明することができる。 2) 大学での学びをもとに、自身のキャリア形成について考えることができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) オリエンテーション	シラバスを事前に読む・次回準備
	2	(対) 個人研究構想発表	個人研究
	3	(対) 文献輪読	課題図書を読む、個人研究
	4	(対) 文献輪読	課題図書を読む、個人研究
	5	(対) 文献輪読	課題図書を読む、個人研究
	6	(対) 文献輪読	課題図書を読む、個人研究
	7	(対) 第1次中間発表	発表準備
	8	(対) 調査研究	個人研究
	9	(対) 調査研究	個人研究
	10	(対) 第2次中間発表	発表準備
	11	(対) 調査研究	個人研究
	12	(対) 調査研究	個人研究
	13	(対) 調査研究	個人研究
	14	(対) 最終発表 1	発表準備
15	(対) 最終発表 2	発表準備	
16	総括 (レポート提出)		

テキスト・参考文献・資料など	各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。
----------------	---------------------

学びの手立て	1. 自分の頭で考えること。 2. 他の人の関心や思考を尊重すること。
--------	--

評価	ゼミへの参加態度70%、提出物30%
----	--------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II A
-------	--------------------------

※ポリシーとの関連性 「主体的に調査・研究」しつつ、「知識」、「考察力」、「表現力」を養う。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	3年	研究室 (5629)、またはmurakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り寄せを図ることにある。経営学を基礎とする演習であるが、とりわけ営利企業や非営利企業などを横断的に学べる機会を提供する。”</p> <p>本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り</p>	<p>【実務経験】 学内外にて実務経験者との意見交換を行う。</p>
到達目標	<p>1) ビジネスマナーを身につける。 2) 受講前より、主体性、傾聴力、発信力、協調性などが身につく。 3) 就職活動や進学など自らの進路を考えることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	報告割当、連絡事項ほか	配布物の精読
	2	報告・ディスカッション (1)	プレゼンとQ&A技法の構築
	3	報告・ディスカッション (2)	プレゼンとQ&A技法の構築
	4	報告・ディスカッション (3)	プレゼンとQ&A技法の構築
	5	報告・ディスカッション (4)	プレゼンとQ&A技法の構築
	6	報告・ディスカッション (5)	プレゼンとQ&A技法の構築
	7	報告・ディスカッション (6)	プレゼンとQ&A技法の構築
	8	課外授業または社会人特別講師の授業	Q&A技法の構築
	9	報告・ディスカッション (7)	プレゼンとQ&A技法の構築
	10	報告・ディスカッション (8)	プレゼンとQ&A技法の構築
	11	報告・ディスカッション (9)	プレゼンとQ&A技法の構築
	12	報告・ディスカッション (10)	プレゼンとQ&A技法の構築
	13	報告・ディスカッション (11)	プレゼンとQ&A技法の構築
14	報告・ディスカッション (12)	プレゼンとQ&A技法の構築	
15	専門演習 I B の反省会・総括	配付資料の読み返し	
16	予備日	配付資料の読み返し	
テキスト・参考文献・資料など	<p>参考になる文献は適宜紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>①Microsoft TeamsほかSNSを用いた授業とします。 ②履修の心構え：単に出席しているだけでは単位の修得にはつながらない。積極的にプレゼンを実施するとともに、プレゼンを受ける場合は積極的な質問を心がける。 ③学びを深めるために：働く意味を考える。正課内外のキャリアについて意味づけをしてもらいたい。</p>		
評価	<p>平常点(30%)、レジュメやパワーポイントによるプレゼンテーション(40%)、課外学習における諸活動(30%)を総合的に評価する。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	専門演習 II A、キャリア支援課の利活用、就職や進学に向けた情報収集

※ポリシーとの関連性

経済・社会の問題を論理的に考え、意見を述べ、問題解決の方法を提案する力を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	3年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 演習 I Aでの学習を踏まえて、後期ではグループ別に興味のあるテーマについて調査を行い、その結果を発表・討議する。また、グループ活動を通して各自の卒論のテーマについても考えていく。	メッセージ グループによる調査、発表が主になるので、グループメンバーの役割分担をしっかりと行い、各自が積極的に参加することが大切。また、途中でスポーツ大会やレクレーションなどで親睦を深めることも必要。 【実務経験】民間研究所の経験を活かし企画提案の仕方、プレゼン方法、インタビューの方法等について教える。
	到達目標 経済・社会の問題を論理的に考えることができる。 学生同士協力しながら、問題解決の方法を提案することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義予定など）	前期の振り返りと後期の目標
	2	夏休み課題の発表とディスカッション	課題について考える
	3	外部講師による講義	講義テーマについて質問表作成
	4	グループによる調査研究 I（テーマ選択、研究の企画づくり）	テーマについて議論、企画書作成
	5	同上	同上
	6	グループによる調査研究 II（テーマに基づき統計データなどを収集し、分析する）	統計資料等調べる
	7	同上	同上
	8	グループによる調査研究 III（企業訪問、アンケート実施など）	企業訪問準備、アンケート作成
	9	同上	企業訪問、アンケート実施
	10	同上	同上
	11	中間発表	中間発表準備
	12	グループによる調査研究 IV（中間発表による反省を踏まえ、テーマを深堀していく）	報告まとめ
	13	同上	同上
	14	テーマについてグループ同士のディスカッション	発表に向けた準備
15	最終発表会	発表のリハーサル	
16	後期の反省および総括	卒論テーマを考える	
	テキスト・参考文献・資料など 特になし 適宜紹介する		
	学びの手立て 講義は毎回出席できること。また、遅刻は減点とするので時間はしっかり守ること。 毎回のゼミにおいては、目的意識を持って臨むようにする。		
	評価 発表への積極性、討議内容、出席及びレポートを総合的に評価する。 講義は毎回出席できること。また、遅刻は減点とするので時間はしっかり守ること。 受講態度（40点）プレゼン（50点）、提出物（10点）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年次における、卒論、就活の取り組みが明確な目標のもとできる。
-------	--

※ポリシーとの関連性 自ら考え、論理的に考察し、説明できる能力の基盤を形成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名 専門演習 I B	期 別 後期	曜日・時限 火 3	単 位 2
	担当者 宮城 和宏	対象年次 3 年	授業に関する問い合わせ kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地域の社会経済における諸課題を発見し、それに対して自分なりの見解をもてるようになることを目指す。そのためには、日頃から情報収集を行い、考察する習慣をもつこと、諸課題を自分の頭で考え、分析し、論理的に説明できる必要がある。本演習では、少なくとも沖縄が現在、抱えている課題等については、それぞれが自分なりの見解をもてるようになることを目指す。	メッセージ 専門ゼミを通じて、経済に関する知識・理解・判断・論理等の認知スキルだけでなく、社会生活や工作上必要な忍耐力・協調性・やり抜く力・自制心・リーダーシップ等の非認知スキルを獲得することにより、「ケイパビリティ（潜在能力）」を高めて将来の選択肢、自由度を増やせるようにしましょう。そのため、教室内の勉強だけでなく合宿等のゼミ活動にも積極的に参加してください。
	到達目標 1. 社会的・経済的な問題・課題を発見し、分析・考察することができる（情報収集・分析・考察能力）。 2. 問題・課題の本質を論理的に説明できる（論理力・説明能力）。 3. その論理が正しいかどうかを統計的検証や議論等の中で確認し、自分なりの問題解決方法（案）を見つけることができる（解決能力・リーダーシップ）。また間違っていれば、更なる情報収集・分析・考察を通じて再考することができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス（専門演習 II Bの進め方、目標等）	シラバスを事前に確認
	2	(対) 卒業論文について（なぜ卒業論文を書くのか、論文の作成要領等を説明）	論文作成に関する参考資料を読む
	3	(対) ①課題の発見とテーマ設定の検討	新聞、雑誌、書籍等からテーマ探し
	4	(対) ②課題の発見とテーマ設定の検討	新聞、雑誌、書籍等からテーマ探し
	5	(対) ①仮研究テーマ選定、選定理由についての発表・議論	報告準備
	6	(対) ②仮研究テーマ選定、選定理由についての発表・議論	報告準備
	7	(対) ①卒論構想の報告（テーマ、選定理由、構成・章立て、参考資料等）とディスカッション	報告準備
	8	(対) ②卒論構想の報告（テーマ、選定理由、構成・章立て、参考資料等）とディスカッション	報告準備
	9	(対) ③卒論構想の報告（テーマ、選定理由、構成・章立て、参考資料等）とディスカッション	報告準備
	10	(対) ④卒論構想の報告（テーマ、選定理由、構成・章立て、参考資料等）とディスカッション	報告準備
	11	(対) ⑤卒論構想の報告（テーマ、選定理由、構成・章立て、参考資料等）とディスカッション	報告準備
	12	(対) ⑥卒論構想の報告（テーマ、選定理由、構成・章立て、参考資料等）とディスカッション	報告準備
	13	(対) 予備日（企業訪問等）	訪問予定企業の事前リサーチ
	14	(対) 予備日（企業訪問等）	訪問予定企業の事前リサーチ
	15	(対) 後期の総括（目標到達度）と4年次に向けての課題を確認	後期の成果と課題を考える
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて適宜紹介する。		
	学びの手立て 社会・経済問題に関心を持つために日頃から新聞を読むようにしてください。また読書も心がけてください。		
	評価 評価は、レポート課題20%、対面あるいはオンライン授業における発表・ディスカッションにおける積極的な参加度・リーダー・シップや積極的な参加度等70%、授業全般の平常点10%により総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II A
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	3年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 文献を輪読し議論することを通して、論理的思考を身につける。	メッセージ ある議題について、賛成か反対かを聞かれることがあります。きちんとした理由をつけて自分の立場を説明することは、かなり難しいことです。ですがこの論理的能力を身につけておかないと、会社・社会人から大人扱いされません。トレーニングを通して論理的能力を高めていきましょう。
	到達目標 文献の内容を理解し、要約する。 文献内容に対する自分の意見を論理的に述べるができる。	

学びの準備	到達目標 文献の内容を理解し、要約する。 文献内容に対する自分の意見を論理的に述べるができる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス	シラバスを読む
	2	(対) 論理的思考の復習	予習次回用意。
	3	(対) 金融文献の講読・要約	予習次回用意
	4	(対) 金融文献の講読・要約	予習次回用意
	5	(対) 金融文献の講読・要約	予習次回用意
	6	(対) 金融文献の講読・議論	予習次回用意
	7	(対) 金融文献の講読・議論	予習次回用意
	8	(対) 金融文献の講読・議論	予習次回用意
	9	(対) 金融文献の講読・議論	予習次回用意
	10	(対) 金融文献の講読・議論	予習次回用意
	11	(対) 経済金融テーマの小論文	予習次回用意
	12	(対) 経済金融テーマの小論文	予習次回用意
	13	(対) 経済金融テーマの小論文	予習次回用意
	14	(対) 経済金融テーマの小論文	予習次回用意
15	(対) 経済金融テーマの小論文	予習次回用意	
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。適宜配布する。
-------	--------------------------------------

学びの実践	学びの手立て 講義中は積極的に意見交換をしましょう。 自分の意見・考えを他人が理解しやすいように工夫して伝える。
-------	--

学びの実践	評価 平常点 20%、発表・提出物 80%。
-------	---------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II AB
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小濱 武	4年	研究室5-531またはt.kohama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 各自の問題関心を深く掘り下げて詳細な調査・分析を行い、卒業論文を執筆する。	メッセージ 卒業論文のポイントの一つは、皆さんそれぞれが自分でテーマを選ぶということです。自分は、どのようなテーマに興味・関心を持っているのか。そうやって自らを問い続けた経験は、就職活動やその後の社会生活を送る上で必ずや皆さんの力となるはずです。
	到達目標 1) 経済社会に興味・関心を持ち、自ら問題を発見することができる。 2) 社会科学的な視点から、問題解決の方法を考えることができる。 3) 主体的に調査・研究した成果を発表し、論文を作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを事前に読む・次回準備
	2	論文テーマの報告	発表準備
	3	個人研究報告とディスカッション	個人研究、発表準備
	4	同上	個人研究、発表準備
	5	同上	個人研究、発表準備
	6	同上	個人研究、発表準備
	7	同上	個人研究、発表準備
	8	同上	個人研究、発表準備
	9	同上	個人研究、発表準備
	10	同上	個人研究、発表準備
	11	同上	個人研究、発表準備
	12	同上	個人研究、発表準備
	13	同上	個人研究、発表準備
	14	同上	個人研究、発表準備
15	前期の振り返りと論文執筆計画の作成	個人研究、発表準備	
16	総括（レポート提出）		
テキスト・参考文献・資料など 各自のテーマに応じて適宜紹介する。			
学びの手立て 1) ゼミでは、各自の発表とディスカッションが中心となる。 2) 自分の発表では、責任をもって準備を進めること。 3) 他のメンバーの発表では、積極的に発言すること。			
評価 ゼミへの参加態度50%、研究内容（発表+提出物）50%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習ⅡB
-------	-----------------------

※ポリシーとの関連性 「主体的に調査・研究」した成果を卒業論文にまとめ、各自の「知識」、「考察力」、「表現力」を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	4年	研究室 (5629)、またはmurakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習は、就職や進学を控えた4年次生を対象に開講される。4年間の学業の総括を「卒業論文」に成就させていく。実際には専門演習ⅡBにて提出するが、前期開講科目である本演習は、卒業論文の中間発表も行っていく。4月から7月までの間、各自毎月1回以上の中間報告(テーマ、章節など)を義務づける。	1)卒業論文は1.2万字以上を条件とする。 2)指定期日までに完全原稿として提出すること。 3)経済学科での学びの集大成として卒業論文の作成に取り組んでもらいたい。
到達目標	1)設定した研究テーマに対するアプローチの方法が定まっている。 2)卒業論文の骨組み(章や節)ができています。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション(前期)	マニュアルの精読、情報収集
	2	卒業研究の意義と報告割当 - 研究テーマの設定 -	情報収集、卒業論文執筆
	3	研究テーマの報告・ディスカッション(1)	情報収集、卒業論文執筆
	4	研究テーマ報告・ディスカッション(2)	情報収集、卒業論文執筆
	5	研究テーマの報告・ディスカッション(3)	情報収集、卒業論文執筆
	6	研究テーマの報告・ディスカッション(4)	情報収集、卒業論文執筆
	7	研究テーマの報告・ディスカッション(5)	情報収集、卒業論文執筆
8	工場見学または社会人特別講師による授業	講義ノートの精読	
9	研究テーマの報告・ディスカッション(6)	情報収集、卒業論文執筆	
10	研究テーマの報告・ディスカッション(7)	情報収集、卒業論文執筆	
11	研究テーマの報告・ディスカッション(8)	情報収集、卒業論文執筆	
12	研究テーマの報告・ディスカッション(9)	情報収集、卒業論文執筆	
13	研究テーマの報告・ディスカッション(10)	情報収集、卒業論文執筆	
14	研究テーマの報告・ディスカッション(11)	情報収集、卒業論文執筆	
15	前期のまとめ	情報収集、卒業論文執筆	
16	予備日	情報収集、卒業論文執筆	
テキスト・参考文献・資料など	必要に応じて適宜紹介する。		
学びの手立て	1)履修の心構え 単に出席するだけでは、単位の修得にはつながらない。自宅を中心に卒業論文のための情報収集そして執筆を心がけてもらいたい。 2)学びを深めるために インターネットの情報だけではなく、図書館の利用も心がけてもらいたい。		
評価	平常点(50%)、および毎月の卒業論文の中間報告(50%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習ⅡB、キャリア支援課の利活用、就職や進学に向けた情報収集および実践
-------	--

※ポリシーとの関連性

卒論作成を通して、経済・社会における問題を見つけ、論理的に考察し、明確な論理構成にもとづく文書作成力を磨く。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	4年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習Ⅰでは、沖縄の産業及び労働雇用問題に対する共通認識を踏まえ、グループでそれぞれのテーマにもとづき、アンケートやインタビュー調査等の実態調査を行った。専門演習Ⅱでは、各自設定したテーマを深く掘り下げて詳細な調査・分析を行い、卒業論文を作成する。特にテーマの制限はしない。各自で興味・関心のあるテーマを選ぶ。	メッセージ 大学の最終学年であり、これまで学んできた集大成を発揮するように卒論に取り組む。また、同時に就活にも積極的に取り組み、内定を確保して卒業できることを目指してください。
	到達目標 経済・社会における問題・課題を自ら発見することができる。 問題解決のための調査とそれを踏まえた提案をすることができる。 自らの考えを発表し論文を作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	卒論のテーマを考える
	2	論文テーマの報告	研究計画書を作成する
	3	調査方法等に関する討論	様々な調査方法を調べる
	4	同上	同上
	5	同上	同上
	6	各自の調査分析をもとにした報告とディスカッション テーマは県経済・労働雇用	テーマを調べたり発表の準備する
	7	同上	同上
	8	同上	同上
9	同上	同上	
10	同上	同上	
11	同上	同上	
12	同上	同上	
13	同上	同上	
14	同上	同上	
15	同上	同上	
16	前期の振り返りと総括	卒論テーマの発表	
	テキスト・参考文献・資料など 論文作成のための討議を中心とするため特に指定しない。 必要に応じて論文作成に必要な資料、文献等を紹介する。		
	学びの手立て 早い段階で卒論のテーマを決めること。 毎回出席し、自分の発表はもちろん他の学生の発表を聞き、積極的に発言すること。 卒論を作成に当たっては、ヒアリングやアンケート調査などの実態調査など、講義外での取り組みも重要になる。		
	評価 論文のプレゼンや討議内容、出席及び論文内容を総合的に評価する。 受講態度 (30点)、論文の毎回の発表及び論文の内容 (70点)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済学の学位を授与するにふさわしい能力を有し、社会に貢献できる人材となることを目指す。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	4年	オフィスアワー：火3（研究室5-526） E-mail：kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地域の社会経済に固有の諸課題を発見し、それに対して自分なりの見解をもてるようになることを目指す。そのためには、日頃から情報収集を行い、考察する習慣をもつこと、諸課題を自分の頭で考え、分析し、論理的に説明できる必要がある。本演習では、少なくとも沖縄が現在、抱えている課題等については、それぞれが自分なりの見解をもてるようになることを目指す。	ゼミナールは講義形式の授業とは異なり、皆さんの積極的な行動が求められます。単に知識を習得するだけでなく、報告・発表やゼミ活動等におけるやり抜く力、チームワーク、忍耐力、リーダーシップ等の非認知スキルの側面も重要なので忘れないようにしてください。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 卒業論文作成を通じて情報収集力、分析・考察力、論理的説明能力、解決案作成能力を身につけている 直面する諸課題に対して主体的に学び、考え、多様な立場を理解した上で自らの公正な判断・決断を行える 認知スキルと非認知スキルをバランスよく身につけている 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（専門演習ⅡAの概要・到達目標、進め方等）	シラバスを事前に確認
	2	今後の卒業論文報告の進め方	論文作成方法について確認する
	3	研究テーマの報告とディスカッション	報告担当者は発表の準備をする
	4	同上	報告担当者は発表の準備をする
	5	同上	報告担当者は発表の準備をする
	6	同上	報告担当者は発表の準備をする
	7	同上	報告担当者は発表の準備をする
8	同上	報告担当者は発表の準備をする	
9	同上	報告担当者は発表の準備をする	
10	同上	報告担当者は発表の準備をする	
11	同上	報告担当者は発表の準備をする	
12	同上	報告担当者は発表の準備をする	
13	同上	報告担当者は発表の準備をする	
14	同上	報告担当者は発表の準備をする	
15	前期の総括と後期に向けての課題を確認	前期の成果と課題を考える	
16	※15回のいずれかに合宿等の学外ゼミ活動を予定していますので参加すること		
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて適宜紹介する		
	学びの手立て 日頃から新聞の講読、読書等を通じて情報収集を心掛けてください。		
	評価 評価は、レポート課題の提出及び内容50%、対面授業での発表20%、オンライン授業での発表30%により総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習ⅡB
-------	-----------------------

※ポリシーとの関連性 「知識」「考察力」「表現力」の向上を目指す。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	4年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文のテーマを探索し決定する。 卒論の中間報告を行う。	メッセージ 身の回りのこと、社会現象等に対して自分なりの意見を持つように心がけてください。その根拠・理由を考え記録しておく、将来卒業論文に成長するかもしれません。
	到達目標 卒業論文のテーマを決定する。 卒業論文のテーマについて現時点の意見を明確にするとともに、意見の根拠・理由となるものを探る。 これらを中間報告で発表する。	

学びの準備	ねらい 卒業論文のテーマを探索し決定する。 卒論の中間報告を行う。	メッセージ 身の回りのこと、社会現象等に対して自分なりの意見を持つように心がけてください。その根拠・理由を考え記録しておく、将来卒業論文に成長するかもしれません。
	到達目標 卒業論文のテーマを決定する。 卒業論文のテーマについて現時点の意見を明確にするとともに、意見の根拠・理由となるものを探る。 これらを中間報告で発表する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスの確認
	2	卒業論文の概要・計画	復習。精読後理解する。
	3	卒業論文のテーマ探索	情報収集
	4	卒業論文のテーマ探索	情報収集
	5	経済分析の手法	復習。自分で処理可能にする。
	6	経済データ	復習。自分で処理可能にする。
	7	テーマの報告・ディスカッション	予習次回用意。
	8	テーマの報告・ディスカッション	予習次回用意。
	9	テーマの報告・ディスカッション	予習次回用意。
	10	意見理由の報告・ディスカッション	予習次回用意。
	11	意見理由の報告・ディスカッション	予習次回用意。
	12	意見理由の報告・ディスカッション	予習次回用意。
	13	卒業論文の中間報告	予習次回用意。
	14	卒業論文の中間報告	予習次回用意。
	15	卒業論文の中間報告	予習次回用意。
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。適宜配布する。
	学びの手立て 講義中は積極的に意見交換をしましょう。 自分の意見・考えを他人が理解しやすいように工夫して伝える。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。適宜配布する。
	学びの手立て 講義中は積極的に意見交換をしましょう。 自分の意見・考えを他人が理解しやすいように工夫して伝える。

学びの実践	評価 平常点20%、発表・提出物80%。

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習ⅡB
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	4年	huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習IIAでは、卒業論文を意識し、専門的知識を理論立てて調査・研究を習得する。	メッセージ 卒業論文を意識した個人ワークが増えるため、各自のタイムスケジュールと全体の進捗状況を鑑み、行動して欲しい。また、3年次で身につけた手法を積極的に論文作成・発表にアプライして欲しい。
	到達目標 1. 経済・社会の問題を論理的考え、説明することができる。 2. 調査・研究を学生どうして協力し、問題解決することができる。 3. 卒業論文のテーマを絞り、課題発表し、企画を提案・発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの確認 (授業内容確認など)	シラバスの確認 (ゼミ内容確認)
	2	地域経済に関する諸問題の情報収集 (個人ワーク)	新聞記事やネットから事前学習
	3	地域経済に関する諸問題の情報収集	課題を絞り込む
	4	地域経済に関する諸問題の情報分析	課題を決定し、解決手段を事前学習
	5	地域経済に関する諸問題の解決方法をまとめる	課題をP・Pで事前にまとめる
	6	地域経済に関する諸問題の解決方法をまとめる	課題をP・Pで事前にまとめる
	7	地域経済に関する諸問題の解決方法を発表	課題をP・Pで事前にまとめる
	8	地域経済に関する諸問題の解決方法を発表	課題をP・Pで事前にまとめる
9	特別講師 (経済・金融関係者)	特別講師について事前学習	
10	卒論に向けた研究計画作成	卒論のテーマを事前学習	
11	卒論に向けた研究計画作成	卒論のテーマを事前学習	
12	卒論に向けた研究計画作成	卒論のテーマを事前学習	
13	卒論に向けた研究計画作成	卒論のテーマを事前学習	
14	卒論に向けた研究計画作成	卒論のテーマを事前学習	
15	離島プロジェクト参加に向けて取り組み開始 (夏休み実施)	離島活性プロジェクト事前調査	
16	離島プロジェクト参加に向けて取り組み開始 (夏休み実施)	離島活性プロジェクト事前調査	
	テキスト・参考文献・資料など 経済に関する論文 レポート・論文の書き方 石井一成 ナツメ社 ゴールとプロセスの「見える化」近藤克則 医学書院		
	学びの手立て 1. 4年次ゼミでは、3年次で習得した知識と調査法、人脈を活用し卒業論文を意識すること。 2. 社会で求められる知識、考察力 (創造力)、表現力を身につけるため、積極的に課題に取り組みこと。		
	評価 前期では、卒論テーマを絞り、それに向けての各段階での作業を行っているかは重要な評価対象である。 作成管理能力 (時間配分) 20%、ゼミ論の内容 (本文) 50%、発表能力30%で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習IIB (経済) における最終学年の最終学期なので、4年間の就学の集大成と社会人への準備をする。
-------	---

※ポリシーとの関連性

本演習では、経済学の専門的知識を学び、その視座から経済社会を読み解く力を身につけ、課題解決に向けた提案力を養います。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	4年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門演習Ⅰで学んできたことをベースに、テーマを深め、情報分析し、まとめ、ディスカッションを通じて、大学での学びの成果を卒業論文という形で結集していくことを目的とします。</p>	<p>卒業論文作成には自ら仮説を立て、検証のための情報収集と分析を行い、その結果を言葉としてまとめていく一連の作業が求められます。与えられた課題ではなく、自ら設定した課題に解決策を考えていくことにより今後の社会生活をおくる上で重要な能力を身につけることができます。根気強く取り組みましょう。</p>
到達目標	<p>①自ら仮説を設定し、テーマに関する文献収集、調査・検証を行い、卒業論文を作成することができる。 ②論理的かつ説得的に卒業論文についてプレゼンテーションを行うことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンスー卒業論文作成に向けて	シラバスを読む
	2	(対) 卒業論文の作成についてーテーマと計画づくり、工程確認	テーマ確認と計画づくり
	3	(対) 卒業論文計画づくりー全体構想、構成の確認	卒論の様式・作法を学ぶ
	4	(対) 卒業論文構想に関する報告①	全体構成と文献の精査
	5	(対) 卒業論文構想に関する報告②	全体構成と文献の精査
	6	(対) 卒業論文構想に関する報告③	全体構成と文献の精査
	7	(対) 卒業論文構想に関する報告④	全体構成と文献の精査
8	(対) 卒業論文構想に関する報告⑤	全体構成と文献の精査	
9	(対) 卒業論文構想に関する報告⑥	全体構成と文献の精査	
10	(対) 卒業論文に関する中間報告①	中間報告準備	
11	(対) 卒業論文に関する中間報告②	中間報告準備	
12	(対) 卒業論文に関する中間報告③	中間報告準備	
13	(対) 卒業論文に関する中間報告④	中間報告準備	
14	(対) 卒業論文に関する中間報告⑤	中間報告準備	
15	(対) 卒業論文作成に関しての確認事項について	中間報告準備	
16	※個々人の進捗状況に応じて執筆指導を行う。		
テキスト・参考文献・資料など	※各自の卒論テーマに関する文献・論文報告を通じて関連文献を適宜とりあげていきます。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○履修の心構え 出席を必須とします。積極的な意見、議論への参加を求めます。 卒論作成を通して、一つのテーマに関して考え抜く力を養います。 ○学びを深めるために 忍耐強く問題と向き合うことにより、社会人に求められる課題解決能力を醸成することができます。 ○基本は対面演習ですが、状況により特例講義を行い、Microsoft teams等でグループワークを行います。 		
評価	<p>卒業論文の準備・中間報告（70%）とディスカッションへの貢献（30%）が本演習の評価基準となる。 また、演習への参加態度、発言・発表内容等についても到達目標②に関連して評価する。 ※欠席が3分の1を超える場合は「不可」</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	卒論作成作業を通じて、課題解決に向けて考え抜く社会人基礎力の醸成します。

※ポリシーとの関連性 経済現象を科学的に分析し、社会の動きを論理的に読み取る能力を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	4年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の作成を通じて、論理的思考力の向上を図るとともに、経済現象を科学的に分析する能力を養う。	メッセージ 卒業論文の作成は、4年間の大学生活の集大成となる作業です。各自スケジュール管理を徹底し、論文の完成に向けて継続的に作業を行ってください。
	到達目標 卒業論文の作成を通じて、論理的思考力・科学的分析力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義説明、専門演習ⅡAの目標設定、アンケート等 -	シラバスの確認
	2	卒業論文の書き方 - 研究テーマの選定等 -	指定文献の精読
	3	卒業論文テーマ発表① - 研究テーマ、問題意識等 -	文献収集、調査
	4	卒業論文テーマ発表② - 研究テーマ、問題意識等 -	文献収集、調査
	5	卒業論文テーマ発表③ - 研究テーマ、問題意識等 -	文献収集、調査
	6	卒業論文テーマ発表④ - 研究テーマ、問題意識等 -	文献収集、調査
	7	卒業論文進捗状況報告① - 目次、問題意識、先行研究等 -	調査分析、論文の執筆
	8	卒業論文進捗状況報告② - 目次、問題意識、先行研究等 -	調査分析、論文の執筆
	9	卒業論文進捗状況報告③ - 目次、問題意識、先行研究等 -	調査分析、論文の執筆
	10	卒業論文進捗状況報告④ - 目次、問題意識、先行研究等 -	調査分析、論文の執筆
	11	卒業論文進捗状況報告⑤ - 目次、問題意識、先行研究等 -	調査分析、論文の執筆
	12	卒業論文進捗状況報告⑥ - 目次、問題意識、先行研究等 -	調査分析、論文の執筆
	13	卒業論文進捗状況報告⑦ - 目次、問題意識、先行研究等 -	調査分析、論文の執筆
	14	大学生活自己評価① - 卒論進捗状況、修学の状況、就職状況等 -	大学生活の自己評価、卒論の確認
15	大学生活自己評価① - 卒論進捗状況、修学の状況、就職状況等 -	大学生活の自己評価、卒論の確認	
16	講義のまとめ	大学生活の自己評価、卒論の確認	
	テキスト・参考文献・資料など 特になし（適宜資料を配布する）。		
	学びの手立て 卒論については中間報告会と最終報告会を行うので、各報告会に間に合うように卒論の執筆を行うこと。		
	評価 受講態度（50%）、提出物（50%）で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習ⅡB
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	4年	メールまたはLINEで受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習は、就職や進学を控えた4年次生を対象とし、4年間の学業の集大成としての「卒業論文」の執筆を進めることが中心となるが、さらに経済学の専門知識を深めるための輪読も同時に行う。	大学生生活の集大成としての卒業論文の執筆を早い時期から継続して進めることで、より質の高い出来を目指していきましょう。

到達目標
1. 設定したテーマについて、十分な資料収集が行える。
2. 卒業論文のアウトラインをができています。
3. テーマに沿った資料（学術書）の内容を理解し、適切に要約しながら、卒業論文の執筆を進めることができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：演習の進め方・評価方法などについて	事前にシラバスを読む
	2	卒業論文の進め方1：テーマの設定	テーマの検討
	3	卒業論文の進め方2：文献リストの作成	資料収集
	4	卒業論文の進め方3：目次を作る	資料収集・卒業論文執筆
	5	卒業論文の進め方4：テーマの見直し（改訂）	資料収集・卒業論文執筆
	6	卒業論文の進め方5：「はじめに」と「おわりに」を書く	資料収集・卒業論文執筆
	7	卒業論文テーマの報告・ディスカッション1	資料収集・卒業論文執筆
	8	卒業論文テーマの報告・ディスカッション2	資料収集・卒業論文執筆
	9	卒業論文テーマの報告・ディスカッション3	資料収集・卒業論文執筆
	10	卒業論文テーマの報告・ディスカッション4	資料収集・卒業論文執筆
	11	卒業論文テーマの報告・ディスカッション5	資料収集・卒業論文執筆
	12	卒業論文テーマの報告・ディスカッション6	資料収集・卒業論文執筆
	13	卒業論文テーマの報告・ディスカッション7	資料収集・卒業論文執筆
14	卒業論文テーマの報告・ディスカッション8	資料収集・卒業論文執筆	
15	総括	資料収集・卒業論文執筆	
16	予備日	資料収集・卒業論文執筆	
テキスト・参考文献・資料など	必要に応じて適宜紹介する		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。 欠席の場合、就職活動に関わる理由でもゼミ開始前に必ず連絡をすること。 無断欠席が続く場合、以後の受講を認めない場合がある。 		
評価	受講態度50%，卒業論文の進捗状況（中間報告含む）50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習ⅡB
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小濱 武	4年	研究室5-531またはt.kohama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 各自の問題関心を深く掘り下げて詳細な調査・分析を行い、卒業論文を執筆する。	メッセージ 卒業論文のポイントの一つは、皆さんそれぞれが自分で責任をもって調査・研究・執筆を進めるということです。限られた時間の中で、どのようなスケジュールであれば論文を期日までに完成させることができるか。そうやって自らをマネジメントした経験は、就職活動やその後の社会生活を送る上で必ずや皆さんの力となるはずですよ。
	到達目標 1) 経済社会に興味・関心を持ち、自ら問題を発見することができる。 2) 社会科学的な視点から、問題解決の方法を考えることができる。 3) 主体的に調査・研究した成果を発表し、論文を作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) オリエンテーション	シラバスを事前に読む・次回準備
	2	(対) 個人研究報告とディスカッション	個人研究、論文執筆
	3	(対) 個人研究報告とディスカッション	個人研究、論文執筆
	4	(対) 個人研究報告とディスカッション	個人研究、論文執筆
	5	(対) 個人研究報告とディスカッション	個人研究、論文執筆
	6	(対) 個人研究報告とディスカッション	個人研究、論文執筆
	7	(対) 個人研究報告とディスカッション	個人研究、論文執筆
	8	(対) 個人研究報告とディスカッション	個人研究、論文執筆
9	(対) 個人研究報告とディスカッション	個人研究、論文執筆	
10	(対) 個人研究報告とディスカッション	個人研究、論文執筆	
11	(対) 個人研究報告とディスカッション	個人研究、論文執筆	
12	(対) 個人研究報告とディスカッション	個人研究、論文執筆	
13	(対) 論文仮提出、修正	論文の加筆修正	
14	(対) 論文仮提出、修正	論文の加筆修正	
15	(対) 卒業論文提出	卒業論文の完成	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など 各自のテーマに応じて適宜紹介する。		
	学びの手立て 責任をもって自分の論文を作成すること。 不適切な引用については、不正行為として厳正に対処する。		
	評価 ゼミへの参加態度50%、論文の内容50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済学の学位に値する能力を有し、社会に貢献できる人材となることを目指す。
-------	---

※ポリシーとの関連性

「主体的に調査・研究」した成果を卒業論文にまとめ、「知識」、「考察力」、「表現力」を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	4年	研究室(5629)、またはmurakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文の作成は、大学生生活の総決算の意味も持ち合わせている。専門演習ⅡAとともに、また大学で何を学んだかも併せ持って執筆に臨んでもらいたい。卒業論文の提出までには、次の3段階を踏まえる必要がある1) 10月から12月までの間、各自毎月1回以上の中間報告(テーマ、章節など)、2) 卒業論文の中間提出(期日厳守)、3) 完成した卒業論文の最終提出(期日厳守)。	1) 卒業論文は1.2万字以上を条件とする。 2) 指定期日までに完全原稿として提出すること。 3) 経済学科での学びの集大成として卒業論文の作成に取り組んでもらいたい。
到達目標	卒業論文の完成、卒業後の進路決定	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション(後期)	卒論マニュアルの精読、論文執筆
	2	卒業研究の中間発表の割り当て・解説など	情報収集、卒業論文執筆
	3	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション①	情報収集、卒業論文執筆
	4	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション②	情報収集、卒業論文執筆
	5	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション③	情報収集、卒業論文執筆
	6	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション④	情報収集、卒業論文執筆
	7	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション⑤	情報収集、卒業論文執筆
8	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション⑥	情報収集、卒業論文執筆	
9	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション⑦	情報収集、卒業論文執筆	
10	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション⑧	情報収集、卒業論文執筆	
11	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション⑨	情報収集、卒業論文執筆	
12	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション⑩	情報収集、卒業論文執筆	
13	卒業論文仮提出・修正①	卒業論文の加筆修正	
14	卒業論文仮提出・修正②	卒業論文の加筆修正	
15	卒業論文仕上げ・提出	卒業論文の完成と提出	
16	予備日		
実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて適宜紹介する。		
	学びの手立て 1) Microsoft Teamsによる授業を前提とします。 2) 履修の心構えとしては、単に出席するだけでは、単位の修得にはつながらない。自宅を中心に卒業論文のための情報収集そして執筆を心がけてもらいたい。 3) 学びを深めるために□ インターネットの情報だけではなく、図書館の利用も心がけてもらいたい。		
	評価 平常点(50%)、卒業論文(50%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 キャリア支援課の利活用、就職や進学に向けた情報収集および実践
-------	---

※ポリシーとの関連性

卒論作成を通して、経済・社会における問題を見つけ、論理的に考察し、明確な論理構成にもとづく文書作成力を磨く。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	4年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習ⅡAで行った基礎調査や報告を踏まえ、卒業論文を仕上げていく。大学4年間の集大成として卒業論文を仕上げることでできるよう、指導・助言を行っていきたい。	メッセージ 大学の最終学年であり、これまで学んできた集大成を發揮するように卒論に取り組む。また、同時に就活にも積極的に取り組み、内定を確保して卒業できることを目指してください。息抜きのリフレッシュなども自主的に企画することを望む。
	到達目標 経済・社会における問題・課題を自ら発見することができる。問題解決のための調査とそれを踏まえた提案をすることができる。自らの考えを発表し論文を作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	卒論テーマ確定
	2	卒論形式、卒論の書き方について	卒論項目案を考える
	3	卒論の経過報告とディスカッション	卒論計画書作成
	4	同上	卒論作成
	5	同上	同上
	6	同上	同上
	7	同上	同上
	8	同上	同上
9	卒論の中間発表Ⅰ	発表の準備	
10	卒論の中間発表Ⅱ	同上	
11	卒論の経過報告とディスカッション	卒論作成	
12	同上	卒論作成	
13	同上	卒論作成	
14	卒論の仮提出	卒論作成	
15	仮提出に基づく修正	卒論作成と修正	
16	卒論最終提出	卒論完成に向けた作業	
実践	テキスト・参考文献・資料など 論文作成のための討議を中心とするため特に指定しない。必要に応じて論文作成に必要な資料、文献等を紹介する		
	学びの手立て 毎回出席し、自分の発表はもちろん他の学生の発表を聞き、積極的に発言すること。卒論を作成に当たっては、ヒアリングやアンケート調査などの実態調査など、講義外での取り組みも重要になる。		
	評価 卒業論文のプレゼンや討議内容、出席及び論文内容を総合的に評価する。受講態度 (20)、毎回の講義における論文の発表と討議内容及び卒業論文 (80点)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済学の学位を授与するにふさわしい能力を有し、社会に貢献できる人材となることを目指す。
-------	--

科目基本情報	科目名 専門演習ⅡB	期別 後期	曜日・時限 火2	単位 2
	担当者 宮城 和宏	対象年次 4年	授業に関する問い合わせ オフィスアワー：火3（研究室5-526） E-mail：kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 今後の社会変化に対応するためには現在有効な知識の習得だけではなく、自ら情報収集を行い、分析・考察し、論理的に説明できる能力や自分なりの正解を提示できるようになることが重要です。また認知スキルの側面だけでなく、ゼミ活動を通じた非認知スキルの側面も重要です。専門演習ⅡBでは卒論作成だけでなくゼミ合宿等の学外ゼミ活動を通じてこれらの能力の向上を目指します。	メッセージ ゼミは講義形式の授業とは異なり、皆さんの積極的な行動が求められます。単に知識を習得するだけでなく、報告・発表やゼミ活動等におけるやり抜く力、チームワーク、忍耐力、リーダーシップ等の非認知スキルの側面も重要なので忘れないようにしてください。
	到達目標 1. 卒業論文作成を通じて情報収集力、分析・考察力、論理的説明能力、解決案作成能力を身につけている 2. 直面する諸課題に対して主体的に学び、考え、多様な立場を理解した上で自らの公正な判断・決断を行える 3. 認知スキルと非認知スキルをバランスよく身につけている	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) オリエンテーション (演習の進め方等)	シラバスを事前に確認
	2	(対) 研究テーマの報告とディスカッション	報告担当者は発表の準備をする
	3	(対) 同上	報告担当者は発表の準備をする
	4	(対) 同上	報告担当者は発表の準備をする
	5	(対) 同上	報告担当者は発表の準備をする
	6	(対) 同上	報告担当者は発表の準備をする
	7	(対) 同上	報告担当者は発表の準備をする
	8	(対) 同上	報告担当者は発表の準備をする
	9	(対) 同上	報告担当者は発表の準備をする
	10	(対) 同上	報告担当者は発表の準備をする
	11	(対) 同上	報告担当者は発表の準備をする
	12	(対) 同上	報告担当者は発表の準備をする
	13	(対) 同上	報告担当者は発表の準備をする
	14	(対) 卒業論文発表	論文を完成させ発表の準備をする
	15	(対) 卒業論文発表	論文を完成させ発表の準備をする
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて適宜紹介する。		
	学びの手立て 日頃から新聞購読、読書等を通じて情報収集を心掛けてください。		
	評価 評価は、授業における発表60%、ディスカッションにおける積極的な参加度20%、授業全般の平常点20%により総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 特になし
-------	---------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	4年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習ⅡAで決定した卒業論文テーマについて調査研究を重ね、卒業論文を完成させる。卒業論文の報告会。	メッセージ 身の回りのこと、社会現象等に対して自分なりの意見を持つように心がけてください。その根拠・理由を考え記録しておく、将来卒業論文に成長するかもしれません。
	到達目標 卒業論文の完成。卒業論文の報告会。	

学びの準備	到達目標 卒業論文の完成。卒業論文の報告会。
-------	---------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス	シラバスの確認
	2	(対) 卒業論文の進捗状況を報告・ディスカッション	資料収集・論文執筆
	3	(対) 卒業論文の進捗状況を報告・ディスカッション	資料収集・論文執筆
	4	(対) 卒業論文の進捗状況を報告・ディスカッション	資料収集・論文執筆
	5	(対) 卒業論文の進捗状況を報告・ディスカッション	資料収集・論文執筆
	6	(対) 卒業論文の進捗状況を報告・ディスカッション	資料収集・論文執筆
	7	(対) 卒業論文の進捗状況を報告・個別指導	資料収集・論文執筆
	8	(対) 卒業論文の進捗状況を報告・個別指導	資料収集・論文執筆
	9	(対) 卒業論文の進捗状況を報告・個別指導	資料収集・論文執筆
	10	(対) 卒業論文の進捗状況を報告・個別指導	資料収集・論文執筆
	11	(対) 卒業論文の進捗状況を報告・個別指導	資料収集・論文執筆
	12	(対) 卒業論文の提出・修正1	論文の加筆修正
	13	(対) 卒業論文の提出・修正2	論文の加筆修正
	14	(対) 卒業論文の提出・修正3	卒業論文の完成
	15	(対) 卒業論文報告会	報告会パワーポイントの作成
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。適宜配布する。
-------	--------------------------------------

学びの実践	学びの手立て 講義中は積極的に意見交換をしましょう。 自分の意見・考えを他人が理解しやすいように工夫して伝える。
-------	--

学びの実践	評価 平常点20%、発表・提出物80%。
-------	-------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 特になし
-------	---------------------

※ポリシーとの関連性

専門演習IIBのカリキュラム・ポリシーと同じで、主体的に調査・研究し、報告・議論、発表する能力を付けることを目的とする。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習IIB	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	4年	huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習IIBでは、卒業論文のテーマを絞り、調査・研究、発表を行い、4年間の就学の集大成とする。	メッセージ 遠隔授業を中心になると思いますが、引き続き卒業論文完成に向けて、関連文献や先行研究の収集や分析を行い、12月をめどに最終指導と体裁を整え完成させる。
	到達目標 1. 習得した知識でテーマを絞ることができる。 2. 習得した調査法・研究法を卒業論文作成にアプライする。 3. 卒業論文の企画・報告・修正などを通して、単位習得のために論文提出と発表することができる。	

学びの準備	到達目標 1. 習得した知識でテーマを絞ることができる。 2. 習得した調査法・研究法を卒業論文作成にアプライする。 3. 卒業論文の企画・報告・修正などを通して、単位習得のために論文提出と発表することができる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの確認 (授業内容確認など)	シラバスの確認
	2	前期のプロジェクトの報告会 (離島振興プロジェクト)	報告に向けてP・P作成
	3	前期のプロジェクトの報告会	報告に向けてP・P発表準備
	4	前期で調査した卒論のテーマを再検討	卒論のテーマの資料作成事前学習
	5	卒論のテーマを決定・発表 (コンセプト)	卒論のテーマの資料作成事前学習
	6	卒論のテーマを決定・発表 (コンセプト)	卒論のテーマの資料作成事前学習
	7	卒論のテーマを決定・発表 (コンセプト)	卒論の内容に取り掛かる事前学習
	8	テーマに関する論文構成を決定し、内容に取り組む	卒論の内容に取り掛かる事前学習
	9	テーマに関する論文構成を決定し、内容に取り組む	卒論の内容に取り掛かる事前学習
	10	テーマに関する論文構成を決定し、内容に取り組む	担当教官と取り組む
	11	テーマに関する論文修正し、内容に取り組む	担当教官と取り組む
	12	テーマに関する論文修正し、内容に取り組む	担当教官と取り組む
	13	テーマに関する論文修正し、内容に取り組む	担当教官と取り組む
	14	テーマに関する論文修正し、内容に取り組む	担当教官と取り組む
	15	論文発表	卒論最終発表の準備
16	論文発表	卒論最終発表の準備	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 経済に関する報告書や論文 レポート・論文の書き方 石井一成 ナツメ社 ゴールとプロセスの「見える化」近藤克則 医学書院
-------	---

学びの実践	学びの手立て 1. 前期で習得した知識と調査法、人脈を活用し卒業論文を作成する。 2. 社会で求められる知識、考察力 (創造力)、表現力を身に着けるため、積極的に課題に取り組みこと。
-------	---

学びの実践	評価 卒論を完成させるので、それに向けての各段階での作業を行っているかは重要な評価対象である。 作成管理能力 (時間配分) 20%、ゼミ論の内容 (本文) 50%、発表能力30%で評価する。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年間の就学の集大成卒業論文を完成させ、社会人として、地域の自立及び国際社会の発展に寄与すること。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本演習では、経済学の専門的知識を学び、その視座から経済社会を読み解く力を身につけ、他者と議論する力を養います。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	4年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門演習Ⅰで学んできたことをベースに、テーマを深め、情報分析し、まとめ、ディスカッションを通じて、大学での学びの成果を卒論という形で結集していくことを目的とします。</p>	<p>卒業論文作成には自ら仮説を立て、検証のための情報収集と分析を行い、その結果を言葉としてまとめていく一連の作業が求められます。与えられた課題ではなく、自ら設定した課題に解決策を考えていくことにより今後の社会生活をおくる上で重要な能力を身につけることができます。根気強く取り組みましょう。</p>
到達目標	<p>①自ら仮説を設定し、テーマに関する文献収集、調査・検証を行い、卒業論文を作成することができる。 ②論理的かつ説得的に卒業論文についてプレゼンテーションを行うことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>(対) ガイダンスー卒業論文の執筆について</td><td>前期の振り返り</td></tr> <tr><td>2</td><td>(対) 卒業論文の中間報告①</td><td>先行研究整理、調査分析結果の確認</td></tr> <tr><td>3</td><td>(対) 卒業論文の中間報告②</td><td>先行研究整理、調査分析結果の確認</td></tr> <tr><td>4</td><td>(対) 卒業論文の中間報告③</td><td>先行研究整理、調査分析結果の確認</td></tr> <tr><td>5</td><td>(対) 卒業論文の中間報告④</td><td>先行研究整理、調査分析結果の確認</td></tr> <tr><td>6</td><td>(対) 卒業論文の中間報告⑤</td><td>先行研究整理、調査分析結果の確認</td></tr> <tr><td>7</td><td>(対) 卒業論文の執筆指導の進捗確認①</td><td>卒論指導</td></tr> <tr><td>8</td><td>(対) 卒業論文の執筆指導の進捗確認②</td><td>卒論指導</td></tr> <tr><td>9</td><td>(対) 卒業論文の執筆指導の進捗確認③</td><td>卒論指導</td></tr> <tr><td>10</td><td>(対) 卒業論文の執筆指導の進捗確認④</td><td>卒論指導</td></tr> <tr><td>11</td><td>(対) 卒業論文の執筆指導の進捗確認⑤</td><td>卒論指導</td></tr> <tr><td>12</td><td>(対) 卒業論文の報告に向けた準備①ー論文作成</td><td>卒論添削等への対応</td></tr> <tr><td>13</td><td>(対) 卒業論文の報告に向けた準備②ー論文作成</td><td>卒論添削等への対応</td></tr> <tr><td>14</td><td>(対) 卒業論文の報告に向けた準備③ー論文作成</td><td>卒論添削等への対応</td></tr> <tr><td>15</td><td>(対) 卒論提出</td><td>卒論、体裁等の確認</td></tr> <tr><td>16</td><td colspan="2">※個々人の進捗状況に応じて執筆指導を行う。</td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	(対) ガイダンスー卒業論文の執筆について	前期の振り返り	2	(対) 卒業論文の中間報告①	先行研究整理、調査分析結果の確認	3	(対) 卒業論文の中間報告②	先行研究整理、調査分析結果の確認	4	(対) 卒業論文の中間報告③	先行研究整理、調査分析結果の確認	5	(対) 卒業論文の中間報告④	先行研究整理、調査分析結果の確認	6	(対) 卒業論文の中間報告⑤	先行研究整理、調査分析結果の確認	7	(対) 卒業論文の執筆指導の進捗確認①	卒論指導	8	(対) 卒業論文の執筆指導の進捗確認②	卒論指導	9	(対) 卒業論文の執筆指導の進捗確認③	卒論指導	10	(対) 卒業論文の執筆指導の進捗確認④	卒論指導	11	(対) 卒業論文の執筆指導の進捗確認⑤	卒論指導	12	(対) 卒業論文の報告に向けた準備①ー論文作成	卒論添削等への対応	13	(対) 卒業論文の報告に向けた準備②ー論文作成	卒論添削等への対応	14	(対) 卒業論文の報告に向けた準備③ー論文作成	卒論添削等への対応	15	(対) 卒論提出	卒論、体裁等の確認	16	※個々人の進捗状況に応じて執筆指導を行う。		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	(対) ガイダンスー卒業論文の執筆について	前期の振り返り																																																			
2	(対) 卒業論文の中間報告①	先行研究整理、調査分析結果の確認																																																			
3	(対) 卒業論文の中間報告②	先行研究整理、調査分析結果の確認																																																			
4	(対) 卒業論文の中間報告③	先行研究整理、調査分析結果の確認																																																			
5	(対) 卒業論文の中間報告④	先行研究整理、調査分析結果の確認																																																			
6	(対) 卒業論文の中間報告⑤	先行研究整理、調査分析結果の確認																																																			
7	(対) 卒業論文の執筆指導の進捗確認①	卒論指導																																																			
8	(対) 卒業論文の執筆指導の進捗確認②	卒論指導																																																			
9	(対) 卒業論文の執筆指導の進捗確認③	卒論指導																																																			
10	(対) 卒業論文の執筆指導の進捗確認④	卒論指導																																																			
11	(対) 卒業論文の執筆指導の進捗確認⑤	卒論指導																																																			
12	(対) 卒業論文の報告に向けた準備①ー論文作成	卒論添削等への対応																																																			
13	(対) 卒業論文の報告に向けた準備②ー論文作成	卒論添削等への対応																																																			
14	(対) 卒業論文の報告に向けた準備③ー論文作成	卒論添削等への対応																																																			
15	(対) 卒論提出	卒論、体裁等の確認																																																			
16	※個々人の進捗状況に応じて執筆指導を行う。																																																				
テキスト・参考文献・資料など	※各自の卒論テーマに関する文献・論文報告を通じて関連文献を適宜とりあげていきます。																																																				
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○履修の心構え 出席を必須とします。積極的な意見、議論への参加を求めます。卒論作成を通して、一つのテーマに関して考え抜く力を養います。 ○学びを深めるために 忍耐強く問題と向き合うことにより、社会人に求められる課題解決能力を醸成することができます。 ○基本は対面演習ですが、状況により特例講義を行い、Microsoft teams等でグループワークを行います。 																																																				
評価	<p>卒論提出を必須とします(80%)。達成度に関しては卒論中間報告と内容(10%)、演習への参加態度、発言・発表内容等(10%)から総合的に評価します。 ※欠席が3分の1を超える場合は「不可」</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒論作成作業を通じて、課題解決に向けて考え抜く社会人基礎力の醸成します。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 経済現象を科学的に分析し、社会の動きを論理的に読み取る能力を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	4年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の作成を通じて、論理的思考力の向上を図るとともに、経済現象を科学的に分析する能力を養う。	メッセージ 卒業論文の作成は、4年間の大学生活の集大成となる作業です。各自スケジュール管理を徹底し、論文の完成に向けて継続的に作業を行ってください。
	到達目標 卒業論文の作成を通じて、論理的思考力・科学的分析力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義説明、卒業論文進捗状況、中間報告会について - (対)	指定文献の精読
	2	卒業論文の書き方 - 参考文献の記載方法等 - (対)	指定文献の精読
	3	卒業論文中間報告① (対)	調査・分析、論文の執筆
	4	卒業論文中間報告② (対)	調査・分析、論文の執筆
	5	卒業論文中間報告③ (対)	調査・分析、論文の執筆
	6	卒業論文中間報告④ (対)	調査・分析、論文の執筆
	7	卒業論文中間報告⑤ (対)	調査・分析、論文の執筆
	8	卒業論文中間報告⑥ (対)	調査・分析、論文の執筆
	9	卒業論文中間報告⑦ (対)	調査・分析、論文の執筆
	10	卒業論文中間報告⑧ (対)	調査・分析、論文の執筆
	11	卒業論文中間評価① - 進捗状況等の確認 - (対)	調査・分析、論文の執筆
	12	卒業論文中間評価② - 進捗状況等の確認 - (対)	調査・分析、論文の執筆
	13	卒業論文最終報告① (対)	論文の執筆
	14	卒業論文最終報告② (対)	論文の執筆
15	講義のまとめ① (対)	卒論の確認	
16	講義のまとめ② (対)	卒論の確認	
テキスト・参考文献・資料など 特になし(適宜、資料を配布する)。			
学びの手立て 卒論報告会(中間報告・最終報告)に間に合うように論文の執筆を行うこと。			
評価 受講態度(50%)、提出物(50%)で評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習ⅡA
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	4年	メール、LINEで受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本演習は、4年間の学業の集大成としての「卒業論文」の執筆を進めることが中心となる。	メッセージ 卒業論文の完成度を高めるために、粘り強く最後まで気を抜かず取り組みましょう。
	到達目標 1. 設定したテーマについて適切な資料を用い、的確な考察と表現を伴う卒業論文を完成させることができる。 2. 卒業論文の内容について、決められた時間内で十分な発表をすることができる。	

学びの準備	到達目標 1. 設定したテーマについて適切な資料を用い、的確な考察と表現を伴う卒業論文を完成させることができる。 2. 卒業論文の内容について、決められた時間内で十分な発表をすることができる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	(特)オリエンテーション
	2	(特)卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション1
	3	(特)卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション2
	4	(特)卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション3
	5	(特)卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション4
	6	(特)卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション5
	7	(特)卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション6
	8	(特)卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション7
	9	(特)卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション8
	10	(特)卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション9
	11	(特)卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション10
	12	(特)卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション11
	13	(特)卒業論文仮提出・修正1
	14	(特)卒業論文仮提出・修正2
	15	(特)卒業論文提出
16	予備日	
		時間外学習の内容
		事前にシラバスを読む
		資料収集・論文執筆
		資料収集・論文執筆
		資料収集・論文執筆
		資料収集・論文執筆
		資料収集・論文執筆
		資料収集・論文執筆
		資料収集・論文執筆
		資料収集・論文執筆
		論文の加筆修正
		論文の加筆修正
		卒業論文の完成

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて適宜紹介する。
-------	---------------------------------

学びの実践	学びの手立て ・ゼミへの出席（卒業論文の進捗報告およびディスカッション）と卒業論文の執筆（時間外学習）の双方に真摯に取り組むこと。 ・無断欠席厳禁！！
-------	---

学びの実践	評価 参加態度（論文進捗報告・ディスカッション）：50% 卒業論文執筆：50%
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：専門演習ⅡA
-------	----------------------------

※ポリシーとの関連性

本講義では、①経済学の基礎的・専門的知識を学びつつ、②経済社会問題を考察し、③課題解決の視点を得ることを目的とします。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域経済論	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	3年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	経済学的な視点から「地域」を捉え、地域間の相互関係や成り立ち、地域の社会経済システムの全体像を学びます。講義全体を通して、地域の展望を描くための基礎を習得すること、そして、地域課題の発見と解決に向けた発案・提案力を得ることを目的とします。	【実務経験】コンサルタント調査・研究員の経験を活かして、県内各地域で行われている地域活性化事例について紹介します。「地域」を観察窓として、身の回りの経済情勢変化を読み解く力を身に付けることを目指します。社会への幅広い関心を持つために、まず身近な「地域」に関心を寄せることから始めましょう。
到達目標	①地域経済を理解し、読み解くための理論を学び、地域経済論の基本的な考え方を理解することができる。 ②都市や農村における地域問題の生成とその背景を学び、現在の地域が抱える課題を捉えることができる。 ③地域の課題解決のための政策、制度設計について考える力を修得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス、授業評価方法等について	シラバスを読む
	2	(特) 地域経済を学ぶ視点—その対象とアプローチ	地域経済関連の統計資料を調べる
	3	(特) 地域経済と国民経済—地域経済分析の手法	参考文献①、②参照
	4	(特) 地域経済の諸理論 (1) —成長の極理論	参考文献①、②参照
	5	(特) 地域経済の諸理論 (2) —産業立地論、産業集積論	参考文献②、③参照
	6	(特) 地域経済の理論と政策	参考文献②、③参照
	7	(特) グローバル化と地域経済の現状	地域産業の現状について調べる
	8	(特) 講義前半のまとめ—理論と政策	講義前半のまとめ
	9	(特) 日本の地域開発政策の展開 (1) —地域政策の登場と国土計画	参考文献③参照
	10	(特) 日本の地域開発政策の展開 (2) —全国総合開発計画の展開	参考文献③参照
	11	(特) 国土計画から地域産業政策へ—産業クラスター政策	参考文献①、④参照
	12	(特) 地域経済と地方財政—国土計画と地方財政の役割	参考文献①、④参照
	13	(特) 地域経済と地方財政—公共事業の展開	参考文献①、④参照
	14	(特) 地域再生・地域づくりに向けた取組 (1) —地域活性化の取組事例紹介	全国の地域活性化事例を調べる
15	(特) 地域再生・地域づくりに向けた取組 (2) —県内の6次産業化の取組	県内の地域活性化事例を調べる	
16	(特) 期末課題	講義の振り返りを行う	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは用いませんが、以下の参考文献等を事前・事後学習に活用してください。その他の参考文献については、講義中に適宜紹介します。また講義は配布資料、プリントを用意します。 【参考文献】①岡田知弘他著 (2016) 『国際化時代の地域経済学【第4版】』有斐閣アルマ、②中村剛治郎著 (2004) 『地域政治経済学』有斐閣、③中村剛治郎他著 (2008) 『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣ブックス、④岡田知弘 (2005) 『地域づくりの経済学入門』自治体研究社

学びの実践	学びの手立て
	○履修の心構え 講義資料をポータルで提供し、資料に基づきMicrosoft teamsを活用して遠隔講義を実施します。「授業連絡」を確実に確認し、通信環境等を整えておくことを推奨します。毎回、出欠を確認するため課題 (Google フォーム等) を課します。課題では講義に関する質問や意見等を求めることがあるため、講義内容に関連する時事に関心を払っておくことを求めます。 ○学びを深めるために グローバル化が進展する中で、地域経済は世界経済の変化を映す鏡でもあります。地域の現状を俯瞰的な視点から読み解くことを意識して学ぶことが求められます。

学びの実践	評価
	○「課題」評価：45% 「課題」提出 (平常点)：15% 期末テスト (または期末テスト代替課題)：40% ※毎講義毎に提示する「課題」提出によって出席とみなす。 提出が3分の2に満たない場合は期末課題を受験する資格を失う可能性がある

学びの継続	次のステージ・関連科目
	地域経済論では、地域経済を読み解くための基礎的な理論と、地域問題を理解するための歴史を学び、定量的に分析するための手法について学びます。より実践的に地域経済について理解を深めるために、以下の関連科目の履修をお勧めします。 【次のステージ・関連科目】マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、沖縄経済論、産業政策論、産業連関論の基礎

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地方財政論 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	3年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>少子高齢化が進み、国の財政事情が厳しくなり、国と地方の役割が真剣に議論されています。これまでのように財政的に国に大きく依存する形から、地域経済の自立化を目指さなければなりません。夕張市の破たんの二の舞を踏むことのないように、財政に対する知識が必要です。本講義では地方財政制度の基礎理論を学び、住民として、財政を考えることができることを目的としています。</p>	<p>地方財政論は、実際に社会人となっても、役立つ知識・理論を習得します。講義はテキストを中心に進めるが、映像資料や新聞等により、現実に問題となっているトピックも取り上げる。自分の住む地域の発展を考えることができるようになって欲しい。 【実務経験】民間研究機関にいた経験を活かし行政の仕事のやり方や政策形成の実態を紹介する。</p>
到達目標	<p>地方財政の基礎的知識と理論を理解している。 地方を取り巻く環境の変化を踏まえ、自らの住む地域の財政事情が分かる。 地方財政の状況を自ら判断することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義計画の説明	テキストを見て、全体像を把握する
	2	地方財政の実態(1)	テキスト第1章1節・2節を読む
	3	地方財政の実態(2)	テキストの第1章3節・4節を読む
	4	国と地方の機能分担(1)	テキストの第2章1節・2節を読む
	5	国と地方の機能分担(2)	テキストの第2章3節・4節を読む
	6	制度としての地方財政(1)	テキストの第3章1節・2節を読む
	7	制度としての地方財政(2)	テキストの第3章3節～5節を読む
8	地方公共支出の経済学(1)	テキストの第4章1節・2節を読む	
9	地方公共支出の経済学(2)	テキストの第4章3節を読む	
10	地方団体の行財政改革(1)	テキストの第5章1節・2節を読む	
11	地方団体の行財政改革(2)	テキストの第5章3節～5節を読む	
12	広域行政と狭域行政(1)	テキストの第6章1節・2節を読む	
13	広域行政と狭域行政(2)	テキストの第6章3節を読む	
14	地方税の体系と原則(1)	テキストの第7章1節・2節を読む	
15	地方税の体系と原則(1)	テキストの第7章3節を読む	
16	期末試験	全体を復習する	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト・・・「地方財政」 林宜嗣 有斐閣ブックス</p> <p>参考文献</p> <p>「地方財政論」 税務経理協会・「現代の地方財政」有斐閣ブックス・「はじめて学ぶ国と地方の財政学」日本評論社 「図解 よく分かる自治体財政のしくみ」 学陽書房</p>		
	<p>学びの手立て</p> <p>テキストに沿って講義を進めていくので、指定されたテキストを購入すること。毎回の出席も大事なので、5回以上欠席すると、自動的に不可とする。テキストだけでなく、地方財政の現状のトピックについて映像資料をもとに議論したり、レポートを課すこともある。</p>		
	<p>評価</p> <p>出席状況、レポート及び試験を総合的に評価する。</p> <p>レポート・・・30%</p> <p>試験・・・70%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>地方財政で学んだことを踏まえ、地方の抱える財政問題に興味を持ち、批判的に分析する。関連科目としては、「公共経済学」、「財政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方自治法」などがある。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地方財政論Ⅱ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	3年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>少子高齢化が進み、国の財政事情が厳しくなり、国と地方の役割が真剣に議論されています。これまでのように財政的に国に大きく依存する形から、地域経済の自立化を目指さなければなりません。夕張市の破たんの二の舞を踏むことのないように、財政に対する知識が必要です。本講義では地方財政制度の基礎理論を学び、住民として、財政を考えることができることを目的としています。</p>	<p>地方財政論は、実際に社会人となっても、役立つ知識・理論を習得します。自分の住む地域の発展を行政と一緒に考えて、考えることのできるような人材となつてほしいと考えています。そのため、講義の最後には、総仕上げとして自分の住んでいる市町村の財政分析を実際に行います。【実務経験】民間研究機関にいた経験を活かして行政の仕事のやり方や政策形成の実態を紹介する。</p>
到達目標	<p>地方財政の基礎的知識と理論を理解している。 地方を取り巻く環境の変化を踏まえ、自らの住む地域の財政事情が分かる。 地方財政の状況を自ら判断することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	講義計画の説明	テキストを見て、全体像を把握する	
	2	地方財政改革の動き	前期の復習と地方財政の現状を知る	
	3	地方税の改革(1)	テキストの第8章1節・2節を読む	
	4	地方税の改革(2)	テキストの第8章1節～3節を読む	
	5	国庫支出金と地方財政(1)	テキストの第9章1節・2節を読む	
	6	国庫支出金と地方財政(2)	テキストの第9章3節を読む	
	7	地方交付税と財政調整(1)	テキストの第10章1節・2節を読む	
	8	地方交付税と財政調整(2)	テキストの第10章3節・4節を読む	
9	地方債の発行と国の関与(1)	テキストの第11章1節・2節を読む		
10	地方債の発行と国の関与(2)	テキストの第11章3節・4節を読む		
11	地域づくりと地方団体の役割(1)	テキストの第12章1節・2節を読む		
12	地域づくりと地方団体の役割(2)	テキストの第12章3節・4節を読む		
13	市町村財政分析の実習Ⅰ	自分の住んでいる市町村を調べる		
14	市町村財政分析の実習Ⅱ	同上		
15	市町村財政分析の実習Ⅲ	実習を踏まえレポート作成する		
16	期末試験	これまでの復習をする		
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト・・・「地方財政」 林宜嗣 有斐閣ブックス 参考文献 「地方財政論」 税務経理協会・「現代の地方財政」有斐閣ブックス・「はじめて学ぶ国と地方の財政学」日本評論社 「図解 よく分かる自治体財政のしくみ」 学陽書房</p>		
学びの手立て	<p>テキストに沿って講義を進めていくので、指定されたテキストを購入すること。毎回の出席も大事なので、5回以上欠席すると、自動的に不可とする。テキストだけでなく、地方財政の現状のトピックについて映像資料をもとに議論したり、レポートを課すこともある。</p>			
評価	<p>出席状況とレポート及び試験を総合的に評価する。 レポート・・・30点 試験・・・70点</p>			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>地方財政で学んだことを踏まえ、地方の抱える財政問題に興味を持ち、批判的に分析する。関連科目としては、「公共経済学」、「財政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方自治法」などがある。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業論 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	2年	kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業の特質について理解する ・沖縄経済における県内中小企業の現状と課題について理解する 	<p>中小企業なしに経済は成り立ちません。中小企業への理解や関心を高め、近い将来、皆さんがどのような企業に就職したいのかを考える機会を提供できればと思います。</p>
	到達目標	
	<ul style="list-style-type: none"> ①県内中小企業の現状と課題を把握して、今後の就職活動を行う上での参考にする。 ②現実の課題や問題点を整理して、解決方策を考えるための考え方を身につける。 ③情報収集、論理的整合性を踏まえたレポートの書き方、まとめ方のスキルを身につける。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（講義内容、評価方法、注意事項の説明）	シラバスの確認
	2	中小企業とは何か	講義中に紹介する参考文献・資料等
	3	沖縄経済と中小企業	同上
	4	中小企業の特徴（スタートアップとスモールビジネスの違い）	同上
	5	中小企業の経済学①（完全競争、独占的競争）	同上
	6	中小企業の経済学②（ゲーム理論）	同上
	7	SCPパラダイムと5フォース	同上
	8	中小企業と5フォース	同上
	9	産業別事例研究①	同上
	10	産業別事例研究②	同上
	11	中小企業を支える制度①	同上
	12	産業別事例研究③	同上
	13	産業別事例研究④	同上
14	中小企業を支える制度②	同上	
15	産業別事例研究⑤	同上	
16	試験（※レポート提出）	同上	
	テキスト・参考文献・資料など		
	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：特に使用しません。説明資料を配布します。 ・参考文献：講義中に適宜、参考文献を紹介します。 		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の理解を促進するため、企業関係者を適宜招聘し意見交換会を行います。 ・講義内容は皆さんの理解度、関心に合わせて一部変更する場合があります。 ・理解を深めるため、毎日新聞を読んで知見を広げ、考える習慣を身につけてください。 		
	評価		
	<ul style="list-style-type: none"> ・評価はレポート課題の提出と内容で評価します。 		

学びの継続	次のステージ・関連科目 中小企業論Ⅱ、企業と産業の経済学ⅠⅡ
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業論Ⅱ	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	2年	kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業の特質について理解する ・沖縄経済における県内中小企業の現状と課題について理解する 	<p>中小企業なしに経済は成り立ちません。中小企業への理解や関心を高め、近い将来、皆さんがどのような企業に就職したいのかを考える機会を提供できればと思います。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①県内中小企業の現状と課題を把握して、今後の就職活動を行う上での参考にする。 ②現実の課題や問題点を整理して、解決方策を考えるための考え方を身につける。 ③情報収集、論理的整合性を踏まえたレポートの書き方、まとめ方のスキルを身につける。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス (講義内容、評価方法、注意事項の説明)	シラバスの確認
	2	(特) 沖縄経済の近況と中小企業	講義中に紹介する参考文献・資料等
	3	(特) 中小企業の開業と廃業	同上
	4	(特) 中小企業の成長	同上
	5	(特) 中小企業とビジネス	同上
	6	(特) 中小企業と株式会社	同上
	7	(特) 産業別事例研究①	同上
	8	(特) 産業別事例研究①	同上
	9	(特) 中小企業を支える制度①	同上
	10	(特) 産業別事例研究①	同上
	11	(特) 産業別事例研究①	同上
	12	(特) 中小企業を支える制度②	同上
	13	(特) 産業別事例研究①	同上
14	(特) 産業別事例研究①	同上	
15	(特) 産業別事例研究①	同上	
16	試験またはレポート提出	同上	
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：特に使用しません。説明資料を配布します。 ・参考文献：講義中に適宜、参考文献を紹介します。 		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の理解を促進するため、可能ならば企業関係者を適宜招聘し意見交換会を行います。 ・講義内容は皆さんの理解度、関心に合わせて一部変更する場合があります。 ・理解を深めるため、毎日新聞を読んで知見を広げ、考える習慣を身につけてください。 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は平常点 (30%)、授業内での課題提出 (30%)、試験またはレポート (40%) とします。 		

学びの継続	次のステージ・関連科目 企業と産業の経済学ⅠⅡ
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本経済史 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小濱 武	2年	研究室5-531またはt.kohama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 日本経済史の基礎を学びながら、今日の経済社会が抱えている問題を歴史的な視点から考える。	メッセージ 単なる暗記科目としての歴史ではなく、考えるツールとしての歴史を学んでいきましょう。
	到達目標 1. 日本経済史の用語や基礎的な理論を理解することができる。 2. 今日の日本経済の特質を、歴史的な視点から理解することができる。 3. 経済史の学びを通して、現代の経済社会を相対化する視点を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	なぜ日本経済史を学ぶのか (オリエンテーション)	事前にシラバスを読む
	2	日本経済史の方法	資料の再読
	3	資本制社会論	資料の再読
	4	幕末の経済と開港	資料の再読
	5	明治維新	資料の再読
	6	殖産興業と松方財政	資料の再読
	7	近代産業の発達1：軽工業	資料の再読
	8	近代産業の発達2：重工業	資料の再読
	9	日清・日露戦争と日本経済	資料の再読
	10	第1次世界大戦と日本経済	資料の再読
	11	1920年代	資料の再読
	12	昭和恐慌	資料の再読
	13	植民地と沖縄	資料の再読
	14	高橋財政	資料の再読
	15	戦時経済	資料の再読
	16	総括 (レポート提出)	
	テキスト・参考文献・資料など 参考書：三輪良一『概説日本経済史 近現代』(第3版)、東京大学出版会、2012年。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為(私語・遅刻等)は厳禁。 場合によっては退室を求めます。		
	評価 提出物 (レポート) 100%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本経済史 II、日本経済論 I、日本経済論 II
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本経済史Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小濱 武	2年	研究室5-531またはt.kohama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 日本経済史の基礎を学びながら、今日の経済社会が抱えている問題を歴史的な視点から考える。	メッセージ 単なる暗記科目としての歴史ではなく、考えるツールとしての歴史を学んでいきましょう。
	到達目標 1. 日本経済史の用語や基礎的な理論を理解することができる。 2. 今日の日本経済の特質を、歴史的な視点から理解することができる。 3. 経済史の学びを通して、現代の経済社会を相対化する視点を身につける。	

学びの準備	到達目標 1. 日本経済史の用語や基礎的な理論を理解することができる。 2. 今日の日本経済の特質を、歴史的な視点から理解することができる。 3. 経済史の学びを通して、現代の経済社会を相対化する視点を身につける。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	(特) なぜ日本経済史を学ぶのか (オリエンテーション)
	2	(特) 戦後経済改革1:民主化と経済再建
	3	(特) 戦後経済改革2:農地改革
	4	(特) 沖縄の占領と基地経済
	5	(特) 経済復興
	6	(特) 高度経済成長1:概論
	7	(特) 高度経済成長2:技術発展と産業政策
	8	(特) 高度経済成長3:人々の暮らし
	9	(特) 高度経済成長4:集団就職の時代
	10	(特) 沖縄経済の高度成長
	11	(特) 「復帰」と沖縄経済
	12	(特) 高度成長の終焉
	13	(特) バブルとその崩壊
	14	(特) 平成不況
	15	(特) 世界金融危機と大災害
16	(特) 総括 (レポート提出)	
		時間外学習の内容
		事前にシラバスを読む
		資料の再読
		資料の再読
		資料の再読
		資料の再読
		資料の再読
		資料の再読
		資料の再読
		資料の再読
		資料の再読
		レポートの作成

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 参考書：三輪良一『概説日本経済史 近現代』(第3版)、東京大学出版会、2012年。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 講義はオンデマンド形式で実施します。 毎回、講義動画(1時間程度)をアップロードしますので、各自視聴してください。 視聴後は、確認テストを受検してください。
-------	--

学びの実践	評価 提出物(課題)のみで成績を評価する。 評価の対象となるのは、最終レポート(30%)及び各回の確認テスト(70%)。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本経済論Ⅰ、日本経済論Ⅱ
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本経済論 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小濱 武	3年	研究室5-531またはt.kohama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 現代日本経済の特質について、歴史的な視点を軸として理解する。	メッセージ 講義では、日本経済の様々なトピックを見ていきます。経済学の諸科目への案内板ともなりますので、積極的に学ぶ姿勢を期待しています。
	到達目標 1. 今日の日本経済システムの基礎を理解できるようになる。 3. 経済学によって日本経済を分析する方法を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	現代日本経済をみる眼 (オリエンテーション)	事前にシラバスを読む
	2	戦後改革	資料の再読
	3	経済復興	資料の再読
	4	高度成長のメカニズム	資料の再読
	5	産業政策の効果	資料の再読
	6	メインバンク・システム	資料の再読
	7	安定株主化	資料の再読
	8	輸出世界一の鉄鋼業	資料の再読
	9	「民族大移動」と大量消費社会の出現	資料の再読
	10	エネルギー革命	資料の再読
	11	石油危機と経済構造の転換	資料の再読
	12	赤字国債	資料の再読
	13	生産台数世界一の自動車産業	資料の再読
	14	下請制	資料の再読
15	国際競争力	資料の再読	
16	総括 (レポート提出)		
テキスト・参考文献・資料など 参考書：橋本寿朗、長谷川信、宮島英昭、齊藤直『現代日本経済』(第4版)、有斐閣、2019年。			
学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為(私語・遅刻等)は厳禁。 場合によっては退室を求めます。			
評価 提出物 (レポート) 100%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 マクロ経済学 I、マクロ経済学 II、日本経済史 II
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本経済論Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小濱 武	3年	研究室5-531またはt.kohama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 現代日本経済の特質について、歴史的な視点を軸として理解する。	メッセージ 講義では、日本経済の様々なトピックを見ていきます。経済学の諸科目への案内板ともなりますので、積極的に学ぶ姿勢を期待しています。
	到達目標 1. 今日の日本経済システムの基礎を理解できるようになる。 3. 経済学によって日本経済を分析する方法を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 現代日本経済をみる眼 (オリエンテーション)	事前にシラバスを読む
	2	(特) バブルの形成と崩壊	資料の再読
	3	(特) 債権大国日本	資料の再読
	4	(特) 金融自由化	資料の再読
	5	(特) トヨタ生産システム	資料の再読
	6	(特) 流通革命	資料の再読
	7	(特) 長期停滞と日本型企業システムの転換	資料の再読
	8	(特) 財政赤字の深刻化	資料の再読
	9	(特) 東アジア経済の成長	資料の再読
	10	(特) 新たなビジネスモデルを模索する企業経営	資料の再読
	11	(特) 流通再編と情報化のインパクト	資料の再読
	12	(特) 事業ポートフォリオ	資料の再読
	13	(特) 日本経済の対外進出	資料の再読
	14	(特) 日本型企業システムの転換点	資料の再読
15	(特) アベノミクスの展開と日本経済の課題	資料の再読	
16	(特) 総括(レポート提出)	レポートの作成	
テキスト・参考文献・資料など 参考書：橋本寿朗、長谷川信、宮島英昭、齊藤直『現代日本経済』(第4版)、有斐閣、2019年。			
学びの手立て 講義はオンデマンド形式で実施します。 毎回、講義動画(1時間程度)をアップロードしますので、各自視聴してください。 視聴後は、確認テストを受検してください。			
評価 提出物(課題)のみで成績を評価する。 評価の対象となるのは、最終レポート(30%)及び各回の確認テスト(70%)			

学びの継続	次のステージ・関連科目 マクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅱ、日本経済史Ⅱ
-------	---------------------------------------

科目基本情報	科目名 ファイナンシャル・プランニング	期別	曜日・時限	単位
		前期	月2・木4	4
	担当者 安藤 由美	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ファイナンシャル・プランナー（FP）の主な仕事は、住宅取得を考えている人に資金計画のアドバイスをしたり、金融知識・法律知識を提供することです。 学習範囲は広く、暗記や電卓計算もあります。 銀行等の金融機関では仕事上、FP知識が求められます。	メッセージ 銀行等の金融機関へ就職したい学生にお勧めします。 授業は週2回行います。時間割の作成時に注意してください。 授業時、毎回電卓を持参すること。 【実務経験】銀行員としての経験を活かし、FPに必要な知識を解説する。
	到達目標 FP技能検定3級に合格する。 3級に合格するには、学科試験と実技試験で合格点を取る必要があります。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の概要	シラバスの確認
	2	ライフプランニングと資金計画1	復習。精読後問題を解く。
	3	ライフプランニングと資金計画2	復習。精読後問題を解く。
	4	ライフプランニングと資金計画3	復習。精読後問題を解く。
	5	ライフプランニングと資金計画4	復習。精読後問題を解く。
	6	ライフプランニングと資金計画5	復習。精読後問題を解く。
	7	ライフプランニングと資金計画6	復習。精読後問題を解く。
	8	小テスト、リスク管理1	復習。精読後問題を解く。
	9	リスク管理2	復習。精読後問題を解く。
	10	リスク管理3	復習。精読後問題を解く。
	11	リスク管理4	復習。精読後問題を解く。
	12	小テスト、金融資産運用1	復習。精読後問題を解く。
	13	金融資産運用2	復習。精読後問題を解く。
	14	金融資産運用3	復習。精読後問題を解く。
	15	金融資産運用4	復習。精読後問題を解く。
	16	中間テスト1	テスト範囲の復習。
	17	タックスプランニング1	復習。精読後問題を解く。
	18	タックスプランニング2	復習。精読後問題を解く。
	19	タックスプランニング3	復習。精読後問題を解く。
	20	タックスプランニング4	復習。精読後問題を解く。
	21	タックスプランニング5	復習。精読後問題を解く。
	22	小テスト、不動産1	復習。精読後問題を解く。
	23	不動産2	復習。精読後問題を解く。
	24	不動産3	復習。精読後問題を解く。
	25	不動産4	復習。精読後問題を解く。
	26	小テスト、相続1	復習。精読後問題を解く。
	27	相続2	復習。精読後問題を解く。
	28	相続3	復習。精読後問題を解く。
	29	相続4	復習。精読後問題を解く。
30	中間テスト2	テスト範囲の復習。	
31	期末テスト	テスト範囲の復習。	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>ファイナンシャルバンクインスティテュート編集 『うかる!FP3級速攻テキスト〈2019-2020年版〉』 日本経済新聞出版社 2019年</p> <p>ファイナンシャルバンクインスティテュート編集 『うかる!FP3級速攻問題集〈2019-2020年版〉』 日本経済新聞出版社 2019年</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>授業後には必ず復習して問題を解くこと。</p>
	<p>評価</p> <p>課題提出30%、期末テスト70%に基づき評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>FP検定2級</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ファイナンシャル・プランニングⅠ	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	1年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ファイナンシャル・プランナー（FP）の主な仕事は、住宅取得を考えている人に資金計画のアドバイスをしたり、金融知識・法律知識を提供することです。</p> <p>学習範囲は広く、暗記や電卓計算もあります。</p> <p>銀行等の金融機関では仕事上、FP知識が求められます。</p>	<p>銀行等の金融機関へ就職したい学生にお勧めします。</p> <p>必ず「ファイナンシャル・プランニングⅡ」とセットで登録すること。授業は週2回行います。時間割の作成時に注意してください。授業時、毎回電卓を持参すること。</p> <p>【実務経験】銀行員としての経験を活かし、FPに必要な知識を解説する。</p>
到達目標	<p>FP技能検定3級に合格する。</p> <p>3級に合格するには、学科試験と実技試験で合格点を取る必要があります。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>ファイナンシャル・プランニングⅠとファイナンシャル・プランニングⅡはセットで登録し受講するため、両科目31回の内容を記載します。</p> <p>1回 講義の概要・計画 2～7回 ライフプランニングと資金計画（1）～（6） 8～11回 リスク管理（1）～（4） 12～15回 金融資産運用（1）～（4） 16回 中間テスト1 17～21回 タックスプランニング（1）～（5） 22～25回 不動産（1）～（4） 26～29回 相続・事業承継（1）～（4） 30回 中間テスト2 31回 期末試験</p> <p>時間外学習の内容（全回） 復習。精読後問題を解く。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>フィナンシャルバンクインスティテュート編集 『うかる!FP3級速攻テキスト〈2019-2020年版〉』 日本経済新聞出版社 2019年 フィナンシャルバンクインスティテュート編集 『うかる!FP3級速攻問題集〈2019-2020年版〉』 日本経済新聞出版社 2019年</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>授業後には必ず復習して問題を解くこと。</p>
	<p>評価</p> <p>課題提出30%、期末テスト70%に基づき評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>FP検定2級</p>
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ファイナンシャル・プランニングⅡ	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	1年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ファイナンシャル・プランナー（FP）の主な仕事は、住宅取得を考えている人に資金計画のアドバイスをしたり、金融知識・法律知識を提供することです。</p> <p>学習範囲は広く、暗記や電卓計算もあります。</p> <p>銀行等の金融機関では仕事上、FP知識が求められます。</p>	<p>銀行等の金融機関へ就職したい学生にお勧めします。</p> <p>必ず「ファイナンシャル・プランニングⅠ」とセットで履修登録すること。授業は週2回行います。時間割の作成時に注意してください。授業時、毎回電卓を持参すること。</p> <p>【実務経験】銀行員としての経験を活かし、FPに必要な知識を解説する。</p>
到達目標	<p>FP技能検定3級に合格する。</p> <p>3級に合格するには、学科試験と実技試験で合格点を取る必要があります。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>ファイナンシャル・プランニングⅠとファイナンシャル・プランニングⅡはセットで登録し受講するため、両科目31回の内容を記載します。</p> <p>1回 講義の概要・計画 2～7回 ライフプランニングと資金計画（1）～（6） 8～11回 リスク管理（1）～（4） 12～15回 金融資産運用（1）～（4） 16回 中間テスト1 17～21回 タックスプランニング（1）～（5） 22～25回 不動産（1）～（4） 26～29回 相続・事業承継（1）～（4） 30回 中間テスト2 31回 期末試験</p> <p>時間外学習の内容（全回） 復習。精読後問題を解く。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>フィナンシャルバンクインスティテュート編集 『うかる!FP3級速攻テキスト〈2019-2020年版〉』 日本経済新聞出版社 2019年 フィナンシャルバンクインスティテュート編集 『うかる!FP3級速攻問題集〈2019-2020年版〉』 日本経済新聞出版社 2019年</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>授業後には必ず復習して問題を解くこと。</p>
	<p>評価</p> <p>課題提出30%、期末テスト70%に基づき評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>FP検定2級</p>
-------	----------------------------------

※ポリシーとの関連性

本講義では、①経済学の基礎的・専門的知識を学びつつ、②経済社会問題を考察し、③課題解決の視点を得ることを目的とします。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉国家論	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	3年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	福祉国家の理念と成り立ちを紐解き、現代の福祉国家が抱える課題を探ることを目的とします。講義前半では先進各国を事例に福祉国家の類型論から今日の福祉国家の特徴を整理します。講義の後半では、日本における所得分配や貧困の現状、社会保障制度の概要と問題点などを例に、日本型福祉国家の特徴と今後の課題を探っていきます。	年金・医療・福祉（児童、介護等）等の社会保障制度がどのような理念の下で形づくられ、充実化し、変容してきたのかを考えていきます。現代国家の姿を通時的に描き、共時的にどのような課題を抱えているのかを考えていきましょう。
到達目標	①戦後、福祉国家がどのように誕生してきたのか、その思想や理念、実際の制度について特徴を把握することが出来る。 ②日本の社会保障制度について理解し、現在どのような課題を抱えているのか理解することが出来る。 ③国際比較の観点から現代の福祉国家が抱える課題を整理することが出来る。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンスー授業評価と講義計画の紹介	シラバスを読む
	2	(特) 福祉国家とは？ー背景と理念	参考文献①、③を参照
	3	(特) 福祉国家の成り立ちー社会保障制度の歴史	参考文献①を参照
	4	(特) イギリスの社会保障制度	参考文献①を参照
	5	(特) ドイツの社会保障制度	参考文献①を参照
	6	(特) 北欧諸国の社会保障制度 (1) ースウェーデン	参考文献②、③を参照
	7	(特) 北欧諸国の社会保障制度 (2) ーデンマーク	参考文献②、③を参照
	8	(特) アメリカの社会保障制度	参考文献①、②を参照
	9	(特) 講義前半のまとめ	欧米各国の福祉政策を復習
	10	(特) 福祉国家の類型論 (福祉レジーム論)	参考文献③を参照
	11	(特) 日本型福祉国家の特徴ー企業福祉と社会保障制度の成り立ち	参考文献②を参照
	12	(特) 日本の企業福祉	企業の福利厚生について調べる
	13	(特) 日本の労働政策と雇用	労働政策について調べる
	14	(特) 日本の労働政策と社会保障制度を巡る課題	社会保障制度について調べる
15	(特) 講義後半のまとめ	労働政策、社会保障制度のまとめ	
16	(特) 期末課題	講義全体の振り返り	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	特に指定せず、適宜資料を配布して講義を行います。下記以外の参考文献は講義中に紹介します。 【参考文献】 ①橋本俊昭 (2010) 『安心の社会保障改革』東洋経済新報社 ②林健久他 (2004) 『グローバル化と福祉国家財政の再編』東京大学出版会 ③エスピン・アンデルセン (2001) 『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房

学びの手立て	○履修の心構え 講義資料をポータルで提供し、資料に基づきMicrosoft teamsを活用して遠隔講義を実施します。「授業連絡」を確実に確認し、通信環境等を整えておくことを推奨します。毎回、出欠を確認するため課題 (Googleフォーム等) を課します。課題では講義に関する質問や意見等を求めることがあるため、講義内容に関連する時事に関心を払っておくことを求めます。 ○学びを深めるために 相対的貧困や格差といった問題に対し、国際比較の観点から社会保障制度の成り立ちについて整理します。ので、広い視野を持って学修することが求められます。
--------	--

評価	○「課題」評価：45% 「課題」提出 (平常点)：15% 期末テスト (または期末テスト代替課題)：40% ※課題提出によって出席とみなすため、原則、課題提出が3分の2に満たない場合は期末を受験する資格を失います。 ○「課題」評価により到達目標の②を評価し、期末の課題により到達目標の①と③を評価する。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 福祉国家論では、福祉政策、社会保障制度に関する基本的な考え方を学んでいきます。その具体的な政策については財政政策、労働政策に関連する分野に広がりますので、下記の関連科目の履修を勧めます。 【次のステージ・関連科目】 マクロ経済学 I・II、社会保障論、財政学 I・II、労働経済学 I・II
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	貿易実務 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新垣 勝弘	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	我が国は貿易立国で貿易実務の科目は、貿易立国を支える学問分野として必要不可欠である。貿易実務の活躍の場は多く1. 船会社 2. 商社 3. メーカー 4. 航空会社 5. 貿易会社 6. 公的機関 7. 銀行 8. 保険会社 9. 通関業者 10. 海貨業者 11. 混載業者 12. 個人輸入など幅広い。本講座では、貿易実務の基礎をしっかりと学べるようにする。	講義受講期間中は、常にパソコンの共通ファイルに目を通して臨むようにしてください。また、講義はパワーポイントを使用しますので、良く聞くことに重点を置いて受講してください。
到達目標	本講義を通して ①貿易取引の全体の流れを把握していく。 ②貿易取引の手続き書類について学んでいく。 ③貿易取引における専門用語及び略語について学んでいく。	

学びの実践	学びのヒント																																																			
	授業計画																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>第1週 貿易取引と貿易実務</td><td>テキストの予習・復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>第2週 貿易実務と貿易書類</td><td>同上</td></tr> <tr><td>3</td><td>第3週 通関手続と通関業者</td><td>同上</td></tr> <tr><td>4</td><td>第4週 海上輸送と船会社</td><td>同上</td></tr> <tr><td>5</td><td>第5週 輸出交渉</td><td>同上</td></tr> <tr><td>6</td><td>第6週 輸出通関手続</td><td>同上</td></tr> <tr><td>7</td><td>第7週 買い取り手続</td><td>同上</td></tr> <tr><td>8</td><td>第8週 中間テスト</td><td>テスト範囲の復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>第9週 信用状の発行依頼</td><td>テキストの予習・復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>第10週 輸入貨物の引き取り</td><td>同上</td></tr> <tr><td>11</td><td>第11週 信用調査</td><td>同上</td></tr> <tr><td>12</td><td>第12週 品質条件</td><td>同上</td></tr> <tr><td>13</td><td>第13週 関税</td><td>同上</td></tr> <tr><td>14</td><td>第14週 保税制度</td><td>同上</td></tr> <tr><td>15</td><td>第15週 コンテナとコンテナターミナル</td><td>同上</td></tr> <tr><td>16</td><td>第16週 前期末テスト</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	第1週 貿易取引と貿易実務	テキストの予習・復習	2	第2週 貿易実務と貿易書類	同上	3	第3週 通関手続と通関業者	同上	4	第4週 海上輸送と船会社	同上	5	第5週 輸出交渉	同上	6	第6週 輸出通関手続	同上	7	第7週 買い取り手続	同上	8	第8週 中間テスト	テスト範囲の復習	9	第9週 信用状の発行依頼	テキストの予習・復習	10	第10週 輸入貨物の引き取り	同上	11	第11週 信用調査	同上	12	第12週 品質条件	同上	13	第13週 関税	同上	14	第14週 保税制度	同上	15	第15週 コンテナとコンテナターミナル	同上	16	第16週 前期末テスト	
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
1	第1週 貿易取引と貿易実務	テキストの予習・復習																																																		
2	第2週 貿易実務と貿易書類	同上																																																		
3	第3週 通関手続と通関業者	同上																																																		
4	第4週 海上輸送と船会社	同上																																																		
5	第5週 輸出交渉	同上																																																		
6	第6週 輸出通関手続	同上																																																		
7	第7週 買い取り手続	同上																																																		
8	第8週 中間テスト	テスト範囲の復習																																																		
9	第9週 信用状の発行依頼	テキストの予習・復習																																																		
10	第10週 輸入貨物の引き取り	同上																																																		
11	第11週 信用調査	同上																																																		
12	第12週 品質条件	同上																																																		
13	第13週 関税	同上																																																		
14	第14週 保税制度	同上																																																		
15	第15週 コンテナとコンテナターミナル	同上																																																		
16	第16週 前期末テスト																																																			
テキスト・参考文献・資料など	木村 雅晴著『はじめての貿易実務』ナツメ社,																																																			
学びの手立て	1. 出欠確認は毎回厳密に行います。 2. テキストの予習・復習を十分にしてください。 3. 授業中質問があれば、いつでも手を挙げて質問してください。																																																			
評価	1. 中間テスト (40%) 2. 期末テスト (60%) 3. 欠席が1/3を超える者には単位を認定しない。 4. 評価は総合点をもって行う。																																																			

学びの継続	次のステージ・関連科目 1. 金融論 2. 国際経済論 3. 流通経済論 4. 経営学
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	貿易実務Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新垣 勝弘	2年	授業終了後にメールで受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	我が国は貿易立国で貿易実務の科目は、貿易立国を支える学問分野として必要不可欠である。貿易実務の活躍の場は多く、1. 船会社 2. 商社 3. メーカー 4. 航空会社 5. 貿易会社 6. 公的機関 7. 銀行 8. 保険会社 9. 通関業者 10. 海貨業者 11. 混載業者 12. 個人輸入など幅広い。本講座では、貿易実務の基礎をしっかりと学べるようにする。	新型コロナウイルス禍、オンライン形式で授業を行います。
到達目標	本講義を通して ①貿易取引の全体の流れを把握していく。 ②貿易取引の手続き書類について学んでいく。 ③貿易取引における専門用語及び略語について学んでいく。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 海上運賃の分類	テキストの予習・復習
	2	第2週 航空運送と運賃	同上
	3	第3週 信用状のチェックポイント	同上
	4	第4週 外国為替相場	同上
	5	第5週 海上保険の種類	同上
	6	第6週 ワシントン条約	同上
	7	第7週 貨物引き取りの便利な制度	同上
8	第8週 中間テスト	テスト範囲の復習	
9	第9週 FCL貨物の具体的な貨物の引き取り	テキストの予習・復習	
10	第10週 クレーム	同上	
11	第11週 業務処理システム	同上	
12	第12週 船積み・通関手続を専門業者に依頼する時に作成する書類	同上	
13	第13週 船積みの完了を輸入者に知らせる書類	同上	
14	第14週 信用状の発行を銀行に依頼する時に作成書類	同上	
15	第15週 Invoice・Bill of Ladingの記載内容	同上	
16	第16週 後期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など 木村 雅晴著『初めての貿易実務』ナツメ社		
	学びの手立て 1. オンラインシステムなので、積極的に学ぶ姿勢で参加してください。 2. レポート課題もあります。		
	評価 1. 中間テスト(20%) 2. 期末テスト(30%) 3. レポート(35%) 4. 平常点(15%) 5. 評価は総合点をもって行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1. 金融論 2. 国際経済論 3. 流通経済論 4. 経営学
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記	後期	月4・木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	2年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 簿記は、会社のお金を管理して利益を算定していく手法です。計算式は小学生レベルで、計算には電卓を使用します。数学知識・そろばん能力がなくても大丈夫です。銀行員・会社経営者に簿記は絶対必要です。会社員にとっても有利です。	メッセージ 銀行等の金融機関へ就職したい学生にお勧めします。授業は週2回行います。時間割の作成時に注意してください。授業時、毎回電卓を持参すること。 【実務経験】銀行員としての経験を活かし、簿記のノウハウを解説する。
	到達目標 来年2月の日商簿記検定3級試験に合格する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 講義の概要・計画	シラバスの確認
	2	(対) 商品売買 (1)	復習。精読後問題を解く。
	3	(対) 商品売買 (2)	復習。精読後問題を解く。
	4	(対) 現金	復習。精読後問題を解く。
	5	(対) 当座預金	復習。精読後問題を解く。
	6	(対) 手形 (1)	復習。精読後問題を解く。
	7	(対) 手形 (2)	復習。精読後問題を解く。
	8	(対) 貸付金	復習。精読後問題を解く。
	9	(対) 中間テストA	テスト範囲の復習。
	10	(対) 有価証券	復習。精読後問題を解く。
	11	(対) 債権債務 (1)	復習。精読後問題を解く。
	12	(対) 債権債務 (2)	復習。精読後問題を解く。
	13	(対) 消耗品・貸倒	復習。精読後問題を解く。
	14	(対) 減価償却	復習。精読後問題を解く。
	15	(対) 資本金	復習。精読後問題を解く。
	16	(対) 中間テストB	テスト範囲の復習。
	17	(対) 繰延・見越 (1)	復習。精読後問題を解く。
	18	(対) 繰延・見越 (2)	復習。精読後問題を解く。
	19	(対) 精算表 (1)	復習。精読後問題を解く。
	20	(対) 精算表 (2)	復習。精読後問題を解く。
	21	(対) 試算表 (1)	復習。精読後問題を解く。
	22	(対) 試算表 (2)	復習。精読後問題を解く。
	23	(対) 試算表 (3)	復習。精読後問題を解く。
	24	(対) 帳簿記入	復習。精読後問題を解く。
	25	(対) 中間テストC	テスト範囲の復習。
	26	(対) 過去問題 (1)	復習。精読後問題を解く。
	27	(対) 過去問題 (2)	復習。精読後問題を解く。
	28	(対) 過去問題 (3)	復習。精読後問題を解く。
	29	(対) 過去問題 (4)	復習。精読後問題を解く。
	30	(対) 過去問題 (5)	復習。精読後問題を解く。
31	(対) 期末テスト	テスト範囲の復習。	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など ☆滝澤ななみ著「スッキリわかる日商簿記3級第11版」TAC出版2020年 ☆過去問題集(授業中に詳細指定します)</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 後期に週2回授業を行う。電卓必要。 簿記の用語を覚える姿勢が重要。 記入欄つきのプリントを配布する。授業中に記入して理解する。 毎回宿題を与えるので、次回提出すること。</p>
	<p>評価 宿題・小テスト20%、中間テスト(3回)40%、期末テスト40%。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 会計関係の科目、日商簿記2級</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記 I	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	2年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 簿記は、会社のお金を管理して利益を算定していく手法です。計算式は小学生レベルで、計算には電卓を使用します。数学知識・そろばん能力がなくても大丈夫です。銀行員・会社経営者に簿記は絶対必要です。会社員にとっても有利です。	メッセージ 銀行等の金融機関へ就職したい学生にお勧めします。必ず「簿記Ⅱ」とセットで履修登録すること。授業は週2回行います。時間割の作成時に注意してください。授業時、毎回電卓を持参すること。 【実務経験】銀行員としての経験を活かし、簿記のノウハウを解説する。
	到達目標 来年2月の日商簿記検定3級試験に合格する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. (対) 講義の概要・計画 2. (対) 簿記の基礎 3. (対) 商品売買（2） 4. (対) 当座預金 5. (対) 手形（1） 6. (対) 中間テストA 7. (対) 有価証券 8. (対) 債権債務（2） 9. (対) 減価償却 10. (対) 繰延・見越 11. (対) 伝票・締切 12. (対) 精算表（2） 13. (対) 中間テストB 14. (対) 試算表（2） 15. (対) 過去問題（2） 16. (対) 期末テスト 時間外学習の内容（全回） 復習。精読後問題を解く。
	テキスト・参考文献・資料など ☆滝澤ななみ著「スッキリわかる日商簿記3級第11版」TAC出版2020年 ☆過去問題集（授業中に詳細指定します）
	学びの手立て 後期に週2回授業を行う。電卓必要。 簿記の用語を覚える姿勢が重要。 記入欄つきのプリントを配布する。授業中に記入して理解する。 毎回宿題を与えるので、次回提出すること。
評価	宿題・小テスト20%、中間テスト（3回）40%、期末テスト40%。

学びの継続	次のステージ・関連科目 会計関係の科目、日商簿記2級
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	2年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 簿記は、会社のお金を管理して利益を算定していく手法です。計算式は小学生レベルで、計算には電卓を使用します。数学知識・そろばん能力がなくても大丈夫です。銀行員・会社経営者に簿記は絶対必要です。会社員にとっても有利です。	メッセージ 銀行等の金融機関へ就職したい学生にお勧めします。必ず「簿記Ⅰ」とセットで履修登録すること。授業は週2回行います。時間割の作成時に注意してください。授業時、毎回電卓を持参すること。 【実務経験】銀行員としての経験を活かし、簿記のノウハウを解説する。
	到達目標 来年2月の日商簿記検定3級試験に合格する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. (対) 講義の概要・計画 2. (対) 商品売買（1） 3. (対) 現金 4. (対) 小口現金 5. (対) 手形（2） 6. (対) 貸付金 7. (対) 債権債務（1） 8. (対) 消耗品・貸倒 9. (対) 資本金 10. (対) 帳簿記入 11. (対) 精算表（1） 12. (対) 精算表（3） 13. (対) 試算表（1） 14. (対) 過去問題（1） 15. (対) 過去問題（3） 16. (対) 期末テスト 時間外学習の内容（全回） 復習。精読後問題を解く。
	テキスト・参考文献・資料など ☆滝澤ななみ著「スッキリわかる日商簿記3級第11版」TAC出版2020年 ☆過去問題集(授業中に詳細指定します)
	学びの手立て 後期に週2回授業を行う。電卓必要。 簿記の用語を覚える姿勢が重要。 記入欄つきのプリントを配布する。授業中に記入して理解する。 毎回宿題を与えるので、次回提出すること。
	評価 宿題・小テスト20%、中間テスト（3回）40%、期末テスト40%。

学びの継続	次のステージ・関連科目 会計関係の科目、日商簿記2級
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マクロ経済学A	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小濱 武	1年	研究室5-531またはt.kohama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい マクロ経済学の理論を学び、今日の経済社会が抱える問題について経済学的な視点から理解する。	メッセージ 理論を学ぶことはもちろんですが、それを使って現実の経済をどうやって分析していくのかということを重視しながら講義を進めていきます。
	到達目標 1. マクロ経済学の用語や基礎的な理論を理解することができる。 2. 今日の日本経済が抱える問題を理解することができる。 3. 経済問題の解決方法を経済学の立場から考える力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) なぜマクロ経済学を学ぶのか (オリエンテーション)	事前にシラバスを読む
	2	(対) GDP 1 : GDPとは何だろう	資料の再読
	3	(対) GDP 2 : 日本のGDP	資料の再読
	4	(対) 消費と貯蓄 1 : 消費と貯蓄はどのようにして決まるか	資料の再読
	5	(対) 消費と貯蓄 2 : 日本の貯蓄率	資料の再読
	6	(対) 設備投資と在庫投資 1 : 設備投資	資料の再読
	7	(対) 設備投資と在庫投資 2 : 在庫投資	資料の再読
	8	(対) 金融と株価 1 : 金融の役割	資料の再読
	9	(対) 金融と株価 2 : 株価はどのように決まるか	資料の再読
	10	(対) 貨幣の需要と供給 1 : 貨幣の役割	資料の再読
	11	(対) 貨幣の需要と供給 2 : 貨幣の需要と供給	資料の再読
	12	(対) 総需要に注目した経済分析 1 : ケインズ経済学の考え方	資料の再読
	13	(対) 総需要に注目した経済分析 2 : 乗数理論	資料の再読
	14	(対) 総需要に注目した経済分析 3 : IS-LM分析	資料の再読
	15	(対) 全体のまとめ	資料の再読
16	(対) 定期試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 参考書：福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』（第5版）、有斐閣、2016年。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 毎回の講義終了後に、確認テストを実施します。 必ず提出すること。
-------	---

学びの実践	評価 定期試験30%、提出物（確認テスト等）70% ただし定期試験は、レポート形式により実施することがある。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 マクロ経済学B、ミクロ経済学A、ミクロ経済学B
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マクロ経済学A	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	高 哲央	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>物価や失業、そして景気変動といったマクロ経済学が取り扱う問題は、我々の日常生活に大きな影響を与えています。本講義は、マクロ経済学の基本的な概念や基礎知識を身近な具体例を用いながら解説することで、難解になりがちなマクロ経済の諸問題を、受講生が理解できるようになることをねらいとしています。</p>	<p>ミクロ経済学と同様にマクロ経済学の理解はすべての経済関連科目の基礎となります。この基礎が無ければ、応用科目の修得に支障をきたすため、是非、真剣に取り組んでください。</p>
到達目標	<p>1. マクロ経済学の概念や基礎理論を修得すること。 2. 現代社会における経済の仕組みや役割を把握して、様々な経済現象に対する理解を深めること。 3. 日本の経済問題を把握し、日本経済のあるべき姿について論じることができるようになること。</p>	

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>(対) オリエンテーション (講義概要、講義の進め方、評価方法等)</td><td>シラバスをよく読む</td></tr> <tr><td>2</td><td>(対) GDP (国内総生産) とは何か</td><td>資料の復習、参考文献での自主学習</td></tr> <tr><td>3</td><td>(対) 国民所得統計と三面等価の原則</td><td>資料の復習、参考文献での自主学習</td></tr> <tr><td>4</td><td>(対) 物価指数と景気判断の指標</td><td>資料の復習、参考文献での自主学習</td></tr> <tr><td>5</td><td>(対) 消費関数と貯蓄関数</td><td>資料の復習、参考文献での自主学習</td></tr> <tr><td>6</td><td>(対) 投資関数</td><td>資料の復習、参考文献での自主学習</td></tr> <tr><td>7</td><td>(対) 均衡国民所得の決定</td><td>資料の復習、参考文献での自主学習</td></tr> <tr><td>8</td><td>(対) 乗数理論</td><td>資料の復習、参考文献での自主学習</td></tr> <tr><td>9</td><td>(対) 均衡予算乗数定理</td><td>資料の復習、参考文献での自主学習</td></tr> <tr><td>10</td><td>(対) 中間試験</td><td>これまでの復習をする</td></tr> <tr><td>11</td><td>(対) 財市場の均衡とIS曲線</td><td>資料の復習、参考文献での自主学習</td></tr> <tr><td>12</td><td>(対) 貨幣供給量と金融政策</td><td>資料の復習、参考文献での自主学習</td></tr> <tr><td>13</td><td>(対) 貨幣市場の均衡とLM曲線</td><td>資料の復習、参考文献での自主学習</td></tr> <tr><td>14</td><td>(対) IS-LM分析</td><td>資料の復習、参考文献での自主学習</td></tr> <tr><td>15</td><td>(対) 全体のまとめ</td><td>これまでの復習をする</td></tr> <tr><td>16</td><td>(対) 定期試験</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	(対) オリエンテーション (講義概要、講義の進め方、評価方法等)	シラバスをよく読む	2	(対) GDP (国内総生産) とは何か	資料の復習、参考文献での自主学習	3	(対) 国民所得統計と三面等価の原則	資料の復習、参考文献での自主学習	4	(対) 物価指数と景気判断の指標	資料の復習、参考文献での自主学習	5	(対) 消費関数と貯蓄関数	資料の復習、参考文献での自主学習	6	(対) 投資関数	資料の復習、参考文献での自主学習	7	(対) 均衡国民所得の決定	資料の復習、参考文献での自主学習	8	(対) 乗数理論	資料の復習、参考文献での自主学習	9	(対) 均衡予算乗数定理	資料の復習、参考文献での自主学習	10	(対) 中間試験	これまでの復習をする	11	(対) 財市場の均衡とIS曲線	資料の復習、参考文献での自主学習	12	(対) 貨幣供給量と金融政策	資料の復習、参考文献での自主学習	13	(対) 貨幣市場の均衡とLM曲線	資料の復習、参考文献での自主学習	14	(対) IS-LM分析	資料の復習、参考文献での自主学習	15	(対) 全体のまとめ	これまでの復習をする	16	(対) 定期試験		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	(対) オリエンテーション (講義概要、講義の進め方、評価方法等)	シラバスをよく読む																																																			
2	(対) GDP (国内総生産) とは何か	資料の復習、参考文献での自主学習																																																			
3	(対) 国民所得統計と三面等価の原則	資料の復習、参考文献での自主学習																																																			
4	(対) 物価指数と景気判断の指標	資料の復習、参考文献での自主学習																																																			
5	(対) 消費関数と貯蓄関数	資料の復習、参考文献での自主学習																																																			
6	(対) 投資関数	資料の復習、参考文献での自主学習																																																			
7	(対) 均衡国民所得の決定	資料の復習、参考文献での自主学習																																																			
8	(対) 乗数理論	資料の復習、参考文献での自主学習																																																			
9	(対) 均衡予算乗数定理	資料の復習、参考文献での自主学習																																																			
10	(対) 中間試験	これまでの復習をする																																																			
11	(対) 財市場の均衡とIS曲線	資料の復習、参考文献での自主学習																																																			
12	(対) 貨幣供給量と金融政策	資料の復習、参考文献での自主学習																																																			
13	(対) 貨幣市場の均衡とLM曲線	資料の復習、参考文献での自主学習																																																			
14	(対) IS-LM分析	資料の復習、参考文献での自主学習																																																			
15	(対) 全体のまとめ	これまでの復習をする																																																			
16	(対) 定期試験																																																				
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：毎回、資料を配布します。 参考文献：福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第5版）』有斐閣アルマ、2016年。 福田慎一・照山博司『演習式マクロ経済学・入門（補訂版）』有斐閣、2016年。</p>																																																				
学びの手立て	<p>講義資料の復習のみならず、参考文献を用いた自主学習をおすすめします。 日本の経済に対する理解を深めるため、日常的に『日本経済新聞』などの経済紙（誌）を読むことをおすすめします。 講義中は、私語を慎むこと、スマホ及び携帯電話はマナーモードにしておくこと、教室をむやみに出入りしないことなどを順守して下さい。</p>																																																				
評価	<p>平常点 (25%)、中間テスト (25%)、期末テスト (50%) の合計によって評価します。 ※ 原則として講義出席が全体の3分の2に満たない受講生には単位を認定しません。 中間試験を止むを得ない事情で受験できない場合は、医師による診断書、対外試合などのための欠席願いを提出して下さい。</p>																																																				

学びの継続	次のステージ・関連科目 マクロ経済学B、ミクロ経済学A・B
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マクロ経済学B	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小濱 武	2年	研究室5-531またはt.kohama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	マクロ経済学の理論を学び、今日の経済社会が抱える問題について経済学的な視点から理解する。	理論を学ぶことはもちろんですが、それを使って現実の経済をどうやって分析していくのかということを重視しながら講義を進めていきます。

到達目標
1. マクロ経済学の用語や基礎的な理論を理解することができる。 2. 今日の日本経済が抱える問題を理解することができる。 3. 経済問題の解決方法を経済学の立場から考える力を身につける。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	なぜマクロ経済学を学ぶのか (オリエンテーション)	シラバスの確認・レポートの作成
	2	経済政策1: IS-LM分析と財政政策及び金融政策の効果	資料の再読・確認問題
	3	経済政策2: 「非伝統的」金融政策	資料の再読・確認問題
	4	財政赤字と国債1: 国債の役割と問題点	資料の再読・確認問題
	5	財政赤字と国債2: 日本の財政赤字と国債	資料の再読・確認問題
	6	インフレとデフレ1: 日本の物価動向とインフレの要因	資料の再読・確認問題
	7	インフレとデフレ2: インフレ・デフレのコスト	資料の再読・確認問題
	8	失業1: 失業はなぜ発生するのか	資料の再読・確認問題
	9	失業2: 日本の失業率	資料の再読・確認問題
	10	経済成長理論1: 経済成長とは何か	資料の再読・確認問題
	11	経済成長理論2: 経済成長の要因	資料の再読・確認問題
	12	経済成長理論3: 新しい経済成長理論	資料の再読・確認問題
	13	オープン・マクロ経済学1: 国際収支とは何か	資料の再読・確認問題
	14	オープン・マクロ経済学2: 為替レートの決定要因	資料の再読・確認問題
15	全体のまとめ	資料の再読	
16	最終レポート提出	レポートの作成	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 参考書：福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』（第5版）、有斐閣、2016年。
-------	--

学びの手立て	他の受講生の妨げになるような行為(私語・遅刻等)は厳禁。 場合によっては退室を求めます。 毎回の授業終了後に、確認問題に回答すること。
--------	---

評価	提出物(課題) 100%
----	--------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本経済論Ⅰ、日本経済論Ⅱ
-------	------------------------------

※ポリシーとの関連性

経済学の「知識」の修得および、その知識をもとに経済社会の問題を論理的に「考察」し「表現」することを養うこと

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マルクス経済学 I	前期	月 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	3年	メールで受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	資本主義の経済社会の基本的な構成諸要素とそれらの相互関係、資本主義の歴史性と根本矛盾などについて理解できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> 講義による知識の定着だけでなく、考える力を身につけるために教科書の研究問題に取り組み、解答を作成してもらいます。 オンライン（またはオンデマンド）の講義形式で行います。 初回オリエンテーション不参加の場合、履修を認めないことがあります。
	到達目標	
	単純な要素から複雑な上位概念・諸関係へという論理の展開にしたがって、資本主義の根本原理とその歴史的特質とについて理論的に説明できるようになること。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について	事前にシラバスを読む
	2	(特) 経済学とは何か（第1章）	1章研究問題
	3	(特) 経済学の対象（第2章）	2章研究問題
	4	(特) 経済学の成立（第3章）	3章研究問題
	5	(特) 経済学の体系（第4章）	4章研究問題
	6	(特) 資本主義の基礎概念1：商品（第5章）	5章研究問題
	7	(特) 資本主義の基礎概念2：貨幣（第6章）	6章研究問題
8	(特) 資本主義の基礎概念3：資本（第7章）	7章研究問題	
9	(特) 資本主義の生産1：剰余価値の形成（第8章）	8章研究問題	
10	(特) 資本主義の生産2：機械制工業（第9章）	9章研究問題	
11	(特) 資本主義の生産3：労働力と賃金（第10章）	10章研究問題	
12	(特) 資本主義の流通1：個別資本の流過程（第11章）	11章研究問題	
13	(特) 資本主義の流通2：資本主義の再生産（第12章）	12章研究問題	
14	(特) 総括	1-12章研究問題の復習	
15	(形式未定) 期末試験	1-12章研究問題の復習	
16	予備日	予備日	
	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必ず入手すること！）：日高 普『経済学 改訂版（岩波全書）』岩波書店，1988年		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
	評価 期末試験30%，事後課題（研究問題）50%，受講態度20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 マルクス経済学IIの受講を勧めます。
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マルクス経済学Ⅱ	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	3年	メールで受け付けます	

学びの準備	ねらい 資本主義の経済社会の基本的な構成諸要素とそれらの相互関係、資本主義の歴史性と根本矛盾などについて理解できるようになる。 なお、本講義は、マルクス経済学Ⅰを受講済みであることを前提として進める。	メッセージ ・オンライン（またはオンデマンド）での講義と知識の定着のための課題を組み合わせた授業形式です。 ・考える力を身につけるために教科書の研究問題に取り組み、解答を作成してもらいます。 ・初回のオリエンテーションには必ず出席すること。
	到達目標 単純な要素から複雑な上位概念・諸関係へという論理の展開にしたがって、資本主義の根本原理とその歴史的特質とについて理論的に説明できるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について	事前にシラバスを読む
	2	(特) 経済学とは何か（第1章）	第1章研究問題
	3	(特) 経済学の対象（第2章）	第2章研究問題
	4	(特) 経済学の成立（第3章）	第3章研究問題
	5	(特) 経済学の体系（第4章）	第4章研究問題
	6	(特) 1-4章研究問題のまとめ	1-4章研究問題の復習
	7	(特) 資本主義の基礎概念1：商品（第5章）	第5章研究問題
	8	(特) 資本主義の基礎概念2：貨幣（第6章）	第6章研究問題
9	(特) 資本主義の基礎概念3：資本（第7章）	第7章研究問題	
10	(特) 5-7章研究問題のまとめ	5-7章研究問題の復習	
11	(特) 資本主義の生産1：剰余価値の形成（第8章）	第8章研究問題	
12	(特) 資本主義の生産2：機械制工業（第9章）	第9章研究問題	
13	(特) 資本主義の生産3：労働力と賃金（第10章）	第10章研究問題	
14	(特) 8-10章研究問題のまとめ	8-10章研究問題の復習	
15	(形式未定) 期末試験	1-10章研究問題の復習	
16	予備日	予備日	
実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必ず入手すること！）：日高 普『経済学 改訂版（岩波全書）』岩波書店，1988年		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
	評価 受講態度：20%，研究問題課題：50%，期末試験：30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：マルクス経済学Ⅰ，経済学史Ⅰ，社会思想史
-------	--

※ポリシーとの関連性

経済関連ではなく情報関連の科目なのでカリキュラム・ポリシー1の「多様な知識を学ぶ」に関連する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マルチメディア表現	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	1年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>コロナの影響で授業の大部分が課題の取り組みとなったが、マルチメディアに関する基本的な考え方、基礎的な技術や表現方法を実践的な演習・実習を通して修得し、「情報を伝達する」ということや「イメージと表現」についての理解を得ることをねらいとする。</p>	<p>この科目では教育分野におけるマルチメディアの有効活用・利用について学ぶことが出来、必要な知識と技術を紹介する。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. マルチメディアの基本的概念について説明ができる 2. 各メディアの特性と制作に必要な技術の基本理論について説明ができる 3. ビジュアルコミュニケーションを通してアイデアを視覚化することができる 4. インストラクショナル・デザインを踏まえ、マルチメディアコミュニケーションの評価手法を身につける

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの確認 (授業内容確認など) 事前テスト	シラバスの確認 (ゼミ内容確認)
	2	メディア・リテラシーの定義	フォトランゲージについて事前学習
	3	フォトランゲージ (写真を読み取る力をつけ、メディアの特性を習得)	マルチメディアの定義事前学習
	4	マルチメディアの定義と特性	デジタルメディアの定義事前学習
	5	デジタルメディアの定義と特性	解像度について事前学習
	6	解像度について	色温度や拡張子について事前学習
	7	色温度やファイル形式について	アニメーションの仕組みを事前学習
	8	3Dとアニメーション技術	ストーリー ミングの仕組み事前学習
	9	インターネットの仕組み (インターネットの仕組み、ストーリー ミング技術を理解)	マルチメディア教材について学習
	10	マルチメディアの表現法 (様々なマルチメディア教材を紹介し、効果的な表現を習得)	マルチメディア教材について学習
	11	マルチメディアの表現法 (様々なマルチメディア教材を紹介し、効果的な表現を習得)	マルチメディア表現について学習
	12	マルチメディアの表現法 (様々なマルチメディア教材を紹介し、効果的な表現を習得)	効果的なプレゼンテーション手法
	13	プレゼンテーション手法 (パソコンを利用して、効果的なプレゼンテーション手法を習得)	効果的なプレゼンテーション手法
	14	インストラクショナルデザインの原理 (教材開発、メディア開発に必要な設計方法を習得)	IDについて事前学習
15	授業のまとめ (振り返り)	振り返り (最終試験に向けて)	
16	最終試験	習得した知識を生活で活かす	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特に指定はしない。手適宜レジュメを配布する。 インストラクショナルデザインの原理 (鈴木克明監訳: 北大路書房)、行動変容法入門 (レイモンドGミルテンバーガー) 他、。</p>
-------	--

学びの手立て	効果的なマルチメディアの設計、プログラミング、視覚化など、表現に必要な知識と技術に関心を持つこと。
--------	---

評価	<p>課題提出状況と内容で評価する。 事前テストは評価の含まない。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目で習得した知識や技術を経済的な視点、例えば商品販売のためのweb作成や広報戦略の技術などをマーケティングや経営学などに繋げる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ミクロ経済学A	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	1年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ミクロ経済学は、経済を構成する各主体（家計・企業・政府）の行動原理を研究する学問である。本講義では、消費者の行動原理を中心に学びながら、市場においてどのように資源が効率的に配分されるのかを検討する。	メッセージ ミクロ経済学・マクロ経済学は経済学を学ぶうえで基礎（理論）となる極めて重要な科目です。予習復習を怠らず、能動的に学ぶように心がけてください。
	到達目標 ①経済主体の行動原理を理解する。 ②ミクロ経済学の理論を使って、社会の動きを説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義の進め方、日常生活と経済学、講義アンケート - (対)	シラバスの確認
	2	ミクロ経済学とは① - ミクロ経済学とマクロ経済学、経済学の方法 - (対)	参考文献の精読
	3	ミクロ経済学とは② - 機会費用、インセンティブ、情報、価格 - (対)	参考文献の精読
	4	市場機構と需要・供給① - 市場経済の効率性、需要と供給 - (対)	市場メカニズムの復習
	5	市場機構と需要・供給② - 価格弾力性 - (対)	豊作貧乏に関する予習
	6	消費者行動の理論① - 消費者とは？人は合理的に行動するか？「効用」と満足度 - (対)	参考文献の精読
	7	消費者行動の理論② - 効用関数、無差別曲線、「限界」概念の説明 - (対)	参考文献の精読
	8	消費者行動の理論③ - 限界代替率と限界効用、限界効用の逓減 - (対)	参考文献の精読
	9	消費者行動の理論④ - 需要の決定、上級財と下級財 - (対)	参考文献の精読
	10	消費者行動の理論⑤ - 価格の変化と需要曲線 - (対)	参考文献の精読
	11	消費者行動の理論⑥ - 所得効果と代替効果① (対)	参考文献の精読
	12	消費者行動の理論⑦ - 所得効果と代替効果② (対)	参考文献の精読
	13	消費者行動の理論⑧ - 補完財と代替財、消費者余剰 - (対)	補完財等に関する事例の収集
	14	本講義のまとめ① (対)	講義時配布資料の復習
15	本講義のまとめ②、期末テストの説明 (対)	講義時配布資料の復習	
16	期末テスト (対)		
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、パワーポイント資料を配布する。 ジョセフ・E・スティグリッツ（藪下史郎訳）『スティグリッツミクロ経済学（第4版）』東洋経済新報社。		
	学びの手立て 講義だけで理解するのではなく、テキストによる自主学習をすすめる。		
	評価 期末試験（70%）、受講態度（30%）で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ミクロ経済学B
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ミクロ経済学A	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	1年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ミクロ経済学は、需要行動や供給行動の背景にある経済主体の合理的選択について考察します。また、ミクロ経済学を学ぶことによつて、さまざまな現実の経済問題をより深く理解できるようになります。本講義では、ミクロ経済の基礎理論をしっかりと学び、経済的視点で現実の経済現象を見ることができるよう理論的基礎をしっかりと築くことが目的です</p>	<p>ミクロ経済学の入門であるので、できるだけ分かりやすく教える。数式はあまり使わないが、ある程度の数学的知識が必要なので高校で学ぶ数学はきちんと復習しておいてほしい。</p>
到達目標	<p>ミクロ経済学で使われる重要用語が理解できる。 消費者行動理論の基礎が理解できる。 企業の行動理論の基礎が理解できる。 需要曲線、供給曲線を使って市場分析ができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義計画の説明	テキストを見て、全体像を把握する
	2	ミクロ経済学の考え方	テキストの序章を読む
	3	テキストの第1章	テキストの第1章を事前に読む
	4	消費者と需要(1)	テキストの第2章Ⅰを事前に読む
	5	消費者と需要(2)	テキストの第2章Ⅱを事前に読む
	6	テキストの第5章Ⅰ	消費者行動と需要曲線(2)を読む
	7	テキストの第5章Ⅱ	消費者行動と需要曲線(3)を読む
	8	テキストの第6章Ⅰ	テキストの第6章Ⅰを事前に読む
	9	消費者行動と需要曲線(4)	テキストの第6章Ⅱを事前に読む
	10	企業行動と生産関数(1)	テキストの第7章Ⅰ・Ⅱを読む
	11	企業行動と生産関数(2)	テキストの第7章Ⅲを事前に読む
	12	企業行動と生産関数(3)	テキストの第7章Ⅳを事前に読む
	13	企業行動と費用曲線(1)	テキストの第3章Ⅰを事前に読む
14	企業行動と費用曲線(2)	テキストの第3章Ⅱを事前に読む	
15	企業行動と費用曲線(3)	テキストの第3章Ⅲを事前に読む	
16	期末試験	テスト勉強	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>”テキスト・・・伊藤元重「ミクロ経済学」第3版 日本評論社 参考文献 N. グレゴリーマンキュー「マンキュー経済学<1>ミクロ編」東洋経済新報社、 ハル・R. ヴァリアン「入門ミクロ経済学」勤草書房”</p>		
学びの手立て	<p>毎回の講義の積み重ねが重要であるので、出席は重視する。 テキストに基づいて講義を進めるので、必ず指定されたテキストを購入すること。 欠席が5回以上となると、自動的に不可とする。そのため、病欠ややむを得ず欠席する場合は、公欠届を提出すること。</p>		
評価	<p>出席状況とテストを総合的に評価する。 平常点・・・5% 期末試験・・・95%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>経済の専門分野において、ミクロ経済学の理論がしっかり理解できる。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マイクロ経済学B	前期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	2年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>マイクロ経済学は、経済を構成する各主体（家計・企業・政府）の行動原理を研究する学問である。本講義では、企業の行動原理を中心に学びながら、市場においてどのように資源が効率的に配分されるのかを検討する。</p>	<p>マイクロ経済学・マクロ経済学は、経済学を学ぶうえで基礎（理論）となる重要な科目です。予習復習を怠らず、能動的に学ぶように心がけてください。</p>
	到達目標	
	<p>①経済主体の行動原理を理解する。 ②マイクロ経済学の理論を使って、社会の動きを説明できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義の進め方、日常生活と経済学、講義アンケート -	マイクロ経済学Aの復習
	2	市場メカニズムのはなし（マイクロ経済学Aの復習①）	マイクロ経済学Aの復習
	3	消費者行動の理論（マイクロ経済学Aの復習②）	マイクロ経済学Aの復習
	4	企業行動の理論① - 生産関数とは何か -	参考文献の精読
	5	企業行動の理論② - 生産要素、等量曲線 -	参考文献の精読
	6	企業行動の理論③ - 技術的限界代替率と限界生産物 -	参考文献の精読
	7	企業行動の理論④ - 費用関数：等費用曲線の性質 -	参考文献の精読
	8	企業行動の理論⑤ - 費用関数：等量曲線と等費用曲線 -	参考文献の精読
	9	企業行動の理論⑥ - 費用関数：費用の諸概念 -	参考文献の精読
	10	企業行動の理論⑦ - 利潤最大化：価格と限界費用、生産者余剰 -	参考文献の精読
	11	企業行動の理論⑧ - 利潤最大化：損益分岐点、操業停止点 -	参考文献の精読
	12	完全競争市場と効率性① - 消費の効率性、生産の効率性 -	参考文献の精読
	13	完全競争市場と効率性② - 生産と消費の効率性 -	参考文献の精読
14	市場の失敗	参考文献の精読	
15	講義のまとめ	講義時配布資料の復習	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など		
	適宜レジュメ（パワーポイント資料）を配布する。 伊藤元重（2003）『マイクロ経済学』日本評論社		
	学びの手立て		
	講義だけで理解するのではなく、テキストによる自主学習をすすめる。		
	評価		
	期末テスト（50%）と小テスト・課題（50%）で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 応用マイクロ経済学
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ミクロ経済学B	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	2年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ミクロ経済学は、需要行動や供給行動の背景にある経済主体の合理的選択について考察します。また、ミクロ経済学を学ぶことにより、さまざまな現実の経済問題をより深く理解できるようになります。本講義では、ミクロ経済の基礎理論をしっかりと学び、経済的視点で現実の経済現象を見ることができるよう理論的基礎を築くことが目的です。</p>	<p>ミクロ経済学の入門であるので、できるだけ分かりやすく教える。数式はあまり使わないが、ある程度の数学的知識が必要なので高校で学ぶ数学はきちんと復習しておいてほしい。</p>
到達目標	<p>ミクロ経済学で使われる重要用語が理解できる。 独占市場と完全競争市場の理論が理解できる。 ゲームの理論が理解できる。 市場の失敗について、現実経済に当てはめて考えることができる。 不完全情報の経済について、現実経済に当てはめて考えることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	講義計画の説明	前期の復習	
	2	独占の理論 (1)	テキストの第9章Ⅰを事前に読む	
	3	独占の理論 (2)	テキストの第9章Ⅱを事前に読む	
	4	独占の理論 (3)	テキスト第9章Ⅲを事前に読む	
	5	ゲームの理論 (1)	テキストの第10章Ⅰを事前に読む	
	6	ゲームの理論 (2)	テキストの第10章Ⅱを事前に読む	
	7	ゲームの理論 (3)	テキストの第10章Ⅲを事前に読む	
	8	市場の失敗 (1)	テキストの第11章Ⅰを事前に読む	
	9	市場の失敗 (2)	テキストの第11章Ⅱを事前に読む	
	10	市場の失敗 (3)	テキストの第11章Ⅲを事前に読む	
	11	不完全競争の経済学 (1)	テキストの第13章Ⅰを事前に読む	
	12	不完全競争の経済学 (2)	テキストの第13章Ⅱを事前に読む	
	13	不完全競争の経済学 (3)	テキストの第13章Ⅲを事前に読む	
14	異時点間の資源配分 (1)	テキストの第14章Ⅰ・Ⅱを読む		
15	異時点間の資源配分 (2)	テキストの第14章Ⅳ・Ⅴを読む		
16	期末テスト	全体を復習する		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト・参考文献・資料など テキスト・・・伊藤元重「ミクロ経済学」第3版 日本評論社 参考文献 N. グレゴリーマンキュー「マンキュー経済学<1>ミクロ編」東洋経済新報社、 ハル・R. ヴァリアン「入門ミクロ経済学」勤草書房</p>			
学びの手立て	<p>毎回の講義の積み重ねが重要であるので、出席は重視する。 テキストに基づいて講義を進めるので、必ず指定されたテキストを購入すること。 欠席が5回以上となると、自動的に不可とする。そのため、病欠ややむを得ず欠席する場合は、公欠届を提出すること。</p>			
評価	<p>出席状況とテストを総合的に評価する。 平常点・・・5% 期末試験・・・95%</p>			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	経済の専門分野において、ミクロ経済学の理論がしっかり理解できる。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	理論経済学 I	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小濱 武	3年	研究室5-531またはt.kohama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい マクロ経済学の理論を学び、今日の経済社会が抱える問題について経済学的な視点から理解する。	メッセージ 理論を学ぶことはもちろんですが、それを使って現実の経済をどうやって分析していくのかということを重視しながら講義を進めていきます。
	到達目標 1. マクロ経済学の用語や基礎的な理論を理解することができる。 2. 今日の日本経済が抱える問題を理解することができる。 3. 経済問題の解決方法を経済学の立場から考える力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	なぜ理論経済学を学ぶのか (オリエンテーション)	シラバスの確認・レポートの作成
	2	GDP1: GDPとは何だろうか	資料の再読・確認問題
	3	GDP2: 日本のGDP	資料の再読・確認問題
	4	消費と貯蓄1: 消費と貯蓄はどのようにして決まるか	資料の再読・確認問題
	5	消費と貯蓄2: 日本の貯蓄率の推移	資料の再読・確認問題
	6	設備投資と在庫投資1: 設備投資	資料の再読・確認問題
	7	設備投資と在庫投資2: 在庫投資	資料の再読・確認問題
	8	金融と株価1: 金融の役割	資料の再読・確認問題
9	金融と株価2: 株価はどのように決まるか	資料の再読・確認問題	
10	貨幣の需要と供給1: 貨幣の役割	資料の再読・確認問題	
11	貨幣の需要と供給2: 貨幣の需要と供給	資料の再読・確認問題	
12	総需要に注目した経済分析1: ケインズ経済学の考え方	資料の再読・確認問題	
13	総需要に注目した経済分析2: 乗数理論	資料の再読・確認問題	
14	総需要に注目した経済分析3: IS-LM分析	資料の再読・確認問題	
15	全体のまとめ	資料の再読・確認問題	
16	最終レポートの提出	レポートの作成	
	テキスト・参考文献・資料など 参考書: 福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』(第5版)、有斐閣、2016年。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為(私語・遅刻等)は厳禁。 場合によっては退室を求めます。 毎回の授業終了後に、確認問題に回答すること。		
	評価 提出物(課題) 100%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 理論経済学 II、日本経済論 I、日本経済論 II
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	理論経済学Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小濱 武	3年	研究室5-531またはt.kohama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい マクロ経済学の理論を学び、今日の経済社会が抱える問題について経済学的な視点から理解する。	メッセージ 理論を学ぶことはもちろんですが、それを使って現実の経済をどうやって分析していくのかということを重視しながら講義を進めていきます。
	到達目標 1. マクロ経済学の用語や基礎的な理論を理解することができる。 2. 今日の日本経済が抱える問題を理解することができる。 3. 経済問題の解決方法を経済学の立場から考える力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) なぜ理論経済学を学ぶのか (オリエンテーション)	事前にシラバスを読む
	2	(特) 経済政策1: IS-LM分析と財政政策及び金融政策の効果	資料の再読
	3	(特) 経済政策2: 「非伝統的」金融政策	資料の再読
	4	(特) 財政赤字と国債1: 国債の役割と問題点	資料の再読
	5	(特) 財政赤字と国債2: 日本の財政赤字と国債	資料の再読
	6	(特) インフレとデフレ1: 日本の物価動向とインフレの要因	資料の再読
	7	(特) インフレとデフレ2: インフレ・デフレのコスト	資料の再読
	8	(特) 失業1: 失業はなぜ発生するのか	資料の再読
9	(特) 失業2: 日本の失業率	資料の再読	
10	(特) 経済成長理論1: 経済成長とは何か	資料の再読	
11	(特) 経済成長理論2: 経済成長の要因	資料の再読	
12	(特) 経済成長理論3: 新しい経済成長理論	資料の再読	
13	(特) オープン・マクロ経済学1: 国際収支とは何か	資料の再読	
14	(特) オープン・マクロ経済学2: 為替レートの決定要因	資料の再読	
15	(特) 全体のまとめ	資料の再読	
16	最終レポート提出	レポートの作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など 参考書：福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』（第5版）、有斐閣、2016年。		
	学びの手立て 毎回の講義終了後、確認テストを実施します。 必ず提出すること。		
	評価 提出物（課題）のみで成績を評価する。 評価対象となる課題は、最終レポート（30%）及び確認テスト（70%）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本経済論Ⅰ、日本経済論Ⅱ
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	労働経済学 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	3年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄県の失業率・離職率は、全国一高い水準となっており、高校・大学卒業予定者の内定率も全国に比べ低い。このような環境は、いずれ就職戦線に出る皆さんにも身近な問題である。本講義では、労働市場を形成する労働供給及び労働需要の要因について学ぶ。すなわち、我々は何を基準に働こうとするのか、企業は何を基準に労働者を雇おうとするのかなど労働経済の基礎理論を学ぶ。</p>	<p>アルバイトや就活など労働・雇用は皆さんにとって身近な問題であるので、理論だけではなく、現実のトピックも多く取り上げていきたい。また、映像資料等により、労働の実態についても考える機会を与える。また、失業については映画鑑賞を行い、一緒に考える。 【実務経験】民間研究機関にいた経験を活かし労働に関する調査や報告書等を紹介する。</p>
到達目標	<p>労働市場における重要側・供給側の行動理論を説明することができる。 失業の定義及び発生要因を説明することができる。 年功賃金制度や労働時間の実態が分かる。 労働の実態について関心を深め、データなどで実証的に分析することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義計画の説明	日本の労働問題は何があるか考える
	2	労働経済学について	身近な労働問題について考える
	3	労働需要(1) 企業はどのようにして労働者を雇うのか	ミクロ経済の供給理論の復習
	4	労働需要(2) 労働供給曲線を導く	同上
	5	労働供給(1) 労働者は何をもとに労働力を提供するのか	ミクロ経済の需要理論の復習
	6	労働供給(2) 労働の供給曲線を導く	同上
	7	労働市場分析(1) 労働の需要曲線と供給曲線を用いた分析	労働市場の環境変化を考える
	8	労働市場分析(2) 人手不足になると給料は上がるのか	労働市場の環境変化を考える
	9	失業Ⅰなぜ失業は発生するのか(失業の理論)	失業の影響を考える
	10	失業Ⅱどんな人が失業しているのか(失業をテーマにした映画鑑賞など)	同上
	11	賃金Ⅰ(年功序列賃金の理論)	賃金制度について調べる
	12	賃金Ⅱ(年功序列賃金制度と成果主義の比較)	同上
	13	労働時間Ⅰ(労働時間の推移、諸外国との比較など)	労働時間について調べる
	14	労働時間Ⅱ(残業代の理論)	同上
15	前期総括と労働について考える	実際の労働問題について考える	
16	期末試験	テスト勉強	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストはない。内容に応じてプリントや資料配布、ビデオ上映、労働をテーマにした映画上映等を行う。</p> <p>参考文献： 清家篤著、「労働経済」東洋経済出版社、玄田有史 「仕事のなかの曖昧な不安」中央公論新社、 中馬宏之著、「労働経済学」新世社 ビデオ上映：「カンパニー・マン」、「リトル・ダンサー」、「天使の分け前」などから1本を上映予定</p>
-------	--

学びの手立て	<p>ほぼ毎回、講義内容の理解度をチェックするので、講義は集中して聞きノートも取ること。 5回以上欠席すると、自動的に不可とする。 できるだけ双方向の講義となるように、グループディスカッションもあるので、受け身的な受講ではなく積極的に発言するなど、能動的な受講態度を望む。</p>
--------	--

評価	<p>出席状況とレポート及び試験を総合的に評価する</p> <p>レポート・・・30%</p> <p>試験・・・70%</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>労働経済の基礎理論を踏まえ、現実の労働問題について考える。 就活やインターンシップで労働経済で学んだ理論等を当てはめて客観的に考える。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	労働経済学Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	3年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、労働経済学Ⅰで学んだことを元に沖縄県の雇用労働情勢や雇用政策等の現実の問題について学ぶ。特にフリーターや若年失業者問題は皆さんにとって身近な問題であり、若年者の意識の問題や企業側の問題についてビデオ等を見ながら検討する。また、正社員と非正社員の賃金格差、ブラック企業の問題についても学ぶ。学生の就活に対する取り組みや意識も紹介し、就活にも役立つ。</p>	<p>アルバイトや就活などは皆さんにとって身近な問題であるので、理論だけではなく、現実のトピックも多く取り上げていきたい。フリーターや就職氷河期のビデオ映像資料等により、労働の実態についても考える機会を与える。また、就活の取り組みの状況など、皆さんの関心の高いトピックも提供し、一緒に考える。【実務経験】研究機関にいた経験を活かし労働に関する調査等を紹介する。</p>
到達目標	<p>賃金格差や労働処遇の問題について批判的に考えることができる。 若者の雇用問題の要因を説明することができる。 就活で講義内容を踏まえ、積極的かつ効果的に行動することができる。 労働を取り巻く環境の変化について、自ら考え対応を考えることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義計画の説明	労働問題について新聞などで調べる
	2	現在の労働問題概観（景気と労働問題、若者の働き方、派遣の問題など）	労働問題の現状について考える
	3	賃金と労働時間	前期の賃金と労働時間の理論の復習
	4	賃金格差Ⅰ（高卒と大卒なぜ賃金が違うのか）	高卒、大卒賃金の実態を調べる
	5	賃金格差Ⅱ（なぜ男女格差、産業間格差があるのか）	賃金格差の実態を調べる
	6	全国と沖縄の雇用・失業状況	若者の雇用問題の特徴を調べる
	7	若者の雇用問題Ⅰ（大卒の就職率、フリーターなどの現状）	非正規雇用問題を調べる
	8	若者の雇用問題Ⅱ（若者の就業意識、企業はフリーターをどう評価しているかなど）	自らの就業意識を考える
	9	沖縄の雇用問題Ⅰ（現状と課題）	沖縄と全国の違いを調べる
	10	沖縄の雇用問題Ⅱ（沖縄の若者はなぜすぐ離職するのか、沖縄にブラック企業はあるかなど）	離職の要因について調べる
	11	グローバル時代における働き方Ⅰ（海外に仕事が行ける、労働移民の実態など）	グローバル化と雇用について考える
	12	グローバル時代における働き方Ⅱ（日本と外国どっちが働きやすいのかなど）	同上
	13	高齢者雇用問題（定年制、年金問題、再雇用の問題など）	高齢者の雇用について調べる
14	年金について考える（年金機構が派遣する外部講師による講義）	年金問題の実態などについて調べる	
15	これからの働き方（ワークシェアリング、ワークライフバランスなど）	自分の働き方と合わせて考える	
16	期末試験	テスト勉強	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特になし。内容に応じてプリントや資料配布、ビデオ上映等を行う。 ビデオ上映：NHKスペシャルより「フリーターの実態」、「人事も総務も中国へ」など 参考文献：橋本俊詔、「いま、働くということ」ミネルヴァ書房、玄田有史、「ニートフリーターでもなく失業者でもなく」幻冬舎、川村遼平、「若者を殺し続けるブラック企業の構造」角川oneテーマ21</p>		
学びの手立て	<p>ほぼ毎回、講義内容の理解度をチェックするので、講義は集中して聞きノートも取ること。 5回以上欠席すると、自動的に不可とする。 できるだけ双方向の講義となるように、グループディスカッションもあるので、受け身的な受講ではなく積極的に発言するなど、能動的な受講態度を望む。</p>		
評価	<p>出席状況とレポート及びテストを総合的に評価する。</p> <p>レポート・・・30% 試験・・・70%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>労働経済の基礎理論を踏まえ、現実の労働問題について考える。 講義内容や議論したことを踏まえ、働くことについて考え就活等で積極的に行動する。</p>
-------	---